

明治大学国際日本学部 学生論集

第4集 (2017)

国際日本学部学生論集の刊行に寄せて……………国際日本学部長 横田雅弘

鹿島 茂ゼミナール

トッド理論のフィクション研究への応用可能性

—人類学と文学、サブカルチャーの架橋に向けて—……………前田智成 (1)

小森 和子ゼミナール

漢字の構成要素と漢字へのなじみ度が漢字学習に与える影響

—タイ人日本語学習者を対象に—……………米持こあき (11)

映画『狙った恋の落とし方』の字幕から見た日中翻訳の影響要因……………徐麗娜 (43)

日本語母語話者と中国語母語話者の韓製英語 (Konglish) の意味推測

—英語習熟度と母語の影響から—……………金テリン (63)

上下の概念メタファーが日本語学習者の慣用句の意味推測に与える影響

—中国語母語話者と韓国語母語話者を対象に—……………高岡咲希 (87)

英語習熟度が日本人英語学習者の色彩語を用いたイディオムの意味推測に及ぼす影響

—red、blue、green、white、black を対象に—……………井上佳奈枝 (107)

鈴木 賢志ゼミナール

なぜフィンランドでは同性婚合法化が遅れたのか

—キリスト教と同性愛の観点から—……………林 楓 (129)

田中 牧郎ゼミナール

近代翻訳小説における無情物主語の翻訳……………仲村怜 (151)

廣森 友人ゼミナール

第二言語学習への動機づけが高い海外留学の経験者の特徴……………和田梓 (179)

日本人英語学習者は日本人英語教師に何を求めているのか……………根岸友紀 (199)

言語能力の差がピア・レスポンスに及ぼす影響……………南波里帆 (217)

ワルド, ライアン M. ゼミナール

仏が悪魔の業をなすとき

—オウム真理教にみるマインド・コントロールの定義の不完全性とカルト問題—
……………畑山 綾 (237)

国際日本学部学生論集の刊行に寄せて

国際日本学部長 横田雅弘

2008年の国際日本学部設立から10年。日本の多様なコンテンツを留学生とともに発見・評価し、それを世界に発信するという本学部の基本理念は、日本食の世界遺産認定や多様なクール・ジャパンへの注目、そして2020年のオリンピック・パラリンピック開催といった日本から世界への発信という潮流に一致し、国際日本学という教育・研究の一分野の開拓に大きく寄与してきました。

このような国際日本学部の発展は、この学部がさまざまな意味で時代の要請に応えてきた学部であるからに他なりません。ネイティブ教員による少人数の徹底した英語教育は目覚ましい成果を上げて世界とのコミュニケーションを可能にし、多様な留学経験の機会を提供することを通して、多文化社会に生きることを自らの体験を通して学ぶ道を広げてきました。また、本学部が掲げる「主体的に学ぶ学生の育成」もまさに時代の要請に叶うことでしょう。本学部は、ポップカルチャーや日本的ものづくりにとどまらず、多種多様な日本の先鋭的・先端的な領域をカリキュラムに配し、それを担う最適な教授陣を擁していますが、大学における学びは、教職員がその環境とコンテンツを提供するとしても、それに応え、発展させて、自分のものにしていくのは学生自身です。受動的に授業を受けるのではなく、より主体的に授業に参画し、自らの言葉で発信することがとても大切なのです。

学生が主体的に学ぶということについて、その最も具体的な形は専門演習において見られると言ってよいでしょう。自由度の高いテーマ設定の中で、学生は指導教員や学生仲間と切磋琢磨しながら、多様な卒業制作を完成させていくのです。外にある知識をただ受け取るだけでなく、それを一度自分を通して自分の言葉として語り直す行為は極めて主体的なものであり、意味のある学びはまさにこの行為により成し遂げられると言っても過言ではありません。今回も、このような学びの成果が国際日本学部学生論集という形で発表され、多様な専門領域での学びの成果が共有されることは、誠に喜ばしいことです。

これからも、学生のみなさんの本誌への積極的な投稿を期待しております。

トッド理論のフィクション研究への応用可能性
—人類学と文学、サブカルチャーの架橋に向けて—

Can we apply Todd's theory to the study of fictions?
by connecting anthropology, literature, and sub-culture
in Japan

明治大学 国際日本学部
前田 智成

Meiji University School of Global Japanese Studies
Maeda, Tomonari

目 次

はじめに

I トッドの理論モデルの転換

1. 「転換」とは
- (1) トッドの理論モデル
- (2) 「構造主義的モデル」とは
- (3) 理論モデル転換後の共通点

II 家族類型とフィクション研究のリンク

1. 日本の歴史人口学
- (1) 速水融の研究
- (2) アナール学派との関係性
- (3) 歴史人口学とフィクションⁱの分析を見据えて
2. 物語の背景
- (1) 神話論理
- (2) ポストモダン
3. トッドの問題点
- (1) 家族の類型化の途上
- (2) 類型の不在

おわりに

注

参考文献

はじめに

本稿の執筆動機は、高校時代からのマンガ産業への関心が強かったことだ。それは筆者が以前受験勉強のために通っていた学習塾の講師のF先生が「マンガをふくむいわゆるオタクカルチャーは日本の経済の収益に深く寄与している」との内容を筆者に伝えてくれたことがきっかけだった。それから明治大学国際日本学部に入學して、いわゆる「サブカルチャー」がアカデミックな研究になることがわかった。そして、私もそれに加わるような研究がしたいと思うようになった。そこで、学部生3・4年次のゼミナールで輪読を進めたエマニュエル・トッドの理論を先の動機に基づいて、応用した研究を進めようとした。

しかしながら、トッドの理論を整理していくうちに学生論集の読者を想定すると、これから論文を書こうとしている他の学生なのではないかと思い、はじめてトッドの理論を知る読者のためには前提について述べなければならないと思った。そうするうちに、サブカルチャーの領域にたどり着くには、別の機会が必要だと判断した。それゆえに、ここに掲載する論文は私が進めようとしている研究の前提ととらえてほしい。その後、トッド理論とサブカルチャー研究をリンクさせた研究を継続したい。それが本稿で読者に伝われば幸いだ。

I：トッドの理論モデルの転換

1. 「転換」とは

(1) トッドの理論モデル

エマニュエル・トッド(Emmanuel Todd 1951-)の初期理論代表作、『世界の多様性』の邦訳が刊行され、現在『家族システムの起源』の中でトッドは理論モデルを変更したことが確認できる。ⁱⁱトッドは『世界の多様性』の序文で確かに、その理論モデルの転換を含ませる記述をしている。それは「私の仮説を無効にしてしまう家族構造が、いどこから現れてきても不思議ではなかった」と。つまり、人類学的記述を可能にする資料が豊富でない国々あるいは地域において、トッドは家族構造決定の確信はもっていないかった。そして、トッドは「研究者がある種の現象を説明するために採用していた構造主義的モデルから、他の現象を説明するために、伝播論的モデルに転換することができたという、その能力こそ、科学性の試金石に他ならない、と思う」と表明している。では彼の理論はどのように「転換」したのか。それは『世界の多様性』のなかの初期理論から「転換」が行われた最新の理論まで、「テキスト内在的」に辿る必要がある。その前に、本節で用いる、「構造主義的モデル」とはなにかを問おう。

(2) 「構造主義的モデル」とは

「構造主義的モデル」の構造主義とは、広義には「対象の『实在』や『本質』といったものをアприオリに想定しないで、形式化（とりわけ数学的な形式化）という操作によって、ものごとのなかに隠された構造（structure）を析出する方法」と呼ぶ一方で、狭義には「1950-70年代におもにフランスを舞台として展開した研究方法・思想の総称」とある。ⁱⁱⁱ構造主義はあらゆる社会集団にはそれぞれの「世界の見え方」があり、どの「世界の見え方」に対しても優劣をつけることはできないとする。そして、私たちの知覚および思考は私たちの社会によって半ば無意識的に規定されている。よって、どの社会組織が正しいとか、一人ひとりの見え方が異なるとする見方は幻想だという考え方をする。構造主義の思想は従来の西欧近代の人間の本質に迫る考え方に警告を与えた。それは、私たちは私たちのいる社会の制度によって思考と知覚は決定づけられていて、私たちは「私」中心で認識を行うのではなく、認識するその自己を一旦相対化することによって、他者に迫るという純粋に人間的な思想であることがわかる。

このように1. (1)で用いた「構造主義的モデル」という語の意味を明確にした。そして次に、トッドの行った家族の類型化の構造主義的モデルをまず概観しておこう。トッドは「イデオロギー的な傾向を経済的な層状構造もしくは家族構造から導き出すことは、それぞれ論理的には類似した操作である」としつつ、自身の仮説である「人類学的モデル」とマルクス主義とを対比させている。すなわち、「マルクス主義理解（マルクス＝レーニン主義とも呼ばれる）」の「史的唯物論」の見方と重ねられて「人類学的モデル」が論じられることに疑義を呈している。さしあたり、ここでは今井康雄による「マルクス主義」の意味内容に限定して議論を進めよう。

今井によると、マルクス主義は「哲学における弁証法的唯物論ないし史的唯物論」を一つの主な特徴としている。つまり、「歴史の発展を物質的生産を基礎として把握する」のである。ここに、共産主義革命とはすなわち、ロシアで起きた事象（ロシア革命）と仮定しよう。マルクス主義は「プロレタリア革命によってプロレタリアートを主体とする新たな生産関係が登場することになる」という論理である。しかし、トッドは上述したように、人類学モデルと対比させて、「共産主義革命は、成長した労働者階級を有する工業先進国では実現しなかった。」と主張している。一方で、トッド理論である「イデオロギーの形態を家族によって説明するという試み」に基づいて、「共産主義革命のすべてが、伝統的な農民家族が外婚制共同体型の国々で生起し、（中略）このような事実と歴史のデータは、マルクス主義の仮説を否定しており、人類学の仮説を根拠づけている」という立場をトッドは明示している。

ここまで、トッド理論をマルクス主義との比較に着目して見てきた。そこに見出されるのは、「構造主義的モデル」であることが確認できた。これは、新フロイト派と称される心理学者エーリッヒ・フロム(Erich Fromm 1900-1980)の仮説に親密性がある。少し長い『自由からの逃走』から引用しよう。

「個人にとっては経済組織の特殊性によってきめられる生活様式が、人間の性格構造を全体を決定するうえの第一次的な要素となる。なぜなら、かれは自己保存への強烈な要求のため、あたえられている条件を受けいれるほかないから。（中略）ただ根本的に人間のパースナリティイは特殊な生活様式によって形成されるというまでである。たとえば子どものときにすでに家族という媒介をとおして、かれは特殊な生活様式に直面している。そして家族というものは、特定の社会や階級に典型的な特徴をすべて具えているのである」
(p. 25)

家族構造が社会現象の原因の「第一次的な要素」になりうるというトッドの見識^{iv}と関連するのではないだろうか。

(3) 理論モデル転換後の共通点

上述のように、トッド理論の心理学との接近を見てきた。そして、トッドは『世界の多様性』とりわけ『世界の幼少期』の一節の中で、『家族システムの起源』で採用される方法論——伝播論を示唆している。たとえば、「一七五〇年から一九三〇年の期間のスカンジナビア、ゲルマン、そしてスコットランド」の「識字率」の上昇を対象とした。そこで、トッドは、「この発達を中心の周縁に位置する地域の進化は、同じように解釈できない。それらの地域では、読み書きの習得は自立的な現象というより伝播のプロセスの結果と考えられる」と述べている。

また、トッドが『家族システムの起源』で観察対象として取り上げる「双系制」^vへの言及も『世界の幼少期』に見ることができる。すなわち、「西欧の家族構造のほとんどは実際、母系親族と父系親族に同等の価値を見出し、子供の出産において男と女に同等の価値

を付与する双系制である」と。この「両性の関係が比較的平等」な「双系制」の家族構造は「権威主義家族構造」^{vi}にあり、この「権威主義家族」は「男女の平等という基準ではなく兄弟の平等という基準」に照射すると、「縦型で不平等主義的」という「傾向」をもつ。ここで、親族間での「男女の平等」のみならず「兄弟関係」も指標にしたトッド理論はここまで述べた『世界の多様性』と『家族システムの起源』下巻においての翻訳者石崎の解説にもあるような「構造主義的モデル」を表していると言える。つまり、家族構造からも見出せる「『政治的』傾向」の「類別」が試みられているということだ。そのモデルに地理的な分布を加えてより、細分化して論じたのが『家族システムの起源』である。トッドは「中心-周縁」モデルを用いて、日本の中でも地域差が確認できるとしている。このように、トッドは理論を『構造主義的モデル』から『伝播論的モデル』へと理論を転換したことが確認できた。次に、トッドも援用している速水融の研究を見てみよう。そして、本論の課題である家族類型とフィクション研究のリンク可能性に移りたい。

II. 家族類型とフィクション研究のリンク

1. 日本の歴史人口学

(1) 速水融の研究

前章では、トッドの家族人類学の方法論を変遷^{vii}をたどり、研究の方法論を明確にした。そして、本論で取り上げたいのは、このトッドの家族類型と日本のフィクションの研究とのリンク可能性を問うことである。そこで、日本の家族構造の分析をした速水融の研究を見ておこう。速水の歴史人口学の顕著な例に、「宗門改帳」による「家族の復元」^{viii}がある。「宗門改帳」はキリスト教の布教とともに国内における一神教が流布することへの脅威から、「日本人一人一人について、間違いなく仏教徒であり、キリスト教徒ではないということを寺に証明させ、班をついて提出させるという一種の異端審問」の結果生まれた記録であるとしている。その発見の契機は彼の留学時代に体験したアナロジーによるものであった。それは、留学当時にルイ・アンリ (L. Henry) の「教区簿冊」を資料としたミクロ・データ^{ix}を集合させて、家族の形態の復元を試みる研究であった。アンリの研究を応用して、「宗門改帳」の記録を蓄積することによって、日本における「近代以前」の人口構造の「復元」ができることがわかった。

(2) アナール学派との関係性

このように、速水の研究をはじめ、日本における歴史人口学の研究が蓄積していることが確認できた。それは「アナール学派」からの影響を受けている。アナール学派とは1929年、ブロック Bloch, Marc (1886-1944) とフェーブル Febvre, Lucien (1878-1956) の二人が創刊した『社会経済史年報』 *Annales d'histoire économique et sociale* にちなむ呼称であり「事件史を中心とした伝統的な歴史学に対して、人間の生活文化のすべてを視野に収めた総合的歴史学をめざす」学派である。現代から見ると、心性史・社会史^xがアナール学派の方法論として、採用されたのをきっかけにポスト・アナール学派へと継承されていった。また、このアナール学派の方法論は日本の歴史人口学研究の発展に影響を与えた。

(3) 歴史人口学とフィクション^{xi}の分析を見据えて

以上、前節では、「歴史人口学」の問題を検討してきた。ここでは、ルイ・アンリによる家族人口学が速水融の研究に影響を与えていたことが明らかとなった。そして、歴史人口学はアナール学派との関連があることも確認できた。そこで、次のような仮説を私はもつ。それは、マンガに描かれる家族構造の分析による「マンガ歴史人類学」である。マンガ雑誌の中の作品群の主人公の家族設定をトッド理論に当てはめて、分析する。これも速水が言うところの「ミクロ・データ」としての史料となり得るだろう。また当時の時代背景を物語るであろうと推測されるため、広告や読者欄の記述等も含めて、史料となるだろ

う。これは、また「マンガ」を問わず、民話、昔話、小説などの作品も「家族史の好材料」となるはずだ。

2. 物語の背景

(1) 神話論理

ここまで、「歴史人類学」とフィクションとをリンクさせた研究の可能性を提示した。そこでは、人文学的アプローチとりわけ近代から「ポストモダン」という思想的な背景も加味なくてはならない。^{xii}なぜなら、物語の生産の特徴は時代背景というものを色濃く反映しているからだ。その前提として「神話」から始まる物語の誕生に遡る必要がある。思想家中沢新一によると、「神話」は確かに「物語の一形態」であると留保しつつ、マンガや映画で受容される物語とは区別している。すなわち、中沢は「神話は人間の精神の奥深いところで働いている無意識の論理過程が、外からの影響力から自由になった状態で、自由に結合や反転や変形をおこないながら、自分を展開しようとしているもの」と定義付けている。それ故に、「神話は、限られた時間と空間の中で、厳かな雰囲気に取り囲まれながら語られることが多い」と彼は示す。

(2) ポストモダン

前節では、神話と私が言うフィクションとは区別されるべき概念であることが確認できた。もう一つ、フィクションと歴史人類学との結びつきを考えるための議論がある。東浩紀の議論が参考になる。東は、オタク系文化とポストモダンの関係を論じ、ポストモダンとは「日本では七〇年の大阪万博をメルクマールとしてそれ以降、つまり、『七〇年代以降の文化的世界』のこと」であると示している。近代が終わり、ポストモダンへという世界的な流れのなかで、日本では、「物語的で映画的な世界視線によって支えられるものから、データベース的でインターフェイス的な検索エンジンによって読み込まれる」と東は指摘している。それは「七〇年代に大きな物語を失い、八〇年代にその失われた大きな物語を捏造する段階」を私たちが経ていると言い換えられている。

3. トッドの問題点

(1) 家族の類型化の途上

前節では思想的なアプローチからフィクションを見てきた。それを家族構造の分析のための重要な論点であることを確認した。最後に、トッドの理論に戻り、彼の理論とフィクション研究の整合性を問うためにも、彼の不足する点を指摘しておこう。トッドはすべての国において、網羅的に家族類型を決定しているわけではない。たとえば、シンガポールを取り上げよう。まず『世界の多様性』でシンガポールに関する記述はない。なぜだろうか。一つの説として思うのは、マレーシアから独立したのが 1965 年ということもあって、歴史に関するモノグラフが少ないという原因説である。

しかし、シンガポールの基礎データを辿ると、次のようなことがわかる。外務省ホームページによると、マレーシアは 15 世紀初めにマラッカ王国が成立して、19 世紀前半にイギリスの植民地となり、第二次世界大戦中には日本の植民地となった。戦後はマラヤ連邦を経て、1963 年にマレーシアとして独立した。その二年後にシンガポールはマレーシアから独立する。マレーシアにはマレー系^{xiii}民族が約 67% いる。一方で、シンガポールにはマレー系住民は 13% であり、中華系民族が 74% を占める。

となると、マレーシアも、歴史としては現代から見て五十年ほどしか経ていない。独立をしたとなると、家族構造による差異があることを予想できるが、ここでは、マレーシアの記述をトッドのテキストから見ていこう。

(2) 類型の不在

『第三惑星』でトッドは「小乗仏教の伝統をもつ東南アジアの国々で支配的な」形態を社会学者エミール・デュルケームに習って「アノミー家族」と呼ぶ。そして、「アノミー家族」は核家族でありながら、近親相姦の禁止の緩和が確認できる。ここでことわっておくが、トッドによると核家族というのは外婚制を無意識的に反映している。つまり、核家族は、近親相姦の禁止を傾向としてもつのである。しかし、その核家族の特徴、「外婚制」がゆるい形で確認できるのが東南アジアの国々私が特に記述したいマレーシアを含むというわけなのである。言い換えるならば、それは内婚の婚姻形態をもつ。例えば、トッドはマレー系住民のいるマダガスカル共和国を参照している。そこでは、「イトコ同士の内婚やもっともしばしば行われる本イトコの子供同士の内婚が」見ることができる。

このように、規則に縛られないいわば、「バラバラ」の家族形態は「社会システム」の観点からも顕著な特徴を示す。すなわち、「アノミー家族の地域の文化的活力が比較的高い」のである。それをトッドは「両性の関係が平等的であり、女性の地位が高く、母系の権威が尊重されているという特徴から派生している」と見ている。つまり、「相続に関して女性に男性と同じ権利を与えている」のである。確かに、マレー系住民は核家族を採用しているものの、「外婚制ルール」の不在ⁱがあり、血縁関係は双系制であることはわかった。しかし、この時点でもやはり、シンガポールがアノミー家族に分類されることは確認できない。このシンガポールのように、トッドの類型化していない国の対処が残ることは彼の課題の一つだろう。

おわりに

今後の課題として、次のようなことがらがある。それは、とりわけ日本における結婚に至るプロセスの変化がやがて、あるメディアコンテンツの変化にも対応するのではないかということ突き止めることである。出生動向基本調査によると、いわゆる見合い結婚の割合と恋愛結婚の割合が逆転する年が見いだせる。それはちょうどグラフが重なる1965年から1970年の間である。さて、この推移に照らし合わせるならば、次のような問いが生まれる。すなわち、この結婚に関する調査結果は、フィクションへの反映を伴うのかという問いである。とりわけその対象をマンガ雑誌にしぼり、それらに掲載されるマンガ作品の主人公の家族構成を分析することを目指す。さらに、トッドの『家族システムの起源』も第二巻が今後刊行予定であることから、引き続き詳細な研究が必要である。

感想

かねてから「国際日本学部的な」論文を書きたいと思っていた。私はその形容詞を「国際日本学部は日本を国際の視点から見つめ直し、その魅力を再発見して、世界に発信する学部」（明治大学HP）であると同時にポップカルチャー（学部は「クール・ジャパン」が学べることを推していたようだ）などの多彩な領域から学問する場所であるということをつまえて使っている。

それに影響を受けるように、異文化にのめり込み、そこから手元にある資料からの差異や類似を発見する。この「アナロジー思考」によって研究への向上心と好奇心が強く刺激された。そこで、一つの思考法として柱に「家族類型」を置き、それからアナロジーを働かせ、種々の社会現象との関連性を探ることができるようになった。最後に本論文執筆の原動力は、ゼミナールの指導教官である鹿島茂先生の的確な指導のおかげである。心から御礼を申し上げたい。

ⁱ 本論ではとりわけ戦後から一九八〇年代までの時代を想定して「フィクション」をとらえている。

ⁱⁱ『世界の多様性』の訳者荻野文隆によると、この著作は「一九八三年に刊行された『第三惑星』(L'enfance du monde)と一九八四年刊行の『世界の幼少期』(La troisième planète)が一九九九年に合冊のかたちで再版されたものであり、その全訳である」と述べている。以後、断りがなければ、ひとまとまりの著作として扱うこととする。

ⁱⁱⁱ狭義の意味において、構造主義は本論で示した年代までの思想史の流れを受けているだろうから、それについての解説が必要である。詳しくは別の機会に論じる次第だが、カント、フィヒテ、そしてヘーゲルにいたるドイツ観念論者の哲学との比較を参照されたい。

^{iv}トッドが提示するように家族構造が起因となる社会現象があることに加えて、それまで、議論がなされてきた「宗教」による社会現象との折り合いをどのようにつけるかが問題となる。そこで、ウェーバーの思想は重要な示唆に富む。

^vトッドは『家族システムの起源』で十五の家族類型に分け、なかでも双系制の家族構造をもつ国々の歴史の検討を詳細に記述している。

^{vi}「権威主義家族」は『世界の多様性』の中の『第三惑星』で提示された用語であり、最新の邦訳著作『家族システムの起源』においては、「権威主義家族」を用いず、「直系家族」に統一している。そして、それを「父方(Souche patrilocal)」「母方(Souche matrilocal)」「双処(Souche bilocal)」の3つの直系家族に分類している。なお『家族システムの起源』で試みたトッドによる細分類はその分類が多岐にわたり過ぎているという批判もある。これについては、トッド理論を平坦にまとめた鹿島茂『エマニュエル・トッドで読み解く世界史の深層』を参照されたい。

^{vii}本論を踏まえると、ここで次のような疑問が生じるかもしれない。それは、人類学の起源とはいったい何かという問いである。詳しくは中沢新一の一連の著作を参照されたい。例えば、彼によると、「十九世紀から二〇世紀にかけて」、「人類学または民族学という学問がはじま」ったと見ている。

^{viii}速水はこれをルイ・アンリが用いた“family reconstitution”という用語に則って日本語訳をしている。

^{ix}このミクロ・データとは速水の定義に従うと、「町や村を単位として、世帯別に一人一人の名前、年齢、続柄などが書いてあり、世帯や個人の行動を、構造とともに知ることの出来るデータのこと」をさす (p. 118)

^xここで用いる社会史・心性史とは、北本正章によると「過去の歴史変化について、主として社会や自然に対する普通の人々の意識や感情様式に注目しながら、それぞれの心理的な条件や要因を明らかにしようとする歴史学の学派」という語義が与えられている。また、大辞林では、「従来の歴史学に対して、人間をとりまく生態系や環境を含むすべての日常生活を把握するために、自然科学・人類学・民俗学・人文地理学など隣接諸科学の方法・視点・成果を多面的にとりいれ、人間とその社会を真相から全体的・具体的に分析しようとするもの」として「アナール学派が主唱」した概念であると位置付けられている。

^{xi}本論ではとりわけ戦後から一九八〇年代までの時代を想定して「フィクション」をとらえている。

^{xii}とりわけ、サブカルチャー研究の中で、物語の受容過程の社会学的な分析や「作品論」は既に東浩紀や大塚英志等による優れた研究成果がある。

^{xiii}マレー系とは、マレー人をさし、マレー語を話す。台湾起源の民族であり、東南アジア諸国に住む人々の総称である。それには、マレーシアも含む。

【引用・参考文献】

東浩紀『動物化するポストモダン：オタクから見た日本社会』講談社、二〇〇一年
エマニュエル・トッド『世界の多様性：家族構造と近代性』荻野文隆訳（藤原書店）二〇〇八年

エマニュエル・トッド『家族システムの起源Ⅰ：ユーラシア 上・下』石崎晴己他訳
(藤原書店) 二〇一六年

エマニュエル・トッド『グローバリズム以後：アメリカ帝国の失墜と日本の運命』朝日新聞出版、二〇一六年

エマニュエル・トッド他『グローバリズムが世界を滅ぼす』文藝春秋、二〇一四年

今井康雄「マルクス主義」教育思想史学会編『教育思想事典』勁草書房、二〇一七年

田中智志「構造主義」教育思想史学会編『教育思想事典』勁草書房、二〇一七年

中沢新一『カイエ・ソバージュⅠ：人類最古の哲学』講談社、二〇〇二年

速水融『歴史人口学で見た日本』文藝春秋、二〇〇一年

速水融『歴史人口学の世界』岩波書店、二〇一二年

漢字の構成要素と漢字へのなじみ度が
漢字学習に与える影響

ータイ人日本語学習者を対象にー

The Effects of Kanji Components and Familiarity on Kanji Learning
by Thai Learners of Japanese Language

明治大学 国際日本学部

米持 こあき

Meiji University School of Global Japanese Studies
YONEMOCHI, Koaki

目次

I はじめに

II 先行研究

III 研究課題

IV 調査の概要

1. 調査対象者
2. 調査対象漢字
3. 手続き

V 結果

1. 再認テストの結果
2. 再生テストの結果

VI 考察

1. 再認テストの考察
 - 1.1 選択率が高い漢字（正答率が高い漢字）
 - 1.2 選択率が低い漢字（正答率が低い漢字）
 - 1.3 ダミー
2. 再生テストの考察
 - 2.1 再生率が低かった漢字
 - 2.1.1 「底」
 - 2.1.2 「逆」
 - 2.1.3 「乗」
 - 2.1.4 「弟」
 - 2.1.5 「池」
 - 2.1.6 「迎」
 - 2.2 再生率が高かった漢字
 - 2.3 再認率と再生率の関係
3. 研究課題に対する考察

VII おわりに

謝辞

参考文献

付録

I はじめに

日本語学習者にとって、漢字の習得はひらがなやカタカナの習得と比較して、より困難なものだと言われており、その原因として、意味、形、音の組み合わせの複雑性(清水 2009)、漢字自体の数の多さ(Mori 2007)、読み方の多さ(豊田 2007)、構成要素の多さ(海保・野村 1983)、漢字の字形の複雑性(ヴォロビヨワ・ヴォロビヨフ 2017)など、その多くがこれまでの研究で明らかにされている。これらの原因は、日本語学習者全体におけるものであるが、漢字圏日本語学習者と非漢字圏日本語学習者を比較すると、それぞれの漢字学習の困難点は異なっている。

非漢字圏の学習者が漢字圏の学習者よりも漢字の習得が困難であるのは言うまでもないことだが、非漢字圏日本語学習者は、漢字圏学習者が困難を感じる「読みの複雑性」よりも、まず、「書きの複雑性」に漢字の難しさを感じる(石田 1984)。非漢字圏日本語学習者が困難を感じる「書きの複雑性」の原因として、漢字の字形の複雑性と学習者の母語の表記形態との大きな違いが挙げられる。

では、非漢字圏日本語学習者は具体的に漢字の字形のどのような部分に複雑さを感じているのか。また、漢字学習を続けていくことで、その複雑さに慣れ、習得がしやすくなることはあるのか。

そこで、本研究では、非漢字圏日本語学習者であるタイ人初級日本語学習者を対象に、構成要素によって漢字の習得のしやすさは変わるのかについて調査する。漢字の知識を持たない非漢字圏日本語学習者は、漢字学習の経験がなく、初めて漢字を学習する際に、漢字の構造の中で、どのような要素を難しいと感じ、どのような要素をやさしいと感じるのか。学習者が未知の漢字をどのように捉えているのかを知ることは、より効果的な字形学習のサポートに繋がると考えられる。なお、タイ人の日本語学習者を対象とするのは、筆者が国際交流基金による日本語パートナーズ事業により 2016 年 5 月から 2017 年 3 月までタイで日本語教育に従事する機会を得、実際にタイの高校生を対象に日本語を指導する中で、タイ人の漢字習得の難しさに触れたことによる。

また、学習者が漢字特有の線や形状に慣れること、つまり、学習者の既習の漢字が増えることによって字形再生の正確さは上がるのかについても調査する。新出漢字を学習する際、漢字の学習経験を積み、漢字の字形に慣れてきた学習者は、漢字の学習経験が少ない学習者よりも習得がしやすくなり、より正確に漢字を再生できるようになる可能性が推測される。

この研究によって、漢字の構造や線の形状が習得に与える影響と漢字への慣れと字形再生の正確性の関係が明らかになる。こうした知見は教育現場に対して示唆を与えることができる。

II 先行研究

本研究に関わる先行研究としては、非漢字圏日本語学習者の漢字習得研究の中で、漢字の構成要素が習得にどのような影響を及ぼしているかに関する知見である。これまでの主たる研究成果としては、加納（1988）、ヴィモンヴィタヤー（2012）、ヴォロビヨワ・ヴォロビヨフ（2017）が参考になる。

まず、加納（1988）では、非漢字系初級日本語学習者 59 名（アルファベット圏 34 名、非アルファベット圏 25 名）を対象に、字形再生の実験を行い、漢字の字形の複雑性と再生の難しさとの関係を検討した。調査は、学習者に漢字を書いたカードを見せ、後で覚えている字形を各自の用紙に再生させるというものである。加納（1988）は、調査の結果、部首、画数の多さ、非直線性、非対称性が漢字の習得を複雑にする要素であると結論付けた。しかしながら、この調査は、多くの例外が発生しており、確実な結果とは言えない。例えば、画数の分析において、2 画の「入」や「丁」よりも 5 画の「田」の方が正答率は高かった。よって、画数が少ない方が取得が容易だと一概に言うことはできない。また、部首（パターン認識）の調査結果では、全体型、かまえ型、左右型、上下型、たれ型、にょう型に部首を分類し、考察しているが、学習者が母語話者と同じように漢字を認識し、部首を分類するとは限らない。学習者の漢字構造（部首やつくり）の認識についても調査する必要があるであろう。加納（1998）の結果は、漢字の構成要素が習得に影響を及ぼすことを示唆しているが、具体的な構成要素が漢字の習得に対してどのような影響を及ぼすのかは明確になっていない。

次に、ヴィモンヴィタヤー（2012）では、タイ人初級日本語学習者 47 名を対象に、漢字の自由記述課題によって、字形処理の実態を観察する調査を行った。調査では学習者が白い紙に 10 分間で覚えている漢字を書き、その再生の正確性を分析した。この調査の結果に基づき、ヴィモンヴィタヤー（2012）は、漢字学習を始めたばかりの学習者は、漢字特有の線や形状に慣れておらず、漢字の字形バランスを保つのに困難が伴っていると考察した。既習漢字の数がまだ少ないため、線の長さや形状、はねやはらいなど、漢字特有の字形の僅かな違いを把握するのが難しいことに起因するのではないかと述べている。つまり、それは、漢字が持つ要素、線や形状に慣れることによって、漢字の習得がより簡単なものになる可能性があるということであるが、この調査でそのことは明らかにされていない。

ヴォロビヨワ・ヴォロビヨフ（2017）は、漢字学習の阻害要因とその対処法について検討している。その中で、漢字学習の阻害要因の一つとして構成要素の多さを挙げている。その考察の中で、ヴォロビヨワ・ヴォロビヨフ（2017）は、漢字に慣れることによって、漢字を見る目、つまり、漢字を細かい構成要素に分類する力が養われると述べている。例えば、学習者が「星」を「日」と「生」に分類し、習得する。これを 2 段階分析と言う。

「雇」は「戸」と「隹」の 2 段階、「顧」は「戸」「隹」「頁」の 3 段階と、既習の漢字が増え、漢字に慣れていくことによって、より複雑な漢字も分類が可能となり、習得が容易に

なるとしている。しかし、ヴォロビヨワ・ヴォロビヨフ（2017）では実際に調査は行われていない。

Ⅲ 研究課題

加納（1988）の研究成果は示唆に富んでいるものの、漢字の構成要素は1つの要素ではなく、いくつかの要素の複合的な部分から、習得の難しさを検討する必要があると言える。ヴィモンヴィタヤー（2012）、ヴォロビヨワ・ヴォロビヨフ（2017）の研究は、漢字に慣れること（既習の漢字が増えること）によって字形再生の正確性は上がることを示唆しているが、実際の調査は行われていないため、実際の調査を行い、明らかにする必要がある。

そこで、これらの先行研究で得られた知見と、残された課題を踏まえ、本研究では以下を研究課題として設定する。

課題1：漢字の構成要素によって習得のしやすさは変わるのか

課題2：学習者が漢字特有の線や形状に慣れることによって字形再生の正確性は上がるのか

Ⅳ 調査の概要

1. 調査対象者

調査対象者は、タイ、バンコクの公立高校に通う日本語専攻の高校生、計56名（男性15名、女性39名、無回答2名）である。高校1年生が8名、高校2年生が32名、高校3年生が16名であった。56名のうち、訪日経験があるものが10名いたが、いずれも、3～10日の観光を目的とした滞在であった。56名のうち、9名が日本語を母語としない人の日本語能力を測定する日本語能力試験（JLPT）N5合格者であった。

2. 調査対象漢字

本研究は、日本語学習者の未知漢字の捉え方に関する調査であるため、調査対象漢字は調査対象者にとって未知でなければならない。調査対象の漢字の難易度が高ければ、調査対象者にとって未知の漢字である可能性が高いと考え、漢字の難易度の高さを選定の基準とし、以下のような手続きで進めた。

調査対象者は、日本語の初級学習者（日本語能力試験N5以下）であるため、『日本語能力試験出題基準【改訂第3版】』に掲載されている日本語能力試験N3の漢字を抽出した。ただし、調査対象者の教科書である『みんなの日本語初級Ⅰ【初版第1版】』における学習漢字は既習語の可能性があるので、除外した。抽出した漢字の中から、習得に影響を及ぼすと予想される構成要素を持つ漢字を20字選定し、調査対象漢字とした。構成要素は、先

行研究を踏まえ、構え（上下、左右、全体、たれ・によろ）、画数（5画、6画、7画、8画、9画）、対称性（対称、非対称）の組み合わせを考慮し、選定した。調査対象漢字は表1の通りである。なお、日本語能力試験 N3 の漢字だけでは、20 字選定することが難しかったため、N2 の漢字を 3 字、N1 の漢字を 2 字含んでいる。

調査対象漢字 20 字の選定と同時に、再認テストで使用するダミーとして、調査対象者にとって未知の漢字であり、さらに、調査対象漢字とへんやつくりなどが似ている漢字を 20 字選定した。ダミーの漢字は表 2 に示した通りである。

表 1 調査対象漢字 20 字

構え	対称性	画数				
		5 画	6 画	7 画	8 画	9 画
上下	○	穴	合	杏 (N1)	青	首
左右	×	代	池	別	味	研
全体	○	去	光	弟	固 (N2)	乗
たれ・によろ	×	庁 (N2)	庄 (N1)	迎	底 (N2)	逆

表 2 ダミーの漢字 20 字

込	台	低	芸	味
吉	服	重	辺	思
地	考	会	洋	床
声	引	来	回	第

3. 手続き

調査は、2017 年 10 月 30 日 10 時間目と 2017 年 11 月 3 日の 6 時間目の 2 回に分けて、調査対象者の所属高校の日本語教室で実施した。

調査では、再認テストを行い、延滞課題として歌を一曲歌った後、再生テストを行った。最後にフェースシートの回答も依頼した。

再認テストでは、初めに、調査対象漢字 20 字を全体の前で提示し、読み方と意味、書き順を説明した。日本語の歌（幸せなら手を叩こう）を 1 曲歌った後、ダミーの漢字 20 字を含む 40 字の漢字をランダムに配置したプリントを配布し、先ほど説明した漢字で覚えているものを 20 字選択してもらった。解答に当たっては、自分一人で解答することと、教科書や辞書で調べないことを口頭で指示した。また、間違っても構わないので 20 字必ず選択するよう伝えた。

再生テストは、調査対象漢字 20 字で行った。全体の前で、漢字を一字ずつ提示し、漢字

を隠した後で解答用紙に覚えている形を書いてもらった。提示を 5 秒、再生を 20 秒で区切り、それを 20 字繰り返した。再認テストと同様に、自分一人で解答すること、教科書や辞書で調べないこと、また、時間が終了したら、速やかに解答をやめることを口頭で指示した。加えて、完全な漢字の形でなくても、頭に残っている形だけでも書くように指示した。

調査には、謝礼を用意し、調査終了後、フェースシートと引き換えに謝礼を渡した。調査の所要時間は、両日とも約 50 分であった。

V 結果

1. 再認テストの結果

再認テストは 1 漢字、1 点で採点し、56 名の得点を求めたところ、平均が 16.23 点（最低 9 点、最高 20 点）、標準偏差が 2.93 となった。学年別の平均点、標準偏差、最低点、最高点、人数は表 3 に示した通りである。

表 3 再認テスト 学年別の結果

	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>Min</i>	<i>Max</i>	<i>N</i>
1 年生	17.25	2.05	13	20	8
2 年生	15.13	2.91	9	20	32
3 年生	18.24	2.28	14	20	16
全体	16.23	2.93	9	20	56

注 1. 満点は 20 点。

注 2. *M* は平均、*SD* は標準偏差、*Min* は最低、*Max* は最高、*N* は人数を示す。

1 年生から 3 年生まで学年が上がるにつれて、平均点が上昇すると予想したが、2 年生が 15.13 点と 1 年生の 17.25 点を下回った。これは、2 年生 32 名の中に最低点の 9 点の者がいたことが影響したと考えられる。また、2 年生は、標準偏差を見てもわかる通り、1 年生、3 年生に比べて得点のばらつきがある。これは、1、3 年生と 2 年生の調査人数の差が影響していると考えられる。

次に、再認テストの漢字 20 字それぞれの選択率を見る。漢字ごとの、全体および学年別の選択率は表 4 の通りである。ここで言う選択率とは、提示された漢字を正しく選択することができた者の比率を表す。なお、表における漢字は調査対象者に提示した順で記してある。

表 4 全体及び学年別の選択率

	1 年生 (N=8)	2 年生 (N=32)	3 年生 (N=16)	全体 (N=56)
	選択率	選択率	選択率	選択率
研	62.50%	56.25%	68.75%	58.62%
乗	87.50%	59.38%	81.25%	84.48%
逆	75.00%	75.00%	87.50%	75.86%
首	87.50%	78.13%	93.75%	81.03%
固	100.00%	93.75%	93.75%	93.10%
味	75.00%	46.88%	81.25%	58.62%
迎	87.50%	96.88%	100.00%	94.83%
弟	100.00%	87.50%	100.00%	89.66%
別	100.00%	90.63%	100.00%	93.10%
底	62.50%	56.25%	75.00%	60.34%
杏	100.00%	68.75%	100.00%	79.31%
庁	87.50%	62.50%	87.50%	70.69%
光	87.50%	62.50%	81.25%	68.97%
穴	100.00%	68.75%	100.00%	81.03%
青	100.00%	87.50%	100.00%	91.38%
去	75.00%	87.50%	62.50%	75.86%
池	75.00%	71.88%	100.00%	77.59%
庄	75.00%	71.88%	81.25%	72.41%
代	100.00%	75.00%	100.00%	82.76%
合	87.50%	84.38%	100.00%	87.93%

再認テストにおいて、選択率が高い漢字は正答率が高い漢字、選択率が低い漢字は、正答率が低い漢字である。全体的な結果として、すべての漢字の選択率が 50%以上という結果になり、再認テスト全体の正答率が高かったと言える。20 字の調査対象漢字の中で、選択率が高い漢字は「固」「迎」「弟」「別」「青」の 5 つである。5 つの漢字は全て 90%以上の選択率であった。選択率が低い漢字は「研」「味」「底」の 3 つで、全て 60%以下の選択率であった。

次に、ダミーの漢字 20 字の全体及び学年別の選択率は表 5 の通りである。なお、ダミーの選択率とは、調査では提示していないにも関わらず、提示されたと勘違いして選択した者の比率のことである。

表 5 全体及び学年別のダミー選択率

	1 年生 (N=8)	2 年生 (N=32)	3 年生 (N=16)	全体 (N=56)
	選択率	選択率	選択率	選択率
吉	37.50%	15.63%	18.75%	18.97%
洋	37.50%	62.50%	12.50%	43.10%
辺	25.00%	56.25%	31.25%	44.83%
込	0.00%	34.38%	6.25%	20.69%
地	37.50%	15.63%	25.00%	20.69%
来	25.00%	34.38%	0.00%	22.41%
昧	25.00%	31.25%	12.50%	27.59%
第	0.00%	12.50%	6.25%	8.62%
低	37.50%	37.50%	25.00%	32.76%
声	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
思	0.00%	12.50%	0.00%	6.90%
台	0.00%	6.25%	0.00%	3.45%
服	0.00%	0.00%	6.25%	0.00%
考	0.00%	6.25%	6.25%	5.17%
床	12.50%	25.00%	18.75%	22.41%
引	0.00%	12.50%	0.00%	8.62%
芸	12.50%	25.00%	0.00%	15.52%
重	37.50%	46.88%	25.00%	37.93%
会	25.00%	37.50%	0.00%	24.14%
回	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

選択率が高い漢字は多くの調査対象者が錯乱された漢字（間違えて選んだ漢字）、選択率が低い漢字は、ほとんどの調査対象者が錯乱されなかった漢字である。ダミーの漢字の中で、選択率の高い漢字は、「辺」「洋」「重」「低」の 4 つで、33%から 45%の者が選択した。選択率の低い漢字は、「声」「服」「回」の 3 つで、全て 0%、誰も選択しなかった。

2. 再生テストの結果

再生テストは 1 漢字の再生で 1 点とし、56 名の再生数を求めた。採点の基準は、正しく字形が再生されている場合は○、ほぼ正しく再生されている（日本人が見て、その漢字であると認められる）場合は△、正しく再生されていない（その漢字であると認められない）場合及び無回答は×とし、○の場合のみ再生数として採点した。再生数の結果は、平均が

13. 17 点（最低 8 点、最高 20 点）、標準偏差が 2.95 となった。学年別の平均点、標準偏差、最低点、最高点、人数は表 6 に示した通りである。

表 6 再生テスト結果

	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>Min</i>	<i>Max</i>	<i>N</i>
1 年生	12.00	3.31	8	18	8
2 年生	12.81	2.52	8	18	32
3 年生	15.00	2.89	9	20	16
全体	13.17	2.95	8	20	56

注 1. 満点は 20 点.

注 2. *M* は平均、*SD* は標準偏差、*Min* は最低、*Max* は最高、*N* は人数を示す.

再生テストの全体の傾向として、学年が 1 年生、2 年生、3 年生と上がるにつれて、平均点は上昇している。しかし、2 年生と 3 年生の平均点の差が 2.19 点であるのに対し、1 年生と 2 年生の平均点の差はわずか 0.81 点であった。

次に、再生テスト漢字 20 字のそれぞれの再生率を全体及び学年別に表 7 に示した。なお、表における漢字は調査対象者に提示した順で記してある。

再生率が高い漢字は「杏」「固」「庁」「去」「庄」の 5 つで全て 90%以上の再生率であった。再生率が低い漢字は「逆」「乗」「池」「弟」の 4 つで 21%から 32%と低い再生率であった。

表 7 全体及び学年別の再生率

	1 年生 (N=8)	2 年生 (N=32)	3 年生 (N=16)	全体 (N=56)
	再生率	再生率	再生率	再生率
研	62.50%	43.75%	62.50%	51.79%
乗	25.00%	21.88%	43.75%	28.57%
逆	12.50%	12.50%	43.75%	21.43%
首	37.50%	62.50%	75.00%	62.50%
固	100.00%	96.88%	81.25%	92.86%
味	100.00%	87.50%	87.50%	89.29%
迎	37.50%	40.63%	56.25%	44.64%
弟	0.00%	28.13%	50.00%	30.36%
別	62.50%	71.88%	93.75%	76.79%
底	37.50%	6.25%	43.75%	21.43%

杏	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
庁	75.00%	96.88%	93.75%	92.86%
光	50.00%	59.38%	68.75%	60.71%
穴	87.50%	78.13%	100.00%	85.71%
青	87.50%	78.13%	87.50%	82.14%
去	100.00%	87.50%	100.00%	92.86%
池	12.50%	37.50%	43.75%	35.71%
庄	87.50%	87.50%	93.75%	89.29%
代	62.50%	75.00%	68.75%	71.43%
合	75.00%	87.50%	87.50%	85.71%

VI 考察

1. 再認テストの考察

1.1 選択率が高い漢字（正答率が高い漢字）

選択率が高い漢字、ここでは90%以上の調査対象者が選択した漢字（正答率が90%以上であった漢字）を上位5つ、ダミーの結果を見ながら個別に考察する。

まず、「固」の選択率は93.10%で56名中54名が選択した。「固」と似ている漢字としてダミーとした「回」の選択率を見ると、0.00%と1人も選択した者がいなかった。「固」と「回」は同じ、くにながまえを持つ漢字であるが、調査対象者はくにながまえに錯乱されることなく、正しい「固」を選ぶことができたため、選択率が高くなったと考えられる。このことから、学習者はくにながまえの漢字を習う際に、かまえではなく、かまえの中の部分に注目して認識していると言うことができる。

2つ目に、「迎」を選択した人数は56名中55名で94.83%の選択率であった。「迎」の似ている漢字のダミーは、同じしんにようを持つ「辺」と「込」である。「辺」の選択率は44.83%、「込」の選択率は20.69%と比較的多くの調査対象者が選択していた。なお、しんにようを持つ漢字としては、もう一つ、「逆」も出題していた。「逆」は9割を超えるほどの選択率ではなかったものの、75.86%と比較的高い再認率であった。これらを総合して考えると、調査対象者にはしんにようの漢字はなじみがあるため、提示した漢字であってもダミーであっても選択しやすかったのではないかと考えられる。

3つ目は「弟」で、選択率は89.66%、56名中52名が選択した。弟のダミーとした「第」の選択率は8.62%で選択者は5名と少なかった。「弟」と「第」は、漢字の下部分が同じで似ているが、調査対象者は錯乱されることなく、上部分に注目して「弟」を認識することができたため、高い選択率になったと考えられる。

4つ目の「別」の選択率は、93.10%で56名中54名が選択できた。ダミーには「別」に

共通点を持つ漢字を入れていなかったため、他の漢字に錯乱されることなく、「別」を容易に選択でき、選択率が高くなったと考えられる。

最後に「青」であるが、56 名中 53 名が選択し、91.38%の選択率であった。「青」も「別」と同じく共通の部分を持つダミーがなかった。そのため、錯乱されることなく、「青」を選択することができ、選択率が高くなったと考えられるが、「青」は1年生から3年生まで、等しく高い選択率であったため、「青」が既知の漢字であった可能性も考えられる。

1.2 選択率が低い漢字（正答率が低い漢字）

選択率が低い漢字、ここでは60%以下の漢字3つを、ダミーの結果を見ながら考察する。

まず、「味」は58.62%の選択率で56名中22名が選択することができなかった。「味」のダミーは「味」で、線の数が一本違うというわずかな違いであるが、「味」の選択率は27.59%で比較的多くの調査対象者が選択している。「味」と「味」で錯乱された調査対象者が多かったため、「味」は低い選択率になったと考えられる。

2つ目の「底」は60.34%の選択率で56名中21名が選択することができなかった。「底」と共通のたれを持つダミー「床」の選択率は22.41%、同じつくりを持つ「低」の選択率は32.76%と両漢字とも選択率が高い。「底」と共通の部分を持つ「床」と「低」に錯乱されたため、選択率が低くなったと考えられる。

「研」は58.62%の選択率で56名中22名が選択できなかった。「研」と共通のへんやつくりを持つ漢字や形が似ている漢字はダミーに含まれていない。ダミーによる錯乱はないため、低い選択率の原因はダミー以外にあると考えられる。考えられる原因はいくつか挙げられるが、例えば、「研」は9画で、調査対象漢字の中で最も画数が多い漢字のうちのひとつである。画数の多さが、選択率の低さにつながった可能性があるが、画数の同じ9画の「乗」は選択率84.48%と高い選択率になったため、「研」だけ画数が影響したとは言にくい。対称性や構えについても同様である。そこで考えられるのは、意味と提示の順番の影響である。漢字を教える際、意味の説明を行ったが、「研」は「研ぐ」と説明した。「研ぐ」という言葉が他の漢字の意味と比較して、使用頻度が低く、なじみがなかった可能性がある。また、漢字を教える際、提示した順番は「研」が一番初めであったため、記憶に残りにくかったのではないかと推測する。これらのいくつかの原因が重なって、「研」の選択率が低かった可能性も考えられる。

1.3 ダミー

ダミーの選択率の結果から、いくつかのダミーを取り上げ、考察する。

選択率が高かったダミーは多くの調査対象者が錯乱されたダミーである。選択率が44.83%の「辺」は、しんによろが同じ「迎」のダミー、43.10%の「洋」は、へんが同じさんずいである「池」のダミーである。「迎」「池」の選択率が高い原因は、調査対象漢字と

共通のへんを持っていることで多くの調査対象者が錯乱されたためとも考えられるが、ダミーが錯乱肢として機能した場合、正答である「迎」「池」の選択率は低くなるはずである。しかし、「迎」「池」とともに、94.83%、77.59%と比較的高い選択率で正答者が多いことから、これは、「迎」「池」の代わりに「辺」「洋」を選択したのではなく、知っている形、あるいは習った記憶のあるへんを使った漢字を「迎」「池」に加えて選択した可能性が考えられる。

選択率が低かったダミーは、調査対象者が錯乱されなかったダミーである。選択率が0%であった「声」と「服」は、上下型、左右型の数を調査対象漢字と合わせるためにダミーとしたもので、調査対象漢字に同じへんやつくりを持つ漢字や似た形のものが無い。そのため、錯乱される調査対象者がいなかったと考えられる。「回」は「固」のダミーであるが、1.1 で前述した通り、くにながまえの中に注目し、錯乱されずに「固」を選択することができたため、「回」の選択率は低くなったと考えられる。

2. 再生テストの考察

再生テストは○△×の三段階で採点を行った。採点結果○△×の漢字ごとの分布は表8の通りである。○△×の下にある数字は人数を表している。

結果が△×になった採点に多く見られる特徴を表9の10タイプに分類した。その分類を基に再生率が45%以下の低かった漢字6つを考察する。また、90%以上の再生率が高かった漢字においても、再生率の低かった漢字との比較を中心に考察する。

表8 採点結果（人）

	○	△	×
研	29	13	14
乗	16	17	23
逆	12	16	28
首	35	18	3
固	52	1	3
味	50	3	3
迎	25	23	8
弟	17	22	17
別	43	8	5
底	12	15	29
杏	56	0	0
庁	52	2	2
光	34	19	3
穴	48	5	3
青	46	5	5
去	52	2	2
池	20	25	11
庄	50	6	0
代	40	12	4
合	48	8	0

表9 特徴の分類

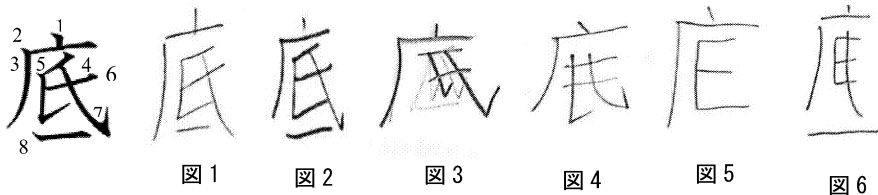
① 点や線の位置が不適切	⑥ 斜画やカーブが垂直に書かれている
② 線の長さが長すぎる、または短すぎる	⑦ 構成要素に誤りがある
③ 線、点が足りない、または多い	⑧ 書き順や画数に誤りがある
④ はねが省略されている	⑨ 他の漢字との混乱が見られる
⑤ 接着部分がはみ出ている、またはついていない	⑩ その他

2.1 再生率が低かった漢字

本節では、調査対象者が実際に再生した漢字を示しながら、6つの漢字の再生について、一つずつ考察していく。

2.1.1 「底」

まず、最も再生率が低かった漢字は2つあり、1つ目は21.43%の「底」で、○が12名、△が15名、×が29名という結果であった。漢字全体における再生率は低かったが、56名中49名が部首であるまだれの再生に成功していた。これはまだれを持つ漢字（店、度など）が既知であったため、再生できる調査対象者が多かったと考えられる。再生ができていなかった部分につくりに集中していたため、つくりの再生について△×の例を細かく考察する。



「底」のつくりの再生パターンは、無回答や形になっていないものを除いて、主に3つに分類できた。一つ目は、図1、2のように5画目のはねが長く、7画目と接着しているもの（特徴②）で、8名がこのような再生していた。図1、2のような調査対象者は、書き順や形は正しく認識しているものの、はねを線のように長く書いてしまったために、このような再生が起こったと考えられる。そもそも、学習者がとめ、はね、はらいの意識を持って漢字を認識しているかが定かではないため、調査する必要があった。しかし、漢字指導の際は、とめ、はね、はらいの説明をすること、また、この再生の5画目においては、はねであることを強調して指導するべきである。2つ目は、図3、4のように線の本数は正しいが位置や線の長さが間違っているもの（特徴①）で、5名の再生があった。図3、図4ともに4画目と6画目の線を上下へ斜めに引くべきところを左右へ真横に引いている。これは、長い線（5画目と7画目）と短い線（4画目と6画目）が交わる（接触している）とき、長い線が優先的に再生されている可能性があるため、他の漢字でも検討する必要がある。3つ目は図5、図6のようにアルファベットの「E」のような形になっているもの（特徴⑦⑧⑨）で9名がこのような再生した。多くの学習者が初めて「底」を見ると、既知の図形である「E」の形に見えるようである。既知の図形があるとそこに意識が集中して細かい部分の認識があまりできないのかもしれない。一番再生率が低かった「底」であるが、線の交わりが多いつくりの部分の再生が難しく、その原因として考えられるのは線の長短の優先度と、既知の図形の影響である。

2.1.2 「逆」

再生率が最も低かった2つ目の漢字は「逆」で、「底」と同様に21.43%の再生率、○が12名、△が16名、×が28名であった。まず、「逆」の再生の全体の傾向としては、無回答が多いことが挙げられ、×のうち8名が無回答であった。また、部首であるしんによる再生はよくできている傾向にあり、56名中47名が再生に成功していた。これは、しんによるという部首自体を知っている調査対象者が多かった、または、知らなくても、しんによるは記憶に残りやすかったと考えられる。再生率が低かったのは、しんのように意識が集中し、他の部分が識別できなかったためと考えられる。しかし、学年別に再生率を見ると、1年生が13%であったのに対し、3年生は44%であったことから、しんによるへの慣れが、しんによる以外の部分に注目する意識を生んだ可能性もある。既知の部首が漢字全体の習得にどう影響するかは他の漢字の場合も検討する必要がある。次に、△×の再生の傾向を細かく考察する。

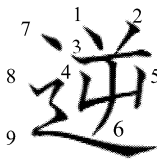


図7

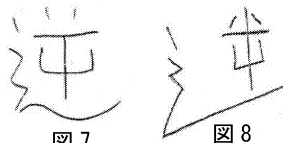


図8



図9

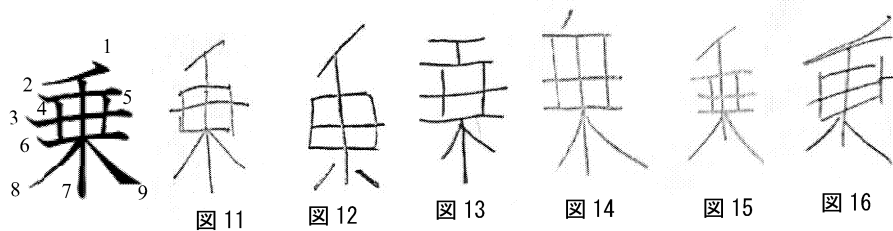


図10

図7、8のように6画目のカーブを直線で再生している（特徴⑥）調査対象者が多く見られた。カーブが直線になってしまう例は他の漢字にも多く見られたが、その中でもしんによるを持つ「逆」「迎」のしんによるのはらいの部分は、上手くカーブを出せていない調査対象者が何人か見られた。図8は1画目、2画目の点の向きが違う例で、この調査対象者は上の部分を既習漢字の「小」と混同して再生したために、この向きになったと考えられる。しかし、この調査対象者以外にも、1、2画目の点の向きが間違っている調査対象者は何人か見られた。図10は点が線の上に書かれ、くさかんむりのようにになっている。図8、9のように、点の向きや位置が上手く再生できない調査対象者が多く見られた（特徴①）。図9は、2画目の線が足りない（特徴③）。線の不足が見られたのは2画目だけであった。再生率が低かった「逆」は、つくりの部分の再生が難しいということは明らかであるが、間違いの傾向はバラバラであり、ある一つの部分が難しいために再生率が低かったとは言えない。

2.1.3 「乗」

次に、再生率が低かったのは28.57%の「乗」で、○が16名、△が17名、×が23名であった。「乗」は比較的同じ形で再生されているものが多かった。間違いの傾向を見ると、特徴の②③⑧⑦⑨が挙げられる。



全体的に見て、線の長短が再生できず、バランスが取れていないものが多かった。図11、12は2画から6画までを既習漢字の「田」のように認識しているパターン（特徴⑨）で、このように再生している調査対象者は56名中20名と非常に多かった。図11の調査対象者は、8画目の上下線を2画目の部分で二つに分けて書いている（特徴⑧）。漢字を教える際に、正しい書き順を指導したが、時間が経ったために忘れてしまい、多くの線が交差する最も印象に残った部分を、優先的にそのまま再生したと考えられる。図13、14、15の1画目から6画目を見ると、図11、12とは異なり、正しい順序で再生できている。しかし、2、3、6画目の線の長短の差が出ていない（特徴②）ために、バランスが悪くなっている。また、図15のように8、9画目のはらいが7画目のとめの部分よりも長く書かれている（あるいは、7画目のとめの部分が短い）再生も多く見られた。このような特徴から、線の長短という、わずかな違いに目を向ける者は少ないと言え、線の長さについて意識的に教える必要がある。図16は「田」の認識に加えて1画目と2画目の間に線が一本多い（特徴③）。このように再生した調査対象者は4名おり、「田」よりも「東」に近い字を書いている。「東」が既習の漢字であるかはわからないが、正確な線の数で短時間で認識することが難しかったようである。図14のように1画目の線が点のようになっているものも多く見られた（特徴⑦）。「乗」の再生の傾向から、線が多く重なり合う部分、特に線の長短の再生は困難であると考えられる。

2.1.4 「弟」

次に再生率の低い「弟」は、30.36%の再生率で、○が17名、△が22名、×が17名であった。「弟」は全体として再生率が低いが、1年生が0.00%、2年生が28.13%、3年生が50.00%と学年が上がるにつれて再生率が大きく上昇している。意味的には馴染み深い漢字のため、3年生は既知であった可能性も考えられるが、学年が上がるにつれて、認識する力が上がっているとも考えられる。

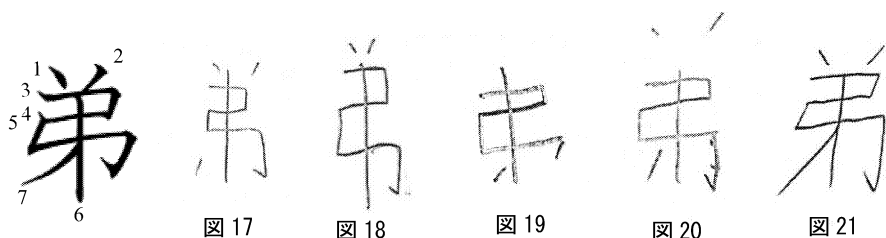


図 17

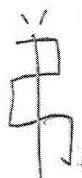


図 18



図 19

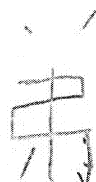


図 20



図 21

漢字の中で大きな部分を占め記憶に残りやすかったためか、3画目から5画目部分の再生に成功している調査対象者が多く見られた。間違いが多かったのは、その他の点と線においてである。図17、図19、図20のように6画目の最初が上にはみ出て再生されているものが多く（特徴⑤）、図18のように7画目のはらいが抜けているもの、図19のように1、2画目の点が抜けているもの（特徴③）、図17、19、20のように7画目のはらいの接着部分が離れているもの（特徴⑤）など、ある一部分が再生できていない調査対象者が多くいた。これは、3、4、5画目の形に意識を集中したため、細かい部分まで記憶することができなかった可能性がある。また、「底」のように、長い線（6画目）に接着する短い線（1、2、7画目）の再生はやはり難しいようである。図21のように3画目の最後、5画目の最初の部分を少し斜めに書くことができていない調査対象者はとても少なかった。図17から図20の例のように全ての線を垂直に書いており（特徴⑥）、字全体のバランスがうまく取れていなかった。図21の例を見ると、大部分は再生に成功しているが、5画目の最後の部分が6画目よりも長くなっている。最後の角の部分の部分を大きく書いている再生はいくつか見られた（特徴⑩）が、下3本の線のバランスについても指導が必要である。

2.1.5 「池」

次は「池」で、再生率は35.71%、○が20名、△が25名、×が11名であった。×の全く再生できなかった調査対象者や間違いが多かった調査対象者は少なく、△の「池」と認められる程度の違いで再生している調査対象者が非常に多かった。△×の例を細かく考察する。



図 22

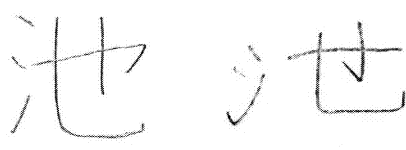


図 23

「池」の再生は主に図 22 と図 23 の 2 つのパターンであった。さんずいは全体としてよく再生できており、既習の部首を含む漢字の部首は再生しやすいようだった。しかし、図 23 のようにさんずい自体をカタカナの「シ」のように書く癖がついている者は多く見られた。図 22 は 4 画目最後の角とはねの部分が再生できていない（特徴④）。このパターンは非常に多く 23 名がこのように再生した。図 22 は角のあとの線が少し長めだが、この部分が短く、角ではなくはねになっている再生も多かった（特徴④）。図 23 はつくりの部分が、ひらがなの「せ」のように再生されている。「底」のアルファベットの「E」のように、既知の形に似ているとその形が記憶に残りやすいと考えられる（特徴⑨）。もしくは、わざと既知の形で認識して覚えやすく解釈している可能性もある。

2.1.6 「迎」

次に再生率が低かったのは、「迎」の 44.64%で、○が 25 名、△が 23 名、×が 8 名であった。「迎」も「池」と同様に全く再生できなかった×の者は少なく、「逆」であると認識できる程度の間違いの再生が多かった。しんのような再生は比較的よくできていたため、間違いの多くは 1 画目から 4 画目に集中していた。△×の例を細かく考察する。



図 24



図 25



図 26

図 24 は 3、4 画目が同じ長さで再生されており（特徴②）、1、2 画目の部分よりかなり大きく書かれているため、全体のバランスも悪い。図 25 は 3 画目が長く 4 画目が短い。3 画目のはねも省略されている（特徴④）。図 24、図 26 のように 1、2 画目を繋げて 1 画として書いている者は多く、極端な場合、図 26 のように、はらいやはねが直線に再生され、四角く再生されていた。「迎」の 1 画目から 4 画目は直線だけではなく、はらいやはねがいくつか組み合わさって構成されているため、はらいやはねの認識が正確に認識できていないと、正確な再生ができなかったと考えられる。これまでの再生の分析でも見られたように、「迎」の再生では、線の長短の差やはねと線の区別が上手くついていないために、間違った再生が起こったようである。

2.2 再生率が高かった漢字

「杏」「固」「庁」「去」「庄」の 5 つの漢字が 90%以上の再生率で、再生できた調査対象者が多かった。再生率が高かった原因を細かく考察しつつ、その中でも△や×になった調

査対象者がどのような再生を行ったのか、特徴的なものを考察する。

まず、「杏」は再生率が100%で、1年生から3年生まですべての調査対象者が再生できた。これは「杏」が既習漢字の「木」と「口」で構成される漢字であることが影響した結果だと考えられる。再生率が低い漢字の中で、へんやつくりの一部分が既知である場合はその部分に意識が集中し、その他の部分の再生は難しいという結果のものがあつたが、「杏」の場合のように構成する要素全てが既知の形の場合は再生しやすいようである。「木」と「口」という比較的簡単な漢字であつた影響も大きい。

次に「固」であるが、95%が再生に成功した。「固」も構成する要素が既知の図形（「口」、「十」、「口」）であつたことが再生の成功の要因であつたと考えられる。しかし、図27のように既知の図形であつたことで、その図形を再生することはできたが再生の際にきちんと図形同士を接着できていない、線の長さを認識できていない再生があつた。また、図28のように、「十」の部分を「土」と書いている間違いもあつた。これは既知の図形の組み合わせであるという認識が既知の漢字である「土」を思い起こさせたため、あるいは線の本数を認識できなかったためと考えられる。「杏」「固」のように「口」の再生は、テスト全体を見ても再生率が高い。「口」というよりも「口」として認識している学生が多いのかもしれない。

「庁」は95%の再生率であつた。「まだれ」が既知の部首であつたことで部首の再生は可能であつたと考えられる。つくりの「丁」は線の構成が単純であることと、△の調査対象者の中に縦の線を曲線で書いていた者がいたため、「丁」をアルファベットの「J」の形で記憶した者もいたのかもしれない。似た形が既知であると再生しやすい。少ない間違いの中でも、図29のように5画目のはねの方向が間違っているものがいくつか見られた。図29はまだれのはらいの部分がはねてしまっていて、この方向と5画目の方向で混乱したのではないかと考えられる。

「去」は95%の再生率で、これも既知の形の組み合わせ（漢字の「土」とカタカナの「ム」）であつたため、再生率が高かつたと考えられる。△、×の調査対象者の再生は図30のように「土」と「ム」の間が極端に離れていたり、「ム」の接着位置がずれているものであつた。

「庄」は91%の再生率で、これも「まだれ」と既習漢字の「土」の組み合わせであつたため、再生率が高かつたように思われる。「まだれ」の再生は全体的に見てどの漢字もよくできているが、図31のように曲線部分の再生が直線的に書かれる傾向は強く見られる。

このように再生率が高い漢字を全体的に見ると、どの漢字も既知の形の組み合わせであ

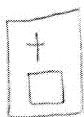


図 27



図 28

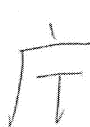


図 29



図 30

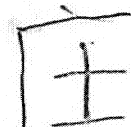


図 31

ることがわかる。また、「去」の4画目以外は全て直線である。画数は、5、6、7、8画とバラバラ、対称性も対・対・非・対・非で、画数の多少や対称性よりも直線的か非直線的か、既知の形の組み合わせかが、再生率に影響すると思われる。

2.3. 再認と再生の関係

再認率と再生率の差が大きい漢字は、学習者に新たにその漢字を教える際に気をつけるべき点があるということである。一番再認率と再生率の差が大きかったのは「弟」で、再認率が90%であったのに対し、再生率は32%であった。再生テストの結果を見ると「弟」は3画目から4画目の部分が記憶に残りやすく、それ以外の点や線がどのように配置され、どのような長さであったのかが記憶に残りにくいようであった。そのため、選択式の再認テストでは多くの調査対象者が選ぶことができたが、記述式の再生テストでは正確な再生ができなかったと考えられる。学習者に「弟」を教えるときには、点の向きや長さ、線と点、とめはねはらの違い、全体のバランスなど細かく指導する必要がある。また、「乗」も再認率が84%、再生率が27%と差が大きかった。「乗」の再生を見ると、線の数や全体の形の認識はできており、細かい線の長短が間違っている場合が多い。形は頭に残りやすいため再認は可能であったが細かい部分の再生は困難であったようだ。線の長短を細かく指導する必要がある。

3. 研究課題に対する考察

研究課題(1)「構成要素によって習得のしやすさは変わるのか」について、再認テスト、再生テストの結果・考察をもとに検討する。

まず、調査対象漢字を選定するにあたって、構成要素を画数、対称性、構えと設定した。しかし、これらの要素が習得のしやすさに影響を及ぼすとは再認テスト、再生テストの結果からは言うことができない。例えば、再認テストの選択率が高い漢字は「固」「迎」「第」「別」で、画数は7、8、7、8で共通点がありそうだが、型は全て異なり、対称性も異なっていた。このように、どの結果からも共通点を見出すことができなかったため、構成要素として設定したものからの分析は難しいと判断した。

しかし、最初に設定した構成要素ではなく、再認テスト再生テストの考察を見るといくつかの共通点を見出せる。

一つ目は「学習者は既習の部首に注目する」という点である。再認テストの「固」の結果から調査対象者は、くにながまえの中に注目して漢字を認識しているという結果が出た。また、再生テストでは、「底」のまだれ、「逆」のしんによろなど既習の部首は再生率が高い結果になった。既習の部首を含んでいると「固」の再認のように部首でない部分に注目することで正答できる場合もあれば、「底」や「逆」の再生のように部首に注目することで他の部分の認識が上手くできない場合もあり、正の転移・負の転移どちらも起こる可能性

がある。このように、既習の部首があることで漢字の習得のしやすさは変わると考えられる。

二つ目は「既知の図形は記憶に残りやすい」という点である。再生率が高い漢字の結果から、既知の図形の組み合わせでつくられる漢字は再生が容易であることが分かった。しかし、既知の図形があるから習得がしやすいとは言えない。「底」や「乗」のように既知の図形を含んでいるとそこに意識が集中し、細かい部分の認識があまりできない場合や、「池」のようにわざと優先的に既知の形で認識することで覚えやすくしている可能性もある。既知の図形を含むことで、習得はしやすくなる場合もあれば、しにくくなる場合もあると考えられる。

三つ目は「重なっている線の長短の違いを認識することは困難である」という点である。漢字の再生の考察を見ると、再生率が低い理由として線の長短の差がつけられていない調査対象者が多く見られた。「底」「乗」の再認率は高めであり、全体の形やイメージを記憶することは、調査対象者にとって容易であったようだが、再生の「底」の4画目から6画目、「乗」の2画目から6画目の線の重なっている部分の、線の長短が再生できない調査対象者が多かった。また、「底」の4画目のはねや「池」の4画目のはねが長く、線になってしまっている再生も多く見られた。これは、線がある認識はできるけれど、線の長さ、線であるか、はねであるかの判断が困難であるということを表している。これらのことから、線の長短というわずかな違いに目を向ける学習者は少なく、線の長短の認識は困難であると考えられる。

以上の三点から、「漢字は、構成要素によって習得のしやすさが変わる」と言えるが、同じ構成要素でも習得しやすい漢字としにくい漢字があり、構成要素のみが習得を決定づけるとは言えない。漢字のどの部分の形状が、漢字の識別に有意義なのかについては、理解も習得も難しいようである。また、漢字の要因だけでなく、学習者の漢字の字形に対する慣れやなじみも影響している。そのため、どの要素が習得をしやすくし、どの要素が習得を難しくするとはっきりと断言することは難しい。

次に研究課題(2)「学習者が漢字特有の線や形状に慣れることによって字形再生の正確性は上がるのか」について、再認テスト、再生テストの結果・考察をもとに検討する。

まず、再認テストの結果を学年別にみると、1年生から3年生まで学年が上がるにつれて、平均点が上昇すると予想したが、2年生が15.13点と1年生の17.25点を下回った。これは、2年生32名の中に最低点の9点を取った者がいたことが影響したか、あるいは、2年生の人数が多いことによって2年生の日本語習熟度の平均レベルが人数の少ない1年生の平均レベルよりも低くなってしまったという可能性も考えられる。しかし、その点を考慮しても学年が上がる(漢字の学習歴が長くなる)につれて再認率が上がっているとは言えない。この結果から漢字の再認において、漢字の学習歴、漢字への慣れが再認の成功に貢献するは言えない。

一方で、再生テストの結果を学年別にみると、学年が1年生、2年生、3年生と上がるにつれて、平均点は上昇している。再認テストの平均点は1年生 17.25 点、2年生 15.13 点、3年生 18.24 点なのに対し、再生テストの平均点は1年生 12.00 点、2年生 12.81 点、3年生 15.00 点という結果になった。再生テストにおいて、人数の差などの影響があったと考えられる再認テストと同じ人数の分布であるにも関わらず、学年が上がるごとに点数の上昇が見られるのは漢字の学習歴、漢字への慣れが再生の成功に貢献したからと考えられる。

以上のことから、漢字の再認においては、漢字への慣れよりも個人の漢字認識の能力、記憶力が影響し、漢字の再生においては、個人の能力よりも漢字への慣れが影響すると考えられる。結果、研究課題(2)については「学習者が漢字特有の線や形状に慣れることによって字形再生の正確性は上がる」と言える。

Ⅶ おわりに

本研究では、非漢字圏日本語学習者であるタイ人初級日本語学習者を対象に、(1)「構成要素によって漢字の習得のしやすさは変わるのか」(2)「学習者が漢字特有の線や形状に慣れることによって字形再生の正確性は上がるのか」について検討した。これらの課題を調べるために、タイ人の日本語専攻の高校生 56 名に、未知漢字 20 字の再認テストと再生テストを行い、その結果、構成要素によって漢字の習得のしやすさは変わること、学習者が漢字特有の線や形状に慣れることによって字形再生の正確性は上がる事が示された。

本研究は、再認テストと再生テストの2つの調査を行った点で意義があるものだと考える。同じ調査対象漢字を使用し、2つのテストを行ったことで、漢字の再認においては、漢字への慣れよりも個人の漢字認識の能力、記憶力が影響し、漢字の再生においては、個人の能力よりも漢字への慣れが影響するという結論を導くことができた。日本語とは全く違う文字体系を持つタイ人の日本語学習者であっても、漢字の学習を重ねることによって、漢字への慣れが習得をより容易なものにすることが明らかになった。この結果は学習者の漢字学習へのモチベーションを支えるものとなりうる。また、具体的な再生事例の分析を細かく行ったことで、学習者の新出漢字の認識の傾向が一部分ではあるが明らかになった。これは、漢字を教える際に、どの部分に注目させるか、どの部分を強調して教えるかという漢字指導の方法に生かしていくことができる。

加えて、調査対象を非漢字圏初級日本語学習者(特にタイ人の高校生)に絞った点でも意義のある研究であったと考える。管見の限り、非漢字圏初級日本語学習者を対象にした漢字の習得についての研究は少なく、特に高校生を対象にした調査はあまり行われていない。今回の調査はタイ人の高校生を対象としたことで、漢字の再認は、漢字の意味の理解も重要な要素となるため、大学生に比べて語彙の知識が少ない高校生は再認率が低くなる可能性があることや、タイ人の初級学習者が特に習得に困難を感じる点(線の長短、とめはねはらいの区別など)を明らかにすることができた。

しかしながら、本研究ではいくつかの課題が残った。まず、人数の統制と調査対象者のレベルの統制が不十分であった点である。1、3年生に比べ、2年生の人数が多かったため、より正確な結果を導くためには人数のバランスをとる必要があった。また、今回の調査は漢字への慣れ＝日本語の学習歴という考えから、1年生、2年生、3年生を比較したが、学習歴が短くても既習漢字の多い学習者、学習歴が長くても既習漢字の少ない学習者がいることを考慮していなかった。次回は、事前に既習漢字数について調査を行い、その結果の下、日本語学習歴と既習漢字の量を鑑みて、対象者を確保する必要がある。

また、調査対象漢字や調査対象漢字に含まれている漢字（例：「研」の中の「石」）が、実際に、学習者の既知漢字であるか否かを明らかにできていない点も課題として挙げられる。全ての調査が終わった後に、既知の漢字がなかったか、また、調査対象漢字に含まれる漢字が既知であったかを調査するべきであった。次回は、そのための調査用紙を作成するか、どのような過程で漢字を分析したのかも詳しく調査できるフォローアップインタビューを数名の学習者に個別に行いたい。

付記

調査の実施に関しては、ポーツマスピットヤーゴン学校のウィップワン先生、小成舞さん、タイ語翻訳に関しては明治大学のニングさん、東京外国語大学の柳瀬愛乃さんにご協力を賜りました。また、研究の過程ではゼミのメンバーからたくさんの示唆をいただきました。ここに記して感謝申し上げます。

参考文献

- 石田敏子 (1984) 「国際化の中で漢字とは」海保博之編『漢字を科学する』東京：有斐閣、pp154-190.
- ヴィモンヴィタヤー, チョーラッダー(2012)「タイ人初級日本語学習者の漢字学習に関わる事例研究」『筑波大学地域研究』34号, 247-270.
- ヴォロビヨワ, ガリーナ・ヴォロビヨフ, ヴィクトル (2017)「非漢字系日本語学習者の漢字学習における阻害要因とその対処法：体系的な漢字学習の支援を目指して」『国立国語研究所論集』12号, 163-179.
- カイザー, シュテファン (1999)「漢字学習書各種アプローチの検討」(3) —「記憶術」によるアプローチ— 『筑波大学留学生センター日本語教育論集』14号, 29-43.
- 加納千恵子 (1988)「外国人学習者にとっての漢字の字形の複雑性」『筑波大学留学生教育センター日本語教育論集』3号, 95-121.
- 海保博之・野村幸正 (1983)『漢字情報処理の心理学』東京：教育出版
- ガヤトゥリ, ハットドワ-ガマゲ (2006)「非漢字圏日本語学習者の漢字学習意識に関する研究」『日本語科学』20号, 1-12.

- 国際交流基金・日本国際教育協会（編）（2006）『日本語能力試験出題基準【改訂第3版】』
東京：国際交流基金，日本国際教育協会.
- 清水秀子（2009）「米国における日本語学習者の漢字に対する認識と漢字学習法に対する考
え方及び未学習漢字の学習能力との関係」『JSL 漢字学習研究会誌』 1 巻 5-6.
- スリーエーネットワーク（編）（1994）『みんなの日本語初級 I 【初版第1版】』東京：スリ
ーエーネットワーク.
- 豊田悦子（2007）「漢字学習に対する学習者の意識」『日本語教育』 85 号， 101-113.
- Mori, Y., Sato, K., & Shimizu, H. (2007). Japanese Language Students' Perceptions on Kanji Learning
and Their Relationship to Novel Kanji Word Learning Ability. *Language Learning* 57(1), 57-85.

付録

付録 1 提示したカード

逆

よ 子 : い け

い 子 :

ป๋อแน้า, สรรแน้า

習った 漢字を 20字 ○で かこってください。

例(Ex.):

山

กรุณาวางกลมล้อมรอบต้นจี่จำนวน 20 ตัวที่ได้เรียนไปก่อนหน้านั้นด้วย

合	光	首	第	台	低	固
池	込	庄	穴	服	重	辺
別	杏	研	味	考	床	洋
弟	青	地	逆	代	会	回
去	吉	乗	声	引	来	
片	迎	底	味	思	芸	

付録3 再生テスト 解答用紙

①	⑥	⑪	⑯
②	⑦	⑫	⑰
③	⑧	⑬	⑱
④	⑨	⑭	⑲
⑤	⑩	⑮	⑳

แบบสอบถามการฝึกหัดคันจิ

ดิฉันกำลังสำรวจเกี่ยวกับการฝึกหัดคันจิ

กรุณาอ่านและตอบคำถามต่อไปนี้

ถ้ามีข้อที่ไม่อยากตอบจะไม่ตอบก็ได้

1. ชื่อเล่น (กรุณาเขียนเป็นภาษาอังกฤษหรือภาษาญี่ปุ่น) : _____

2. อายุ : อายุ _____ ปี

3. เพศ : ☐ ชาย ☐ หญิง ☐ ไม่ระบุ

4. ภาษาแม่ : ภาษา _____

5. ปีการศึกษา : ☐ M4 ☐ M5 ☐ M6

6. ประวัติการเรียนภาษาญี่ปุ่น : _____ ปี _____ เดือน

7. เคยไปญี่ปุ่นหรือไม่

☐ ไม่เคย

☐ เคย จำนวนครั้ง : _____ ครั้ง

ระยะเวลา(ผลรวมทั้งหมด) : _____ ปี _____ เดือน _____ วัน

7-1. จุดประสงค์ที่ได้ไปประเทศญี่ปุ่นคืออะไร

☐ การท่องเที่ยว

☐ ศึกษาต่อ

☐ แลกเปลี่ยนวัฒนธรรม

☐ อื่นๆ (_____)

8. เคยเข้าสอบวัดระดับภาษาญี่ปุ่น (JLPT) ไหม

☐ ไม่เคย

☐ เคย ระดับ N _____

9. ชอบคันจิไหม

☐ ชอบ

☐ ไม่ชอบ

☐ เฉยๆ

10. ปกติเรียนคันจิอย่างไร(เลือกกี่ข้อก็ได้)

- ☐เขียนคัดบ่อยๆ ☐ออกเสียงคัดบ่อยๆ ☐เขียนไปออกเสียงไป
☐เขียนไปคิดความหมายไป ☐คิดคันจิออกในหัว
☐จำโดยการแบ่งเป็นส่วนๆ ☐จำสำนวนด้วย

11. นอกเหนือจากในชั่วโมงเรียนได้เห็นและฟังภาษาญี่ปุ่นที่ไหนอีกบ้าง

- ☐นอกจากชั่วโมงเรียน ไม่เห็นและฟังเลย
☐หนังสือพิมพ์ นิตยสาร ☐หนังสือ ☐หนังสือการ์ตูน ☐ใบอธิบายของสินค้า
☐โทรทัศน์ ☐หนัง ละคร ☐อะนิเมะ ☐CD ☐อินเทอร์เน็ต
☐อื่นๆ (_____)

ถ้าไม่เห็นด้วยที่ดิฉัน KOAKI YONEMOCHI จะใช้แบบสำรวจนี้เพื่อการวิจัยกรุณาเช็ค

☐ไม่เห็นด้วย

ชื่อ_____

付録5 フェースシート(日本語版)

私は漢字の習得について調査しています。以下の質問を読んで答えてください。

どうしても答えたくない場合は、答えなくても構いません。

1. 氏名：_____

2. 年齢：_____歳

3. 性別：1.男 2.女 3.無回答

4. 母語：_____語

5. 学年：高校 1.1年 2.2年 3.3年

6. 日本語学習歴：_____年_____カ月

7. 日本へ行った経験がありますか

1.ない

2.ある 回数_____回

期間（延べ）_____年_____カ月_____日

7-1. 日本へ行った目的は何ですか

1.観光

2.留学

3.交流

4.その他（_____）

8. 日本語能力試験（JLPT）を受験したことがありますか

1.ない

2.ある 日本語能力試験（JLPT）_____級

9. 漢字は好きですか

1.好き

2.嫌い

3.どちらでもない

10. 普段、どのように漢字を勉強していますか。（複数選択可）

1.何度も書く 2.何度も発音する 3.発音しながら書く 4.意味を考えながら書く

5.頭の中で（漢字を）イメージする 6.分解して覚える 7.熟語と一緒に覚える

11. 授業以外のどんなところで、日本語が使われているのを見たり聞いたりしますか。

- 1.授業以外で日本語は見ない、聞かない 2.新聞・雑誌 3.本 4.マンガ
5.商品の解説書 6.テレビ 7.映画・ドラマ 8.アニメ 9.CD 10.インターネット
11.その他 ()

本日記入した調査票が米持こあきの研究に使用されることに、同意しない場合はチェックしてください。

☐同意しません。

調査協力者_____

映画『狙った恋の落とし方』の字幕から見た
日中翻訳の影響要因

Factors Affecting Chinese-Japanese Translation from the Subtitles of
the Movie 『If You Are the One』

明治大学 国際日本学部

徐 麗娜

Meiji University School of Global Japanese Studies

XU, Lina

目次

I はじめに

II 先行研究

III 研究課題

IV 調査の概要

1. 対象映画

2. 分析対象場面

3. 調査

3. 1. 調査対象者

3. 2. 手続き

3. 3. 調査対象とした言語表現

V 結果と考察

1. 「人称の省略」の分析と考察

2. 「女言葉」の分析と考察

3. 「勧誘の仕方」の分析と考察

4. 「人に呼びかける時の表現」の分析と考察

5. 「人称の使い分け」の分析と考察

6. 「感謝の表現」の分析と考察

7. その他

8. 全体的考察

VI おわりに

付記

参考文献

付録（調査票）

I はじめに

現代社会のグローバル化が進むにつれて、映画が世界共通のエンターテインメントの一つとして人々の生活に浸透しつつある。その中で、日本においても毎年数多くの海外映画が輸入されている。そこで、多くの人にそれらの海外映画の良さを知ってもらうために、重要となってくるのが言語の翻訳である。しかし、ある映画に他言語の字幕をつける際には、字幕の字数制限や文化の違いなどの要因により、映画の本来の内容、会話のニュアンスを字幕では十分に伝えきれない場合が多く見られる。特に、中国語の映画につけられた日本語字幕においては、映画の中で話された中国語の言葉と、訳された日本語字幕のズレが多々見られる。また、最近では逐語訳より意識の方が多い傾向にあるとも言われている。

そこで、本稿では、筆者が母語としている中国語の映画を対象に、中国語の台詞と日本語字幕を比較し、両言語を翻訳する際の難点を分析する。また、映画翻訳家がどのような要素に基づいて中国語を日本語に訳したのかについても、考察を加える。

この研究によって、中国語を日本語に訳す際に注意すべき点や配慮すべき点が明らかになるであろう。こうした知見は、これから日本に輸入される中国の映画作品の翻訳に関して、示唆を与えることができると考える。

II 先行研究

本研究に関わる先行研究としては、日中対照研究に関する、張（2014）、神沢（2011）の知見が参考になる。

まず、張（2014）では、10代から70代の中国人100名、日本人60名を対象に、親疎・長幼・上下という人間関係を設定した場面で「感謝」と「お詫び」の使い方について調査をした。その結果、日本人は、いずれも「ありがとう」、「すみません」といった定型表現を使うのに対して、中国人は感謝と謝罪の定型表現を使用するだけでなく、様々な非定型表現も好んで使用することがわかった。例えば、中国人回答者の中に、「年上の人が席を譲ってくれた時」に「谢谢」（ありがとう）以外に「不用」などの断り文句を使う人が2割ほどあった。「不用」を日本語に直訳すると、「要りません」、「譲るには及びません」などとなり、日本人にはとても固く感じられてしまう。しかし、「不用」という中国語の断り表現は、中国語においては非常に柔和な言語表現であり、相手への配慮や敬意が表われている。したがって、日本語と中国語の翻訳において双方の意思を正確かつ適切に伝えるためには、単なる言語的な研究だけではなく、その文化的な背景を理解した上で、適切な言語表現を用いて翻訳することが重要であると指摘されている。

また、神沢（2011）は、日本語から中国語、あるいは中国語から日本語への翻訳作業を行う際に生じる翻訳文の不明瞭さとそれが起こる背景について、新聞と小説を対象に、

語彙・文法のレベルで分析した。例えば、日本語の「おいしい」は中国語に直訳すると、「好吃」になるが、それは全ての翻訳作品において通用せず、「肥肉（肉の脂身）」、「吃香（評判がいい、人気がある）」が「おいしい」の翻訳として使用されているという。つまり、「おいしい」の直訳表現である「好吃」が避けられているということである。また、「おいしい空気」や「おいしいネタ」など中国語にない日本語独特の意味用法もあり、これらは中国語には訳出できないと指摘している。さらに、話の内容や性質に対して「おいしい話」という用法が日本語には存在するが、中国語ではこれは「おいしい」ではなく「甘い」という意味の語を使って、「甜言蜜語」として訳されているということである。

Ⅲ 研究課題

以上の先行研究は、いずれも日本語と中国語の言語表現の言語学的、文化的違いを指摘するものだが、映画作品の翻訳においても同様の違いがあるのか、それとも、映像や字数制限のある映画の翻訳の場合には、異なる相違点が認められるのかについては、示唆的でない。そこで、先行研究で得られた知見と、残された課題を踏まえ、本研究では以下を研究課題として設定する。

課題1：中国映画の日本語字幕において、中国語の台詞とその日本語の字幕はどのように対応し、また、どのようなズレが生じているのか。

課題2：中国人日本語上級学習者は、中国語の台詞をどのように日本語に翻訳するのか、それは実際の字幕とどの程度一致しているのか、あるいはズレているのか。

Ⅳ 調査の概要

1. 対象映画

まず、映画の選択条件として3つの基準を設定した。1つ目は、近年公開された映画であるということである。言語は時代とともに変化しているため、比較的最近の映画作品の方が昔の映画よりも、現実に応じた調査結果が得られるのではないかと考える。2つ目は、映画の題材を特定することである。今回は日常生活で使われている言語を対象にしたいため、歴史などのジャンルを避け、日常生活に近い物語の映画作品を選ぶこととする。3つ目は、日本の映画館で公開された公式字幕が付された映画作品であるということである。

この3つ条件に合う映画として、今回は『狙った恋の落とし方』を選定することとした。この映画は、中国で2008年に公開されたラブコメディである。日本では2010年に上映が開始された。監督はフォン・シャオガンである。この映画の主たる登場人物は秦

奮（チン・フェン）と笑笑（シャオシャオ）である。米国に留学経験のある秦奮（は、投資で大当たりし、一晩で億万長者となったが、結婚相手を募集するため、自分のブログで結婚相手の募集広告を出したり、杭州、海南への旅に出たりする。その過程で、笑笑という客室乗務員と知り合う。笑笑にはすでに不倫関係の恋人がいたのだが、不倫相手への想いを断ち切るために、秦奮と日本の北海道旅行へ出かけることにした。笑笑は、旅行中、道東の美しい大自然の中で、秦奮の誠実さに惹かれていったが、間もなく自殺未遂を犯す。しかし、最後は、二人が結ばれるというハッピーエンドの話である。

2. 分析対象場面

今回の調査では、映画の中で明らかにズレがある4つの場面を分析対象として抽出した。4つの場面は下記の(a)から(d)の通りである。

(a) 主人公の秦奮が出した結婚相手の募集広告を見た昔の知り合いの建国が主人公に会いに来たシーン

(b) 主人公の秦奮とヒロインの笑笑がお見合いで初めて会うシーン

(c) 飛行機の中でのシーン。笑笑の不倫相手がその妻と一緒に笑笑が勤務搭乗する飛行機に乗ってきたが、妻は事情一切知らないというシーン

(d) 喫茶店で笑笑が秦奮を不倫相手に合わせたシーン

3. 調査

3. 1. 調査対象者

調査対象者は、日本に滞在している中国人日本語上級学習者10名（男性2名、女性8名）である。その内、学部生が4名、大学院生が5名、社会人が1名である。調査時における日本語学習歴は平均6年1ヶ月で、最も短い者で4年7か月、最も長い者で9年であった。調査対象者全員が日本語能力試験1級（180点満点）の合格者であり、平均点数は143点であった。

3. 2. 手続き

調査は2017年11月14日から16日までの3日間、キャンパス内の学習支援室で実施した。調査は以下のような手順で行った。初めに目的を調査対象者に簡単に説明し、質問を調査対象者に一通り目を通してもらってから20分の映像を流すという流れであった。映像は二回ずつ流し、一回目に映画のシチュエーションを理解してもらい、二回目の時に映像を止め、調査対象者に考える時間と書く時間を一問題につき5分を設けた。最初のページに書いてある粗筋を見逃してしまう調査対象者が多いため、調査する際に口頭で粗筋、また各シーンを簡単に説明した。なお、調査対象者が中国人であったため、

ストーリーをより深く理解してもらうために中国語で粗筋を説明した。調査は筆記式で、調査の所要時間は約1時間であった。

3. 3. 調査対象とした言語表現

本研究では、筆者自らが、映画の中で中国語の台詞と日本語字幕に明らかにズレがあると思われる言語表現を探索し、調査時間等を勘案した上で、以下の6つの言語表現を調査対象とすることとした。なお、中国語台詞と日本語字幕は映画からそのまま抜いたものであり、中国語台詞の直訳は筆者が訳出したものである。

	中国語台詞（例）	中国語台詞の直訳（例）	日本語字幕（例）
①人称の省略	我说错你可别生气	私が間違ってもあなたは怒るな	違っても怒るなよ
②女言葉の使用	讨厌	イヤだ	イヤだわ
③勧誘の仕方	想喝酒吗？	お酒飲みたい？	お酒飲みたくない？
④人称の使い分け	假如我跟你一样	もし私があなたと同じだとしたら	もし俺がお前と同じだとしたら
⑤感謝の仕方	谢谢你啊	ありがとう	すみませんね
⑥人を呼びかける時	小姐	お姉さん	すみません

上記6つのポイントのそれぞれについて、「2. 分析対象場面」に示した4つの場面でいくつ出現しているかを数えたところ、合計19箇所あった。詳細は以下の通りである。下線のある部分が該当項目のポイントとなる表現部分である。なお、1つの表現に、2つの観点が含まれることもある（詳細は付録を参照のこと）。この19箇所が調査対象者に日本語訳を依頼した部分である。

① 人称の省略（10箇所）

※下記の表では全ての一人称（我）の日本語訳を「私」とし、二人称（你）を「あなた」とする。

中国語台詞	中国語台詞の直訳	実際の日本語字幕
你没怎么变	<u>あなた</u> は変わっていない	変わってないわ
我问 <u>你</u> 啊	<u>私</u> は <u>あなた</u> に聞く	聞くけど
我说错 <u>你</u> 可别生气	<u>私</u> が間違ったら <u>あなた</u> は怒らないで	違っても怒るなよ
我知道 <u>你</u> 想说什么	<u>あなた</u> が言いたいこと <u>私</u> は知っている	何を言いたいかわかるわ

你是干什么的？	<u>あなた</u> のお仕事は？	お仕事は何を？
我是空姐	<u>私</u> はキャビンアテンダントです。	キャビンアテンダント
我给你打 90 分	<u>私</u> は <u>あなた</u> に 90 点をつけてあげる	90 点つけたいね

② 女言葉の使用（4 箇所）

中国語台詞	中国語台詞の直訳	実際の日本語字幕
你没那么变	変わってないね	変わってない <u>わ</u>
讨厌	いやだ	イヤだ <u>わ</u>
我知道你想说什么	何を言いたいかわかる	何を言いたいかわかる <u>わ</u>
皮肤真好	お肌がきれいだね	お肌がきれいだ <u>わ</u>

③ 勧誘の仕方（1 箇所）

中国語台詞	中国語台詞の直訳	実際の日本語字幕
<u>想喝酒吗？</u>	お酒飲みたい？	お酒飲 <u>みたくない？</u>

④ 人称の使い分け（2 箇所）

中国語台詞	中国語台詞の直訳	実際の日本語字幕
假如 <u>我跟你</u> 一样	もし <u>私</u> が <u>あなた</u> と同じだとしたら	もし <u>俺</u> が <u>お前</u> と同じだとしたら

⑤ 感謝の仕方（4 箇所）

中国語台詞	中国語台詞の直訳	実際の日本語字幕
<u>谢谢</u> 啊（発話者：奥さん）	ありがとう／ありがとうございます	<u>どうも</u>
<u>谢谢</u> 你啊	ありがとう／ありがとうございます	<u>すみません</u> ね
<u>谢谢</u>	ありがとう／ありがとうございます	<u>悪い</u> ね
<u>谢谢</u> 啊（発話者：夫）	ありがとう／ありがとうございます	<u>どうも</u>

⑥人に呼びかける時（1 箇所）

中国語台詞	中国語台詞の直訳	実際の日本語字幕
小姐	お姉さん	すみません

V 結果と考察

IV章の「2.分析対象場面」で記述したように、本研究の分析対象場面は6つある。本章では、その6つの場面について、それぞれの結果を示し、それに基づき、分析と考察を行う。

1. 「人称の省略」の分析と考察

調査対象者に日本語訳を書いてもらう19箇所のうち、人称の省略に関わる部分は10箇所ある。10名の回答者の回答を合わせると、計100箇所になる。

表1 「人称の省略」の回答数

	人称が省略された箇所	人称省略されなかった箇所
回答数	98 (98%)	2 (2%)

中国語の中では一人称、二人称を表す「我」と「你」がよく使われているが、そのまま日本語に直訳してしまうと、不自然な日本語になる場合がある。しかし、上記の表1を見てわかるように、人称を省略した回答は98箇所であった。一方、省略しなかった回答は2つあったが、これは同一の調査対象者で、日本での滞在歴が調査対象者10名の中で最も短く、2年半の者であった。人称の有無は日中言語を対照する際に大きな違いであるが、日本に滞在する期間が長くなるにつれて、不自然な日本語を避ける1つの重要なポイントを押さえられるようになったのではないかと考えられる。

2. 「女言葉」の分析と考察

表2 「女言葉」の回答数

	「わ」が使われた箇所	「わ」が使われなかった箇所
回答数	4(10%)	36(90%)

「女言葉」に関わる部分は4箇所あり、10名の回答者の計40箇所が対象になる。表2に示したように、「わ」が使用された箇所は4箇所中、わずか10パーセントであることがわかった。このことから、「人称の省略」とは異なり、「女言葉」の習得は日本滞在時間が長くなっても、進みにくい可能性が示唆される。なお、「わ」を使っていた者の中には、日本のアニメやドラマをよく見ている者が多かった。現実生活ではあまり耳にする

機会がない「わ」だが、ポップカルチャーにおいてキャラクターをより印象的にするために、こうした女言葉が高頻度で使われることの影響だと考えられる。

表3 終助詞「わ」と「ね」の使用

	「わ」が使われた箇所	「ね」が使われた箇所
回答数	4(10%)	10(25%)

さらに、回答を詳しく見ていくと、終助詞「わ」より「ね」を使う頻度が非常に高いことがわかった。「わ」の代わりに「ね」を使った理由としては2つ考えられる。まず、年齢層や社会地位により日常生活で「わ」の使う頻度が比較的低いため、女言葉という認識が日本語学習者の中にあまりなかったのではないと思われる。また、終助詞の「ね」には聞き手の同意を求める機能があり、それを使うことによって語気が和らげられるので、それを女性に対する柔和な雰囲気に対当てはめて使った可能性もある。

3. 「勧誘の仕方」の分析と考察

これは1箇所のみである。「お酒飲みたくない？」のような否定形を使った者が10名中4名で、その他の回答をした者は6名であった。その他の回答をした6名のうち、4名は中国語の台詞を直訳し、「お酒飲みたい？」と訳した。日本語では婉曲的な勧誘表現が多いため、「～たい？」のように相手の願望を直接聞く表現の使用は避けられ、否定疑問文が多く使われる。一方、中国語では否定疑問文を使って勧誘する方が不自然である。そのためだと考えられるが、「お酒飲みたくない？」という直訳にしなかった調査対象者は、「一杯どう？」、「お酒飲もう」のようなストレートな表現を回答する者が多かった。なお、否定疑問文を使っていた回答者に聞いたところ、初めて日本語の否定疑問表現を習った時に、既にこれが日本語において自然な誘い方であると教わっていたとのことであった。以上のように、勧誘表現において日中両言語には大きな相違があるため、字幕を作るときに大きなポイントになるのではないと思われる。

4. 「人に呼びかける時の表現」の分析と考察

これは、映画の中では、乗客が客室乗務員を呼ぶシーンであった。この表現においても日本語と中国語の間に大きな違いが見られる。中国語の台詞では「小姐」となっており、直訳すると「お姉さん」の意味となる。中国ではお店やレストランなどで女性の従業員を呼ぶ時に、「小姐」と呼ぶのが普通であるが、これは、日本語で人を呼ぶ時の「すみません」と同じ働きを持っている。日本語でも、場面によっては女性店員のことを「お姉さん」と呼ぶ時があるが、映画の中のシチュエーションのように、客室乗務員に対して「お姉さん」と呼ぶのは失礼にあたると考えられる。回答を分析した結果、6名の回

答者が「小姐」を「すみません」と適切に訳した。このように訳した回答者の日本滞在歴を確認すると、一般的に長い傾向にあることが分かった。したがって、このような言語習慣のズレに関しては、学習者が比較的気づきやすく、日本での日常経験に基づいて、日本語らしい表現で訳すことができたのではないかと考えられる。

5. 「人称の使い分け」の分析と考察

人称の使い分けに関するポイントは2箇所あった。中国語の台詞「假如我跟你一样」の中で用いられている人称代名詞は、「我」と「你」である。

まず、一人称について考えていきたい。日本語の中では一人称を表す代名詞はたくさんあるが（「私」、「俺」、「僕」、「あたし」など）、中国語の標準語の一人称は「我」であり、性別や社会的地位を問わず、用いられる。そのため、日中翻訳をする際に大きなズレが生じる点だと思われる。また、中国人日本語学習者向けの教科書を見ると、「我」の解説や翻訳は基本的に「私」である。しかし、すべての場面において「私」が最も相応しいとは言えない。タム（2016）によると、日本語の一人称代名詞は役割語として用いられることが多く、それぞれ異なる人物像を喚起させ、話し手や書き手が意図に合わせて使い分けられるという。例えば、お嬢様であることを示したいときは「わたくし」、男であることを示したいときは「俺」が選ばれる。また、田舎の出身者であることを表したいときは「おら」や「おいどん」が選ばれるであろう。日本語母語話者はこのような使い分けを無意識に行っているが、日本語学習者にとっては非常に困難である。今回の調査においても、男らしい主人公が発話する時に「俺」という訳が公式の翻訳として用いられていたが、「俺」を使っていたのは、調査対象者1名のみで、残りの回答はすべて「私」であった。

また、二人称を表す代名詞も同じように、中国語では「你」のみであるのに対して、日本語では「あなた」、「君」、「お前」など多様な代名詞がある。また、日本語教科書では、「你」を「あなた」と対応させているが、実際の日本語のコミュニケーションにおいては、必ずしもそうではない。同じ発話でも二人称が違うだけで聞き手に与える印象が変わることがある。例えば、「你吃饭了吗」は、中国語では一種の挨拶文であるが、日本語に訳すと「(あなたは) ご飯食べた?」になる。これを他の二人称「お前」を使って「お前、ご飯食べた?」とすると、特定の人や限定された関係にしか通用しなくなってしまうだろう。本研究の映画の中の二人の設定は、昔からの友人であり、また主人公が年上であるため、聞き手に対して「お前」と公式字幕では訳されていたが、実際「お前」と回答した者は1名しかおらず、他の回答者のうち7名が「あなた」、残りの2名が「君」と訳していた。「君」を使った回答者にインタビューをしたが、登場人物が友人であったため、「君」の方が親しい関係でよく使われていると思い、使ったという理由であった。

さらに、インタビューを終えた後に、全員に公式翻訳を見せたが、回答者が一番驚い

た部分が、この人称であることもわかった。「お前」は喧嘩する時にしか使えない言葉であり、目下の人や非常に親しい友達同士（主に男性）に使えるということは、調査対象者はほとんど理解していなかった。なお、この人称の使い分けの2箇所が両方ともできていた回答者に聞いてみたところ、その回答者は普段日本人との接触の機会が非常に多く、そこで自然に身についていたため、すぐ頭に浮かんだと答えていた。

このように、中国語と日本語において人称の使い方には大きな違いがあり、中国人日本語上級学習者は中国語を日本語に訳す際に人称の省略には十分な注意を向けているものの、人称のどれをどの場面でどう使えばいいのかという使い分けに関しては、まだ理解や意識が不十分だと言えよう。これは、日本語教科書に人称に関しての記載が少ないため、学習者に使い分けに関する知識や馴染みが少なく、習得しにくいことも影響しているのだと考えられる。

6. 「感謝の表現」の分析と考察

感謝の表現に関わるポイントは3つある。映画の公式字幕では異なるシーンで感謝を表す時に「どうも」と「すみません」と「悪い」をそれぞれ使っていた。しかし、実際調査を行った結果、70 パーセント以上の回答が「ありがとう」であった。中国語の台詞が全て「谢谢」であったため、一番無難な表現である「ありがとう」を使ったのだろう。この点に関してはシーンごとに考察していきたいと思う。

まず、一つ目のシーンは映画の中で、笑笑の不倫相手の妻がスーツケースを荷物棚に入れてくれた笑笑に対して感謝を表す場面である。公式字幕は「どうも」であるが、回答者はだれも「どうも」を使っていなかった。5名の回答が「ありがとうございます」、3名の回答が「すみません」、2名の回答が「ありがとう」であった。最も丁寧な「ありがとうございます」が一番多かった理由は、発話人物が女性であるため女性らしく丁寧な表現を使った方が良いのではないかと思ったからだと考えられる。また、「すみません」を使ったのは、荷物を入れてもらうという行為に対して、申し訳なく思うからだろう。

二つ目のシーンは、夫婦が飛行機の中で席を変わってくれた人に対して感謝を表す場面である。公式字幕では、少し遠慮していた夫に「すみませんね」、少し強気な妻に「どうも」という字幕が当てられていた。調査の結果、夫の字幕では、4名の回答が「すみません」、2名の回答が「どうも」、4名の回答が「ありがとう」だった。妻の字幕では、4名の回答が「ありがとう」、6名の回答が「ありがとうございます」であった。こちらも回答者が、夫が遠慮していたという動作を観察し、申し訳なく思う気持ちから、「すみません」と訳したと思われる。ただし、「どうも」や「ありがとう」と訳した理由については、中年男性という設定であるため、普段の日常生活の経験から考えて、この二つをよく使うのではないかと考えたためだとのことであった。妻に対して「ありがとうございます」の割合が高いというのも、女性という設定で、丁寧な言い方が一番ふさわしい

のではないかと考えた者が多かった。以上の結果から、回答者は映画のシチュエーションより、性別や年齢を基準に感謝の表現を選択し、訳したのではないかと考えられる。

最後のシーンは、夫（お客さん）が店員に「外してくれ」と言い、店員が応じてくれた動作に対しての感謝を表す場面である。公式字幕では「悪いね」と訳されたが、実際の回答では「悪いね」という回答は1名しかおらず、3名が「すみません」、6名が「ありがとう」であった。日本語の「悪いね」は、気を使わせて申し訳ない、手間をかけさせて申し訳ないという意味で、要するに、自分が悪いと示すことによって、間接的に相手に感謝を伝える表現である。そのため、「悪いね」は、お客さんである夫と店員との上下関係という場面に最もふさわしい表現であろうが、「悪いね」と訳した者は1名しかいなかった。このことから、「悪いね」は学習者にあまり馴染みのない感謝の表現であると言えよう。なお、上の立場の人から下の立場の人に対しての発話であることに注意を向けた調査対象者は、敬語抜きで「ありがとう」を使ったということであった。また、自分の要求に対して店員が対応してくれたので、気を使わせてしまい申し訳ないという気持ちを表そうとする「すみません」という回答もあった。

以上のように、シーンごとに、回答を分析した。その結果、まず、日本語上級学習者であっても、感謝の表現を中国語の「谢谢」と同じように考えてしまうため、「ありがとう」という回答が最も多いことがわかった。また、中国語の「不好意思」に当てはまる「すみません」だが、感謝の表現として訳した回答が二番目多かったから、おそらく回答者は、単なる感謝の時には「ありがとう」、申し訳なく思う時には「すみません」を使うというように使い分けているのではないかと考えられる。さらに、感謝の表現を翻訳する時は、場面よりも、年齢や社会地位に注意を向けていることがわかった。そのため、女性の場合では「ありがとうございます」という丁寧な言い方が多く、「どうも」や「ありがとう」をあまり使わなかったのではないかと考える。

7. その他

上記の6つのポイント以外にも回答の中で興味深い点があった。そこで、本節ではそれらについて、考察を述べる。

まず、映画の中に「我问你呀」という台詞があり、直訳すると「私はあなたに聞くけど」となるが、日本語字幕では「聞くけど」と訳されていた。人称は省略されているものの、直訳に近い字幕である。しかし、「あのさー」という回答をした者が6人もいた。実際、ここでは主人公が友人（建国）に聞きたいことがあり、次に質問のシーンが来るという場面である。相手に呼びかける時や注意を傾けてもらう時に使われる「あのさ」は、この場面には相応しい日本語である。この「あのさ」の訳に関しては、調査対象者は、人称などに惑わされず、より相応しい表現で訳すことができたと言えよう。長い日本語学習歴によるものだと考えられる。

もう一つの気づきとして、映画における字幕の特徴である字数制限に関わるという点が挙げられる。映画の中で客室乗務員の笑笑が乗客に対して飲み物を薦める場面では「お飲み物はいかが」と訳されていた。しかし、実際の生活において、この場面では「お飲み物はいかがでしょうか」と言うのが自然である。映画では限られた字数の中で表現していかなければならないため、多少違和感があるとしても、時間とストーリーの展開に合わせてこのような字幕がつけられたのだと考えられる。

8. 全体的考察

上記の調査データと分析から、課題に対して下記の考察が得られる。

まず、「課題1：中国映画の日本語字幕において、中国語の台詞とその日本語の字幕はどのように対応し、また、どのようにズレが生じているのか」については、中国語の台詞と日本語の翻訳にはズレが生じやすいという結論が得られた。具体的には、中国語の会話の中では、一人称と二人称を表す代名詞「我」と「你」を使うのが基本的であるが、日本語では、一人称、二人称が省略されて訳出されることがある。また、人称を訳す時に、同じ一人称の「我」であっても、登場人物のキャラクターによって「私」、「俺」、「あたし」などを使い分けることがある。また、中国語を日本語に訳す際に登場人物のキャラクターを引き出すために、キャラ作りの役割語を付け加えることがあることもわかった。例えば、同じ意味で訳しても語尾に終助詞「わ」などの女言葉を使い、キャラクターをより女性らしくすることがある。また、勧誘表現に関しては、中国語の台詞は肯定疑問文でも、日本語字幕では否定疑問文が使われるということである。さらに、感謝の表現に関しては、中国語の台詞ではすべて「谢谢」であっても、日本語に訳す際には、シチュエーションによって、さまざまな表現に訳し分けられていた。

次に、「課題2：中国人日本語上級学習者は、中国語の台詞をどのように日本語に翻訳しようとするのか、それは実際の字幕とどの程度一致しているのか、あるいはズレているのか」については、人称の省略は一番できていたが、キャラクターによって人称代名詞を変えるのは少し難しいようであった。感謝の表現に関しても、すべての中国語台詞の「谢谢」を「ありがとう」に訳す傾向にあることもわかった。また、女言葉に関して、意識的に終助詞の「わ」、「だわ」を使う人が少なかった。マンガやアニメなどでは、女性らしさを表現するためにほとんどの女性キャラクターが「わ」を語尾につける話し方をするが、日常生活では耳にする機会が少ないため、「わ」を意識的に使わなかったのではないかと考えられる。

Ⅵ おわりに

今回、日本に輸入された中国映画の字幕を通して、筆者自ら中国語の台詞とそれにつけられた日本語字幕を比較し、翻訳の際に生じる大きなズレを6つまとめることができ

た。さらに、この6つのズレについて調査票を作成し、日本に滞在している中国人日本語上級学習者に翻訳してもらい、日本語字幕と一致しているものと一致していないものを分析し、その原因を探った。

しかし、翻訳作品においては、絶対的な正解、正しい翻訳というものがないため、映画によっては、また字幕の訳者によっては、結果が変わってくる可能性があると思われる。今回は公式字幕との比較を中心に分析したが、同じ勧誘表現であっても他の映画においては疑問否定文で訳されない可能性もあるのではないだろうか。今回の分析対象は一つの映画作品のみだったが、多数の映画作品において同じポイントの訳し方を比較すると、より客観的な観点と考察が得られるであろう。

また、今回の10名の対象者は全て20代で、年齢の幅があまり大きくなったため全体的に分析しやすかったが、8名が女性で2名が男性であり、性別のバランスが悪かった。もう少しデータを増やし、性別による違いの分析もできれば、結果が異なった可能性もある。特に、今回「女言葉」や「人称」について調査したが、使う頻度や使う人称も性別によって異なるため、今後の研究においては調査対象者の性別のバランスを考慮したい。

さらに、本研究では記述式の調査を行ったため、回答を整理するのに、大変時間がかかった。また、予想外の回答に対して、それをどのように分析すべきかの検討にも苦慮したため、後日回答者にインタビューすることとなった。より分析の効率を上げるためには、記述式ではなく、選択式を用いて、回答者に一番相応しいと思う表現を選んでもらった方が良かった可能性がある。回答者からも、翻訳するのは難しいという声があったため、選択式の方がヒントも与えられ、回答者にとっても回答しやすかったであろう。この点も今後の課題である。

最後に、今回の研究結果を活かし、一つの映画作品にとどまらず、日本に輸入される他のジャンルの中国語映画における日本語字幕について、分析していきたいと思う。映画の題材が異なれば、同じ言語表現であっても訳し方が異なるのではないかとと思われる。それを分析し、いかにその場面に応じたより相応しい訳ができるか、その方法を次の研究として取り組んでみたい。

付記

調査の実施に際しては、明治大学の大学院生等にご協力を賜りました。また、研究の過程では、ゼミのメンバー（米持こあきさん、高岡咲希さん、井上佳奈枝さん、金ティンさん）と大学院の先輩（黄叢叢さん）から、たくさんの示唆をいただきました。ここに記して感謝申し上げます。

参考文献

- 張姪娜（2014）「日本語・中国語の表現構造 日中翻訳にみられる相違」『東海大学短期大学紀要』48号, pp.1-10.
- 神沢優希（2011）「中日・日中翻訳から見る翻訳しにくい動詞表現・形容詞表現」『東京外国語大学』23号, pp. 1-36.
- タム・カ・ユアン・エイドリアン（2016）「役割語と翻訳について」『日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集』31期巻, pp.88-102.

使用 DVD

- 『狙った恋の落とし方』（2008年，华谊兄弟影业有限公司）

付録

調査票

この度は調査にご協力いただき、ありがとうございます。私は日本に輸入される中国映画においての日本語字幕に関して調査をしています。以下の質問を読んで、答えてください。どうしても答えたくない場合には、答えなくてかまいません。

なお、収集した個人情報は厳重に保管いたします。また、本調査で得られたデータは、研究以外の目的で使用することはありません。

明治大学国際日本学部 国際日本学科 4年 徐 麗娜

性別：□男 □女

日本語能力：日本語能力検定試験 JLPT (N____) _____点

日本留学試験 EJU 日本語試験 _____点

日本滞在歴：_____年 _____ヶ月

日本留学に来た時の年齢：_____歳

日本語学習歴： 合計 約 _____年 _____ヶ月

・日本のメディア（ドラマや映画など）を観る頻度：

□よく観る

□たまに観る

□あまり観ない

□全く観ない

・日本人との会話機会：

□とても多い

□まあまあ多い

□あまりない

□全くない

・日本語での会話能力に自信は：

□とてもある

□まあまあ

□あまりない

□全くない

映画「狙った恋の落とし方」（中国語名：「非诚勿扰」）を今回の研究作品とし、
以下いくつかのシーンを観た後に下表の空欄の部分に中国語台詞を日本語に訳してみてください。

※映画の場合、直訳ではなく意訳の場合があります。そのシーンに一番ふさわしいと思う表現で訳すことが望ましいです。正解などはないので自分なりに訳してみてください。

※また、今回の調査は語彙力の調査ではないので、難しい表現などは出ておりません。

※実際のシチュエーションを理解してもらうため映像を見せる予定です。

映画の紹介とあらすじ：

2008年公開されて中国で大ヒットになったラブコメディ。

米国に留学経験のある秦奮（チン・フエン）は、投資で大当たり。一晩で億万長者へとなった秦奮は、結婚相手を募集するため、自分のブログで募集広告を出したり、杭州、海南への旅に出たりする。

秦奮はその過程で、笑笑（シャオシャオ）という客室乗務員と知り合う。笑笑にはすでに不倫関係の恋人がいたのだが、想いを吹っ切るために、秦奮と日本の北海道旅行へ出かける事に。旅行中、道東の美しい大自然の中で、秦奮の誠実さに惹かれていく笑笑だったが、間もなく自殺未遂を犯す。最後は付き合うことになったというハッピーエンディング。

①主人公が出した結婚相手の募集広告で昔の知合い（建国）が主人公に会いに来たシーン

発話人物	中国語台詞	日本語字幕
建国	我可以坐这儿吗？	ここいいかしら？
チン	我这儿约人了	待ち合わせでね
建国	你没怎么变 还是那么帅	
チン	认错人了吧	人違いだろ？
(中略)		
チン	你是…	
建国	嗯	そうよ
チン	可是我不是啊	
(中略)		
チン	我问你啊	

	假如我跟你一样	
	我说错你可别生气	
建国	讨厌	
(中略)		
建国	我知道你想说什么	
(中略)		
建国	哥 皮肤真好	

②主人公チンとヒロインシャウシャウお見合いで初めて会うシーン

発話人物	中国語台詞	日本語字幕
チン	是梁小姐吧	リャンさんですね
シャウシャウ	嗯	ええ
チン	我是秦奋 来晚了对不起	チンですが 遅れてすみません
シャウシャウ	坐吧	どうぞ
(中略)		
チン	你是干什么的	
シャウシャウ	我是空姐	
チン	你给自己打多少分	自分に何点つける？
シャウシャウ	60 分	60 点ね
チン	我给你打 90 分	
(中略)		
シャウシャウ	哎	ねえ
	想喝酒吗	
	在这附近找个店 咱们再聊会儿？	

③飛行機の中でのシーン（シャウシャウの不倫相手と奥さん一緒にシャウシャウがいる飛行機に乗ってきたが、奥さんは事情一切知らない）

発話人物	中国語台詞	日本語字幕
妻	谢谢啊	
シャウシャウ	请用方巾	おしぼりをどうぞ
	喝点饮料吗	お飲み物はいかが
妻	小姐	

	如果有空座位的话	空席があったら
	我想和我 我先生坐在一起	主人と一緒にしてほしいの
(中略)		
チン	我和你们换	席を替わろう
夫	不用那么麻烦了	結構です
	很快就到了	すぐ着くから
チン	不麻烦 我都站起来了	遠慮しないで
	您就过去吧	向こうへ行って
夫	谢谢你啊	
妻	谢谢	

④茶屋でシャウシャウがチンを不倫相手に会わせたシーン

発話人物	中国語台詞	日本語字幕
シャウシャウ	这位是秦先生	こちら チンさん
	你们在飞机上已经见过面了	機内で出会ってるわね
夫 (チンに対して)	幸会 请坐	よろしく どうぞ
夫 (店員に対して)	不好意思	すまないが
	我们有点事情要谈	ちょっと外してくれ
夫	谢谢啊	

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

なお、この調査票を徐麗娜の研究に使用されることに、**同意しない**方は、
以下の□に✓をしてください。

調査結果を研究目的に使用することに同意しない □

日本語母語話者と中国語母語話者の韓製英語
(Konglish) の意味推測
—英語習熟度と母語の影響から—

Semantic Inference of Korean-made English Words (Konglish)
by Japanese Native Speakers and Chinese Native Speakers
:Effects of English Proficiency and Native Languages

明治大学 国際日本学部
金 テリン

Meiji University School of global Japanese Studies
Taerin Kim

目次

- I はじめに
- II 先行研究
- III 研究課題
- IV 調査の概要
 - 1. 調査対象者
 - 2. 手続き
 - (1) 日本語母語話者
 - (2) 中国語母語話者
 - (3) 英語母語話者
 - 3. 材料
 - 4. 調査票
- V 結果と考察
 - 1. 英語習熟度と意味推測の関係に関する分析・考察
 - 2. 母語と意味推測の関係に関する分析・考察
 - (1) 日本語母語話者の場合
 - (2) 中国語母語話者の場合
- VI 終わりに
- 付記
- 参考文献
- インターネット資料
- 付録① 調査票
- 付録② 意味推測テスト（英語母語話者用）

I はじめに

グローバル化が進む現在、日本語においても韓国語においても、外来語がそれぞれの言語の語彙の多くの部分を占めるようになり、その使用頻度もますます高くなってきた。そのため、外来語の意味がわからないと、文章の全体の意味が把握できない場合も少なくない。特に、世界中で使われている英語は、日韓の外来語の多くの部分を占めている。しかし、英語に基づいて作られた外来語の中には、英語本来の意味とは異なり、その国のみで使われる意味を持つ外来語も多数存在する。このような外来語を日本では和製英語、韓国では韓製英語（Konglish）とも呼ばれる（玉岡・林・池・柴崎，2008）。Konglish は、Korean と English から作られた造語である。日韓の言語は、文法や語順、語彙などがよく似ており、お互いに学習しやすい言語だと言われているが、英語を基にした外来語、特に、和製英語や韓製英語でも同じことが言えるだろうか。玉岡・林・池・柴崎（2008）は、韓国語母語話者を対象にした和製英語の意味推測に関する調査で、日本語の語彙力が意味推測に影響を与えることを明らかにした。また、張・玉岡・早川（2014）によると、中国語母語話者を対象にした和製英語に関する調査で、日本語と英語の語彙知識の影響関係が、和製英語の理解とは異なることが示されている。また、Yang Min-Ho（2010）は、日韓の外来語に関する調査を通して、新しい外来語を受け入れる過程には認知－理解－行動（使用）の段階があるとした上で、韓国における外来語の理解率と使用率が日本と比べて非常に強いことを指摘している。当然ながら、日本語教育に関する研究が活発である日本では、日本語学習者の和製英語の認知や習得に関する研究は多数行われているが、韓製英語（Konglish）に関する研究はほとんど行われていない。

そこで、本研究では日本語母語話者と中国語母語話者が未知語の韓製英語（Konglish）の意味推測をする際、英語の習熟度による影響があるのか、また、母語の影響があるのか、について、検討する。

この研究によって、日韓の言語を理解することにおいて、また、韓国語の教育現場に示唆を与えることができると考える。

II 先行研究

本研究に関わる先行研究としては、日本語学習者の和製英語の理解にどのような知識や能力が影響を及ぼしているかに関する知見である。これまでの主たる研究成果としては、上記でも示したが、玉岡・林・池・柴崎（2008）、張・玉岡・早川（2014）の知見が参考になる。

まず、玉岡・林・池・柴崎（2008）は、韓国語母語話者を日本語の学習経験の無いグループ、日本語の学習経験はあるが語彙力の低いグループ、日本語学習経験があり語彙力の高いグループの3つに分けて、28種類の和製英語について既知度と理解度を調査し、和製英語の理解に対する日本語の語彙力の影響を検討した。その結果、日本語の語彙力が

意味推測に影響を与えること、和製英語の種類によって、語彙力の影響の程度が異なっていることが示された。ただし、玉岡・林・池・柴崎（2008）では、英語の習熟度による影響は考慮していないため、意味推測に英語の知識がどのように関わるかについては、示唆的でない。

また、張・玉岡・早川（2014）は、玉岡他（2008）が使用した 28 問の和製英語を用いて、中国華東地域の中国語を母語とする日本語学習者 99 名を対象に、和製英語の理解における日本語および英語の語彙知識の影響について検討した。その結果、和製英語の既知度と理解度には、日本語の語彙知識は影響していなかったが、英語の語彙知識からの影響が見られること、また、日本語と英語の語彙知識の影響は、日本語独自の和製英語と従来からの借用語である外来語とは異なっていることが示された。

Ⅲ 研究課題

先行研究を検討した結果、中国語母語話者と韓国語母語話者を対象にした和製英語に関する研究はあるが、韓製英語（Konglish）に関する研究はまだ行われていない。本研究では、日本語母語話者と中国語母語話者が未知語の韓製英語（Konglish）を推測する際、英語の習熟度と母語が影響を与えるか否かを検討する。具体的には、以下を研究課題とする。

1. 日本語母語話者と中国語母語話者が韓製英語（Konglish）を意味推測する際、英語の習熟度が高いほど、意味推測は正確になるのか。
2. 日本語母語話者と中国語母語話者とで、韓製英語（Konglish）の意味推測の正確さに違いはあるのか。

Ⅳ 調査の概要

1. 調査対象者

調査対象者は、日本語母語話者と中国語母語話者である。前者は明治大学の学生 18 名（男性 8 名、女 10 名）である。後者は明治大学の学生 14 名（男性 5 名、女性 9 名）と東京外国語大学の学生 5 名（女性 5 名）である。ただし、最終的な分析対象者は日本語母語話者 15 名（男性 8 名、女性 7 名）、中国語母語話者 15 名（男性 5 名、女性 10 名）となった（詳細は 4.調査票で述べる）。

2. 手続き

（1）日本語母語話者

日本語母語話者への調査は、2017 年 11 月 10 日、および 11 月 13 日の二日間、明治大学中野キャンパス内で行った。初めに、筆者の簡単な自己紹介と調査の目的を説明し、調査への同意を得た。調査では、フェースシート、意味推測テスト、同意書からなる調査票

を配布し、辞書やスマートフォンなどで調べないように口頭で指示を与えてから、解答してもらった。所用時間は約 10 分であった。調査終了後、調査票と引き換えに、全員に粗品を渡した。

(2) 中国語母語話者

中国語母語話者を対象にした調査では、二つの方法を利用した。まず、明治大学の一部の学生については、日本語母語話者と同様に、学内で行った。調査は 2017 年 11 月 10 日から 11 月 15 日にかけて実施した。その他に、残りの明治大学の学生と東京外国語大学の学生に対しては、対面での調査が難しかったため、2017 年 11 月 13 日から 11 月 20 日にかけて、メール調査を行った。解答に当たっては、同じく辞書やインターネットで調べないように教示した。

(3) 英語母語話者

本研究の補足として、英語母語話者 8 名にも意味推測のテストを行った。英語母語話者が韓製英語 (Konglish) をどの程度意味推測できるのかを確認することによって、韓製英語 (Konglish) が本来の英語とどの程度かけ離れているかを確認するためである。英語母語話者の調査対象者は 8 名で、すべてカナダ人である。調査は 2017 年 12 月 26 日から 2018 年 1 月 3 日にかけて、メールで行った。

3. 材料

調査対象の韓製英語 (Konglish) は、英語には実在しないが、韓国語では使われる語である。そこで、調査対象語を決定する際には、まず、韓国語母語話者である筆者が、英語には実在しないことを英語の辞書で確認しながら 30 個抽出した。その後、筆者以外の韓国語母語話者 3 名に依頼して、抽出した 30 個の韓製英語 (Konglish) が韓国でよく使われている表現であるか否かを判断してもらった。また、日本語母語話者 4 名、中国語母語話者 3 名には、これらの韓製英語 (Konglish) が、日本語や中国語では使われていないかどうか確認してもらった。このようにして、最終的には、表 1 のように 20 個を抽出した。

表 1 本研究の調査対象語 20 語

ノート・ブック (note book)	ハンド・フォン (hand phone)	アイ・ショッピング (eye shopping)	オーバー・イート (over eat)
ワン・ショット (one shot)	ヘルス (health)	ウェルビーイング (wellbeing)	ワン・プラス・ワン (one plus one, 1 + 1)
ミーティング (meeting)	ダッチ・ペイ (dutch pay)	ハンティング (hunting)	チェック・カード (check card)

シーシー (campus couple, C.C.)	ソロ (solo)	カー・センター (car center)	ティーオー (table of organization, T.O.)
ファンシー (fancy)	ゴールド・ミス (gold miss)	スキン (skin)	シーシーティーブイ (closed-circuit television, CCTV)

4. 調査票

調査票はフェースシート、意味推測テスト、同意書から成る。

フェースシートには、まず、年齢、性別、出身国、母語について記述する欄を設けた。また、本研究の研究課題に従って、英語学習歴、英語能力（英検、TOEIC、TOEFL の点数）に関する質問項目も含めた。これによって、英語習熟度の高低を分類するためである。ただし、英語能力に関する質問項目に記載がない調査対象者については本研究の分析対象から外すこととした。さらに、本研究は韓製英語（Konglish）の意味推測に関する調査であるため、調査対象者にとって調査対象語が未知語である必要がある。従って、韓国語学習歴と韓国語能力に関する質問項目も入れ、韓国語の学習経験がある調査対象者も本研究の分析対象から外すこととした。なお、このようにして調査対象者を絞った結果、最終的には、日本語母語話者 15 名（男性 8 名、女性 7 名）、中国語母語話者 15 名（男性 5 名、女性 10 名）の計 30 名となった。

意味推測のテストは、韓製英語（Konglish）全 20 問で、推測した意味を 4 つの選択肢の中から 1 つを選ぶ多肢選択式で作成した。調査対象語の表記は、韓製英語（Konglish）を日本語として発音した場合を考え、外来語のカタカナ表記に基づいて表記し、括弧内に英語のアルファベットも併記した。ただし、韓製英語（Konglish）でも略語の方が多く使われているものや、英語を見ると容易に意味が推測できそうな調査対象語は、アルファベットの略語だけをカタカナで表記した。例えば、「キャンパス・カップル (campus couple)」の場合は、「シーシー (C.C.)」のようにした。4 つの選択肢の作成方法としては、①正解、②英語の意味に近いもの、③正解と関連があるもの、④②の選択肢と関連があるもの、とした。なお、英語母語話者を対象に行った調査では、対象語も選択肢もすべて英語で示した。

V 結果と考察

意味推測テストの採点は、1 問 1 点で行い、調査対象者 30 名の平均を求めたところ、8.27 点（最低 6 点、最高 11 点）、標準偏差が 1.41 となった。母語別の結果は、表 2 に示した通りである。

表 2 意味推測テストの結果

	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>Min</i>	<i>Max</i>	<i>N</i>
日本語母語話者	8.33	1.35	6	10	15
中国語母語話者	8.20	1.52	6	11	15
全体	8.27	1.41	6	11	30

注 1：満点は 20 点。

注 2：*M* は平均、*SD* は標準偏差、*Min* は最低点、*Max* は最高点、*N* は人数を示す。

表 2 の通りに、日本語母語話者の平均点が 8.33、中国語母語話者の平均点が 8.20 で、日本語母語話者の方がわずかに高い。しかし、両グループとも平均正答率は 5 割未満である。韓製英語（Konglish）の意味推測は、日本語母語話者にも中国語母語話者にも容易ではないことがわかる。

1. 英語習熟度と意味推測の関係に関する分析・考察

本節では、研究課題 1 である日本語母語話者と中国語母語話者が韓製英語（Konglish）を意味推測する際、英語の習熟度が高いほど、意味推測は正確になるのか、について考察するために、TOEIC の得点に基づいて分析を行う。そのために、まず、調査対象者に自己申告してもらった TOEIC の得点から、英語習熟度の上位群と下位群の二群に分ける。本研究では、700 点以上を上位群、700 点未満を下位群とすることとした。本研究で TOEIC の点数 700 点を英語習熟度の高低の判断基準に決めたのは、韓国の TOEIC 委員会が公開した「企業及び機関の TOEIC&TOEIC Speaking 活用現況」と韓国の就職情報サイト「saramin」で実施した調査の結果に基づくものである。まず、前者から韓国では、多数の企業及び機関が新入社員の採用において、TOEIC の点数 700 点以上を求めていることが記されていた。なお、同様の調査結果を日本でも探したが、日本の TOEIC 委員会が公開している類似の資料はなかった。また、後者の調査結果によると、2017 年上半期に就職に成功した新入社員の TOEIC の平均点は 774 点であったとのことである。こうした情報を参照し、本研究では 700 点を基準とすることにした。このようにして設定した上位群と下位群の TOEIC の得点は以下の表 3 の通りである。

表 3 TOEIC の得点による上位群と下位群の平均点

全体 (30)	上位群 (16)	下位群 (14)
662.40	792.81	513.36

注：（ ）の中の数字は人数を示す。

次に、この基準で分けた、上位群と下位群の韓製英語（Konglish）の意味推測テストの平均点を見てみる。それぞれの群の意味推測の平均点は表 4 の通りである。

表 4 上位群と下位群の意味推測テストの平均点

全体	上位群	下位群
8.27	8.19	8.36

注：満点は 20 点。

表 4 を見ると、上位群の方が下位群より平均点が低いことがわかる。わずかな違いだが、本研究の研究課題 1 である英語習熟度が高いほど意味推測テスト点数も高くなるかどうか、については英語の習熟度が高いほど、韓製英語（Konglish）の意味推測が正確になるとは言えない、という結果となった。ただし、この差はわずかであるため、個別分析が必要である。

そこで、調査対象語の一つずつについて、正答率と誤答として選んだ選択肢の傾向を分析していく。まず、調査対象語別上位群と下位群の正答者と正答率を見てみる（表 5）。

表 5 調査対象語別 上位群と下位群の正答率

	上位群 (16 名)	下位群 (14 名)	全体
ノート・ブック (note book)	8 (50.00%)	6 (42.86%)	14 (46.67%)
ハンド・フォン (hand phone)	14 (93.33%)	13 (86.67%)	27 (90%)
アイ・ショッピング (eye shopping)	8 (50.00%)	9 (64.29%)	17 (56.67%)
オーバー・イート (over eat)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
ワン・ショット (one shot)	5 (31.25%)	2 (14.29%)	7 (23.33%)
ヘルス (health)	3 (18.75%)	1 (7.14%)	4 (13.33%)
ウェルビーイング (wellbeing)	3 (18.75%)	5 (35.71%)	9 (30.00%)
ワン・プラス・ワン (one plus one, 1+1)	13 (81.25%)	9 (64.29%)	22 (73.33%)

ミーティング (meeting)	5 (31.25%)	5 (35.71%)	10 (33.33%)
ダッチ・ペイ (dutch pay)	7 (43.75%)	8 (57.14%)	15 (50.00%)
ハンティング (hunting)	8 (50.00%)	7 (50.00%)	15 (50.00%)
チェック・カード (check card)	3 (18.75%)	4 (28.58%)	7 (23.33%)
ティーオー (T.O.)	2 (12.5%)	1 (7.14%)	3 (10.00%)
ソロ (solo)	6 (37.50%)	12 (85.71%)	18 (60.00%)
カー・センター (car center)	6 (37.50%)	5 (35.71%)	11 (36.67%)
シーシー (C.C.)	6 (37.50%)	2 (14.29%)	8 (26.67%)
ファンシー (Fancy)	1 (6.25%)	3 (21.43%)	4 (13.33%)
ゴールド・ミス (gold miss)	10 (62.50%)	10 (71.43%)	20 (66.67%)
スキン (skin)	7 (43.75%)	8 (57.14%)	15 (50.00%)
シーシーティーブイ (CCTV)	10 (62.5%)	12 (85.71%)	22 (73.33%)

注：（ ）の中の数字はそれぞれの群における正答率を示す。

分析の結果、最高の正解率を表している語と最低の正解率を表している語が、上位群と下位群とで同じであることがわかった。前者は「ハンド・フォン (hand phone)」（上位群 93.33%、下位群 86.67%）で、後者は「オーバー・イート (over eat)」（上位群 0%、下位群 0%）である。

「ハンド・フォン (hand phone)」は、「携帯電話」を意味する韓製英語 (Konglish) である。英語では「cellular phone」とするのが正しい表現であるが、「hand phone」の「phone」と「cellular phone」の「phone」は同じであり、かつ、非常に易しい英語でもあることから、上位群も下位群も高い正答率になったのであろう。ただし、それ以外に、それぞれの母語の影響も関わる可能性がある。この点については、次節で述べる。

一方、「オーバー・イート (over eat)」は、「吐くこと」を意味する韓製英語 (Konglish) で、全体の正答率が 0%である。つまり、正解した者が誰もいなかったということである。さらに特徴的なことは、調査対象者全員が選択肢「食べ過ぎること」を選んで誤答となっている。この理由としては、「オーバー・イート (over eat)」の構成要素である「over」と「eat」から英語の意味「限界を超えて (over)、食べる (eat)」を想起したり、「過食する (overeate)」という一語の英語の語と混同したことによると考えられる。韓国語の「オーバー・イート」は、「食べ過ぎて、吐いてしまう」と、食べ過ぎた結果に注目した意味で使っており、食べる行為そのものに関する意味ではない。そのようなズレがあったため、調査対象者には意味推測が難しかったのではないかと考えられる。このことから、英語習熟度が高いほど、むしろ意味推測が妨げられる可能性が推測される。

そこで、筆者はこの研究の補足として、英語母語話者 8 名を対象に韓製英語 (Konglish) の意味推測テストを行うこととした。その結果が以下の表 6 の通りである。

表 6 英語母語話者の意味推測テストの結果

	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>Min</i>	<i>Max</i>	<i>N</i>
英語母語話者	7.00	1.69	5	10	8

注 1：満点は 20 点。

注 2：*M* は平均、*SD* は標準偏差、*Min* は最低点、*Max* は最高点、*N* は人数を示す。

英語母語話者の意味推測テストは、平均 7.00 点で、日本語母語話者と中国語母語話者の全体の平均 8.27 (表 2) とは 1.27 点の差がある。英語母語話者より、非英語母語話者の方が意味推測テストの平均点が高いということである。このことから、英語習熟度が高いほど韓製英語 (Konglish) の意味推測が困難であると考えられる。なお、上位群においても下位群においても正答率が 0%だった「オーバー・イート (over eat)」については、英語母語話者の正答率は 0%で、非英語母語話者の場合と同じであった。また、全員が選択肢「Eating too much (食べ過ぎること)」を選んで、誤答を選択する傾向も同様であった。韓製英語 (Konglish) の「オーバー・イート (over eat)」の意味は、食べ過ぎた結果を表しているだけに、他の調査対象語に比べて推測が難しかったと考えられる。反対に、上位群も下位群も正答率が高かった「ハンド・フォン (hand phone)」については、英語母語話者の正答率は 50%で、非英語母語話者の正答率 90% (表 5) より低い結果となった。誤答者全員が選んだ選択肢は「Cordless phone (電話の子機)」で、正解の選択肢「Cellular phone (携帯電話)」と共に「phone」という単語に引っかかったと考えられる。

2. 母語と意味推測の関係に関する分析・考察

次に、研究課題2である韓製英語（Konglish）を意味推測と調査対象者の母語の関係を検討するために、各調査対象語について、母語別の正答者数と正答率について分析を行う。

表7 調査対象語別 日本語母語話者と中国語母語話者の正答者数と正答率

	日本語母語話者	中国語母語話者	全体
ノート・ブック (note book)	7 (46.67%)	7 (46.67%)	14 (46.67%)
ハンド・フォン (hand phone)	14 (93.33%)	13 (86.67%)	27 (90%)
アイ・ショッピング (eye shopping)	9 (60.00%)	8 (53.33%)	17 (56.67%)
オーバー・イート (over eat)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
ワン・ショット (one shot)	4 (26.67%)	3 (20.00%)	7 (23.33%)
ヘルス (health)	1 (6.67%)	3 (20.00%)	4 (13.33%)
ウェルビーイング (wellbeing)	4 (26.67%)	5 (33.33%)	9 (30.00%)
ワン・プラス・ワン (one plus one, 1+1)	10 (66.67%)	12 (80.00%)	22 (73.33%)
ミーティング (meeting)	6 (40%)	4 (26.67%)	10 (33.33%)
ダッチ・ペイ (dutch pay)	6 (40%)	9 (60.00%)	15 (50.00%)
ハンティング (hunting)	9 (60.00%)	6 (40%)	15 (50.00%)
チェック・カード (check card)	3 (20.00%)	4 (26.67%)	7 (23.33%)
ティーオー (T.O.)	1 (6.67%)	2 (13.33%)	3 (10.00%)
ソロ (solo)	11 (73.33%)	7 (46.67%)	18 (60.00%)

カー・センター (car center)	5 (33.33%)	6 (40%)	11 (36.67%)
シーシー (C.C.)	4 (26.67%)	4 (26.67%)	8 (26.67%)
ファンシー (Fancy)	4 (26.67%)	0 (0%)	4 (13.33%)
ゴールド・ミス (gold miss)	7 (46.67%)	13 (86.67%)	20 (66.67%)
スキン (skin)	9 (60.00%)	6 (40%)	15 (50.00%)
シーシーティーブイ (CCTV)	11 (73.33%)	11 (73.33%)	22 (73.33%)

注：（ ）の中の数字はそれぞれの母語話者における正答率を示す。

表7に示したように、分析の結果、日本語母語話者の場合、最も正答率が高かった語は「ハンド・フォン (hand phone)」、最も正答率が低かった語は「オーバー・イート (over eat)」である。中国語母語話者の場合は、「ハンド・フォン (hand phone)」と「ゴールド・ミス (gold miss)」で、ともに13名 (86.67%) が正答し、最も正答率が高かった。最も正答率が低かった語は「オーバー・イート (over eat)」と「ファンシー (Fancy)」で、共に正答率は0%である。

そこで、以下では、それぞれの母語グループの結果について、具体的に検討する。しかし、「オーバー・イート (over eat)」は、調査対象者全員が誤答で、選んだ選択肢も同じで、このことは既に前節の英語習熟度と意味推測の関係に関する分析・考察で論じたため、本節ではそれ以外の語について分析を行うこととする。また、比較のために、英語母語話者の正答率を以下に示し、考察に加えていく。

表8 調査対象語別 英語母語話者の正答者数と正答率

	正答者数 (正答率)
ノート・ブック (note book)	2 (25.00%)
ハンド・フォン (hand phone)	4 (50.00%)
アイ・ショッピング (eye shopping)	4 (50.00%)
オーバー・イート (over eat)	0 (0.00%)
ワン・ショット (one shot)	2 (25.00%)
ヘルス (health)	3 (37.50%)

ウェルビーイング (wellbeing)	3 (37.50%)
ワン・プラス・ワン (one plus one)	4 (50.00%)
ミーティング (meeting)	3 (37.50%)
ダッチ・ペイ (dutch pay)	1 (12.50%)
ハンティング (hunting)	4 (50.00%)
チェック・カード (check card)	1 (12.50%)
ティーオー (T.O.)	1 (12.50%)
ソロ (solo)	3 (37.50%)
カー・センター (car center)	3 (37.50%)
シーシー (C.C.)	6 (75.00%)
ファンシー (Fancy)	2 (25.00%)
ゴールド・ミス (gold miss)	2 (25.00%)
スキン (skin)	0 (0.00%)
シーシーティーブイ (CCTV)	7 (87.50%)

注：調査対象者の英語母語話者は合計 8 名。

(1) 日本語母語話者の場合

まず、日本語母語話者の場合から見てみる。表 7 の通りに、最も正答率が高かった語は「ハンド・フォン (hand phone)」である。

表 9 調査対象語の「ハンド・フォン (hand phone)」

選択肢	選択人数
①電話の子機	1
②インターホン	0
③無線機	0
④携帯電話 (正答)	14

「ハンド・フォン (hand phone)」は、正答者は 14 名で、正答率は 93.33%である。正答率が高い理由としては、英語単語の「phone」の意味と、最近よく使われている語「スマートフォン (smart phone)」から、意味推測しやすかったのではないかと考えられる。誤答の選択肢「①電話の子機」も、英語の「phone」の意味である「電話 (機)」から、一番近い意味の選択肢として選んだと考えられる。なお、英語母語話者の結果と比較してみると、正答率は 50.00%で日本語母語話者と 43.44%の差であるが、「1. 英語習熟度と意味推測の関係に関する分析・考察」でも述べた通り、誤答を選ぶ傾向は同様であること

から、英語の影響があると言えるだろう。

反対に、「オーバー・イート (over eat)」の次に正答率が低かったのは、「ヘルス (health)」と「ティー・オー (T.O.)」であった。

表 10 調査対象語の「ヘルス (health)」

選択肢	選択人数
①マッサージ	4
②ダイエット	8
③筋トレ (正答)	1
④リハビリ	2

「ヘルス (health)」は、正答者 1 名で、正答率は 6.67%である。選択肢②の「ダイエット」の選択人数が最も多い理由としては、最近、日本では「ヘルシー (healthy)」という語をダイエットと関連付けて使うことが多く、「ヘルス」から「ヘルシー」、さらに「ダイエット」を連想したと考えられる。また、表 10 を見ると、選択肢「マッサージ」を選んだ人が比較的多いことがわかる。その理由は、日本では「ヘルス」を「風俗」の意味で使っており、選択肢 4 つの中で、「マッサージ」が「風俗」と一番近いイメージがあるからではないかと考えられる。なお、英語母語話者の結果と比較してみると、正答者は 3 名で、正答率は 37.50% (表 8) で日本語母語話者より高かったが、誤答者全員が「diet (ダイエット)」を選んだ。このことから、日本語母語話者の傾向が英語母語話者と似ていることがわかる。

表 11 調査対象語の「ティー・オー (T.O.)」

選択肢	選択人数
①持ち帰り	6
②欠員 (正答)	1
③会議	2
④離陸	4

「ティー・オー (T.O.)」は、「ヘルス (health)」と同様に、正答者 1 名で、正答率は 6.67%である。調査対象語が略語であるだけに、意味推測が難しかったと考えられる。表 11 を見てみると、「持ち帰り」選んだものは 6 名で「離陸」を選んだものは 4 名である。「持ち帰り」と「離陸」を英語で翻訳すると、前者は「take out」、後者は「take off」となり、二つの選択肢とも略語の調査対象語の「T.O.」から簡単に連想できる語だと言え

る。これは英語母語話者の場合の結果と似ている。英語母語話者の正答率は 12.50%（正答者は 1 名、表 8）で、「take out（持ち帰り）」を選んだものは 4 名、「take off（離陸）」を選んだものは 3 名である。残りの選択肢「vacant position（欠員）」と「conference（会議）」を見るとアルファベット「T」と「O」が使っていないことがわかる。また、この二つの選択肢を選んだ英語母語話者が誰もいなかったということから見ると、英語の単語から推測しようとしたと考えられる。

（2）中国語母語話者の場合

次に、中国語母語話者の場合を見てみる。上記の通り、中国語母語話者で最も正答率が高かった語は「ハンド・フォン（hand phone）」と「ゴールド・ミス（gold miss）」で、最も正答率が低かった語は「オーバー・イート（over eat）」と「ファンシー（fancy）」である。以下では、「オーバー・イート（over eat）」を除く、三つについて具体的に検討していく。

表 12 調査対象語の「ハンド・フォン（hand phone）」

選択肢	選択人数
①電話の子機	0
②インターホン	1
③無線機	1
④携帯電話（正答）	13

まず、「ハンド・フォン（hand phone）」は、正答者 13 名、正答率 86.67%である。日本語母語話者の正答率（93.33%）と比較してみると、6.66%の差があるが、正答者の差は 1 名のみで、ほぼ同じ傾向を見せていると言える。正答率が高い理由としては、日本語母語話者の場合と同様で、英語の「phone」と「smart phone」の影響が考えられるが、そのほかに中国語では「携帯電話」を「手机」というため、「手」と「hand」が同一であるため、特に意味推測がしやすかったと考えられる。また、日本語母語話者と英語母語話者とは異なる点は、中国語母語話者の場合、「電話の子機」を選んだものが誰もいなかったということである。これは、スマートフォンなどの個人の携帯電話をよく使っている現代、さらに調査対象者が一人暮らしをしている可能性（家に固定電話がないこと）が高い留学生ということを考慮すると、子機という日本語に触れる機会が少なく、日本語として知らなかったからだと考えられる。

表 13 調査対象語の「ゴールド・ミス (gold miss)」

選択肢	選択人数
① 若く見える年配の独身女性	1
② 社会的地位や経済力のある年配の独身女性 (正答)	13
③ 派手なアクセサリ好きの年配の独身女性	1
④ バツイチの年配の独身女性	0

「ゴールド・ミス (gold miss)」は、正答者が 13 名、正答率が 86.67%で、「ハンド・フォン (hand phone)」と同様に 最も正答率が高い語である。中国語には「ゴールド・カラー」を意味する「金領」という語が存在する。「ゴールド・カラー」とは、社会的に地位が高く、高額年収を取る階層の人を指す言葉である。よって、中国語母語話者に「ゴールド・ミス (gold miss)」の正答率が高いのは、「ゴールド」から母語の「金領」が連想され、「金領」の意味と非常に似ている「② 社会的地位や経済力のある年配の独身女性」へ推測につながりやすかったと考えられる。なお、英語母語話者の正答率は 25.00%で、中国語母語話者と比較してみると、非常に低い結果となっている。英語母語話者の場合、選択肢「A single woman who likes gorgeous accessory (派手なアクセサリ好きの年配の独身女性)」を選んだものが 4 名で、最も多かった。英語の「gold」から「gorgeous (派手な)」が連想されたからだと考えられる。

表 14 調査対象語の「ファンシー (fancy)」

選択肢	選択人数
① 非売品	1
② 高級品	11
③ 文房具 (正解)	0
④ 雑貨	3

「ファンシー (fancy)」は正答者 0 名、正答率 0%で、「オーバー・イート (over eat)」と同様に最低の正答率である。英語の「fancy」は、形容詞で「値段が高い」、「高級な」という意味がある。また、「雑貨」の意味として「fancy goods」という英語の単語もある。これから見ると、「ファンシー (fancy)」の場合、意味推測を妨げる要因として、英語の意味が影響したと考えられる。なお、英語母語話者の結果と比較してみると、正答率は 25.00%で中国語母語話者よりは少し高かった。しかし、英語母語話者の誤答者 6 名のうち 5 名が「High-quality article (高級品)」を選んだことからみると、中国語母語話者の「ファンシー (fancy)」の意味推測には英語の影響がしたと言えるだろう。

VI 終わりに

本研究では、未知語である韓製英語（Konglish）に出会った場合、意味推測に英語の習熟度が影響するのか否か、また、母語が影響を及ぼすのか否かを、日本語母語話者と中国語母語話者を対象に、調査を行い、検討した。その結果、TOEIC の点数 700 点を基準とし、上位群と下位群に分けて、意味推測テストの得点を比較してみると、上位群 8.19 点、下位群 8.36 点で、0.17 のわずかな差であるが、下位群の方が高かった。さらに、補足として英語母語話者を対象に同じ意味推測テストを行った結果、平均点が 7.00 点で非英語母語話者より低い結果であった。このことから、英語の習熟度が高ければ高いほど、韓製英語（Konglish）の意味推測は困難になる傾向があることがわかった。また、母語別に分析した結果、日本語母語話者と中国語母語話者として類似の傾向も認められた一方で、中国語母語話者の場合、中国語の影響によって推測が成功する可能性があることもわかった。

このような結果から総合的に考察すると、筆者が設定した研究課題である、日本語母語話者と中国語母語話者が韓製英語（Konglish）を意味推測する際、英語の習熟度が高いほど、意味推測は正確になるのかについては、むしろ英語の知識が韓製英語（Konglish）の意味推測を妨げる可能性があり、さらに、英語の知識よりも母語の方が意味推測に影響を及ぼすこともあると言えるだろう。これまで、韓製英語（Konglish）を対象に、調査対象者の母語の違いが推測に及ぼす影響についてはほとんど研究が行われておらず、本研究の結果には一定の意義があると言えよう。

しかしながら、本研究には課題も残されている。第一に、対照群の人数を統一させる必要がある。今回の調査では、主に日本語母語話者と中国語母語話者を調査対象者にし、補足として英語母語話者にも意味推測のテストを行った。しかし、英語母語話者の数が他の両グループの人数と異なり、それが正答率などに影響を与えるため、正確な比較をすることができなかったと考えられる。よって、今後は、対照群の人数も揃え、より正確な分析をする必要がある。第二に、調査対象語の認知度を調査する必要がある。韓国語の学習歴がなくても韓製英語（Konglish）を知っている可能性もあるため、今後の調査では調査対象語が確実に未知語であるかを確認した上で、調査を行いたい。本研究を基に、今後はさらに完成度が高い、研究を行いたい。

付記

調査の実施に際しては、明治大学大学院の黄叢叢さん、東京外国語大学の土田梨紗さん、早稲田大学の李 俊さんのご協力を賜りました。また、研究の過程では、ゼミのメンバー（米持こあきさん、井上佳奈枝さん、高岡咲希さん、徐レイナさん）から、たくさんの示唆をいただきました。ここに記して感謝申し上げます。

参考文献

- 玉岡賀津雄・林 炫情・池 映任・柴崎秀子（2008）「韓国語母語話者による和製英語の理解」『レキシコンフォーラム』4号, 195-222.
- 張 婧禕・玉岡賀津雄・早川杏子（2014）「和製英語の理解における英語および日本語の語彙知識の影響—中国華東地域の日本語学習者を例に—」『日本教科教育学会誌』第36巻4号,23-32.
- Yang, Min-Ho (2010) A Korean/Japanese Contrastive Study on Cognition, Comprehension, and Usage of Loanwords. *Journal of international Studies*, 15, 55-77.

インターネット資料

- Naver 中国語辞書<<http://cndic.naver.com/>>（2017年12月29日）
- Naver 英語辞書<<http://endic.naver.com/>>（2018年1月18日）
- TOEIC「活用現況」<<http://exam.ybmnet.co.kr/toEIC/status/government.asp>>（2018年1月1日）
- 韓国の就職情報サイト「saramin」<http://www.saramin.co.kr/zf_user/help/live/view?idx=51827&offset=20&page=2&listType=notice&category=10&keyword=%EC%83%81%EB%B0%98%EA%B8%B0&menu=1>（2018年1月2日）

付録①

調査票

このたびは調査にご協力いただき、ありがとうございます。私は、「日本語母語話者・中国語母語話者の Konglish（韓製英語）の意味推測」について調査しています。以下の質問を読んで、答えてください。どうしても答えたくない場合は、答えなくても構いません。

なお、収集した個人情報は厳重に管理いたします。また、本調査で得られたデータは、研究以外の目的で使用することはありません。

明治大学国際日本学部 4年 金 テリン

年齢： 歳

性別： ☐男 ☐女

出身国： _____

母語： _____語

*母語が日本語ではない人のみ答えてください。

日本語学習歴： 約 _____年 _____ヶ月

日本語能力：日本語能力試験 JLPT (N____) _____点

日本留学試験 EJU _____点

英語学習歴： 約 _____年 _____ヶ月

英語能力：英検 _____級

TOEIC _____点

TOEFL _____点

韓国語学習歴： 約 _____年 _____ヶ月

韓国語能力： ☐TOPIK I（初級） _____級

☐TOPIK II（中級・上級） _____級

質問

以下の Konglish（韓製英語）の意味は何ですか。4つの選択肢の中から、最も適当なものを選んでください。

1. ノート・ブック (note book) :

- ①ノートパソコン ② メモ帳 ③ タブレット PC ④ ダイアリー

2. ハンド・フォン (hand phone) :

- ①電話の子機 ② インターホン ③ 無線機 ④携帯電話

3. アイ・ショッピング(eye shopping) :

- ①気晴らし ② 目の保養 ③ ウィンドショッピング ④ネットショッピング

4. オーバー・イート(over eat) :

- ①お腹をこわすこと ②吐くこと ③ 食べ過ぎること ④ お腹に肉がつくこと

5. ワン・ショット(one shot) :

- ①一回の撮影 ②一気飲み ③ 自撮り ④ お酒一杯

6. ヘルス(health) :

- ①マッサージ ② ダイエット ③筋トレ ④ リハビリ

7. ウェルビ-イング(wellbeing) :

- ①身につくこと ② うまくいくこと ③ 慣れること ④健康に生きること

8. ワン・プラス・ワン (one plus one, 1 + 1) :

- ①おかわりできること ②同じ商品二つを一つの価格で買えること
③ 結婚すること ④ 双子を妊娠すること

9. ミーティング (meeting) :

- ①合コン ② 食事会 ③ 歓迎会 ④ お見合い

10. ダッチ・ペイ (dutch pay) :

- ①おごり ② つけ ③ 現金払い ④割り勘

11. ハンティング (hunting) :

①客引き ② 万引き ③ ギャンブル ④ ナンパ

12. チェック・カード (check card) :

①クレジットカード ② ギフトカード ③ デビットカード ④ タイムカード

13. ティーオー (T.O.) :

①持ち帰り ②欠員 ③ 会議 ④ 離陸

14. ソロ (solo) :

①結婚に失敗した人 ② 何でも一人でする人 ③ 彼女・彼氏がいない人
④一人で会社を経営する人

15. カー・センター (car center) :

①自動車修理・整備店 ② 自動車販売店 ③ レンタカー店舗 ④ カー用品店

16. シーシー (C.C.) :

①社内カップル ②同じ大学に在学する学生カップル
②内緒で付き合うカップル ④ インターネット上のカップル (サイバーカップル)

17. ファンシー (Fancy) :

①非売品 ② 高級品 ③ 文房具 ④ 雑貨

18. ゴールド・ミス (gold miss) :

①若く見える年配の独身女性 ②社会的地位や経済力のある年配の独身女性
③派手なアクセサリー好きの年配の独身女性 ④バツイチの年配の独身女性

19. スキン (skin) :

① 化粧水 ②石けん ③ボディークォッシュ ④ボディークリーム

20. シーシーティーブイ (CCTV) :

①ドッキリカメラ ②防犯カメラ ③ ビデオカメラ ④ 360度カメラ

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

調査協力についての同意書

私は、明治大学国際日本学部、金 テリンの実施する「日本語母語話者・中国語母語話者の Konglish（韓製英語）の意味推測に関する研究」について、その目的や方法の説明を受けました。また、個人が特定されるような情報は一切公開されない事についての説明も受けました。

よって、

本日記入した質問紙、調査票を金 テリンの研究に使用されることに、

- ☐ 同意します。
- ☐ 同意しません。

- ① データの収集は卒業研究のためであり、他の目的には一切使用しない。
- ② 調査協力者のデータや個人に関する情報が卒業論文に掲載される場合、匿名とし、

個人が特定される情報を全て削除する。

- ③ 調査協力者は、本同意書で同意しても、いつでもこの同意を撤回できる。同意を撤回する際は、以下の連絡先へ連絡する。

明治大学 国際日本学部 金 テリン

EU40047@meiji.ac.jp

〒164-8525 東京都中野区中野 4-2 1-1

03-5343-8000

年 月 日

調査協力者 _____

付録②

Question. What are meanings of those Konglish sentences below?

Please choose 1 answer that is correct in your point of view.

1. ノート・ブック (note book) :

- ①Laptop ② memo pad ③ tablet PC ④ schedule book

2. ハンド・フォン (hand phone) :

- ①Cordless phone ② intercom ③ walkie-talkie ④ Cellular phone

3. アイ・ショピング (eye shopping) :

- ①Refreshing oneself ② Protecting one's eyes ③ Window-shopping ④Internet shopping

4. オーバー・イート (over eat) :

- ①Having an upset stomach ②Vomiting ③ Eating too much ④ Being fat

5. ワン・ショット (one shot) :

- ①Taking a picture ② Drinking all at once ③ Selfie ④ One glass of alcohol

6. ヘルス (health) :

- ①Massage ② Diet ③ Exercising ④ Rehabilitaion

7. ウェルビーイング (wellbeing) :

- ①Acquiring some skills ② Everything is going to be okay ③ Getting used to something ④
Being healthy

8. ワン・プラス・ワン (one plus one, 1 + 1) :

- ①Refill something ② Taking one more product when someone buys something
③ Marrying someone ④ Being pregnancy with twins

9. ミーティング (meeting) :

- ①Going on a blind date ② Having meal with someone ③ Welcome party
④ Meeting with a prospective marriage partner

10. ダッチ・ペイ (dutch pay) :

- ①Treating a meal to someone ② Buying something on credit ③ cash payment ④ Splitting a bill

11. ハンティング (hunting) :

- ① Touting someone on the street ② stealing something ③ Gambling ④ Picking up someone

12. チェック・カード (check card) :

- ① Credit card ② Gift card ③ Debit card ④ Time card

13. ティーオー (T.O.) :

- ① Take out ② Vacant position ③ Conference ④ Take-off

14. ソロ (solo) :

- ① A person who failed to marry someone ② A person who prefer to be alone
③ A person who doesn't have a romantic relationship ④ An entrepreneur who published
own business by alone

15. カー・センター (car center) :

- ① Repairing shop for vehicle ② Vehicle store ③ Rental car agency ④ Car parts store

16. シーシー (C.C.) :

- ① A couple in a work place ② A couple in a college/university ③ Secret couple
④ LAN cable dating couple

17. ファンシー (Fancy) :

- ① Not for sale ② High-quality article ③ Stationery ④ Sundries

18. ゴールド・ミス (gold miss) :

- ① A single woman looks very young ② A single woman who is economically prospective ③ A
single woman who likes gorgeous accessory ④ A single woman who experienced divorce

19. スキン (skin) :

- ① Toilet water ② A soap ③ Skin body wash ④ Body lotion

20. シーシーティーブイ (CCTV) :

- ① A candid shot ② Security camera ③ A video camera ④ 360 degree camera

上下の概念メタファーが日本語学習者の慣用句の 意味推測に与える影響

—中国語母語話者と韓国語母語話者を対象に—

The Effect of Up-Down Conceptual Metaphors on the Semantic Inference
of Idioms by Japanese Learners
:Focusing on Native Chinese and Korean Speakers

明治大学 国際日本学部
高岡 咲希

Meiji University School of Global Japanese Studies TAKAOKA, Saki

目次

I はじめに

II 先行研究

III 研究課題

IV 調査の概要

1. 調査対象者

2. 材料

3. 手続き

V 結果と考察

1. 母語別・習熟度別の調査結果

2. 一致型・不一致型別の調査結果

3. 上下のキーワードの種類とその影響

4. 「落ちる」、「落とす」を含む慣用句の意味推測

VI 全体的考察

VII おわりに

I はじめに

本研究では、上下の概念メタファーが日本語学習者の未知語の意味推測に与える影響について、日本語の慣用句を対象に検討する。

言語の慣用表現において、上の方向を表す語（上、高、飛、など）を含むものはポジティブな感情や状況を意味し、下の方向を表す語（下、低、落、など）を含むものはネガティブな感情や状況を意味するものが多く見られる。例えば、日本語の「天にも昇る気分だ」や「気分が沈む」という表現は、「昇る」、「沈む」という上下を意味する語の存在によって、「嬉しい」、「悲しい」などと言った直接的な形容詞無しに、それらの感情を意味することができる。これは、「好ましいものは上、好ましくないものは下」という上下の概念メタファー（Lakoff & Johnson 1980）によって説明されるものであり、経験的基盤に基づくこのメタファーは多くの言語に共通して表れると言われている。そのため、このような「上と下」という経験的基盤と、事象に対するポジティブ、ネガティブの意識や感情が一致している比喻表現（以下、一致型）は、日本語学習者がもともと備えていると思われる上下のメタファーの感覚の活用によって、第二言語としての日本語においても、比較的容易に理解される可能性がある。しかし、すべての慣用表現がこの上下のメタファーに則しているわけではない。例えば、「頬っぺたが落ちる」という表現は、「落ちる」という下向きのキーワードを含んでいるが、その意味は「とても美味しい」というポジティブなものである。このような、上下のメタファーに則さない、つまりキーワードの上下と意味のポジティブ、ネガティブが対応しない表現（以下、不一致型）では、日本語学習者の上下のメタファーの感覚が逆に理解を妨げてしまう可能性もある（以下、負の活用）。

そこで、日本語学習者がこのような上下のキーワードを含む慣用表現の意味推測をする際、上下の概念メタファーをどのように活用するか、また、学習者の日本語習熟度と負の活用に関係があるか、調査してみたい。上下のメタファーの活用が正しい意味推測に繋がる表現においては、日本語習熟度に関わらず高い正答率となる可能性があるが、上下のメタファーが意味推測の役に立たない、あるいは推測を阻害する表現においては、日本語能力が正しい意味推測に関わり、習熟度が高いほど正答率が上がる可能性がある。

この研究によって、日本語学習者に対するプライマリー・メタファー、特に上下のメタファーの影響力が明らかになり、こうした知見は教育現場に対して示唆を与えることができると考える。

なお、本稿における「ポジティブ」とは「有利な状況にあること、利益を受けること、

楽観的な感情を持つこと」を指し、「ネガティブ」とは「不利な状況にあること、損害を被ること、悲観的な感情を持つこと」を指すものとする。

II 先行研究

本研究に関わる先行研究としては、上下のメタファーやその他の方向付けメタファーと、言語習得との関連についての知見である。

沖本（2012）では、日本語を母語とする英語学習者、計 59 名を 3 回に渡って調査した結果、“up”という語の学習者のイメージスキーマを活性化させることによって、“up”、“down”を含むメタファー表現における理解が促進されたとしている。言語的普遍性を持つプライマリー・メタファーの理解が、言語習得を助けるという示唆である。しかし、述べられているのは上下のメタファーが言語の学習において正の方向に働く場合についてであり、確かに「英語と日本語の上下のメタファーの違い」についての指摘はあるものの、本研究で言う「負の活用」については述べられていない。

鐘・井上（2013）では、日本語、中国語、英語における上下のメタファーの不一致を踏まえた上で、日本語の上下のメタファーの細部を明らかにするために、朝日新聞の記事データベースから約 18500 の上下のメタファーを収集、分析した。結果として、日本語の上下のメタファーは 6 つの経験的基盤と 4 つの体型構造からなっていると結論付けた。また、左（2007）では、日本語の上下のメタファーと中国語の上下のメタファーを比較し、両者は多くの点で共通しているが、中国語独特の上下のメタファー（「過去の時間が上、未来の時間が下」、「公的な状態が上、私的な状態が下」）も存在することを提言している。どちらの研究でも、言語間で共通しているメタファー、異なっているメタファーの存在が示唆されているが、それぞれ学習者に及ぼす影響について実際の調査はされていない。

III 研究課題

本研究では、上下のメタファーの「負の活用」にも焦点を置き、メタファーと意味推測の関係を調査するために、以下を研究課題として設定する。

（1）日本語学習者が上下のメタファーを連想させるキーワードを含む慣用句の意味推測をする際、上下のメタファーが過剰に活用されるか（負の活用は起きるか）。

（2）意味推測における上下のメタファーの活用は、日本語習熟度によってどのように異なるか。

また、以下のような仮説が立てられる。

仮説 1 「不一致型の設問よりも、一致型の設問の方が正答率が高い」

仮説 2 「日本語習熟度が高くなるほど、不一致型の設問の正答率が高くなる」

本課題に答えるためには、調査対象者の要因として日本語習熟度要因（初級と中級）を、また設問の要因としては一致型と不一致型を統制する必要がある。日本語習熟度要因については、日本語能力試験の N1 と N3 の 2 つに統制する。

IV 調査の概要

1. 調査対象者

調査対象者は、中国人日本語学習者と韓国人日本語学習者である。中国人日本語学習者は、中国の江蘇省常州市にある大学で日本語を専攻している学部 3 年生から 4 年生、39 名に調査をし、その中から本研究の分析対象となる N1 合格者（以下、N1）と N3 合格者（以下、N3）、各 7 名ずつのデータを抽出した。韓国語母語話者については、ソウル市内にある大学の日本語教育学科、日韓文化コンテンツ学科で日本語を学習している学生に調査をし、N1 と N3、各 6 名ずつのデータを収集した。

その後、分析において、中国語母語話者と韓国語母語話者のデータの数、また、N1 と N3 の学習者のデータの数を均等にした方が良いと判断し、中国語母語話者のデータのうち、N1 と N3 から各 1 名ずつを対象外とした。対象外とする 2 人分のデータを決める際には、韓国語母語話者 12 名の得点結果と近いものを、中国語母語話者 14 名の得点結果の中から一人ずつマッチングさせるペアマッチを行い、これに該当しない 2 人分のデータを分析対象外とした。最終的には計 24 名のデータを分析対象とした。

2. 材料

調査対象の慣用句の抽出には、例解慣用句辞典（1992）を用いた。まず、この辞典の中から上下のキーワードを含む慣用句を全て取り出した後、国立国語研究所の「現代日本語書き言葉均衡コーパス」で、慣用句それぞれの使用頻度を調べ、使用頻度が 5 以下のものについては除外した。使用頻度を調べる際には、まず慣用句の中の名詞を検索にかけた後、コロケーションとして表示される該当の慣用句を見つけ、さらにその用例の中で、字義通りにではなく慣用句として比喩的に使われているものだけを数え、頻度とした。その後、慣用句の意味を確認しながら「一致型」と「不一致型」の分類を行い、最終的には「一致型」、「不一致型」の慣用句をそれぞれ 9 個ずつ選定した（表 1、表 2）。なお、一

致型、不一致型の分類の際には、まずはそれらの表現の意味がポジティブなのか、ネガティブなのか、もしくはどちらでもないのかで設問には成り得ないのかを判断する必要があるが、これについては、筆者自身が慣用語辞典の意味から判断した後、3人の日本語母語話者の確認を得て、確定した。

表 1 調査対象慣用語（一致型）

地に落ちる	手に落ちる	身を落とす
気が沈む	諸手を挙げて	目が高い
心が弾む	眼下に見る	腕が上がる

表 2 調査対象慣用語（不一致型）

棚に上げる	頭が高い	手に乗る
お高く留まる	根を下ろす	頬っぺたが落ちる
腰が低い	手を上げる	音を上げる

また、調査用紙について、本調査では文脈からではなく上下のキーワードから意味推測をしてもらうため、調査用紙には対象表現のみを示し、三つの選択肢の中から正答を選ぶ多肢選択式で作成した。

選択肢の構成については、一致型、不一致型を問わず、全ての問題の三つの選択肢がそれぞれ、(1)プラスの意味、(2)マイナスの意味、(3)中立の意味、になるように作成した。パターンとしては、(1)プラスの意味（正答）、(2)マイナスの意味（錯乱）、(3)中立の意味（錯乱）となるもの、もしくは(1)プラスの意味（錯乱）、(2)マイナスの意味（正答）、(3)中立の意味（錯乱）となるものの二種類である。

3. 手続き

調査は2017年10月30日から11月4日にかけて、中国、韓国においてそれぞれの調査対象者の所属大学内で行った。調査内容についての説明をした後、調査用紙を配布し解答してもらった。解答時間は10分に設定し、解答中は辞書などで調べないように指示した。

V 結果と考察

1. 母語別・習熟度別の調査結果

まず、得点結果について母語別と習熟度別に見ていく。全体の結果として、平均は 18 点満点中 11.71 点であった。母語別に見てみると、韓国語母語話者の方が中国語母語話者よりも得点の平均が高く、その差は 1.25 点であった。結果は表 1 に示した通りである。しかしながら標準偏差を見ると、韓国語母語話者 12 人の得点にはばらつきが大きそうである。実際に、満点の 18 点を得点した唯一の被験者が韓国語母語話者であったことも考慮すると、母語間の 1.25 点という平均点の差にはそれほど大きな意味が無いように見える。

表 3 母語別の得点結果

	M	SD	Min	Max	N
中国語母語話者	11.08	2.29	6	14	12
韓国語母語話者	12.33	3.70	5	18	12
全体	11.71	3.14	5	18	24

注 1 : 満点は 18 点 (一致型問題 9 問、不一致型問題 9 問)。

注 2 : M は平均で、SD は標準偏差を示す。

次に、習熟度別の得点結果を表 2 に示す。平均を見ると、N1 が N3 を 4.08 点の差をつけて上回っており、習熟度が高い学習者のほうが正答率が高い。

表 4 習熟度別の得点結果

	M	SD	Min	Max	N
N1	13.75	2.24	11	18	12
N3	9.67	2.53	5	13	12
全体	11.71	3.14	5	18	24

注 1 : 満点は 18 点 (一致型問題 9 問、不一致型問題 9 問)。

注 2 : M は平均で、SD は標準偏差を示す。

2. 一致型・不一致型別の調査結果

次に、設問の正答者数および正答率について、一致型の設問、不一致型の設問別の視点から考察する。母語別の結果は表 5 に示した通りである。中国語母語話者と韓国語母語話者の合計を見ると、不一致型の設問 9 間の正答率の平均が 58.33% であったのに対して、一致型の設問 9 間の正答率の平均は 70.83% であった。さらに母語別に見ても、中国語母語話者、韓国語母語話者共に一致型の正答率が不一致型の正答率を上回っている。上下のメタファーに基づいて意味推測をすれば正解できる一致型設問の方が、上下のメタファーを使って意味推測してしまうと不正解となる不一致型設問よりも正答率が高いというこの結果は、学習者が意味推測時に上下のメタファーを推測の手がかりの一つとしていたこと

を示す。

表5 一致型・不一致型別の正答率（母語別）

	中国語母語話者	韓国語母語話者	合計
一致型	68.52%	73.15%	70.83%
不一致型	54.63%	62.04%	58.33%

同じく一致型、不一致型の正答率を習熟度別に示したものが表6である。N3の結果を見ると、母語別の時と同様に一致型の正答率が高いが、一方N1ではわずかに不一致型の正答率が高い。不一致型においても78.70%という高い正答率であったN1の学習者は、N3の学習者ほど上下メタファーの影響を受けず、不一致型の問題において上下メタファーの法則の裏をかくような推測をした可能性がある。反対に、N3の学習者では一致型と不一致型の正答率の差が大きいことから、N1の学習者よりも意味推測時に上下のメタファーに頼った可能性が高いと言える。また、N3の不一致型の正答率の低さは、上下のメタファー知識の過度な活用、つまり「負の活用」が起こったことを示している。

表6 一致型・不一致型別の正答率（習熟度別）

	N1	N3	合計
一致型	74.07%	67.59%	70.83%
不一致型	78.70%	37.96%	58.33%

3. 上下のキーワードの種類とその影響

次に、調査対象慣用句に含まれていた上下のキーワードの性質と意味推測の関係について考察する。調査対象である18個の慣用句に含まれていた上下のキーワードは、「落ちる」、「落とす」、「沈む」、「弾む」、「挙げて」、「眼下」、「高い」、「低い」、「上がる」、「上げる」、「お高く」、「下ろす」、「乗る」であったが、これらのキーワードが意味推測に与える影響力の強さはそれぞれ異なると考えられる。例えば、「上・下」という文字を実際に含んでいる「上げる」や「下ろす」などは上下のキーワードとしての認識が容易であるが、一方「上・下」という文字は含まない「弾む」や「沈む」といったキーワードは前者に比べて上下のイメージに至りにくい可能性がある。

このようなキーワードの性質の違いを踏まえて、18個の慣用句を①「上・下」の文字を含む慣用句、②「上・下」の文字を含まない慣用句、の2つに分類しそれぞれの結果を

考察する。①に分類される慣用句は「腕が上がる」、「棚に上げる」、「音を上げる」、「手を上げる」、「根を下ろす」、「眼下に見る」の6個であり、それ以外の12個の慣用句が②に分類される。

次に注目するのが「上下のメタファーを活用したことによる選択肢の選択率」である。言い換えると、「上下のキーワードにどれほど素直に従って意味推測をしたか」ということであり、具体的には「一致型の設問における正答率、および、不一致型の設問における錯乱肢（ポジティブ、またはネガティブ）の選択率」である。例えば、一致型である「腕が上がる」の場合、「上がる」という語からポジティブな意味を推測して、正答である「上手になる、技術が進歩する」を選択した確率であり、不一致型の「棚に上げる」の場合、「上げる」という語からポジティブな錯乱肢である「社会での地位が上がる」を選択した確率である。以下、「上下のメタファー活用率」とする。

分類①と②それぞれの上下のメタファー活用率平均を母語別に見てみると、表7のようになった。中国語母語話者については、②より①の分類の慣用句の意味推測において、より上下のメタファーを活用しているようである。一方で韓国語母語話者は①のタイプの慣用句に対して、中国人母語話者ほど上下のメタファーを活用していないようである。

表7 上下のメタファー活用率の平均（母語別）

	中国語母語話者	韓国語母語話者
①上・下の文字を含む	58.34%	31.94%
②上・下の文字を含まない	52.08%	54.86%

さらに、すべての設問における上下のメタファー活用率について母語別に示したものが表8である。分類①「上・下の文字を含む」にあたる(1)～(6)を見ると、すべての設問において中国語母語話者の活用率が韓国語母語話者の活用率を上回る。一方で、分類②「上・下の文字を含まない」の慣用句12個の半分にあたる6個の慣用句、(7)～(12)においては、反対に韓国語母語話者の上下メタファー活用率が中国語母語話者を上回る。この結果は、中国語母語話者は上下の意味を持つ言葉の中でも、特に直接的に「上」と「下」という文字を含んだものから強く上下のメタファーの影響を受けることを示す可能性がある。

なお、(13)と(14)については母語間で差は見られなかったが、(15)～(18)の4つについては、②の分類でありながらも中国語母語話者の活用率が韓国語母語話者よりも高いという結果であった。原因の1つとして考えられるのが、慣用句に含まれる漢字の難易度である。(16)と(17)に関してのみ言えることだが、(16)と(17)の上下のキーワードである「拳」と「弾」という

漢字は、どちらも日本語能力試験の N1 レベルとされる漢字であり、調査対象句が含む漢字の中でも難易度が高いものである。よって、これらの設問に関しては、漢字により馴染みがある中国人母語話者の上下のメタファーの活用率が高かったのではないかと推測される。なぜなら「上下メタファーの活用」をするためには、慣用句に含まれるキーワードの上下を正しく判断できることが前提となるからである。

表 8 各設問における上下メタファーの活用率（母語別）

	中国語母語話者	韓国語母語話者
(1)腕が上がる	66.67%	58.33%
(2)手を上げる	66.67%	33.33%
(3)根を下ろす	25.00%	0.00%
(4)眼下に見る	91.67%	75.00%
(5)音を上げる	41.67%	8.33%
(6)棚に上げる	58.33%	16.67%
(7)目が高い	41.67%	58.33%
(8)お高く留まる	25.00%	50.00%
(9)気が沈む	83.33%	100.00%
(10)腰が低い	16.67%	25.00%
(11)身を落とす	58.33%	66.67%
(12)地に落ちる	50.00%	91.67%
(13)手に乗る	16.67%	16.67%
(14)手に落ちる	75.00%	75.00%
(15)頭が高い	50.33%	33.33%
(16)諸手を挙げて	100.00%	75.00%
(17)心が弾む	41.67%	33.33%
(18)頬っぺたが落ちる	66.67%	33.33%

4. 「落ちる」、「落とす」を含む慣用句の意味推測

次に、「落ちる」、「落とす」という語を含んだ4つの設問、「地に落ちる」、「手に落ちる」、「身を落とす」、「頬っぺたが落ちる」について分析、考察する。「上」、「下」を含む語以外では、この「落」の漢字を用いた対象語が多かったためである。それぞれの正答率を母語別に見ると、「手に落ちる」では母語間で差はなかったが、その他の3つではすべて韓国語母語話者の方が高い正答率であった。母語別に全体の正答率を見ても、中国語母語話者では47.92%であったのに対し、韓国語母語話者では72.92%であった。結果は表9に示した通りである。なお、慣用句の左側に記した○と×は、それぞれ「一致型」と「不一致型」の設問であることを示す。

表9 「落ちる」「落とす」を含む設問の正答率（母語別）

	中国語母語話者	韓国語母語話者
○地に落ちる	50.00%	91.67%
○手に落ちる	75.00%	75.00%
○身を落とす	58.33%	66.67%
×頬つべたが落ちる	8.33%	58.33%
全体	47.92%	72.92%

この結果を踏まえて、さらに4つの設問の各選択肢の選択率について母語別に考察する。結果は表10～13に示した通りである。まず「地に落ちる」については（表10）、ポジティブな意味の錯乱肢を選んだ韓国語母語話者がいなかったのに対して、中国人母語話者では50%の人がポジティブな錯乱肢を選んでいる。また、「手に落ちる」（表11）と「身を落とす」（表12）においても、ポジティブな選択肢の選択率を見ると、どちらも「地に落ちる」と同様に中国語母語話者の選択率が高い。このことから、韓国語母語話者が「落ちる」、「落とす」という語を慣用句の中で比較的ネガティブな意味を持つと推測したのに対して、中国語母語話者はポジティブな意味を持つと推測したのではないかと考えられる。

表10 ○「地に落ちる」の母語別の選択肢選択率

選択肢	正答(ネガティブ)	錯乱(ポジティブ)	錯乱(中立)
	「権威が弱まる」	「良い仕事をもらい、安定する」	「遠い場所に引っ越しをする」
中国語母語話者	50.00%	50.00%	0.00%
韓国語母語話者	91.67%	0.00%	8.33%
全体	70.83%	25.00%	4.17%

表11 ○「手に落ちる」の母語別の選択肢選択率

選択肢	正答(ネガティブ)	錯乱(ポジティブ)	錯乱(中立)
	「相手の支配下になる」	「相手と良い関係を築く」	「誰かと握手をする」
中国語母語話者	75.00%	25.00%	0.00%
韓国語母語話者	75.00%	16.67%	8.33%
全体	75.00%	20.83%	4.17%

表12 ○「身を落とす」の母語別の選択肢選択率

選択肢	正答(ネガティブ)	錯乱(ポジティブ)	錯乱(中立)
	「地位や名声を失う」	「相手を敬い謙虚な態度をとる」	「単独行動をとる」
中国語母語話者	58.33%	25.00%	16.67%
韓国語母語話者	66.67%	16.67%	16.67%
全体	62.50%	20.83%	16.67%

しかしながら、先述の3つの設問で見られた「落ちる」、「落とす」という言葉に対する母語の違いによる認識の差の傾向が実際に存在すると仮定した上で4つ目の設問「頬っぺたが落ちる」を見ると（表12）、この設問の結果はその傾向に当てはまらないものであった。「頬っぺたが落ちる」では、中国人母語話者の方がネガティブな意味の錯乱肢を選んでいるからである。4つの設問の中で、「頬っぺたが落ちる」だけが例外的な結果となった原因としては、中国語の「丢脸」という言葉の影響が考えられる。「丢脸」とは、日本語に直訳すると「顔が落ちる」であり、設問の「頬っぺたが落ちる」と文自体の意味が類似しているが、その意味は「恥をかく」、「顔を潰す」というネガティブなものである。よって、中国人母語話者は、「頬っぺたが落ちる」から母語においてネガティブな意味を持つ「丢脸」を連想し、ネガティブな意味を推測、選択したと考えられる。また韓国語においては、日本語に直訳すると「顔が落ちる」や「頬っぺたが落ちる」となる慣用句は存在せず、「顔」という語を含んだ「恥をかく」という意味の慣用句としては「顔に泥を塗る」という直訳の「얼굴에 먹칠을 하다」が該当する。

表13 ×「頬っぺたが落ちる」の母語別の選択肢選択率

選択肢	正答(ポジティブ)	錯乱(ネガティブ)	錯乱(中立)
	「食べ物がとても美味しい」	「信じていた人に裏切られる」	「痩せる」
中国語母語話者	8.33%	66.67%	25.00%
韓国語母語話者	58.33%	33.33%	8.33%
全体	33.33%	50.00%	16.67%

最後に、4つの設問の習熟度別の正答率を表14に示す。一致型の3つの設問では、N3の方が正答率が高い、もしくはN1と同じ正答率であるが、不一致型の「頬っぺたが落ちる」だけはN3の正答率がN1よりも低くなっている。N3の学習者にとって、上下メタファーを単純に意味推測に利用すると正答できる一致型の設問の方が意味推測がしやすいという傾向がここでも見られる。

表 1 4 「落ちる」「落とす」を含む設問の正答率（習熟度別）

	N 1	N 3
○地に落ちる	66.67%	75.00%
○手に落ちる	75.00%	75.00%
○身を落とす	50.00%	75.00%
×頬つぺたが落ちる	41.67%	25.00%
全体	58.34%	62.50%

VI 全体的考察

以上の結果を踏まえて、研究課題と仮説について検討する。研究課題（１）の「日本語学習者が上下のメタファーを連想させるキーワードを含む慣用句の意味推測をする際、上下のメタファーが過剰に活用されるか（負の活用は起きるか）。」については、一致型の設問の平均正答率が 70.83%であるのに対し、不一致型の設問では 58.33%と、不一致型設問の方が低かったことから、負の活用が起こったと言える。また、研究課題（２）の「意味推測における上下のメタファーの活用は、日本語習熟度によってどのように異なるか。」については、一致型と不一致型の正答率を習熟度別に見ると、N 3 では一致型の正答率が 67.59%であるのに対して不一致型の正答率は 37.96%であり、不一致型の正答率の低さ、つまり負の活用が顕著であることがわかるが、一方 N 1 では、不一致型の正答率が一致型の正答率をわずかに上回っており、意味推測の際、N 3 ほど上下のキーワードの影響を受けていないことが明らかとなった。習熟度が低い学習者においては、未知の慣用句を見た際に上下のキーワードを推測の主な手がかりにしやすいのに対して、習熟度が高くなるにつれて、推測のために活用できる知識の種類も豊富になり、上下のキーワードのポジティブ、ネガティブという情報だけではなく、他の情報にも目を向けて意味推測を行うようになるのではないかと考えられる。従って、「不一致型の設問よりも、一致型の設問の方が正答率が高い」という 1 つ目の仮説は、習熟度が比較的低い学習者に関しては支持されたと言えるが、習熟度が上がるにつれて、結果はむしろ逆になると思われる。よって、「日本語習熟度が高くなるほど、不一致型の設問の正答率が高くなる」という 2 つ目の仮説も支持されたが、「日本語習熟度が高くなるほど、一致型の設問の正答率が低くなる」という結果も伴った。また、慣用句に含まれる上下のキーワードの種類という観点からは、中国人母語話者が「上」、「下」という文字から上下の概念メタファーの影響を受けやすいのに対し、韓国人母語話者では「上」、「下」を含まない上下のキーワードからの影響の方が強いことが示唆された。さらに、「落ちる」、「落とす」という語について、今回の調査における 2 つの言語の比較においては、中国人母語話者はポジティブに、韓国人母語話者はネガティブに捉える傾向があると示された。

Ⅶ おわりに

本研究では、日本語学習者が日本語の慣用句の意味推測をする際、上下の概念メタファーがどのような影響を及ぼすのかを検討するために、調査対象者の母語と習熟度を統制して調査を行った。その結果、中国人日本語学習者、韓国人日本語学習者共に、学習者自身がもともと持っている上下のメタファーの概念を意味推測に活用することが明らかとなった。上下のキーワードが、慣用表現の意味のポジティブ、ネガティブに対応している一致型設問の方が、不一致型よりも推測がしやすいこと、また、推測が難しいであろうと予測した不一致型設問においては、やはり日本語習熟度が高いほど正答率が高くなることが示された。また、そのほかの正答率の差の要因としては、慣用句に含まれる上下のキーワードの性質、漢字の難易度、そして母語の慣用表現の影響があると考えられる。

このように本研究の仮説は支持されたが、課題も残されている。例えば、調査対象表現に含まれる上下のキーワードについて、その品詞の統制が不十分であった。「お高く留まる」では副詞が、「地に落ちる」では動詞が、「腰が低い」では形容詞がキーワードである。また、今回の調査対象表現の抽出においては、「一致型」であるか、「不一致型」であるかの統制をただけで、設問のキーワードの「上：下」の比率は均等ではなかった。例えば、一致型の9個の設問の「上：下」のキーワード比率は「4：5」であったが、不一致型の9個の設問の「上：下」のキーワード比率は「6：3」であり、統制が不十分である。これらは、そもそも上下のキーワードを含む慣用句がそれほど多くは存在しなかったというのも原因の1つであるが、より正確な結果を得るためには、さらに詳細な統制が必要である。

また、中立の選択肢の作成についても、さらなる検討が必要である。そもそも、慣用表現に対して完全にニュートラルな意味の錯乱肢を考え出すことは容易ではなく、結果として中立の錯乱肢が他の2つの選択肢に比べて単純になってしまった設問があった（「頬っぺたが落ちる」①信じていた人に裏切られる、②食べ物がとてもおいしい、③痩せる）。

これらの結果を踏まえて、今後はより厳密な統制の元で概念メタファーについて研究していきたい。また、上下の概念メタファーだけではなく、その他の空間的な概念メタファーにも研究範囲を広げていきたい。

付記

調査の実施に際しては、明治大学大学院の黄叢叢さんにご協力を賜りました。また、研

究の過程では、同じく明治大学大学院の黄叢叢さん、高ミンソンさん、そしてゼミのメンバーから、たくさんの示唆をいただきました。ここに記して感謝申し上げます。

参考文献

井上宗雄（1992）『例解慣用句辞典』東京：創拓社.

沖本正憲（2012）「身体経験とことば：プライマリー・メタファーの観点から」『苫小牧工業高等専門学校紀要』47号, pp. 6-35.

左咏梅（2007）「『上』と『下』のメタファーについて」『杏林大学大学院国際協力研究科大学院論集』4号, pp. 47-63.

鐘勇・井上奈良彦（2013）「日本語における上下メタファーの体系構成及びその特徴に関する一考察」『Studies in Languages and Cultures』30号, pp. 13-26. 靱山洋介（2014）『日本語研究のための認知言語学』研究社.

Lakoff, G. and M. Johnson (1980) *Metaphors We Live By*, Chicago: The University of Chicago Press. 渡部昇一, 楠瀬淳三, 下谷和幸（訳）(1986)『レトリックと人生』東京：大修館書店

NINJAL-LWP for BCCWJ (NLB) <<http://nlb.ninjal.ac.jp/>> (2017年11月10日閲覧)

付録

ちょうさひょう

調査票

この度は調査にご協力いただき、ありがとうございます。私は日本語の慣用句の意味推測に関して調査をしています。以下の質問を読んで、答えてください。どうしても答えたくない場合には、答えなくて構いません。

なお、収集した個人情報は厳重に保管いたします。また、本調査で得られたデータは、研究以外の目的で使用することはありません。

めいじだいがくこくさいにほんがくぶ ねん たかおかさき
明治大学国際日本学部 4年 高岡咲希

せいべつ おとこ おんな むかいとう
性別： ☐ 男 ☐ 女 ☐ 無回答

しゅっしんこく ちいき
出身国・地域： _____

ぼご
母語： _____

にほんごのうりよく にほんごのうりよくけんていしけん でん
日本語能力：日本語能力検定試験JLPT (N _____) _____点
にほんりゅうがくしけん てん
日本留学試験EJU _____点

にほんごがくしゅうれき ごうけい やく ねん かげつ
日本語学習歴： 合計 約 _____ 年 _____ ヶ月

しつもん
質問

以下の日本語の慣用句の意味は何だと思いますか。もっとも適切だと思うものを3つの選択肢の中から1つ選び、そのアルファベットに○をつけてください。

1. たな あ
棚に上げる
 - a. しゃかい ちい あ
社会での地位が上がる。昇進する。
 - b. じぶん みつごう もんだい かいけつ ききの
自分にとって不都合な問題の解決を先延ばしにする。
 - c. へや かたづ
部屋を片付ける。
2. ち お
地に落ちる
 - a. い しごと もらい あんてい
良い仕事をもらい、安定する。
 - b. けんい よわ ひょうばん おとろ
権威が弱まる。評判が衰える。
 - c. とお ばしょ ひっこし
遠い場所に引越しをする。

3. 気が沈む
- 表情を変えない。
 - リラックスする。
 - 不安や悲しみで気持ちが暗くなる。
4. お高く留まる
- 偉そうにする。気取る。
 - 山の中で暮らす。
 - お金持ちの家に生まれる。
5. 頭が高い
- 相手を見下す。無礼である。
 - 身長が高い。
 - 勉強ができる。賢い。
6. 心が弾む
- 喜びや楽しい期待で興奮する。
 - 緊張して落ち着かない。
 - 感情を顔に表さない。
7. 腰が低い
- 特に目立った特徴がない。
 - 貧乏である。社会的権力がない。
 - 他人に対して謙虚である。愛想がいい。
8. 手に落ちる
- 相手と良い関係を築く。
 - 相手の支配下になる。
 - 誰かと握手をする。
9. 諸手を挙げて、
- 水の中で溺れそうになりながら、
 - とても喜んで、大賛成して、
 - 何も考えずに、

10. 根^ねを下^{おろ}す
- a. 昔^{むかし}からずつと変^かわらない。
 - b. 悪い^{わる}習慣^{しゅうかん}をやめられなくなる。
 - c. しっかりと定^て着^{いちやく}する。
11. 眼^{がん}下^かに見^みる
- a. 相手^{あいて}を自分^{じぶん}より劣^{おと}ったものとして見^み下^{くだ}す。
 - b. 初^{しゅ}対^{たい}面^{めん}の人^{ひと}と会^あう。
 - c. 相手^{あいて}をあたたかい目^めで見^み守^{まも}る。
12. 手^てを上^あげる。
- a. 降^{こう}参^{さん}する。あきらめる。
 - b. 困^{こま}っている人^{ひと}を親^{しん}切^{せつ}に助^{たす}ける。
 - c. 乗^のり物^{もの}に乗^のって移^い動^{どう}する。
13. 身^みを落^おとす
- a. 単^{たん}独^{どく}行^{こう}動^{どう}をとる。
 - b. 相手^{あいて}を敬^{うやま}い謙^{けん}虚^{きょ}な態^{たい}度^どをとる。
 - c. 地^ち位^いや名^{めい}声^{せい}を失^{うしな}う。
14. 手^てに上^のる
- a. 相手^{あいて}の考^{かんが}えを知^しる。
 - b. 相手^{あいて}の計^{けい}略^{りやく}に引^ひつかかる。
 - c. 相手^{あいて}の意^い見^{けん}に賛^{さん}成^{せい}する。
15. 頬^ほっぺたが落^おちる
- a. 瘦^やせる。
 - b. 信^{しん}じていた人^{ひと}に裏^{うら}切^ぎられる。
 - c. 食^たべ物^{もの}がととも美^お味^いしい。
16. 目^めが高^{たか}い
- a. 良^いいものを見^み分^わける能^の力^{りよく}を持^もっている。
 - b. 外^{がい}見^{けん}を気^きにしない。
 - c. いつも偉^{えい}そうにしている。

17. 音を上げる
- a. 楽器を演奏する。
 - b. 明るく親切な口調で話す。
 - c. 苦痛に耐えられず弱音を吐く。

18. 腕が上がる
- a. 上手になる。技術が進歩する。
 - b. 降参する。あきらめる。
 - c. 意見を言う。主張をする。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

なお、この調査票を高岡咲希の研究に使用されることに、同意しない方は、以下の□に✓をしてください。

調査結果を研究目的に使用することに同意しない □

英語習熟度が日本人英語学習者の色彩語を用いた イディオムの意味推測に及ぼす影響

－ red、blue、green、white、black を対象に－

Factors of English Proficiency Affecting Semantic Inferences of the
Idioms Using Color Terms by Japanese Native Speaker Learning English
as a Second Language: in the Case of Red, Blue, Green, White, Black

明治大学 国際日本学部

井上 佳奈枝

Meiji University School of Global Japanese Studies

INOUE, Kanae

目次

I はじめに

II 先行研究

III 研究課題

IV 調査の概要

1. 調査対象者
2. 手続き
3. 材料

V 結果と分析

1. 英語習熟度から見た分析
 - 1.1. 下位群より上位群の正答率が高かったもの
 - 1.2. 上位群より下位群の正答率が高かったもの
2. 日本語と英語の色彩語に関する連想イメージの差異から見た分析
 - 2.1. 不一致型より一致型のほうが正答率の高いもの
 - 2.2. 一致型より不一致型のほうが正答率の高いもの
3. その他

VI 考察

VII おわりに

付記

参考文献

付録 1 調査票

付録 2 調査協力についての同意書

I はじめに

英語のイディオムの中には、“blue in the face”や“white lie”のように色彩語を用いた表現がある。“blue in the face”とは、「顔が青くなるほど疲労するまでやる」ということから、「無駄になることをやり続ける」という意味がある。しかし、日本語で「顔が青くなる」とは、驚き、恐怖、緊張などで顔色が青白くなることを表す。このように、英語と日本語では似た表現であっても、異なる意味で使われている場合がある。色彩語の連想イメージは、その言語特有のものであるため、英語学習者が、色彩語を用いた英語の慣用表現を意味推測する際に、英語習熟度が影響を及ぼす可能性がある。

そこで、色彩語を用いた英語の慣用表現について、日本人英語学習者がその意味を正しく推測できるかどうか、それは英語の習熟度に関係があるか、調査してみたい。日本人英語学習者は既に日本語で色彩語の連想イメージを習得しているため、英語の連想イメージの習得について影響があると考えられる。そのため、色彩語の連想イメージが日本語と英語で一致している慣用表現（以下、一致型）に比べて、連想イメージが一致していない慣用表現（以下、不一致型）の場合、母語からの負の転移により、英語学習者にとって、意味推測はより困難になると考えられる。また、英語習熟度が高くなるにつれて、英語の知識を正しく活用することで、母語による負の転移を抑えることができ、色彩語を用いた慣用表現を正しく意味推測できると考えられる。

この研究によって、日本人英語学習者が、英語における色彩語を用いた慣用表現を意味推測する際、日本語と英語の連想イメージの差異、あるいは、英語の習熟度がどのように関わるのかが明らかになる。こうした知見は、教育現場に対して示唆を与えることができると考える。

II 先行研究

本研究に関わる先行研究としては、日本語と英語における色彩語の連想イメージの差異に関する知見がある。これまでの研究成果としては、新妻（2013）、ハッターヤナン（2015）が参考になる。

新妻（2013）では、日本語と英語の色彩語における連想イメージが必ずしも一致するわけではないと述べた上で、色彩のイメージと意味は、色相そのものを表す意義素（sememe）と比喩的な意味を表す異意義（alloseme）から成り立つと分析し、色相が中心的意味を形成し、二次的意味としては比喩的意味が大部分を占めると述べている。その上で、例として、形容詞の“green”の意味拡張のプロセスを図で示している。その図では、“green”の色相そのものを表す意義素としては、“blue”と“yellow”の中間色であることから、顔色が悪いことが連想されることで“fear”、“jealousy”、“sickness”が暗示されることを示している。また、比喩的な意味を表す異意義としては、“young”と“fresh”の2つに分類され、“young”の下位区分として“full of vitality”、“(of a parson) simple”が、“fresh”の下位区分として“(of wood, vegetable) undried, unseasoned”、“(of flesh) unsalted, undried”、“(of meat) uncooked, raw”、“(of a wound, oil, wine) recent, fresh”、“(of memory) fresh, recent”が分類されることを示している。このことを踏まえ、日本語と英語において色彩語の連想イメージが必ずしも一致しないのは、色彩語の意味拡張に

よるものであると結論付けている。

また、ハッターヤナシ（2015）では色を使った「感情は色である」という概念について、赤(Red)、黄色(Yellow)、青(Blue)、緑(Green)、黒(Black)、白(White)の6色の日本語と英語の例文を示すことで、それぞれの連想イメージを分析している。日本語と英語において共通するものとしては、“EMBARASS IS RED”、“ANGER IS BLUE”、“FEAR IS BLUE”、“ASTONISHMENT IS WHITE”、“FEAR IS WHITE”を、日本語だけに存在するものとしては、“ASTONISHMENT IS BLACK”を、英語だけに存在するものとしては、“ANGER IS RED”、“DEPRESSMENT IS BLUE”、“ASTONISHMENT IS BLUE”、“ENVY IS GREEN”、“ANGER IS BLACK”、“DEPRESSION IS BLACK”、“COWARDICE IS WHITE”をあげている。その上で、日本語と英語における色彩語に関する連想イメージについて、共通する点と、異なる点が存在すると結論付けている。

しかし、どちらの研究でも、色彩語の連想イメージについて日本語と英語の間で共通する点と異なる点が存在していることは示唆されているが、学習者が色彩語からどのような発想を行い、イディオムの意味推測を行うかについては明らかにされていない。

Ⅲ 研究課題

先行研究を踏まえ、本研究では、日本人英語学習者にとって、有効な英語の学習方法を知るために、以下を研究課題とする。

課題 1：英語の習熟度は、日本人英語学習者が、色彩語を用いた慣用表現を意味推測する際にどのように影響するのか

課題 2：日本語と英語の色彩語に関する連想イメージの差異は、色彩語を用いた慣用表現を意味推測する際にどのように影響するのか

Ⅳ 調査の概要

1. 調査対象者

調査対象者は、明治大学の国際日本学部で「日本語教育学（語彙）B」を履修している日本母語話者の学生 28 名（男性 5 人、女性 23 人）である。調査時における英語習熟度は TOEIC 平均 773.15 点で、最高点が 935 点、最低点が 560 点であった。この自己申告してもらった TOEIC の点数を基準として、英語習熟度別のグループ分けを行い、TOEIC の点数が 560 点以上 775 点以下の 14 名を下位群、780 点以上 935 点以下の 14 名を上位群とした。また、海外滞在歴については、1 年未満が 11 人であり、3 年以上が 2 人、その他 15 人は海外滞在歴がなかった。滞在国は、1 年未満の者については、アメリカ 7 人、カナダ 2 人、イギリス 1 人、フィンランド 1 人であり、3 年以上の者についてはタイ 4 年が 1 人、ドイツ 4 年とオーストラリア半年が 1 人であった。

2. 手続き

調査は、2017 年 10 月 25 日 1 限「日本語教育学（語彙）B」の授業終了後に 515 教室で実施した。今回の調査の目的と流れを簡潔に説明した後、調査用紙を配布し、調査対象者全員が調査用紙を手にした段階で、調査時の留意点などを口頭で説明した。調査時の留意点として、調査用紙がフェースシート、質問、調査に関する同意書、の 3 部で構成されていることと、調査用紙が両面印刷になっていることを説明した。また、調査に関する同意書の記入方法を説明した。その後、調査用紙の記入を始める前に質疑の時間をとり、調査用紙の記入中に出た質問に対しては、個人的に対応をした。調査用紙の記入が終わった人から、調査用紙を筆者に提出してもらった。所要時間は全部で約 20 分であった。また、謝礼として、調査実施後に全調査対象者にお菓子を配布した。

3. 材料

『クラウン英語イディオム辞典』（三省堂）に掲載がある色彩語を用いたイディオムの中から、英検 2 級レベル以上のものを調査対象イディオムとして選んだ。2 級レベル以上から選ぶことにした理由としては、調査対象イディオムが調査対象者にとって未知のイディオムであるという要因を統制するためである。調査対象イディオムは、red、blue、green、white、black、の 5 色から各 4 個、計 20 個である。この 5 色を対象にした理由は、この 5 色が、先行研究で取り上げられており、かつ、調査対象イディオムを抽出する段階で、調査を実施するのに十分な個数のイディオムを確保できたためである。また、須賀川（1999）『英語色彩語の意味と比喩』によると、日本語と英語の色彩語の連想イメージは以下の通りである。（表 1）

表 1 英・日色彩のイメージ対照表

	英語	日本語
white・白	bright, clean, innocent, pure, cool; sterile	清潔、新鮮、無、潔白
black・黒	grief, despair, evil, sinister; elegant, strong	高貴、悲しみ、眠り、邪悪
red・赤	excitement, hot, active, rage, happy, strong	情熱、激怒、愛、危険、強さ
green・緑	fresh, happy, lively, gladness	新鮮、永遠、平和、落ち着き
blue・青	calm, peaceful, cool, wet, faithful, constancy	無限、理念、冷淡、平静

表 1 を参考にしながら、日本の色彩イメージに合うイディオム（一致型）と、合わないイディオム（不一致型）を分類した。日本の色彩イメージに合うか、合わないかについては、筆者を含めた日本語母語話者 3 人で判断を行った。また、「The Corpus of Contemporary American English」でそれぞれのイディオムの使用頻度を調べ、その中から、使用頻度が近いが、日本の色彩イメージと合うイディオムと、合わないイディオ

ムを 1 ペアとし、各色から、使用頻度が高いイディオムと低いイディオムの計 2 ペアを選んだ。このような手順を経て、最終的に抽出した調査対象イディオムは表 2 の通りである。

表 2 本研究の調査対象イディオム

	一致型	不一致型
white	• white-bread (退屈な、面白みのない) • make one's name white again (汚名をはらす)	• white night (眠れない夜) • white trash (無学な人)
black	• go black (意識を失う) • black day (不吉な日)	• be in the black (黒字である) • down in black and white (文書にする)
red	• see red (かっとなる) • see the red light (危険が迫っているのを知る)	• catch red-handed (現行犯で逮捕する) • go in the red (赤字になる)
green	• greener pasture (新しい分野) • a green old age (元気な老人)	• be green at (未熟である) • green-eyed monster (嫉妬、妬み)
blue	• once in a blue moon (まれに) • turn the air blue (雰囲気を悪くする)	• be in the blue (憂鬱である、落ち込んでいる) • cry blue murder (大声をあげる)

注：() は『クラウン英語イディオム辞典』の日本語訳

V 結果と分析

1. 英語習熟度から見た分析

調査用紙は、1 問 1 点で採点を行い、満点は 20 点とした。英語習熟度別の平均点、標準偏差、最高点、最低点、人数は以下の通りである。

表 3 英語習熟度別の結果

	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>Min</i>	<i>Max</i>	<i>N</i>
下位群	10.64	2.05	7	15	14
上位群	11.63	1.49	9	14	14

注：*M*は平均、*SD*は標準偏差、*Min*は最低、*Max*は最高、*N*は人数を示す。

表 3 を見ると、平均点は上位群と下位群とでは、ほとんど差がない。そこで、問題ごとに、習熟度別でどのような傾向があるのかを分析していくこととする。なお、より詳細な分析を行うために、調査終了後、複数の調査対象者にフォローアップ・インタビューを行い、なぜ、当該解答に至ったのか、個別に聞き取った。その結果も踏まえながら、考察を進めていくこととする。

まず、英語の習熟度が意味推測にどのような影響を及ぼすのかを検討するために、英語の習熟度の上位群と下位群で正答率に差があったものを具体的に分析することにする。以下は、各問題における、英語習熟度別の正答者数を表にしたものである。なお、表中の「×」は不一致型の慣用表現であることを、「○」は一致型の慣用表現であることを表している。

表 4 各問題における英語習熟度別の正答者数

慣用表現			下位群・ 正答者数	上位群・ 正答者数	合計
white	×	white night	2	2	4
	×	white trash	4	10	14
	○	white-bread	9	13	22
	○	make one's name white again	12	10	22
black	×	in the black	1	4	5
	×	in black and white	0	1	1
	○	go black	9	11	20
	○	black day	12	12	24
red	×	catch a person red-handed	6	8	14
	×	in the red	11	13	24
	○	see red	14	14	28
	○	see the red light	13	12	25
green	×	be green at	7	4	11
	×	green-eyed monster	10	6	16
	○	greener pasture	5	4	9
	○	green old age	5	9	14
blue	×	in the blue	10	14	24
	×	cry blue murder	0	0	0
	○	once in a blue moon	10	6	16
	○	turn the air blue	9	10	19

1.1. 下位群より上位群の正答率が高かったもの

表 4 を見ると、下位群より上位群のほうが正答者数の多かったもの、あるいは、下位群と上位群の正答者数が同じだったものは、全 20 問のうち 14 問ある。この 14 問のう

ち、以下では、“green old age”、“catch a person red-handed”、“white trash”、の3問を取り上げる。

表5 “green old age”の英語習熟度別で見た選択肢ごとの選択人数

He is a green old age.		
選択肢	下位群・正答者数	上位群・正答者数
a. 彼は自然を愛する老人である。	1	0
b. 彼は元気な老人である。(正答)	5	9
c. 彼は長生きな老人である。	8	5

“green old age”について、調査対象者に行ったフォローアップ・インタビューで上位群と下位群に共通して見られたのは、選択肢 a は誤答だという判断がしやすいというものであった。理由としては、「緑が豊かだ」というように、「緑」から「自然」は直接的に連想されるため、誤答であると疑いやすいというものであった。選択肢 a 以外の選択肢を見てみると、下位群は選択肢 c を、上位群は選択肢 b を選びやすい傾向にあった。選択肢 b を選んだ理由として考えられるのは、“green”を使った慣用表現である、“in the green tree”から連想したというものである。“in the green tree”とは、「元気な時に、繁栄の時代に」という意味の慣用表現であり、上位群は、英語に関する知識を正しく活用して正答を導くことができた者が多かったと考えられる。それに対して、選択肢 c を選んだ理由としてあげられていたのは、「緑」という色彩語から、「自然」を連想し、そこから選択肢 c の「長生きだ」を連想したというものである。このように、下位群では、色彩語から連想される具体的な事物を手がかりとして、選択肢を選ぶという傾向が多く見られたと考えられる。

表6 “catch a person red-handed”の英語習熟度別で見た選択肢ごとの選択人数

He caught her red-handed.		
選択肢	下位群・正答者数	上位群・正答者数
a. 彼は彼女を強い力で掴んだ。	6	6
b. 彼は彼女を現行犯で逮捕した。(正答)	6	8
c. 彼は彼女の成績をつけた。	2	0

“catch a person red-handed”については、選択肢 c を選んだ者は、下位群の2名のみであった。そのうちの1名にインタビューをしたところ、設問から手がかりを得ることができず、選択肢 c を見たときに、採点をする際に赤ペンを使うことを思い付き、選択肢 c を選んだというものだった。また、他の選択肢については、下位群、上位群ともに、正答選択肢と誤答選択肢を選んだ人数が分散しており、設問や選択肢からの手がかりを得ることができなかったために、このような結果になったと考えられる。

表 7 “white trash”の習熟度別で見た選択肢ごとの選択人数

He seems white trash but actually not.		
選択肢	下位群・正答者数	上位群・正答者数
a. 彼は一見、潔癖に見えるが、実際はそうではない。	9	4
b. 彼は一見、不健康に見えるが、実際はそうではない。	1	0
c. 彼は一見、無学に見えるが、実際はそうではない。(正答)	4	10

“white trash”については、下位群は選択肢 a を、上位群は正答である選択肢 c を選びやすい傾向にあった。選択肢 a を選んだ理由としては、「白」という色彩語から「白衣」などの医療に関するものを連想し、それを手がかりに「潔癖」という選択肢を導いたということが考えられる。それに対し、選択肢 c を選んだ理由としてインタビューであげられたのは、他の選択肢の「潔癖に見える」や「不健康に見える」という日本語に違和感を覚え、消去法で選んだというものであった。このことから、下位群は、色彩語から連想される具体的な物を手がかりに選択肢を選ぶ傾向にあったと考えられる。また、上位群は、設問や英語の知識から手がかりを得られなかったために、選択肢の日本語から正答を推測する者が多いという傾向にあったと考えられる。

1.2. 上位群より下位群の正答率が高かったもの

表 4 見ると、全般的には、上位群のほうが下位群より正答率が高くなるか、あるいは、正答率がほぼ変わらないという傾向があることがわかる。しかし、例外として、下位群のほうが上位群より明らかに正答率が高くなっている問題も見られた。そのうち、以下では、“green-eyed monster”を取り上げる。

表 8 “green-eyed monster”の習熟度別で見た選択肢ごとの選択人数

Many a woman is a victim of green-eyed monster.		
選択肢	下位群・正答者数	上位群・正答者数
a. 若さにこだわる女性は多い。	3	6
b. 菜食主義の女性は多い。	1	2
c. 嫉妬にとらわれる女性は多い。(正答)	10	6

“green-eyed monster”では、下位群の正答率が 71.4%であるのに対し、上位群の正答率は 42.8%となっており、上位群と下位群とで正答率が逆転している。調査対象者へのインタビューで、下位群と上位群に共通していたのは、選択肢 b の「菜食主義の女性は多い」は除外しやすいというものであった。理由としては、他の選択肢の「若さ」と「女性」や、「嫉妬」と「女性」というのは、関連性が感じられるが、選択肢 b の「菜食主義」と「女性」には関連性が感じられないからというものであった。選択肢 b を除いて分析

すると、下位群の解答が選択肢 **c** に偏っているのに対し、上位群は選択肢 **a** と選択肢 **c** の選択者数が均等になっている。選択肢 **c** を選んだ理由として考えられるのは、“monster”というネガティブなイメージが含まれる慣用表現だったために、「嫉妬にとらわれる」という強い表現を含む選択肢を選んだというものである。このことから、下位群は、色彩語ではない語を手がかりとして正答を導くことができた者が多かったと推測される。それに対し、上位群については、インタビューにおいて、色のイメージではなく、“monster”のイメージから選択肢 **c** を選んでよいのかを悩んだという意見が多く聞かれた。このことから、上位群が正答を導くことができなかったのは、解答を深く考えすぎたことも原因になり得るということが考えられる。

2. 日本語と英語の色彩に関する連想イメージ

色彩に関する連想イメージは日本語と英語では必ずしも一致しないと上で述べた。そこで、連想イメージが一致するか否かが、意味推測に影響を及ぼすのかを検討するために、色彩語と難易度は一致しているが、連想イメージが一致するもの（一致型）と、一致しないもの（不一致型）という 2 つの慣用表現を比較し、分析する。

以下は、含まれる色彩語と使用頻度は同じであるが、日本語と英語で連想イメージが異なるものと同じものという 2 つの慣用表現をペアとして、英語習熟度別の正答者数と全体の正答者数を表したものである。

表 9 一致型、不一致型で見た英語習熟度別の正答者数とその合計

		慣用表現	下位群・ 正答者数	上位群・ 正答者数	合計
①	×	white night	2	2	4
	○	white-bread	9	13	22
②	×	white trash	4	10	14
	○	make one's name white again	12	10	22
③	×	in the black	1	4	5
	○	go black	9	11	20
④	×	in black and white	0	1	1
	○	black day	12	12	24
⑤	×	catch a person red-handed	6	8	14
	○	see red	14	14	28
⑥	×	in the red	11	13	24
	○	see the red light	13	12	25
⑦	×	be green at	7	4	11
	○	greener pasture	5	4	9
⑧	×	green-eyed monster	10	6	16
	○	green old age	5	9	14

⑨	×	in the blue	10	14	24
	○	once in a blue moon	10	6	16
⑩	×	cry blue murder	0	0	0
	○	turn the air blue	9	10	19

2.1. 不一致型より一致型のほうが正答率の高いもの

表 9 を見ると、連想イメージが一致していないものより、一致しているもののほうが正答率の高いものが、10 個のペアのうち 7 ペアで、多いことがわかる。この 7 ペアのうち、“in the black”と“go black”、“cry blue murder”と“turn the air blue”、“white night”と“white-bread”の 3 ペアを取り上げる。

表 10 “in the black”と“go black”の英語習熟度別で見た選択肢ごとの選択人数

The business is in the black. (×)		
選択肢	下位群・正答者数	上位群・正答者数
a. そのビジネスは景気が良い。(正答)	1	4
b. そのビジネスは見通しが立っていない。	13	8
c. そのビジネスは違法である。	0	2
He went black. (○)		
選択肢	下位群・正答者数	上位群・正答者数
a. 彼は気を失った。(正答)	9	11
b. 彼は意地悪だった。	3	2
c. 彼は怒り出した。	2	1

“in the black”では、下位群、上位群ともに正答の選択肢 b を選択する者が最も多かった。“in the black”は、直訳すると「黒の中にいる」となるため、「目の前が見えない、見通しが立たない」という推測に至ったと考えられる。また、日本語には、利益が出ることを表す「黒字」や、職権を乱用し不正を働く様を表す「黒い霧」という表現があるが、それらから連想されると考えられる選択肢 a や選択肢 c は回答する者は比較的少なかった。

“go black”では、合計 20 人が正答を選んでいる。「黒」から連想されるイメージの 1 つに「眠り」があるが、その連想イメージから「意識を失う、気を失う」という推測ができたのではないかと考えられる。このことから、この問題に関しては、過半数の者が日本語の知識を正しく活用して、正答を導くことができたのではないかと考える。

表 11 “cry blue murder”と“turn the air blue”の英語習熟度別で見た選択肢ごとの選択人数

He cried blue murder. (×)		
選択肢	下位群・正答者数	上位群・正答者数
a. 彼は解放を求めた。	1	0

b. 彼は不幸を嘆いた。	13	14
c. 彼は大声をあげた。(正答)	0	0
His language turned the air blue. (○)		
選択肢	下位群	上位群
a. 彼の一言で、気分が晴れた。	5	2
b. 彼の一言で、周りの人は落ち着いた。	0	2
c. 彼の一言で、雰囲気が悪くなった。(正答)	9	10

“cry blue murder”では、正答を導けた者は0人であり、大多数が選択肢bを選んだ。須賀川（1999）によると、日本語の「青」から連想されるイメージの1つに「冷淡」があり、それに加え「殺人」という意味の“murder”が使われている慣用表現であることから、「不幸を嘆く」という選択肢bを導いた可能性があり、正答である選択肢cは選びにくかったと考えられる。

“turn the air blue”では、合計19人が正答を導くことができている。“turn the air blue”は、直訳すると、「空気を青くする」となる。また、須賀川（1999）によると、「青」から連想されるイメージの1つに「冷淡」があることから、解答者は「空気を青くする、雰囲気を悪くする」と連想できたのではないかと考えられる。そのため、日本語の知識を正しく転用することで正答を導くことができた者が多かったのではないかと考えられる。

表 12 “white night”と“white-bread”の英語習熟度別で見た選択肢ごとの選択人数

He had white night yesterday. (×)		
選択肢	下位群・正答者数	上位群・正答者数
a. 彼は昨日の夜、幸せな気分だった。	6	3
b. 彼は昨日の夜、何もすることがなかった。	6	9
c. 彼は昨日の夜、眠れなかった。(正答)	2	2
He tells the white-bread story again and again. (○)		
選択肢	下位群・正答者数	上位群・正答者数
a. 彼はそのつまらない話を何度もした。(正答)	9	13
b. 彼はその感動的な話を何度もした。	3	0
c. 彼はその分かりにくい話を何度もした。	2	1

“white night”では、下位群、上位群ともに正答を選択したものが最も少なかった。選択された誤答を見てみると、誤答を選択した人数が6人ずつに分散しているのに対し、上位群は選択肢bを選択した者が9人（64.3%）であった。“white”には、“white space”で「空欄」という意味があるように、「空白の、白紙の」という意味がある。そのため、上位群はこの“white”の使い方を知っており、その知識を誤って転用した可能性があると考えられる。

“white-bread”では、合計22人が正答を導くことができている。須賀川（1999）によ

ると、「白」から連想されるイメージの1つに、「無」というものがある。そこから、日本語での「白」の連想イメージを正しく転用することで、“white-bread story”を「中身のない話、つまらない話」と推測できたのではないかと考えられる。

2.2. 一致型より不一致型のほうが正答率の高いもの

表9を見てみると、一致型より不一致型のほうが正答率の高いものは10ペアのうち3ペアとなっている。そのうち、“be green at”と“greener pasture”、“in the blue”と“once in a blue moon”、の2ペアを取り上げて、分析する。ただし、一致型より不一致型のほうが高くなっているものに、“green-eyed monster”と“green old age”があるが、“green-eyed monster”については、すでに分析を行っているため、ここでは省略する。

表13 “be green at”と“greener pasture”の英語習熟度別で見た選択肢ごとの選択人数

He is green at his job. (×)		
選択肢	下位群・正答者数	上位群・正答者数
a. 彼は同じ仕事を長く続けている。	4	4
b. 彼は今の仕事を気に入っている。	3	6
c. 彼はまだ仕事に不慣れだ。(正答)	7	4
The company is seeking greener pastures. (○)		
選択肢	下位群・正答者数	上位群・正答者数
a. その会社は環境への取り組みを模索している。	5	6
b. その会社は安定した収入源を模索している。	4	4
c. その会社は新しい分野を模索している。(正答)	5	4

“be green at”では、上位群では回答が分散している。このことから、“green”に関する知識や、日本語からの転用など、回答を決定づける手がかりが上位群は得ることがなかったと考えられる。それに対し、下位群は半数の解答者が正答を導くことができている。選択肢を分析してみると、選択肢aと選択肢bはポジティブ意味であるのに対し、選択肢cはネガティブな意味のものであった。そのため、選択肢cは目立っていたと推測され、下位群では、深く考えずに回答したために選択肢cを選ぶ者が多かった可能性があると考えられる。

“greener pasture”では、下位群、上位群ともに回答が分散している。選択肢aに関しては、「緑」から「自然」が連想され则认为られ、「環境への取り組み」という選択肢を選ぶ可能性があったと考えられる。また、須賀川（1999）によると、「緑」から連想されるイメージには「新鮮」、「永遠」、「平和」、「落ち着き」などがある。「永遠」や「落ち着き」からは選択肢bの「安定した収入源」、「新鮮」からは選択肢cの「新しい分野」が推測されると考えられる。このことから、すべての選択肢に選ぶための手がかりがあったと考えられ、解答が分散する原因になったと考えられる。

表 14 “in the blue”と”once in a blue moon”の英語習熟度別で見た選択肢ごとの選択人数

He is much in the blues. (×)		
選択肢	下位群・正答者数	上位群・正答者数
a. 彼は常に冷静である。	4	0
b. 彼は気が沈んでいる。	10	14
c. 彼は思いやりに欠ける。	0	0
He smiles once in a blue moon. (○)		
選択肢	下位群・正答者数	上位群・正答者数
a. 彼はよく苦笑いをする。	3	4
b. 彼はまれに笑顔を見せる。(正答)	10	6
c. 彼はしばしば晴れやかに笑う。	1	4

“in the blue”では、合計 24 人となっている。須賀川（1999）によると、「青」から連想されるイメージとして、「無限」、「理念」、「冷淡」、「平静」があげられ、「気が沈んでいる」という意味の”in the blues”は不一致型の慣用表現になる。しかし、日本語では気分が沈むことや落ち込むことを表すときに、「ブルーな気分になる」といった表現を使うことから、正答を導くことは容易だった可能性があると考えられる。

“once in a blue moon”では、正答を導くことができたのは合計 16 人であった。インタビューで聞かれたのは、“moon”が遠くにあるものであるから、“once in a blue moon”は「長い期間の内に一回、まれに」という推測をしたということであった。このことから、色彩語である”blue”から手がかりは得ることができなかったが、“moon”などの慣用表現の他の要素からも正答を導くことができると考えられる。

3. その他

以上では、英語習熟度別、日本語と英語の連想イメージの差異の観点から分析を行ったが、ここでは、その中で扱わなかった問題のうち、“make one’s name white again”を分析する。

表 15 “make one’s name white again”の英語習熟度別で見た選択肢ごとの選択人数

He made his name white again.		
選択肢	下位群・正答者数	上位群・正答者数
a. 彼は自分で出した案を白紙に戻した。	0	0
b. 彼は自らの汚名をはらした。(正答)	12	10
c. 彼は表舞台から姿を消した。	2	4

“make one’s name white again”では合計 22 人が正答を導くことができています。須賀川（1999）によると、「白」から連想されるイメージの 1 つに「潔白」があり、その知識を正しく転用することで、正答の「汚名をはらす」を導くことができたのではないかと考えられる。また、全体で 6 名（21.4%）が選択していた選択肢 c について、“name”

を「名声」と解釈し、「白」から連想される「無」と合わせることで「名声を失くす、表舞台から姿を消す」といった意味推測を行った者もいた可能性があると考えられる。

VI 考察

今回の研究では、英語の習熟度は、日本人英語学習者が、色彩語を用いた慣用表現を意味推測する際にどのように影響するのか、日本語と英語の色彩語に関する連想イメージの差異は、色彩語を用いた慣用表現を意味推測する際にどのように影響するのか、の二つを課題として調査を行い、分析した。

まず、前者の課題については、日本人英語学習者が色彩語を用いた慣用表現の意味推測を行う際、英語習熟度が低い者に比べて、英語習熟度の高い者のほうが正答率が高くなる傾向があることが明らかになった。その要因として、英語習熟度の高い者は意味推測をする際に、英語の他の知識を正しく活用できたことが挙げられる（例：問題 3）。また、調査対象者全員に共通して、選択肢の日本語を吟味して誤答を排除しようとする傾向があったが、英語習熟度の高い者のほうがその傾向がより強かった。そのため、日本語を深く吟味しすぎたために正答を導くことができず、英語習熟度の低い者のほうが正答率の高くなった問題なども見られた（例：問題 17）。

また、二つ目の課題については、色彩語の連想イメージが日本語と一致しない慣用表現（不一致型）に比べて、一致する慣用表現（一致型）のほうが正答率は高くなる傾向があることが明らかになった。一致型の場合、日本語の連想イメージを正しく転用することで正答を導くことができた問題が見られた（例：問題 8）。それに対し、不一致型は日本語における連想イメージを誤って転用することによって正答を導くことができなかった問題も見られた（例：問題 13）。

このほかに、日本人英語学習者が色彩語を用いた慣用表現を意味推測する際に、英語の知識や連想イメージではなく、他のものを手がかりとして意味推測をすることも明らかになった。一つ目にあげられるのは、色彩語から連想される具体的な事物である。例としては、問題 3 の“green”から「自然」を連想したというものである。また、二つ目としてあげられるのは、選択肢の日本語である。例としては、問題 15 の「潔癖に見える」、「不健康に見える」という日本語に違和感を覚え、選択候補から除外した解答者がいたというものである。特に、このような、日本語を手がかりに解答を選択するという傾向は、英語習熟度の高い者に多く見られた。

VII おわりに

本研究では、日本人英語学習者が英語における色彩語を用いた慣用表現を意味推測する際、日本語と英語の連想イメージの差異、あるいは、英語の習熟度がどのように関わるのか、を検討するために、調査を行った。その結果、英語習熟度が低い者に比べて、英語習熟度の高い者のほうが正答率の高くなる傾向があることが明らかになった。また、色彩語の連想イメージが日本語と一致しない慣用表現（不一致型）に比べて、一致する慣用表現（一致型）のほうが正答率は高くなる傾向があることも示された。このように、日本人英語学習者が未知のイディオムを意味推測する際に、英語習熟度や、日本語と英

語の色彩語に対する連想イメージの差異が影響を及ぼすという結果から、英語教育現場の中で、効率的な英語の教え方に一定の示唆を提供できると考えられる。

しかし、今回の研究には課題も残されている。まず、調査対象者の英語習熟度が全体的に高かったことである。日本における大学生の TOEIC の平均点が 500 点前後であると言われている。それに対し、今回の調査対象者は、TOEIC の平均が 773.15 点で、最高点が 935 点、最低点が 560 点であり、日本における大学生の平均点を大きく上回っていた。今後の調査では、調査対象者の英語習熟度の幅を広くすることで、未知のイディオムの意味推測に及ぼす英語習熟度の影響を、より明確に検討できるのではないかと考えられる。

また、今回の調査では、海外滞在歴が、未知のイディオムの意味推測に及ぼす影響についても検討を試みた。しかし、滞在国、滞在していた時の年齢、滞在国で教育を受けた言語などが多様であり、統制が困難であった。この点についても、今後の課題として取り組んでいきたいと考える。

付記

調査の実施に際しては、明治大学の小森和子先生のご協力を賜りました。さらに、研究の過程では、ゼミのメンバー（高岡咲希さん、米持こあきさん、徐麗娜さん、金テリンさん）から、たくさんの示唆をいただきました。ここに記して感謝申し上げます。

参考文献

- 安藤貞雄（編）（2014）『クラウン英語イディオム辞典』東京：三省堂。
- 坂本真樹・内海彰（2007）「色彩形容詞と名詞の相互作用による色彩形容詞メタファーの認知効果」『特集：修辞の認知科学』14（3），380-397.
- 須賀川誠三（1999）『英語色彩語の意味と比喻』東京：成美堂。
- 新妻明子（2013）「心的状態を表す英語の色彩語メタファー - 認知意味論に基づく意味拡張のプロセス - 」『常葉大学短期大学部紀要』44 号, 47-62.
- ハッタヤーナン ナパット（2015）「日本語の慣用句・英語のイディオムにおける色彩を使う感情表現メタファー：メトニミーと認知メタファー理論に基づく意味理解およびその文化性」『日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集』30 期巻, 52-75.
- 伴浩美（2005）「日英色彩語の連想イメージの比較」『国際教養学部紀要』1, 117-128.
- The Corpus of Contemporary American English <<https://corpus.byu.edu/coca/>> (2017 年 10 月 6 日閲覧)

付録 1

調査票

このたびは調査にご協力いただき、ありがとうございます。私は、日本人英語学習者のイディオムの意味推測について調査をしています。以下の質問を読んで、答えてください。どうしても答えたくない場合は、答えなくて構いません。

なお、収集した個人情報は厳重に管理いたします。また、本調査で得られたデータは、研究以外の目的で使用することはありません。

明治大学国際日本学部 4年 井上佳奈枝

国籍： _____

性別： ☐男 ☐女 ☐無回答

学部・学科： _____

英語能力：TOEIC _____点

TOEFL _____点

英検 _____級

英語学習歴： 合計 _____年 _____ヶ月

海外滞在歴（旅行は除く）：

国： _____

教育を受けた学校： ☐日本人学校 ☐インターナショナルスクール

☐ローカルスクール ☐その他

()

教育を受けた言語： _____

期間： ☐～1年 ☐1年～3年 ☐3年～

滞在時の年齢： _____歳 _____ヶ月～ _____歳 _____ヶ月

目的： ☐親の仕事の都合 ☐留学 ☐ホームステイ

☐その他 ()

質問

以下の英文の意味は何ですか。3つの選択肢の中から、日本語訳として最も適当なもの

のに○をつけてください。

1. **The business is in the black.**
 - a. そのビジネスは景気が良い
 - b. そのビジネスは見通しが立っていない
 - c. そのビジネスは違法である

2. **His language turned the air blue.**
 - a. 彼の一言で、気分が晴れた
 - b. 彼の一言で、周りの人は落ち着いた
 - c. 彼の一言で、雰囲気が悪くなった

3. **He is a green old age.**
 - a. 彼は自然を愛する老人である
 - b. 彼は元気な老人である
 - c. 彼は長生きな老人である

4. **He had white night yesterday.**
 - a. 彼は昨日の夜、幸せな気分だった
 - b. 彼は昨日の夜、何もすることがなかった
 - c. 彼は昨日の夜、眠れなかった

5. **Yesterday was a black day.**
 - a. 昨日は不吉な日だった
 - b. 昨日は天気が悪かった
 - c. 昨日は悲しいことがあった

6. **He went \$6000 in the red.**
 - a. 彼は 6000 ドルを火事で失った
 - b. 彼は 6000 ドルの損失を出した
 - c. 彼は 6000 ドルを恋人に貢いだ

7. **He made his name white again.**
 - a. 彼は自分で出した案を白紙に戻した
 - b. 彼は自らの汚名をはらした
 - c. 彼は表舞台から姿を消した

8. He went black.

- a. 彼は気を失った
- b. 彼は意地悪だった
- c. 彼は怒り出した

9. He caught her red-handed.

- a. 彼は彼女を強い力で掴んだ
- b. 彼は彼女を現行犯で逮捕した
- c. 彼は彼女の成績をつけた

10. He could have seen the red light.

- a. 彼は危険を感じたはずだ
- b. 彼は一生懸命に取り組んだはずだ
- c. 彼は私の怒りに気づいたはずだ

11. He smiles once in a blue moon.

- a. 彼はよく苦笑いをする
- b. 彼はまれに笑顔を見せる
- c. 彼はしばしば晴れやかに笑う

12. The company is seeking greener pastures.

- a. その会社は環境への取り組みを模索している
- b. その会社は安定した収入源を模索している
- c. その会社は新しい分野を模索している

13. He cried blue murder.

- a. 彼は解放を求めた
- b. 彼は不幸を嘆いた
- c. 彼は大声をあげた

14. His language made me see red.

- a. 彼の言ったことに私は愛情を感じた
- b. 彼の言ったことは私を突き放していた
- c. 彼の言ったことで私はかっとなった

15. He seems white trash but actually not.

- a. 彼は一見、潔癖に見えるが、実際はそうではない
- b. 彼は一見、不健康に見えるが、実際はそうではない
- c. 彼は一見、無学に見えるが、実際はそうではない

1 6 . I had it down in black and white.

- a. 私はそれに決着をつけた
- b. 彼はそれを文書にした
- c. 私はそれを汚してしまった

1 7 . Many a woman is a victim of green-eyed monster.

- a. 若さにこだわる女性が多い
- b. 菜食主義の女性が多い
- c. 嫉妬にとられる女性が多い

1 8 . He tells the white-bread story again and again.

- a. 彼はそのつまらない話を何度もした
- b. 彼はその感動的な話を何度もした
- c. 彼はその分かりにくい話を何度もした

1 9 . He is much in the blues.

- a. 彼は常に冷静である
- b. 彼は気が沈んでいる
- c. 彼は思いやりに欠ける

2 0 . He is green at his job.

- a. 彼は同じ仕事を長く続けている
- b. 彼は今の仕事を気に入っている
- c. 彼はまだ仕事に不慣れだ

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

調査協力についての同意書

私は、明治大学国際日本学部、井上佳奈枝の実施する「日本人英語学習者のイディオムの意味推測に関する研究」について、その方法の説明を受けました。また、個人が特定されるような情報は一切公開されないことについての説明も受けました。

よって、

本日記入した質問紙、調査票を井上佳奈枝の研究に使用されることに同意します。同意しない方は下の□にチェックをしてください。

☐同意しません。

- ① データの収集は卒業研究のためであり、他の目的には一切使用しない。
- ② 調査協力者のデータや個人に関する情報が卒業論文に掲載される場合、匿名とし、個人が特定される情報をすべて削除する。
- ③ 調査協力者は、本同意書で同意しても、いつでもこの同意を撤回できる。同意を撤回する場合は、以下の連絡先へ連絡する。

明治大学 国際日本学部 井上佳奈枝

〒164-8525 東京都中野区中野4-21-1

03-5343-8000

2017 年 10 月 25 日

調査協力者 _____

なぜフィンランドでは同性婚合法化が遅れたのか
—キリスト教と同性愛の観点から—

Why was Finland late in legislation of same-sex marriage?
: The relationship between Christianity and homosexuality

明治大学 国際日本学部
林 楓

Meiji University School of Global Japanese Studies
Kaede Hayashi

【目次】

I	序論	・・・1
II	先行研究	
1.	日本における宗教と同性愛	・・・2
2.	キリスト教の中の同性愛	・・・3
III	フィンランドの宗教ーフィンランド福音ルター派教会とフィンランド正教会ー	・・・5
IV	同性婚法制化までの歴史的経緯とキリスト教会における同性婚への対応	・・・7
V	フィンランド人の宗教観と同性愛・同性婚に関する意識ーユーロバロメーターとインタビューからー	・・・10
1.	同性愛の支持	・・・11
2.	同性婚の支持	・・・13
3.	宗教観の影響	・・・14
4.	同性愛差別	・・・14
5.	同性婚法制化	・・・16
6.	法制化がフィンランド人に与える影響	・・・17
VI	考察	・・・18
VII	結論	・・・19
	謝辞	
	注釈	

I 序論

本研究の目的は、フィンランドにおいて同性婚の法制化が他の北欧諸国より遅れた理由を明らかにしていくことである。

2017年3月、フィンランドで同性婚に関する法律が施行され、その週に41組の同性カップルが法的な婚姻関係を認められた。以前は同性カップルに婚姻に準じた法的効果を与える登録パートナーシップ制度が2002年に制定されていたが、一部の権利が制限されていた。今回施行された法律は2014年に賛成101反対99で可決していたが、施行までにさらに3年を要した¹。この間に、一部の団体から同性婚合法化を反対する請願書が提出されているが、賛成120－反対48で取り下げられている。この法律は、新たに同性カップルの養子縁組や同姓を名乗ることを認めており、キリスト教会が同性カップルの挙式を拒否することを制限していない。他の北欧諸国においては、2008年にノルウェー（上院賛成32－反対17、下院賛成84－反対41、ただし施行は翌年）、2009年スウェーデン（賛成226－反対22）、2010年アイスランド（賛成49－反対0）、2012年デンマーク（賛成85－反対24、）で可決している。つまり、フィンランドは同性婚の合法化が北欧諸国の中では遅れており、また賛否がかなり拮抗していることがわかる。

それでは、なぜ福祉、教育、男女平等など様々な分野で、他の北欧諸国と同様の、あるいはより先進的な取り組みを見せるフィンランドで同性婚の合法化が遅れたのだろうか。たしかに、同性婚を許容・推進する人が若い世代に増えている一方で、保守的な価値観を持ち、反対している人々がいるのも事実である。しかしフィンランド人が総体として同性婚、同性愛をどのように捉えているのかについては、既存の研究では必ずしも明らかにされていない。そこで本研究では、フィンランドで同性婚の合法化が遅れた背景にフィンランド人の宗教観が影響しているという仮説を立て、これを手がかりに分析を進める。

なお、本論文では「同性愛」「同性婚」を異なるものとして扱う。

II 先行研究

1. 日本における宗教と同性愛

世界の諸宗教は同性愛に非寛容的であることが多い。イスラム教では同性愛を強く非難しており、イスラム国家では同性愛は重罪になることもある。

では、日本の場合はどうであろうか。日本に男色を持ち込んだのは真言宗の創始者、空海であるという伝承がある。しかし空海が学んだ大陸の寺院で同性愛文化が栄えていたという証拠は無い²ため、「性愛は無条件に良いこと」という神道の考えが日本の仏教界の男色文化に影響を与えたことが推測される²（リュープ、2014:54）。仏教は歴史的に同性愛に寛容であることが多くの研究で指摘されている。仏教では本来戒律で僧侶が女性と関係を持つことが禁じられていた一方で、中世になると稚児と呼ばれる少年が寺院で僧侶と男色関

係を持つようになった。戒律では僧侶が女性と関係を持つこと、仏教では女犯することを禁じていたため僧侶の性愛対象が少年へと移っていったと考えられる³（松尾，2008:81）。この男色文化は中世以降近世まで、仏教界だけでなく僧侶を敬っていた武家社会にも広がった。この日本の同性愛に対する寛容さに変化が起こったのは近代に入り西洋の価値観が取り入れられるようになった影響による。同章第2節で詳しく論ずるが、キリスト教では同性愛が聖書に反していると考えられていた。

また、これまでに日本では同性婚は法的に認められていない。日本国憲法 24 条によると、「婚姻は、両性の合意のみに基づいて成立し」とされるため、同性間の婚姻は憲法に違反するという考えもある。同性婚に関する法律は無いが、2015 年に渋谷区が「渋谷区男女平等及び多様性を尊重する社会を推進する条例」を施行し、同性カップルにパートナーシップ証明書の交付を始めた。これは同性カップルの婚姻関係を公的に認める初めての条例で、全国的に話題となった。同年 11 月には同性婚の法制化についての調査が初めて行われた。同調査によると、「賛成」「やや賛成」の割合が 51.1%で、半数を超えている。年代が上がるにつれて「反対」の意見が多く、50 歳代以上では「伝統的な家族の在り方が失われる」との理由が目立つ⁴（釜野他，2015:152）。一方、日本人の宗教意識にも変化がみられる。文化庁の行った調査によると、宗教を信じる日本人の割合は減少傾向にあり、特に若い世代は 8 割程度の人が信じていないと答えている⁵（文化庁，2017:54）。

現在では法的に同性婚が認められていないにもかかわらず、同性カップルの結婚式を提供している仏教寺院や神社もある。京都の春光院では 2010 年以降 5 組の同性カップルが挙式を挙げている⁶。また、大阪にある金光教系の新タイプ神社「願いの宮」は 2017 年にレインボーフェスタで「平等結婚式」を神前式で執り行った⁷。しかし、結婚情報サイト「みんなのウェディング」の式場検索で LGBT フレンドリーな寺社・仏閣で検索すると 382 件中 1 件しか該当しなかった。日本の宗教界における同性婚への対応はあまり進んでいないと言わざるを得ない。

2. キリスト教の中の同性愛

キリスト教における同性愛への態度は教派によって異なる。同性愛を否定するキリスト教徒の間では「聖書で同性愛が否定されている」という主張があるが、実際には聖書で同性愛について言及している箇所は多くない。ヘイズによると、以下の箇所で同性愛に関する記述がある。

①創世記 19 章ソドムとゴモラ

②レビ記 18 章「女と寝るように男と寝てはならない」という記述があり、同性愛行為は反道徳的な性行動とされる。

③コリントの信徒への手紙 6 章

④ローマ人への手紙 1章 女性同士の同性愛に触れた聖書唯一の箇所

しかし、ヘイズは聖書での記述は当時の社会規範も反映されていると指摘し、さらに同著で同性愛者を認めたうえで同性愛を続けることはキリスト教者としてふさわしくないと主張する⁸（ヘイズ、2002:37）。

また、聖書だけではなくキリスト教会の伝統的に同性愛は神の意志に反すると教えられてきた。神学者には同性愛行為が姦淫や殺人よりも重いものと断言する者もいる。

聖書の記述以外にも、同性愛の「不自然さ」から同性愛を否定する考えもある。ボズウェルによると、キリスト教では生殖に関係のない性行為は不自然とされる。同性愛が不自然であるという観念はキリスト教の台頭とともに広がり、自然であること倫理の基準として用いることで西欧思想に深く影響を与えた⁹（ボズウェル、1990:40）。しかし、「自然」という語は福音書には出てこないことをボズウェルは指摘している。「自然」の概念はキリスト教が広まる前から存在するため、キリスト教の教義から来たものとは一概には言えないだろう。

このような歴史的背景があり、近年までキリスト教で同性愛は否定されてきたが、現在はどうなのだろうか。現在は教派や地域によって大きく異なっており、同性愛を否定しているのは主にカトリック教会と正教会である。

カトリック教会においては、同性愛や離婚を認めて来なかった。同性愛に関しては「カトリック教会のカテキズム」に言及があり、「内在的に乱れたものである」とされている。しかし、長い期間にわたり伝統に従い同性愛を禁忌としてきたカトリック教会に近年変化がみられるようになった。2014年にはローマ法王庁が「教会は同性愛者や離婚した信者を歓迎し、尊重すべき」といった文章の書かれた報告書を提出し、「同性愛者はカトリック社会に恩恵」と述べた¹⁰。現在のローマ法王は現代社会に合わせて同性愛や家族観への態度を変化させており、2016年には記者に対し「われわれキリスト教徒には、謝らねばならないことがたくさんある。今回のこと（同性愛者の待遇）に限らないが、私たちは許しを乞わなければならない。謝罪するだけでなく許しを」「同性愛者を裁く立場にない」などと述べている¹¹。ローマ教皇だけでなく、2015年にはポーランドの神父が同性愛を告白しており、カトリック全体に変化の兆しがみられるものの、教会内部には教義に厳格な保守派と、柔軟な改革派との対立があるという¹²。しかし最近またローマ法王は同性愛に対し批判的な姿勢を見せるようになっていく。例えば2014年には「家族に同性愛者がいる人への配慮を記したものの、同性婚は認めない」と発言、さらに2016年にはロシア正教会の総教主と共同で同性婚反対への姿勢を示す声明を発した¹³。

正教会でも同性愛は否定されており、ロシア正教会のキリル総教主（Patriarch Kirill）は同性愛を重罪であると述べている¹⁴。キリル総教主は2017年に「同性愛はナチスの方と並ぶ」ほど不道徳であると声明を出し、批判を集めた。しかし、キリル総教主の主張は「同

性婚は全人類の道徳に反し、それゆえファシズムやアパルトヘイトと同じ理由で人々は同性婚を標準化することに反対する」であり、正教会の教義やキリスト教的な価値観は理由に反映されていない。また、アメリカ合衆国の正教会のヤコブス・ヨハネス神父（**Fr. Johannes Jacobse**）は、キリル総教主の主張は根本的な問題を指摘しながらも、キリルの発言は多くの批判を集めるだろうと述べている。正教会は国や地域ごとに独立正教会、自治正教会が組織されているのでその教会や聖職者によって同性愛・同性婚への見解は異なっている。

日本を含め同性婚を法制化していない国や宗教上同性愛に否定的な国でも一部の **LGBT** 当事者や支援者による組織や同性婚を支持する教会は存在し、教派が同性愛支持・不支持に直結するとは言えない。

プロテスタント諸教会は教派によって見解が異なるため、次章においてフィンランドに信者の多い福音ルター派教会について次章で詳しく述べることにする。

表 1. フィンランド基本情報

正式名称	: フィンランド共和国 (Republic of Finland)
政体	: 共和制
面積	: 33.8 万平方キロメートル (日本よりやや小)
人口	: 約 550 万人 (2017 年 1 月末時点)
首都	: ヘルシンキ
言語	: フィンランド語, スウェーデン語 (全人口の約 5.4%)、 他サーミ語、手話
宗教	: キリスト教 (福音ルター派 72% , 正教会 1.1%)

(出典) 外務省ホームページより作成¹⁵

Ⅲ フィンランドの宗教—福音ルター派教会とフィンランド正教会—

現代におけるフィンランドの主な宗教はフィンランド福音ルター派教会とフィンランド正教会であり、国教に位置付けられている。この 2 教会の信者には教会税が課されている。しかし、フィンランドの宗教は歴史的に見ると複雑だ。

フィンランドにキリスト教が入ってきたのは 11 世紀頃である。フィンランドの民族叙事詩「カレワラ」は 1800 年代に民族学者リョンロート (**Elias Lönnrot**) がフィンランド東部カレリア地方から採集された歌謡をまとめたもので、キリスト教化される前のフィンランドの宗教や神話について書かれている。また、カレワラはロシアから独立の気運を高め、カレワラが採集されたカレリア地方はフィンランド人の心の故郷とも呼ばれている。

フィンランドがキリスト教化された 11 世紀、キリスト教は西のスウェーデン、東のノブ

ゴロド共和国（現在のロシア東部）の両側から伝わった。1155年にスウェーデン王エーリック 9世が第1回十字軍をフィンランドに派遣しフィンランド南西部を支配下に置いたと同時にフィンランドはローマカトリックの宗教圏内になった。一方で1227年にはノブゴロド共和国がフィンランド東部、カレリアの住民を正教徒に強制改宗した。このようにフィンランドは「東西キリスト教の相克の場」（徳善, 1991:12）となっていたが、1232年にノブゴロド共和国との間に和約を結び、東西両協会の境界線が引かれたのである。この和約によりフィンランドはスウェーデン領となった¹⁶。16世紀に宗教改革が起こるとフィンランドはルーテル派に改宗し、1548年には新約聖書がフィンランド語訳された。この新約聖書はフィンランド語で書かれた初期の文献でもある。その後19世紀のロシア支配、1917年の独立を経てフィンランドでは憲法で信仰の自由が保障された。現在では国民の72%が福音ルター派教会、1.1%がフィンランド正教会に属している¹⁷ (Statistics Finland, 2014)。

現在のフィンランド福音ルター派教会について見ていこう。フィンランド福音ルター派教会は他の北欧諸国と並びプロテスタント諸宗派の一教会である。旧新約聖書が信仰と行為の唯一明確な規範であることを主張しており、信条として使徒信条、ニケア信条、アタナシウス信条、アウグスブルク信仰告白、同弁証論、大・小教理問答、シュマルカルド信条、和協信条を採用している。フィンランド国内には人口の72%が信者である396万人が所属しており、フィンランド国内のキリスト教で最も大きな宗派である。現在はトゥルク、ミッケリ、タンペレ、オウル、エスポー、ヘルシンキ、クオピオ、ボルヴォー、ラブラの9教区で構成されている。1276年に設立された最古のトゥルク教区が最も権威があるとされており、当教区の監督がフィンランド福音ルター派教会の最高首座である。

一方、フィンランド正教会は国内人口の1.1%である約9万3000人が所属している。先述した通り正教会には国や地域ごとに独立正教会、自治正教会が組織されているがフィンランド正教会は自治正教会のうちの1つである。国内にある教会にはフィンランド正教会ではなく隣国ロシア正教会に属するものもある。教区はヘルシンキ、オウル、カレリアの3つに分かれており、現在のフィンランド正教会の大主教はカレリア教区のレオが務めている。現在、正教徒はフィンランドの東部に多い。これは歴史的経緯によるもので、フィンランドに東西からほぼ同時にキリスト教が入って来た時期に、西側のスウェーデンが圧倒的であった。フィンランドの東からキリスト教を布教したノブゴロド共和国は14世紀に現在のフィンランド東部カレリア地方を支配下に置いた。このフィンランド東部の国境問題は第2次世界大戦終戦まで続いた。このためロシアの影響の大きいフィンランド東部カレリア地方に正教徒が多いのである。

しかし、両教会で年々信者数は減少しており、人々の宗教離れが進んでいる。2017年現在は国民の22%が無宗教である。統計によると1995年時点では人口の98.1%が福音ルター派教会、1.7%が正教会所属のキリスト教徒であったのが年々減り、2016年には福音ル

ター派教会 **72%**、正教会 **1.1%**となっている。また、この数字とは別に毎週礼拝に通う信者の数はもっと少ないようだ。後述するが、例えば **2010** 年にフィンランドキリスト教民主党の党首パイヴィ・ラサネン (**Päivi Räsänen**) が **2010** 年、同性愛者の権利についてのテレビ番組内で同性愛を批判する発言をし、結果的に多くの信者が教会を脱退したと報じられた¹⁸。さらにフィンランドで同性婚の法律が可決した **2014** 年に福音ルター派教会の大主教が同性婚を支持すると発表したときにも **12,000** 人の教会脱退が明らかになった¹⁹。フィンランドには **Eroakirkosta.fi** (**Eroakirkosta** は「教会脱退」の意) という非宗教団体が運営するウェブサイトがあり、このウェブサイトを通して教会員を辞めることが出来る。これら大規模な脱退もこのサイトを通して行われた。宗教離れはフィンランドと同様に他の国でも見られる現象であり、その傾向は今後も変わらないだろう。

一方で、宗教離れが進んでいるにも関わらず伝統としてキリスト教行事が行われており、人々の生活に根付いている。フィンランド東部の新聞カルヤライネン (**KARJALAINEN**) によると **2017** 年現在フィンランドの **15** 歳の人口のうち **85.9%** が **Rippikoulu** (堅信礼キャンプ) に参加している²⁰。堅信礼はキリスト教で、幼児洗礼を受けたものが一定の年齢になり自己の信仰を告白し、正式に教会員になるための儀式である。フィンランドにおいては両親の信仰心の篤さに関わらず伝統的に幼児洗礼を受ける場合が多いが、**15** 歳になると伝統的に **Rippikoulu** に参加し、幼児洗礼を受けておらずかつ希望する場合は洗礼を受けることが出来る。しかし、**Rippikoulu** は宗教的行事と言うよりも若者の文化伝統という性格が強く、参加することで大人の一員になれるという通過儀礼的側面もある (**Parviainen, 2003:3**)²¹。**Rippikoulu** は福音ルター派教会独自の行事だが、ほとんどの **15** 歳の子供が参加する若者の伝統行事に参加する機会を正教徒の若者にも与えるという意味で正教会でも同様のキャンプが行われている。

IV 同性婚法制化までの歴史的経緯とキリスト教会における同性婚への対応

同性婚法以前のフィンランドの同性婚政策については、**2002** 年に登録パートナーシップ制度が社民党のタルヤ・ハロネン (**Tarja Halonen**) 政権の下で制定された。これは **18** 歳以上の同性カップルに婚姻と同等の法的効果を与える制度であるが、当初は養子が認められないなどの制限があった²² (鳥澤, **2010:37**)。この登録パートナーシップ制度は他の北欧諸国でも制定されており、**1989** 年にはデンマークが世界で初めてこの制度を制定、**1993** 年にノルウェー、**1994** 年にスウェーデン、**1996** 年にはアイスランドでも制定されている。ハロネンは **1980** 年から **1981** 年まで、フィンランドの **LGBT** の権利運動を行う **NGO**、**SETA** で議長を務めた経験がある。

現在、フィンランドの宗教界は同性愛・同性婚への見解が統一されておらず、今まさに議論の最中と言えるであろう。**2017** 年 **3** 月に施行された同性婚の法律は教会が同性愛カッ

ブルの挙式を上げることが強制・制限はしていない。

フィンランド福音ルター派教会では同性婚の法律が施行された後の会議において、法制化後においても教会での挙式が可能なのは男女のカップルに限られるとした。しかし、同性婚や同性愛に関する見解や姿勢は 10 人いる主教の中でも様々である。一方で、同性愛者が礼拝に参列に祝福されることには全員同意を示している。実際に同性愛カップルの挙

表 2.フィンランドにおける同性愛関連の法整備の歴史

西暦	法律
1971	同性愛行為が非犯罪化
2002	登録制パートナーシップ試施行
2014	同性婚法可決
2017	同性婚法施行

式を挙げた牧師がいるのは事実であり、**2006** 年に牧師レーナ・フオヴィネン（**Leena Huovinen**）がヘルシンキのレストランでゲイカップルを祝福し、**2008** 年にはエスポー教区のリーサ・トゥオヴィネン（**Liisa Tuovinen**）がレズビアンカップルを教会で祝福している。また、フィンランド福音ルター派教会で初めての女性主教で前ヘルシンキ教区主教であるイルヤ・アスコラ（**Irja Askola**）は同性婚を支持しており、ヘルシンキで行われたレインボープライドに参加している²³。同性婚法が施行された **2017** 年にはルーテル福音協会の長老会で同性婚についての討議が行われ、容認派や否定派の意見が激しく取り交わされた²⁴。

教会以外では、フィンランドキリスト教民主党党首パイヴィ・ラサネン（**Päivi Räsänen**）が同性婚について否定的な態度を強く示している。先に述べたように、**2010** 年 **10** 月 **12** 日に放送された **Homoilta**（ゲイナイト）という **TV** 番組のパネルディスカッションでラサネンは同性愛を批判した。この番組は当時から大きな議論を起こしていた同性婚について、賛成・反対両方の立場の人物が議論するものであった。キリスト教民主党は同性婚法に反対しており、市民団体の同性婚法案撤廃の申し立てを支持している²⁵。日本と異なり、宗教を母体とした政党の存在により宗教観が政治に反映されやすいと考えられるだろう。

一方、フィンランド正教会では隣国ロシアと比べ、比較的に同性愛者の権利保護に積極的な面もある。**2000** 年代初めから起こった「コミュニティ」を意味するユフテユス・リーケ（**Yhteys-liike**）という同性愛者の権利を守る国内のキリスト教徒の運動の設立者 **33** 名中、**9** 人が正教徒であった（**Orthodox Finland, 2009:58**）²⁶。フィンランドの正教徒が人口の **1%** 強であることを考えると割合は高い。フィンランドの正教会における同性愛への議論を

まとめた報告書 A REPORT ON THE HOMOSEXUALITY DEBATE IN THE ORTHODOX CHURCH OF FINLAND によると、この運動の目的は

- ① 求められれば、ゲイやレズビアンカップルの家は祝福される
 - ② 教区のゲイやレズビアンが不利益の発生を恐れることなく同性パートナーとして登録できる
 - ③ 求められれば、教会はゲイやレズビアンカップルが同性パートナーシップに登録されたことについて祝福を受けることを保証する。
- である。しかし、教会で挙式を挙げられるかについては一切触れられていない。

表 3. 福音ルター派教会各主教の同性婚への発言

教区	主教	同性婚への発言等		
トゥルク Turku	大主教 カリ・マキネン (Kari Mäkinen) 2010～	2013 年同性婚支持を声明 2014 年同性婚法制化を祝福		
	主教 カールロ・カッリアラ (Kaarlo Kalliala) 2011～	「今必要なのは、異なる意見を持った人達を互いに歩み寄らせていく手段だ」		
タンペレ Tampere	マッティ・レポ (Matti Repo) 2008～	2010 年同性婚への神学的な根拠が無いとし、キリスト教民主党首ラサネンとともに同性愛を批判		
オウル Oulu	サムエル・サルミ (Samuel Salmi) 2011～	2010 年大主教マキネンの同性婚を支持する発言を批判 「社会が決めない限り、教会独自の長老会が決める」		
ミッケリ Mikkeli	セッポ・ハッキネン (Seppo Häkkinen) 2009～	2010 年大主教マキネンの同性婚を支持する発言を批判 「結婚は男女間の物のため法制化されても教会では結婚できない」	2014 年、共同で同性婚に反対する声明 ²⁷	
ポルヴォー Porvoo	ビョーン・ヴィクストロム (Björn Vikström) 2009～	「男女のカップルだけの挙式を行うのは諦めて、教会は同性カップルを含めて祝福をしたほうが良い」		
クオピオ Kuopio	ヤリ・ヨルクコネン (Jari Jolkkonen) 2012～	2017 年「教会に従わないものは世間から批判を受ける」と同性婚に批判的な発言 ²⁸ 「イエスは婚姻を男女間と言ったが、しかしそれぞれに哀れみと尊厳を以て扱った。私もそれに従う。」		
ラブア Lapua	シモ・ペウラ (Simo Peura) 2004～	「私はキリスト教の伝統的な結婚観を支持し、そしてその価値観は私たちが認めるべきことだ。許可を求める動きは必ず今後も続くだろう」		
ヘルシンキ Helsinki	テーム・ラーヤサロ (Teemu Laajasalo) 2017～	英語による情報無し		
エスポー Espoo	タピオ・ルオマ (Tapio Luoma) 2012～	「教会はその信条により決断すべき」 「教会全体で準備が整ってから同性婚を挙げるべき」		

(出典) Yle uutiset3 月 10 日の記事をもとに作成²⁹

フィンランド正教会の大主教レオはこの運動について認知しており、同性愛についての態度は寛容なようであるが、2013 年のインタビューによると正教会では婚姻は男女間のものであり、再考の余地が無くフィンランドで法制化されても従う必要は無いと答えている。

他方で正教会の伝統に従う信者はこういった運動には否定的であり、例えば 2005 年には 3 人のフィンランド正教会の司祭ハンヌ・ポユホネン (Hannu Pöyhönen)、マルクス・パーヴォラ (Markus Paavola)、ヘイッキ・アレクス・サウラモ (Heikki Alex Saulamo) から大主教レオにユフテュス・リーケに正教会の司祭が関わることを禁ずるよう要求する手紙が提出されている。

次に、EU (欧州連合) が行っている世論調査と、筆者が独自に行ったフィンランド人へのインタビューから、現在のフィンランド人が同性愛・同性婚についてどのように考え、宗教からどのような影響を受けているかを見ていこう。

V フィンランド人の宗教観と同性愛・同性婚に関する意識—ユーロバロメーターとインタビューから—

ユーロバロメーター (Eurobarometer) は 1974 年から定期的に行われている調査である。EU の加盟国で各国およそ 1,000 人に対して対面のインタビューを行っており、さまざまなテーマがある。今回は 2006 年、2008 年、2009 年、2012 年、2015 年のダイバーシティに関する調査から特に LGBT に関する項目を参照した³⁰。

本章では、ユーロバロメーターの結果に加え、実際にフィンランド人を対象にインタビューを行い、同性愛・同性婚に対する見解やそこに宗教的な理由が関係するのかを考察していく。同性愛嫌悪と言ってもその理由は人によって宗教であったり他の要因があったり様々である。今回は年齢、性別、宗教などを考慮し 10 人のフィンランド人にインタビューを行った。以下の表はインタビュー協力者についての属性や基本情報をまとめたものである。なお、インタビューは対面式ではなくメールで質問項目を送付し、その回答をもとに追加の質問にも答えてもらった。質問項目は以下の通りである。

- ① Do you support homosexuality? Why? (同性愛を支持するか。その理由は。)
- ② Do you support same-sex marriage? Why? (同性婚を支持するか。その理由は。)
- ③ Does your religious view have influences on your attitude to homosexuality and same-sex marriage?

(自身の宗教観は同性愛・同性婚への態度に影響をもたらしているか)

- ④ Have you ever seen people who discriminate gay or lesbian? Who? (ex. friend, family, teacher)

(同性愛者を差別する人を見たことがあるか? 例. 友人、家族、教師など)

- ⑤ Finland was the very last country in north countries which legislate same-sex marriage. It took 3 years to enforce the law since it was approved. Did you know it? What do you think are the reasons to be late?

(フィンランドが同性婚を法制化したのは北欧で最後であり、可決から施行まで 3 年かか

った。それを知っていたか。試行が遅れた理由は何だと思うか)

⑥ Do you think that Finnish people's attitude to same-sex marriage will change by its legislation?

(同性婚法制化によってフィンランド人の同性婚に対する姿勢は変わると思うか)

表 4. インタビュー対象者

名前	性別	年齢	宗教観	その他
A	男	26	無神論	東部エノ出身。東フィンランド大学院修士課程在学中。フィンランド東部出身。ロシアに留学経験がある。
B	男	36	無神論	東部ヨエンスー出身。東フィンランド大学講師。
C	男	59	ペンテコステ ^a	北西部オウル近郊ハーパヴェシ在住。キリスト教ペンテコステ教会牧師。
D	男	66	ルター派	北西部カラヨキ出身。農業器具販売に従事したのち退職。教会へ通うほか毎日聖書を読んでいる。
E	男	24	ペンテコステ	北西部ニヴァラ出身。東フィンランド大学在学中。信仰心に篤い。ドイツと日本に留学経験がある。
F	女	27	ルター派	東部ヨエンスー出身。幼稚園教師。ルーテル教会に所属しているが教会にはほとんど行かない。
G	女	24	正教会	南部ヘルシンキ近郊ロホヤ出身。東フィンランド大学卒業。元ルーテル教会所属だったが後に正教に改宗。
H	女	28	ルター派	南部ヘルシンキ近郊ヴァンター在住。東フィンランド大学神学部修士課程修了。
I	女	23	ルター派	中部タンペレ出身。タンペレ大学在学中。クリスマスなど特別な日のみ教会に行く。
J	女	36	その他キリスト教	南東部ユヴァ在住。農業に従事。特定の宗派、教会には所属していない。

1. 同性愛の支持

2006 年に実施されたユーロバロメーターによると、「同性愛であることは不利」であると回答した人は EU の平均値より 12 ポイント高い。さらに隣国スウェーデンもほぼ同じ数値が出ており、2000 年代初頭は他の EU 諸国に比較しても同性愛者への差別が見られた時期であると推測される。法整備の面では登録制パートナーシップ法がすでに施行されており、また国際的にみると LGBT の人権確保を目的としたモントリオール宣言が議決された年でもある。このことから法整備や制度は進んでいるが民間レベルではまだ浸透しておらず、差別が残っていたことが推測される。2015 年の調査では約 7 割のフィンランド人が「同性愛に問題はない」と回答する一方で 2 割が「問題ある」と回答している。2015 年は 2014 年にフィンランドで同成婚法が可決してから保守派団体によって同成婚法を取りやめる請願書が提出されており、同性愛・同性婚に反対する層が一定数いることがわかる。

^a ペンテコステ派はプロテスタント教会のひとつであり、フィンランドでは 2009 年時点で約 5,440 人の信者がいる

伝統的な家族観を持つ人々にとって同性愛は「自然ではない」ものであるため、これらの価値観が反映されているようだ。

同性愛を支持するか、支持しないかに加えてその理由も人によって異なった。筆者が独自に実施したインタビューにおいて、「同性愛を支持しない」と回答したうち、キリスト教徒 4 名は支持しない理由を聖書に依るとした。

E さんはフィンランドでは信者の数が少ないペンテコステ教会の信者である。現在は同性愛が普通になっているという認識を示し、同性愛者も権利のある一市民であるが「聖書では同性愛は自然でない」とされる」と述べている。だが、人は皆罪深く、同性愛は数ある罪のうちのひとつであるという考えを示した。

「キリスト教徒として、私たちは同性愛者よりも罪深い分けでも清いわけでもない。神がすでに（私たちも含め）裁いているのだから私たちが同性愛者を裁くべきではない。」（E さん）

E さんの知人のペンテコステ教会牧師 C さんも、神によると家族は男女から成るという見解を述べた。同性婚は聖書に基づく家族観を壊すという。C さんは同性愛について以下のような見解を示した。

「同性愛は、離婚や暴力、アルコール中毒の両親など子供時代の荒んだ生活環境の結果生まれるものだ。」（C さん）

C さんの知人でルーテル教会に所属の D さんも聖書（ローマ人の手紙^b）を引き合いに出し、支持しないと意見を示した。神学部修士課程を修了した H さんも「人は皆平等で自身の意思を決められる」としたうえで、「神は子供を持てるように男と女を作った」ために同性愛を支持しないとした。

一方で、B さんは無神論者でありながら「同性愛やアセクシャル（無性愛）^cは子孫を残せないため人類の発展を妨げる」と言う。同性愛を反対しているわけではないと述べているが、決して肯定的ではない。キリスト教で同性愛が罪であるとされる根本的な理由は、子孫繁栄に反するからである。旧約聖書では同性愛を含め子孫繁栄に関係の無い性行為を否定している。B さんが同性愛に否定的な理由にも共通する部分がある。

キリスト教を信仰しているが同性愛に否定的でない意見もあった。キリスト教諸宗派の中でも特に伝統を重んずるとされる正教会に所属している G さんは同性愛に反対していないと言う。ただし、積極的に同性愛を支持するというよりは「同性愛を含め、他人の生き方が自分を悩ませることはない」という理由だ。また、彼女は元々ルター派の教会学校に通っていたが、後に正教に自ら改宗した経歴を持つ。ルター派から正教に改宗しても自分の考えは特に変化していないと述べた。

^b ローマ人の手紙：新約聖書の中で、使徒パウロのものとされる書簡。

^c 他者に性的欲求を抱かないこと。アセクシャル。

無神論の A さん、ルター派教会所属だが自らを「信仰に篤くない」とする F さんは「同性愛は個人の問題である」とし、同性愛に肯定的な態度を見せた。キリスト教を信仰する J さんも同様に個人の問題であるため、他人の問題ではないと述べている。他方、I さんは同性愛についてはあまり考える機会があまり無かったという。だが異性愛と同様に普通であると認識されるべきだと思っているようだ。また、I さんからはメディアや世間の同性愛への態度について以下のように述べている。

「同性愛はメディアで取り上げられすぎていて、同性愛者であることを格好良いと考える若者もいる。」(I さん)

2. 同性婚の支持

同性愛を支持することが同性婚の支持と一致するわけではないという考えに基づき、現在法整備でフィンランド国内でも広く議論されている同性婚についての意識を調査した。

ユーロバロメーターでは、**2015** 年の調査で「同性婚はヨーロッパで認められるべき」の質問に対し **66%** が賛成、「同性愛者はストレート（非 **LGBT**）と同じ権利を持つべき」の質問に対しては **74%** が賛成している。これらの結果を踏まえると、約 **6** 割～**7** 割の人が同性婚に肯定的な態度を示していると言えるだろう。どちらも **EU** 平均値よりも同性婚への支持率が高い結果が出ている。

一方インタビュー調査によって、婚姻には宗教的儀式的性格があるという理由から、教会で挙式を挙げることに批判的な考えを持つ傾向が見えてきた。E さんは「婚姻は男性と女性による神聖な慣習」とし、友人や子供が教会で同性婚の挙式を挙げるとしてもその挙式には参加しないと言う。ただし、行かないのは挙式を挙げる同性愛カップルを愛していないからではなく、自分自身の信仰のためであると言う。同じくペンテコステ派教会牧師の C さんも、同性愛カップルの挙式を挙げることは出来ないと述べた。ただし、自分の教会ではなく他の場所で挙げるのは良いとした。H さんも「婚姻は男女間のものである」として同性婚には否定的である。同性愛に肯定的な態度を示した G さんも、同性婚は良いが教会以外で行ってほしいと考えている。仮にルター派教会が同性婚を認めたとしても、それは正教徒の G さんの問題ではないようだ。以上のように、同性婚という制度そのものを批判するわけではなく、自分の関わる範囲や自分の属する宗派における同性同士の婚姻に否定的であると言えるだろう。G さんにも同様に「同性愛者の友人が教会で挙式を挙げるとしたら参加するか」と問うたところ、「そもそも同性愛者は教会に否定的な印象があるから教会では挙式を挙げない。しかし自分の友人の **FtoM** (**Female to Male**: 女性から男性に性別を変えた人) がいるが、彼の結婚式が教会で挙げられたら参加する」との答えであった。

一方で、信仰的でない人は、同性婚は権利の **1** つと考え肯定的である意見が多く見られ

た。同性愛に否定的な態度を示していた **B** さんも、同性婚には肯定的であった。同性愛に肯定的な意見を示した **A** さん **F** さん、**J** さん、**I** さんは、同性愛、異性愛に関わらず誰でも結婚について等しい権利があると述べているように、同性婚を支持する理由には「権利の平等」という意識が大きく影響していることが分かる。

3. 宗教観の影響

実際に特定の宗教を信仰している人は自分の考えに宗教の影響があるのか。また、影響があると自分で考えているのだろうか。**E** さんは自分の考えは大いに影響を受けていると自ら認識していた。**D** さん、**H** さんも神の言葉である聖書に影響を受けていることを述べている。一方、**F** さんから興味深い回答を得た。彼女はルーテル派の家庭出身であるため、幼少時はルター派教会のプレスクールに通っていた。そこで「人にされて嬉しいことを他人にしてあげなさい」と教えられ、その教えは自分の考えに根付いているが、同性愛がいけないとは思ったことはないため、宗教の影響を受けている部分と受けていない部分があると述べている。先述したように **G** さんは 10 代で自ら正教に改宗しているが、同性愛に対する考えに対しては変わっていないとした。第 1 節で述べたように、同性愛を支持しない理由を聖書に依るとした意見も複数あり、宗教の影響は否定できない。しかし、同時に今回のインタビューでは「フィンランド人はそこまで信仰心が強くない」という回答が多かったのも事実だ。

なお、筆者はフィンランドで神学を修めたルーテル教会の牧師にもインタビュー協力をメールで依頼したが、返答が無かったため再度連絡を取った。そこで、「ご関心の話題は教会内ですと不安になる人もいる。出来ればメールでやりとりしたい」という返事をいただいた。教会内では依然として話しにくい話題であること、「同性婚」という言葉を使わず「ご関心の話題」と遠回しに表現したことなどから、フィンランドのキリスト教的価値観と同性愛者への権利に対する葛藤が端的に現れているのではないかと感じた。

4. 同性愛差別

フィンランドでは同性愛者はどのように差別されてきたのか、またそれをフィンランド人はどの程度認知しているのだろうか。

ユーロバロメーターによると、同性愛者への差別は依然として残っていることがわかる。2006 年には 21% の人が「5 年前と比べ性的指向による差別は広がった」と答えている。2006 年、2008 年、2009 年、2012 年に連続して「性的指向による差別は広範囲に及んでいる」という質問が設けられたが、2006 年から 2012 年にかけてわずかではあるが「差別が広がっている」という回答が増えている。この時期は 2014 年の同性婚法制化に向けて世論が大きく変化していた時期でもある。同時期に同性婚法制化を推進する運動もあれば

それに反対する運動もあり、今までフィンランド人が口にしていなかった同性婚についての態度が目に見える形になってきた。そのために差別が広がったと感じる人が多くなったのではないだろうか。2009年に「メディアで性的指向は反映されている」と72%が回答しており、EU平均や隣国スウェーデンよりも高かった。「メディアで反映されている」が何を指すのか明示されていないが、同成婚法制化に向けてメディアで取り上げられてきたのは事実である。先述したように2010年には同成婚法制化に対して支持者と非支持者が意見を交わすテレビ番組が放送されている。結果、同性婚を批判したキリスト教民主党の党首パイヴィ・ラサネンの発言により多くの信者が教会脱退を表明するウェブサイトを通してルーテル教会を脱退することとなった。また、2006年、2008年、2009年に設けられた「同性愛者の友人がいる」の質問に対し、3年間で30%から35%に増加しているが、EUの平均値よりも低い。微増ながら変化があることから、この期間に同性愛者の存在が認識されるようになってきたか、カミングアウトする人が増えたこと、同性愛者を「友人」として認識する人が増えたこと、また同性愛者の権利運動が盛んになってきたことが推測される。実際に北欧やヨーロッパ諸国で同性婚や性転換などの制度に変化が見られていた時期でもあり、その影響も考えられる。

同性愛への具体的な差別、同性愛嫌悪について、AさんとEさんは同性愛者を表す語がニックネームとして使われていたり、同性愛者への差別的な呼称が使われていたりするのを聞いたことがあるという。Eさんは小学校高学年の時に「ゲイ」「ホモ」という呼び方を何度も耳にしたことがあり、教師にその呼び名を用いて他人を侮辱してはいけないと言われたそうだ。Aさんも言葉による差別を聞いたことがあり、"vitun homo"（クソホモ）、"hintti"（侮辱的に用いられるゲイの呼称）、"ruskean reiän ritari"（直訳すると「茶色い穴の騎士」、かなり侮辱的な呼称）などの語が使われており、男性だけでなく女性にも使用される。使用頻度に関しては異なる意見があり、Bさんは「90年代はよく使用されていたが最近は古い」、Gさんは「非常によく耳にする。若者や教育をあまり受けていない人が使う印象」と述べた。年齢や学歴だけでなく、地域による差もあるという声もあった。Cさんは

「一般的に都市部の若者ほど同性愛に寛容で、地方の高齢者ほど寛容でない」

と述べている。北西部の小都市に在住経験のあるJさんによると、そこでは人々の考え方が古く、3人の同性愛者が都市部や南部に引っ越していったのを見たことがあるという。

一方で、同性愛への差別を見たことがないという意見も多く、フィンランドでは態度に出る形での同性愛差別はあまり多くないようだ。Cさんは「自分は見たことがないが差別はある」、Fさんは「直接的な差別は無い」とそれぞれ述べていた。Eさんは他にインターネット上での差別的な発言を見たことがあると証言した。しかし、その差別的発言をしているのが同性愛に批判的な傾向にあるキリスト教徒のよるものであるとは断言できない。G

さんは幼少時に身近なキリスト教の大人が同性愛に批判的で無かったため、むしろ無神論者が同性愛に対して冷たい、と思っていたようだ。H さんもあまり同性愛者への差別は見たことがないようで、その理由は「同性愛や両性愛など少数派の人は自分のセクシュアリティをあまりオープンにしていない」からであった。また、日本に留学経験のある I さんは

「日本語学校の先生が同性愛者を面白おかしく話題に出してあり、違和感があった」(I さん)

と述べていたことからフィンランドでは同性愛者は笑いの対象として差別されているわけではないようだ。

5. 同性婚法制化

同性婚法制化の認知度はどれくらいあるのか、またフィンランド人自身は自国で同性婚法制化に時間がかかった理由をどうとらえているのか。フィンランドの同性婚法制化についての認知度は高いようである。法制化が遅れた理由については、フィンランド人の価値観が大きく影響しているようだ。E さん、D さんはフィンランドがキリスト教国家であることを指摘し、G さん、A さん、B さんはフィンランドが伝統的、保守的であることを指摘した。神学部卒業の H さんも以下のように述べている。

「フィンランドの伝統の多くはキリスト教に由来するものであり、伝統はフィンランド人にとって重要。キリスト教は政治にも影響がある。ルター派教会だけでなく他の教派の教会も神学的に、また実際にどのように性的少数者と接していくかを考えて意見を表明していくべき。」(H さん)

G さんは、同性愛だけでなく人種差別などもまだ残っており、スウェーデン語（公用語であるが人口の 5% しか母語話者がいない）を人々の前で話すだけでも差別的だと感じることもあると言う。また、G さんは正教会の方がルーテル教会よりも伝統を重んじていると考えているがルーテル教会員の H さんによると「ルーテル教会が新しいものを取り入れるのが難しい」と答えており、教会内部の人から見ると程度に差はあるが伝統を変えていくのには困難が伴うと考えているようである。登録制パートナーシップ制度から同性婚法制化への切り替えに関して、B さんは

「この 2 つは法的に違うから同性婚法は必要」(B さん)

と述べているのに対し、G さんは

「正直登録制パートナーシップに何が含まれているか知らないが、法律が無いと幸せにならないわけではない。なぜこんなにも気を使うのか。同性婚法は必要ないと思う」(G さん)と述べている。しかし、あくまで G さんは自分の意見を述べつつも教会が外部からの圧力を受けず、教会の立場を尊重してもらえれば同性愛に関しては寛容であることを強調した。

6. 法制化がフィンランド人に与える影響

同性婚に対し批判的な人も少なくない中で同性婚法が施行されたが、法整備によりフィンランド人の同性愛への考えに変化は起こるのだろうか。

ユーロバロメーターでは、同性愛者に対する寛容度を 1~10（数字が大きいほど寛容）で表し、その平均値で寛容度を表す調査も行われている。2008 年の調査では「身近に同性愛者がいること」の平均値が EU の平均値 7.9 に対しフィンランド 7.4 であり、若干低い。

2008 年、2009 年、2012 年、2015 年には「政治家に同性愛者がいること」が調査項目となっており、2015 年は「7~10」「5~6」「1~4」「無関心」と回答した人の割合を%で表している。前項目「身近に同性愛者がいること」よりも数値が低く、寛容度が低いことが見て取れる。さらに数値は年々下がっている。2015 年は約 3 人に 1 人が「7~10」、4 人に 1 人が「1~4」と回答しており、寛容度の高い人と不快感を示す人に分かれているようだ。先述したように、この時期はフィンランドで同成婚を法制化するかで保守派と推進派で意見の対立があった時期である。後述するインタビューでも触れるが、「表立った差別は無い」「同性愛への嫌悪を直接表す人は少ない」といった意見もあり、「政治家」という目に見える形に同性愛者がいることには嫌悪感があると推測できる。これは、2015 年に国民の 87% が「7~10」と高い寛容度を示す隣国スウェーデンとは大きな差である。2015 年に新たに質問項目に加えられた「LGBT が同僚にいること」も、「7~10」「5~6」「1~4」「無関心」と回答した人の割合を%で表している。44%と半数近い人が「7~10」と高い寛容度を示している。EU 平均、スウェーデンと比較したときのフィンランドの特徴としては、「無関心」の割合が 29%と高いことだろう。

以上がユーロバロメーターによる 2015 年までの結果である。2017 年に同性婚法が施行し、婚姻関係を結ぶ同性カップルが増えており同性愛者の権利がより受け入れられるようになっている。2015 年男調査では「教科書に性的指向について載せるべき」と 8 割が回答しており、2017 年にはジェンダーの多様性を推進するガイドラインがフィンランド国立教育機関（Finland's National Agency for Education）によって発行された。

しかしこの結果によると同性婚法整備を求める運動が起こっていた時期に寛容度が下がっていることから法律が必ずしも民衆の意識を変えとは言えないようだ。

今回のインタビュー対象者は、同性婚法は少しずつフィンランド社会に馴染んでいくだろうと考えている。今回のインタビューで「同性婚法が出来てフィンランド人の意識は変化するか」という質問項目に対してほとんどの回答者が「ゆっくりだが変わっていくだろう」という意見を述べた。同性婚法制化に先立ち、フィンランドではメディアで同性婚や同性愛が取り上げられるようになっている。I さんによると、先述したようにメディアでの扱われ方によって若者の間では同性愛者であることが格好いという考えも出てきている。

しかし I さんは同性愛がメディアで大きく取り上げられているので少し飽き飽きしてきているようだ。H さんも、「もっと多くの人にこの問題について考えて欲しいし、簡単な問題ではないが教会はどうやって同性愛者や両性愛者と出会い、接していくかなどを考え始めている」と、修士号を持ち神学を専門とする立場から述べていた。

VI. 考察

ユーロバロメーターの **LGBT** に関連する調査項目の結果から推測できる傾向として、同性愛者に対する寛容度はそれほど高くなく、**EU** の平均並みである。同性愛に寛容である人が半数以上である一方で同性愛に差別的で嫌悪感を抱く人も一定数存在する。先進的な福祉制度や男女平等を実現している北欧諸国の一員であり、登録制パートナーシップを **2000** 年代初頭に取り入れており **LGBT** や同性愛に寛容かと想像できるが、実際に国民のレベルで見えていくと同性愛への理解が高いとはいえない現状である。ただ、本論文のテーマである宗教との関連を考えると、国民の 7 割以上を占めるキリスト教信者の割合に対して同性愛・同性婚を支持しない人の割合は少なく、キリスト教徒だけが同性愛差別を助長していると一概には言えないだろう。

今回の調査から推察される、フィンランド人の同性愛・同性婚に関する意識をまとめると以下ようになる。

- ①フィンランド人はそれほど信仰熱心ではない。しかし伝統的にキリスト教の影響は受けている。
- ②同性愛・同性婚の受容に限らずフィンランド人は伝統的であるため、変化は遅いが少しずつ進んでいく。
- ③同性愛・同性婚話題にしやすいわけではないため、差別や否定的な意見はあっても実際に口にしない場合や自らの性的指向をオープンにしない場合も多い。
- ④キリスト教信仰に篤い人の同性愛・同性婚への考えは神の言葉である聖書からの影響が大きい。
- ⑤キリスト教信仰に篤い人は、同性愛者への差別意識よりも同性愛・同性婚への否定的な態度が見受けられる。
- ⑥メディアで取り上げられたり、教会内部でも同性婚に関する議論が行われたりするなどフィンランド人の意識に少しずつ変化のきっかけが現れてきている。

フィンランド人の同性愛・同性婚への意識は今まさに変化しており、宗教界も対応に追われている最中だと言えるだろう。フィンランドでは年々キリスト教徒の数が減っている。今回のインタビューでも無神論者やキリスト教の信仰に篤くない人は同性愛・同性婚へ肯定的であった。これは他のヨーロッパ諸国にも見られる傾向である。フィンランド人が伝統的にキリスト教の影響を受けているのは間違いないが、同性婚の法律が整備されたこと

によって、今後少しずつその意識に変化が起こるのか、それとも差別が依然として残るのか、今後の動向が気になるところである。

VII 結論

「宗教」「同性愛」という、しばしばタブー視される 2 つの観点からフィンランド人の同性婚合法化に対する意識について調査を行い、福祉と平等で名高い先進国フィンランドの人々の本音を探った。キリスト教徒の減少に関わらずフィンランド人の意識にキリスト教の影響は否定できず、フィンランドで同性婚法制化が遅れた背景にキリスト教の影響があるのは疑いない。

ただし、単純に宗教の影響だけであるとは言えないことを忘れてはならない。本研究では、宗教観以外に地域、年齢、性別、学歴など他の要因も考えられることも明らかになった。それでは、現在フィンランドを始め欧州で社会問題となっているイスラム教徒の難民は、今後どのような影響をもたらすだろうか。同性愛を否定する宗教を信仰する難民たちが主導する形で同性愛への差別が増加することも考えられるし、逆に人々の差別意識が難民に向けられることで、同性愛者への差別が相対的に減少する可能性もある。実際に 2015 年には北アフリカからの移民の少年が同性愛者の男性を殺害し、死体の上に蛇を放置した事件が隣国スウェーデンで起こっている³¹。なお、これら宗教観以外の影響や、2017 年に同性婚が法制化されてからの動向については、今後の課題としたい。

また、日本でも同性婚政策への対応に変化が見られてきているが不十分と言わざるを得ない。現在の日本の法律は同成婚を想定していなかった時代のものであるにも関わらず、夫婦別姓なども含めて家族に関わる法律は極めて保守的である。日本は伝統的に仏教、神道、儒教など様々な思想の影響を受けているため、日本人が同性婚を考える際に宗教について再考することも必要なのではないだろうか。世界の諸地域で同性婚への必要性が高まる現在、憲法の定める「法の下での平等」をすべての人に保障していく対応が求められている。

謝辞

本論文の執筆に当たり、明治大学国際日本学部 4 年河辺麻衣子さん、佐々木栞那さんより様々な助言をいただいた。ここに感謝申し上げたい。

¹ “Finland Allows Same-Sex Marriages For The First Time” Huff Post 2017.3.1
https://www.huffingtonpost.com/entry/finland-same-sex-marriage_us_58b6d90ce4b0780bac2eedd8 (検索日：2017 年 11 月 15 日)

² ゲイリー・P・リュープ (藤田真利子訳) 「男色の日本史 なぜ世界有数の同性愛文化が栄えたのか」作品社 2014 年 54 頁

³ 松尾剛次「破戒と男色の仏教史」平凡社 2008 年 81 頁

⁴ 性的マイノリティについての調査 2015 報告書 (「日本におけるクィア・スタディース構

築」研究グループ編) 152 頁

5 文化庁 2015 年 宗教関連による資料集より 54 頁「日本人の国民性調査」(統計数理研究所, 2013)

6 同性愛カップルの結婚、京都の寺院が後押し「信条や性的指向は関係ありません」Huff post 2014 年 12 月 6 日

http://www.huffingtonpost.jp/2014/12/15/japan-shunkoin-temple-lgbt-wedding_n_6331246.html (検索日: 2017 年 11 月 5 日)

7 願いの宮ブログ 「レインボーフェスタ「平等結婚式」と式典後の奇跡」

<http://negainomiya.com/blog/rainbow/> (検索日: 2017 年 11 月 5 日)

8 リチャード・B・ヘイズ 著「体の贖われることを待ち望みつつ」ジェフリー・S・サイカー編「キリスト教は同性愛を受け入れられるか」日本基督教団出版 2002 年 37 頁

9 ジョン・ボズウェル「キリスト教徒同性愛 1~14 世紀西欧のゲイ・ピープル」国文社 1990 年 40 頁

10 「同性愛者はカトリック社会に恩恵」ローマ法王庁の姿勢に変化 Huff Post 2014 年 10 月 14 日 http://www.huffingtonpost.jp/2014/10/14/pope-franscis_n_5980776.html (検索日: 2017 年 11 月 5 日)

11 「キリスト教徒は同性愛者に謝罪するべき」、ローマ法王 AFPBB News 2016 年 6 月 27 日

<http://www.afpbb.com/articles/-/3091898?pid=18027839> (検索日: 2017 年 11 月 5 日)

12 カトリック教会の神父が同性愛を公言、バチカンに猛反発 AFPBB News 2015 年 10 月 4 日 <http://www.afpbb.com/articles/-/3062133?pid=16651098> (検索日: 2017 年 11 月 5 日)

13 “Pope Francis and head of Russian Orthodox Church use historic meeting to condemn same-sex marriage” GAYSTARNEWS 2016.2.13

<https://www.gaystarnews.com/article/pope-francis-and-head-of-russian-orthodox-church-use-historic-meeting-to-condemn-same-sex-marriage/#gs.76bPKq0> (検索日: 2017 年 11 月 5 日)

14 Life Site News “Orthodox leader: Gay marriage laws should be compared to Nazi laws” 2017.5.31

<https://www.lifesitenews.com/news/orthodox-leader-gay-marriage-laws-a-break-with-morality-similar-to-fascism> (検索日: 2017 年 11 月 5 日)

15 フィンランド共和国基礎データ, 外務省ホームページ 2017 年 4 月 5 日更新

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/finland/data.html#section1> (検索日: 2018 年 1 月 16 日)

16 徳善義一「フィンランドの歴史と宗教」杉全泰『北欧の聖美術・フィンランドの神の風光』聖文社 1991 年 12 頁

17 Statistics Finland より Population 2014 年 3 月 4 日現在の統計

http://tilastokeskus.fi/tup/suoluk/suoluk_vaesto_en.html (検索日: 2017 年 11 月 20 日)

18 “30,000 Leave Church in Finland over Gay Rights — A lesson in homophobia.” Huff Post 2010.10.21

https://www.huffingtonpost.com/mikko-alanne/30000-leave-church-in-fin_b_772176.html?ncid=engmodushpimg00000003 (検索日: 2017 年 11 月 20 日)

19 “Mass resignations from Finnish Lutheran Church over same-sex marriages” Christian Today 2014.12.1

<https://www.christiantoday.com/article/mass-resignations-from-finnish-lutheran-church-over-same-sex-marriages/43725.htm> (検索日: 2017 年 11 月 20 日)

20 “Suomalainen rippikoulu yhä suosittumpi - valtakunnallinen tavoitavuus 85,9

prosenttia”（フィンランドの堅信礼キャンプが人気に一国全体の 85,9%が参加－）

KARJALAINEN 2017.4.6

<https://www.karjalainen.fi/uutiset/uutis-alueet/kotimaa/item/137523-suomalainen-rip-pikoulu-yha-suositumpi-valtakunnallinen-tavoittavuus-85-9-prosenttia>（検索日：2017 年 12 月 15 日）

²¹ Jorma Parviainen “Finnish Confirmation Training: A Unique National Custom” Sakasti

²² 鳥澤孝之「諸外国の同性パートナーシップ制度」国立国会図書館調査及び立法考査局 2010 年 37 頁

²³ “Helsinki Bishop: Church joining Pride symbolically important”, Yle uutiset 2017.6.27

https://yle.fi/uutiset/osasto/news/helsinki_bishop_church_joining_pride_symbolically_important/8110092（検索日：2018 年 1 月 9 日）

²⁴ “Intense debate about same-sex marriage among Finnish Lutherans”, Evangelical focus 2017.5.29

http://evangelicalfocus.com/europe/2598/Intense_debate_about_samesex_marriage_among_Finnish_Protestants（検索日：2018 年 1 月 9 日）

²⁵ 24 に同じ

²⁶ A REPORT ON THE HOMOSEXUALITY DEBATE IN THE ORTHODOX CHURCH OF FINLAND, 2009 年 The Brotherhood of Saint Kosmas of Aitolia（Pyhän Kosmas Aitolialaisen Veljestö Ry） 58 頁

²⁷ “Church exodus continues, street mediation for juveniles and mapping AIDS in Finland” Yle uutiset 2014.12.1

https://yle.fi/uutiset/osasto/news/mondays_papers_church_exodus_continues_street_mediation_for_juveniles_and_mapping_aids_in_finland/7660971（検索日：2017 年 11 月 20 日）

²⁸ “Lutheran bishops: Priests who perform gay weddings "will face consequences"” Yle uutiset 2017.1.3

https://yle.fi/uutiset/osasto/news/lutheran_bishops_priests_who_perform_gay_weddings_will_face_consequences/9482618（検索日：2017 年 11 月 20 日）

²⁹ “Bishops divided over same-sex marriage” Yle uutiset 2016.3.10

https://yle.fi/uutiset/osasto/news/bishops_divided_over_same-sex_marriage/9206052（検索日：2017 年 11 月 20 日）

³⁰ Eurobarometer, 欧州連合ホームページ

<http://ec.europa.eu/commfrontoffice/publicopinion/index.cfm>（検索日：2017 年 11 月 20 日）

³¹ “Teen 'killed gay man and put snake on body'” The local.se 2015.12.18

<https://www.thelocal.se/20151218/gay-snake-murder-case-goes-to-court>（検索日：2018 年 1 月 10 日）

近代翻訳小説における無情物主語の翻訳

Inanimate Subject Construction in Translated Novels in Meiji Period

明治大学 国際日本学部

仲村 怜

Meiji University School of Global Japanese Studies

NAKAMURA Ren

目次

I	はじめに	2
1.	先行研究.....	2
2.	研究の目的	3
II	研究方法及びデータの説明.....	3
1.	調査対象の選択	3
2.	パラレルコーパスについて	5
3.	主語の対応／非対応の判断基準	7
4.	名詞の分類	9
5.	述語部分の他動性の測定	10
III	主語と述語の分析.....	11
1.	名詞句階層と主語—目的語の関係.....	12
(1)	目的語が有情物の場合	14
(2)	目的語が無情物の場合	17
2.	動詞の他動性の高低	19
3.	受け身文	22
IV	研究のまとめ	25
	参考文献	26

I はじめに

1. 先行研究

欧米文学の翻訳小説がブームとなっていた近代において、特に 1888 年（明治 18 年）に藤田茂吉によって訳された『繫思談』がそれ以降の翻訳に与えた影響は大きく、特に明治 20 年代には、逐語訳による翻訳小説が一気に増加しており、原文の文体にまで注意を払った逐語訳を志向した訳者達による新文体創造の試みが、言文一致運動を含む、近代文章語の形成に深く関わっていたとされる。川戸(2014)は、従来の研究では、近代における新たな文章語創造の目的は、言と文の不一致を修正していくためであると捉えられがちであるが、それは表層の流れの一つでしかなく、あくまでその最たる目的は、欧米をモデルとして、その先進的な情報や知識をより直接的且つ効率的に吸収することにあったとしている。また、同著の中で川戸は、言と文の不一致が生じた根本的な原因として、日本が伝統的に漢文を、海外文化を受用するための重要な手段とし、訓読法を発展させてきたことを挙げており、これが従来の文章語に大きな影響を与えてきたが、一方で日常会話には日本固有のことばが用いられ続けたことによりズレが生じたとしている。それを踏まえて、川戸は、当時の新たな文体を創造する試みの目的は、モデルとなる先進的な海外文化が欧米に代わったことで、中国をモデルとし、漢文を読むために形成されてきた当時の文章語を、新たに欧米の知識や思想をより効率的に吸収できるものに創りかえることにあったと主張している。また、川戸は、当時の逐語訳を志向していた翻訳者たちが、欧米の文章の「内容」だけを紹介しようとしても、漢文体に頼った翻訳では細かな思想や意図までは正確に表すことができず、それらを緻密に写し取るには、構文などの形式にも十分に注意を払わなければならないと意識し、それが可能となる新たな文体を創り上げるために尽力した点を、新文体創造の動きの中で彼等が果たした役割として挙げている。

また、森岡(1999)は、「欧文脈」という語を用いて、英語の一字一句を逐語的に直訳する訓読によって日本語にもたらされた表現を説明しており、現代文はもはやこの「欧文脈」無しには書くことができないほど大きな影響を残したと主張しており、そのうちの一つに、無情物名詞を主語に置く構文を挙げている。森岡によると、無情物に、より幅広い擬人的な動作を行わせる西欧語（特に英語）を、訓読法によって直訳的に翻訳することにより、それまでの日本語に無かった新たな擬人法的な表現が取り入れられ始め、無情物主語の文に使用される動詞の幅が広がったという。

2. 研究の目的

本研究では、それまでの漢文体による意識とは異なり、上述のように『繫思談』の影響で、英語の構文にも注意を払い、それに近づけようとする逐語訳が行われ始めた明治 20 年前後の翻訳小説に着目して分析を行うことによって、直訳的な翻訳が、書きことばを新たに創り変えようとしている時期の日本語において、どのように無情物主語の文を翻訳が行われているのかを明らかにしたい。また、その際に、上記 I-1 で述べたように、当時の日本語にとって新しい表現であった無情物主語の文に着目し、日本語に無い構文を翻訳する際に、どのような種類の文の場合に直訳され、どのような種類の文では意識によってその構文が避けられていたのか、その決定要因となっていたものを探ることによって、初期の逐語訳による翻訳において、無情物主語構文がどのように変化していくかを明らかにすることを、本研究における大きな目的とする。

II 研究方法及びデータの説明

本章では、5 つの節に分けて研究方法とその際に使用したデータベースの作成方法について述べる。まず、II-1 では、調査対象とした 3 作品に共通する選択基準と、作品ごとの相違点を挙げ、それらをなぜ本研究で扱うのかについて述べる。II-2 では、本研究においてデータベースとして使用したパラレルコーパスについて、なぜ採用したのか、また、その作成の際にどのような手順で文を区切り、訳文と対応させたのかについて説明する。II-3 では、文を区切った後に原文と対訳部分の主語の対応／非対応を決定する際に、どのような基準を用いたのかを述べ、実際の文を例示し、どのような場合に対応とし、どのような場合に非対応としたのかを記す。II-4 では、主語の性質に着目して分析を行う際に、分類の参考として用いた資料を挙げ、実際に本研究ではどのような名詞がどの分類に当てはまるのかを示す。また、なぜその要素に着目するのかを、先行研究とともに説明する。II-5 では、述語部分の性質から分析を行う際に、なぜ「他動性」という要素に着目したのか、そして、「他動性」を用いてどのように分析を行うのかを記す。

1. 調査対象の選択

本研究では、明治 20 年代前後の逐語訳による翻訳小説のうち、以下の 3 作品の約 300 文ずつを調査対象とする。

【対象 3 作品】

明治 18 年（1885 年） 藤田茂吉訳『繫思談』

〔研究資料〕

原文：Edward Bulwer Lytton. (1873). “Kenelm Chillingly” (Project Gutenberg による)

訳文：(国立国会図書館デジタルコレクションによる)

明治 21 年（1888 年） 織田純一郎訳『いさ子』

〔研究資料〕

原文：Ellen Wood. (1861). “East Lynne” (Project Gutenberg による)

訳文：(国立国会図書館デジタルコレクションによる)

明治 23 年（1890 年） 若松賤子訳『小公子』

〔研究資料〕

原文：Frances Hodgson Burnett. (1886). “Little Lord Fauntleroy” (Project Gutenberg による)

訳文：(国立国会図書館デジタルコレクションによる)

これらの作品は、

- ①原文のテキストデータが入手可能であること
 - ②訳文が、明治 20 年代ごろの逐語訳を志向したものであること
- の 2 つの基準に沿って調査対象に定めた。

『繫思談』を起点とした理由としては、訳者である藤田が、例言で、欧米の文学の「精緻ノ思想」を読み取るには、「文辞」と「構案」の二つが相まっていなければならないとの考えで、逐語訳を基本的な姿勢とし、多少日本語の規則を破ろうとも新たな文体を創造するという決意を述べているという点で、それまでの、原文から着想を得る程度で、文章は従来の漢文体で書かれた小説とは大きく異なり、重要な転換点となっているためである(川戸, 2014)。欧米の文学の着想、構案のみでなく、その構文にも注意を払うことが必要であるとしたことが、原文の一語一語を忠実に訳することを目指した周密文体へと繋がり、後の逐語訳の流れを作った作品であることから、起点とするに相応しい作品である。

『いさ子』は、『繫思談』の流れを受けた作品で、当時の言文一致運動の流れに沿って、口語で文章を書くことを意識したこともあり、客観的な記述が続く地の文は従来の漢文体

(文語文)で訳しているのに対し、会話文は「です」「ます」を含んだ口語文で訳しようと試みた作品である。この作品を通して、漢文体と口語文といった文体差が、どのように翻訳に影響を与えていたのかに注目することができると考えた。

『小公子』の訳者である若松賤子は、言文一致の観点から見ると、当時の翻訳の中では突出して巧妙であり、口に出してもスラスラと読めるような自然な口語文に訳していたという。当時の直訳体は概ね、日本語の話し言葉とはかけ離れた、不自然な日本語であると批判されるものが多くあった。しかし若松の翻訳は、翻訳王と称された森田思軒に「数行にして遣辞温順はなはだ常にあらざるものあるを覚えたり」と言わしめる程のもので、他の人物からも、原文の字句に忠実に訳しながらも、口語としてもとても自然であるという評価を受けており、川戸は「稀代の名文家」とまで称している。そこで、『繫思談』から時代が進み、逐語訳でありながら、且つ当時の自然な話し言葉に近いという文体による翻訳の場合に無情物主語の直訳／意識の要素に変化が見られるのかに着目したい。

これら上記の3作品は、言文一致の流れを受けて、『繫思談』による漢文体から『いさ子』の漢文体と口語体の使い分け、そして『小公子』による、より完成度の高い口語文へと、それぞれ文体の異なる作品であり、これらを扱うことで、明治20年代の文体の変化の流れの中で、無情物主語の翻訳がどのように変化していくのかを明らかにする。

2. パラレルコーパスについて

本研究では、調査対象の作品を元にパラレルコーパスを作成し、それを分析の際のデータベースとして用いる。パラレルコーパスとは、ある言語と翻訳された言語のテキストを文などの単位で対応させ電子テキスト化した、複数言語からなるデータベースのことを指し、これを活用することによって、調査の際に用いる条件の検索や特定のデータの抽出などを容易に行うことができるようになり、研究を効率的に行うことができるようになる。本研究に当てはめると、原文において無情物名詞が主語に置かれる文で、直訳的に受け入れられる場合とそうでない場合の文の要素の違いを探る際に、調査で用いるデータ（後述の主語の分類や述語の性質など）を各文に付与することによって、大量の文の中から特定の共通項を持つものを効率的に探し出すことができ、それらの検証や比較を容易に行うことができるようになる。

パラレルコーパスを作成するに当たって、まずは1文の単位を定め、原文と訳文の対訳に当たる箇所を文単位で対応させる必要がある。そこで、文の区切り方として、主語、述語を備えた節を1文の単位として数えることとする。そして、逐語訳によって、一字一句のレベルで原文に沿った訳を意識していた訳法において、原文で主語に当たる部分をどのように対応させて訳していたのか、あるいは主語として訳していない場合には、代わりにどのような訳法を用いていたのかに注目することによって、当時の翻訳がどのような要素

を持つ無情物主語の文を直訳的に取り入れ、どのような要素の文を意識していたのかを分析する。

上記のように 1 文の単位を確定するためには、まずは「主語」「述語」に当たる部分を判定しなければならない。本研究において、原文と訳文それぞれの主語が対応しているかどうかを判断する際に、形の面（語順や格助詞の存在）のみで判断しようとする、次のような問題に直面する。英語においては、倒置構文も存在するが、基本的には語順によって主語か否かを判断することができるのに対し、日本語では同じようにはいかず、主格を導く格助詞「が」のみに注目して判断すると、以下のような文の場合に対応できない。

- a) カラスが畑を荒らす。
- b) お茶が欲しい。
- c) 私は英語が分かる。

a), b), c)の文は、「が」を共通の助詞として有する文であるが、a)は行為主、b), c)は対象と、それぞれ文中で別の働きをしており、「が」を伴う名詞が主語として働いていない場合が見られる。更に、形のみに注目した判断だと、b)のように主語が省略された文に対応できない。また、c)のような文では、対象である「英語」が「分かる」のはとりたて助詞「は」を有する「私」となっている。このように、形から判断すると、訳文で対応できない例が多く見つかってしまう。

そこで、訳文においては、主語の判定の際にまず述語に着目することとする。それぞれの文の述語部分から、その行為主や経験主当たるものを判断することで、異なった主語の形や省略に対応することができる。a)は「荒らす」の行為主である「カラス」が、b)は「欲しい」の主体である省略された一人称が、そして c)のような 2 重主語の文は「分かる」の認知主体である「私」が、それぞれ主語としての働きを持つとして判断する。

また、述語の中でも特に動詞に関して、ヨーロッパ式の伝統的な区分によると、動詞の直後に名詞が置かれていればその動詞は他動詞で、直後の名詞は目的語、それ以外の場合は前置詞句を含む補語として分類しているが、その場合、熟語 (give up や think of) など、意味上は目的語としての働きを持つ名詞を拾うことができなくなってしまう。そこで、熟語としてそのまとまりで意味をなす場合には、動詞だけでなく、前置詞などを含んだ成句までを「述語」、そして意味の面でその「述語」の働きかけの対象となっているものを「目的語」として扱う。

また、各文の主語の対応を見るため、等位接続詞 and や or など接続された重文の場合は、以下の 2 例のように接続詞から後ろの節を区切って 2 つの文として扱う。

例)

“My mother brought a fortune on her marriage, and it enabled my father to speculate successfully.” (East Lynne, Chapter 1)

のような文の場合、My mother から her marriage, までと、and 以下を区切り、以下の d) e) のように 2 文として扱う。また、同様に訳文も、対訳に当たる箇所を d') e') のように分けて扱う。

d) “My mother brought a fortune on her marriage,

d') 「且つ私の母が婚姻の節に持参いたしました財産も随分ございまして

e) and it enabled my father to speculate successfully.

e') 亡父がそれを都合よく回しましたから長い間によほど増えました。」（『いさ子』第 1 回）

3. 主語の対応／非対応の判断基準

本研究の目的で述べたように、どのような無情物主語の文が直訳的に取り入れられ、そうでない文はどのような場合に意識されているのか、その決定要因を明らかにするために、まずは無情物主語が訳文において一致しているかどうかを判断する必要がある。そこで、対応／非対応という語を用いて、原文と訳文で、主語にあたるものが一致するかを判断し、対応か非対応のどちらかに当てはめていく。対応／非対応を判定する際には、まず初めに、上記Ⅱ-2 の基準で、原文中で主語にあたる名詞を判定し、その対訳に当たる文の主語が、原文の名詞と意味的に一致しているかどうかによって判断する。また、主語が対応で述語の動作内容は異なっている場合も、あくまで無情物が主語として訳されるかどうか注目するため、対応している例として扱うこととする。以下に、原文の主語と訳文の主語が一致している例を示す。

対応の文例

f) but the extraordinary loveliness of the young girl before him nearly took away his senses and his self-possession.

f') されども今や目の当たりいさ子姫の類まれなる愛嬌はほとんど河原の魂とものに動かぬ素振りとを奪いぬ。（『いさ子』第 1 回）

g) and his opinion upon all matters, private and public, carried weight.

g') 公私の議に於て其論頗る重を負ふに至れり（『繫思談』第 1 回）

h) Some names stimulate and encourage the owner,

h') 名字によりて或は其人を鼓舞作興するあり (『繫思談』第 1 回)

一方で、原文で主語にあたる名詞が、訳文中では副詞などの別の品詞として訳される、あるいは全く無視されるなどして、代わりに有情物などが主語に置かれる場合や、主語が省略されて前文の有情物をそのまま受ける場合などは、訳文の主語が非対応であると判断する。

非対応の文例

h) but the family interest procured him an admission into the Charter House School, at which illustrious academy he obtained no remarkable distinction.

h') 全く家門の餘慶にて世に名高きチャーター、ハウス學校に入學を許されしかど (『繫思談』第 1 回)

i) "This everlasting gout kept me indoors all day."

i') 「だが、僕が病気で毎日毎日閉じこもってばかりいるが(…)」 (『いさ子』第 1 回)

j) and ruin had not come yet.

j') なほ未だ破産の淵に沈まず— (『いさ子』第 1 回)

また、It などの指示語は、形式主語でなく、何か前文の内容を指している場合には、その指示内容と訳文中の主語が対応しているか否かで判断することとする。他にも、「それ」などのように指示語が訳文に反映されている場合には、内容が一致していれば対応しているものとする。

対応の例

k) "that was very kind of the Earl;

k') それは／侯爵さまの御深切誠に有がたう御座り升。 (『小公子』第 3 回)

非対応の例

l) It makes me half afraid.

l') 私は子供の為に誠に氣遣はしく御座り升。 (『小公子』第 3 回)

4. 名詞の分類

上記の基準を用いて主語の対応／非対応を判断した後に、その要因となっているものを探るために、主語の性質に着目して分析する。その際、名詞を意味の上から分類するため、国立国語研究所の『分類語彙表―増補改訂版―』(2004)の基準を採用している。また、同表では、名詞を以下の 5 つに分類しているが、本来は「自然物および自然現象」に含まれるはずの「ヒトの身体」に関しては、件数が非常に多いのと、その性質上、本研究では別のカテゴリーとして見る必要があると考えたため、『分類語彙表』の 5 分類に + α として加える。

『分類語彙表』による名詞の 5 分類に本研究の例文中の名詞を当てはめた例

人間活動の主体：学校、集会、行列、世の中など

人間活動―精神および行為：思想、困難、激怒、結婚、噂など

生産物および用具：財産、イーストリン(建築物)、小説、新聞、手紙など

自然物および自然現象：病気(痛風や肺病)、日光、音、雨など

抽象的關係：結果、見た目、理由、変化、時間、それ(前の出来事などを指して)など

+

身体の一部：唇、髪、顔色、足、骨など

さらに、上記に加え、日本語の能動文の主語に関する規則性についての研究として、Silverstein (1976)による「名詞句階層 (Noun Phrase Hierarchy)」(図 1) を参照し、主語と目的語の関係性からも分析を行う。

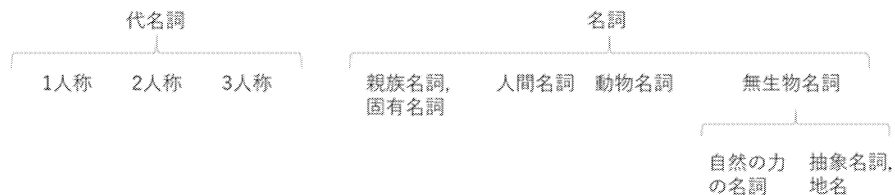


図 1. Silverstein による名詞句階層 (Noun Phrase Hierarchy) [角田(1991)より抜粋]

角田(1991)によると、Silverstein は、この名詞句階層を用いて、動作主になり易さの度合いと動作の対象になり易さの度合いを現したという。つまり、階層が高い方（画面左側）に行けば行くほど動作主になり易く、低い方（画面右側）に行けば行くほど、動作の対象になり易いということを示している。また角田は、この階層が、日本語の能動文の主語と目的語の関係性に深く関わっていると指摘しており、概ねこの階層上の位置関係に従って能動文の名詞の格が決まるとしている。

本研究では、本節で挙げた研究を参照し、主語の語彙的な意味による分類、そして目的語を伴う文である場合には、目的語の名詞との関係性を調査の主な観点として、直訳あるいは意識を決定する要因の一つと仮定し、その要因をより明確にするために分析を行う。また、逐語訳を行うことによって、それまでの日本語にどのような変化がもたらされたかを明らかにする。

5. 述語部分の他動性の測定

主語の対応／非対応を分ける要因を分析するうえで、主語だけでなく、もう1つの大きな要素となる述語部分にも注目する必要があるだろう。森岡(1999)は、翻訳による影響を受ける前の日本語にも、無情物が主語として動作を行う例は存在した(例：風が吹く、花笑う等)が、近代以降において、無情物をより幅広い動作主として認めている英語の影響で表現の幅が広がったとしている。また、中右・西村(1998)は、この認められる動詞の幅の違いを、「A（主語）がB（目的語）に、自らの責任を持って何らかの変化をもたらす」という使役構文の動作主の資格の拡張によって説明している。使役構文の最も典型的な動作主が人間であり、その動作主としての資格が無情物にまで拡張しているのが英語というわけである。そこで、使役の程度の高低を計る指標として使われているのが他動性という概念である。つまり、述語部分の他動性が高ければ高いほど、より使役の度合いが高く、日本語においては無情物が行いにくい動作であるということが分かる。

そこで、他動性の高低を計る指標として、Hopper and Thompson(1980)が提唱した、以下の指標を参考にする。

	HIGH	LOW
A. Participants	2 or more	1 participant
B. Kinesis	action	non-action
C. Aspect	telic	atelic
D. Punctuality	punctual	non-punctual
E. Volitionality	volitional	non-volitional
F. Affirmation	affirmative	negative

G. Mode	realis	irrealis
H. Agency	A high in potency	A low in potency ¹
I. Affectedness of O	O totally affected	O not affected
J. Individuation of O	O highly individuated	O non-individuated

(日本語訳)

- A. 参与者 複数か一人か
- B. 動作性 動作か非動作か
- C. アスペクト 非完了か完了か
- D. 瞬時性 瞬時的か非瞬時的か
- E. 意図性 意図的か非意図的か
- F. 肯定性 肯定か否定か
- G. ムード 現実か非現実か
- H. 動作主性 動作を行う能力の高低
- I. 対象への影響 対象への影響の有無
- J. 対象の個別性 対象が個別化されているか否か

Hopper and Thompson(1980)はこれらの指標を示し、動詞の自他は、「目的語の有無」などの形の面から簡単に二分できるものではなく、「どちらの要素がより強い」という観点で捉え、動詞が持つ他動性は「連続性」を成しており、この表における動詞の要素、A～Jそれぞれで「高い」に当てはまる要素が多ければ多い程、他動性の高い動詞であるとした。

本研究では、この述語部分の他動性の高低が、西村の指摘した使役の程度の高低と繋がりを、無情物名詞が行うことができる動作の内容を決定する要因の一つであると仮定する。そして、他動性の高低が、名詞句階層（上記Ⅱ-4）などとともに、どのように無情物主語の対応／非対応に影響を与えているのかを分析することによって、どの要素を持った無情物主語の文が直訳的に訳されていたのかを明らかにし、逐語訳によって、当時の日本語の文章にどのような変化が見られたのかを探っていく。

¹ H. Agency に関しては、ほぼ同様の内容を（3. 1）で詳細に論じるため、（3. 2）での分析は省略する。

Ⅲ 主語と述語の分析

1. 名詞句階層と主語—目的語の関係

上記Ⅱ-4を踏まえて、実際に本研究のデータベースにおいて、目的語を伴った無情物主語の文で主語の対応／非対応の件数を集計すると、以下の（表1）のような結果となった。

表1. 目的語を伴う文の対応／非対応の件数¹

	繫思談	いさ子	小公子	合計
対応	22	7	3	32
非対応	8	13	18	40
合計	30	20	21	71

まず、非対応となっている用例に着目して分析を行う。以下 1)～5)に、非対応となった用例の典型的な例を挙げる。

1) “My mother brought a fortune on her marriage, and it enabled my father to speculate successfully.

1') 「且つ私の母が婚姻の節に持参いたしました財産も随分ございまして亡父がそれを都合よく回しましたから長い間によほど増えました。」（『いさ子』第1回）

2) “This everlasting gout kept me indoors all day.”

2') 「だが、僕が病気で毎日毎日閉じこもってばかりいるが(...)」（『いさ子』第1回）

3) “When her elopement was made known to the general, it killed him.”

3') 「結婚のことが中將に知れると中將はすぐ死んでしまつて」（『いさ子』第1回）

¹ 受け身文については、ほぼ全件が非対応でありⅢ-3で詳細に論じるため、ここでの件数には含んでいない。

4) “It makes me half afraid.”

4) 「私は子供の為に誠に氣遣はしく御座り升。」（『小公子』第3回）

5) “It would make you mad, you know.”

5) 「あなただつて一生懸命に靴を磨いてゐて、終始キチャウメンにしてゐて、（中略）ずるいことすりやあゝおこるでせう。」（『小公子』第3回）

1)～5)の用例の共通点として挙げられるのが、いずれも原文の無情物主語の目的語がヒトとなっている点である。つまり、能動文の動作主が無情物で、働きかけの対象がヒトの文である。このような文は、角田の指摘に沿って考えると、働きかけの方向性が階層の低い名詞から高い名詞へと向かう文となり、日本語における能動文の規則に反した文となることから、訳される際にはこのように主語が非対応となっていると言えるだろう。また、このように規則から外れた能動文を訳する際には、1)～5)に共通して見られるように、基本的に原文において目的語に置かれている有情物（ヒト）を、代わりに主語に格上げし、本来主語にあった無情物を、理由・原因を示す副詞節として訳するのが最も用いられている訳法である。それぞれの文について詳細を見ると、以下のようになる。

1')主語の **it** が、母が結婚の際に財産を持参したことを指し、忠実に原文の主語に従うのであれば、前文の内容を受けて「それが私の亡父が〇〇するのを可能にさせた」となるところを、訳文では、目的語の「亡父」が主語に置かれ、本来の主語であるはずの「それ」は「亡父」が行動するための「手段」として訳されている。

2')原文通りの主語・目的語で訳すとすれば、「痛風が僕を閉じ込めた」の形になるはずが、主語が「僕」に置き換えられ、「痛風」は自身が閉じこもっている「理由」として訳されている。

3')は 1)と同様に、前文の内容を受けた指示語 **it** が原文の主語に置かれているが、訳文では「それが中将を殺した」とは訳されず、指示語を使用せずに、前文を「原因」として訳し、「中将が死んだ」と、ヒトが主語の自動詞文として訳されている。

4')は、3)同様に指示語 **It** が原文での主語にあたり、「それが私を心配させる」のようになるところを、まず主語に原文中の目的語にあたる「私」を置き、**It** が指す内容を「それ」と訳さずに、「子供の為に」とより詳細な「理由」として詳細に述べている。

5')は、直訳すれば「それがあなたを怒らせる」となるところを、4')と同じく原文の主語 It が「それ」ではなく、「一生懸命に靴を磨いて（中略）ずるいことすりやあ」と、「あなたが怒る」という部分の詳細な「理由」として訳されている。

一方で、II-5でも紹介したように、中右・西村(1998)によると、英語においてはこの無情物による他動詞文はかなり一般的な文として用いることができるという。この日英語の無情物名詞の扱いの違いが、原文と訳文の主語の非対応の原因となっていると考えられる。

また、上記の表 1 を作品別に見ると、『繫思談』のみ明らかに対応の件数が多く、目的語を伴う文で対応している例のほとんどを占めているといっても過言ではないことから、作品および文体ごとに無情物の能動文の訳し方に違いがあるのかについて確認する必要があるだろう。さらに、角田の指摘を検証するに当たって、目的語の性質にも着目することが求められる。そこで、まずは原文が「無情物主語からヒトに働きかける他動詞文」の、訳文における主語の対応／非対応の数を、実際にデータベース中の用例を作品別に見てみると、以下のような結果となった。

(1)目的語が有情物の場合

『繫思談』 10 件中 対応 7 件／省略(非対応) 3 件

文例：

6) Some names stimulate and encourage the owner,

6') 名字によりて或は其人を鼓舞作興するあり (第 1 回)

7) others deject and paralyze him.

7') 或は其人を畏縮逡巡せしむるあり (第 1 回)

8) but the family interest procured him an admission into the Charter House School, at which illustrious academy he obtained no remarkable distinction.

8') 全く家門の餘慶にて世に名高きチャーター、ハウス學校に入學を許されしかど (第 1 回)

『いさ子』 13 件中 対応 5 件／非対応 8 件

文例：

9) My enemy, the gout, has possession of me again.

9') 「僕が大敵一痛風—は再び攻め寄せてきました。」 (第 1 回)

10) it had not overwhelmed him.

10') 未だ破産の淵に溺死せざりき。 (第1回)

加えて、1)～3)を参照。

『小公子』 17件中 対応 2件／非対応 15件

文例：

11) He cheats, and that makes Dick mad.

11') よく人を欺かしては、デックを怒らせるんです。 (第3回)

12) The way in which the red legs flew and flashed up and down, the shrieks of the boys, the wild efforts of Billy Williams, whose brown legs were not to be despised, as they followed closely in the rear of the red legs, made him feel some excitement.

12') 彼の赤脛の飛工合、朋輩等の高声、赤脚に少し後れてゐても、中々軽蔑の出来ぬビレの鳶色の脛が夢中に競争するも、何れもハ氏の心をいらだてる原因でした。 (第2回)

13) It would int'rust her very much.

13') キット面白がり升よ。 (第3回)

加えて、4)、5)を参照。

各作品の用例を観察すると、主語が非対応の文に特に多く見られるのが、上記でも述べたように、指示語である **It** や **That** が原文中の主語である場合に、「それが」などと主語として訳するのではなく、目的語に置かれているヒトを主語として訳する、あるいは前文の内容を受けて省略するパターン〔1), 3)～5)や、10), 11), 13)など〕である。特に、『小公子』と『いさ子』によく見られる例であるが、指示語が指す内容が、具体物などそれ自体が実際に形を持って存在しているものでなく、『抽象的關係』に分類されるような「できごと」や、『人間活動—精神および行為』の中でも「行為」に当てはまる場合に、具体的に指示語の内容を細かく説明して、それが原因や理由となって本来目的語であるヒトが「主語として」何かしらの行動を行うパターンである。

推察するに、「それ」などの指示語を主語として訳すのではなく、前文を受けて省略される理由として、無情物名詞の中でも、実際に形を持って存在が「見える」ものでなく、上述したような、「できごと」や「行為」のような、抽象的なそれ自体の「形が見えない」も

のを指す場合には名詞として捉えるのが難しく、説明的に訳していたのではないだろうか。件数は少ないが、1)の **fortune** (財産) のように、現実世界に「もの」として存在するものや、下記の用例 14)の **That** が指す、「足の長さ」のように目に見えるものは「それ」として訳されていることから、このことが言えるのではないかと仮定する。さらに、別の文例 15)、16)のように、他動詞文でなく、述語部分が **be** 動詞の場合には、「できごと」などの見えないものを指す主語の **That** が「それ」として訳されていることがかなり多いことから、上記のような訳がなされるのは、他動詞文の主語として働きかける必要がある場合だったのではないかと考える。

14) **and that gives me a'vantage.**

1') だからそれが僕の得になったのだ。 (『小公子』第 2 回)

15) "**that** was very kind of the Earl:

15') それは／＼侯爵さまの御深切誠に有がたう御座り升。 (『小公子』第 3 回)

16) "**That** was a long time ago!

16') オヤ／＼それは大変な昔しのことですね。 (『小公子』第 3 回)

また、『いさ子』の例に関して、原文 2)と 9)で同じ名詞 “**The gout**”が主語として使われ、さらに目的語も全く同じ“**me**”を共有しているにもかかわらず、訳文 2')では「僕が」、一方の 9')では「痛風が」と、主語が異なって訳されている点について考察すると、9)では、“**My enemy, the gout**”のように、直前に“**My enemy**”で修飾することによって、「痛風」を自らに襲いかかる敵として、有情物のような働きをもつものとしてみなすことができたからではないかと考えられる。このように、背景に有情物の存在を投影している場合については、この 3 作品では件数が少ないため、他の作品を追加するなどしてデータを増やして検証する必要がある。

また、上の結果で特に目立つのが、『繫思談』ではほとんどの用例が対応しているのに対し、『いさ子』と『小公子』ではほとんどが無情物からヒトへの能動文としての訳を避けているという点である。この 2 作品は、やはり非対応の文では名詞句階層の能動文の原則に従って、無情物がヒトに(低い方から高い方に)働きかけるのを嫌う傾向にあったようである。

件数自体の違いもあるが、この結果からも、『繫思談』が原文に非常に忠実に、無情物主語の他動詞文、つまり日本語の規則を破るような文であっても直訳しようとしていたのに対して、それから数年後に訳された『いさ子』や『小公子』では、それを直訳するのを嫌

い、目的語の有情物を主語に置き換える訳法をとっていたことが分かる。

(2)目的語が無情物の場合

上記とは異なり、原文中の目的語がヒトなどの有情物でなく、無情物である場合の無情物主語の文、つまり、無情物が無情物に働きかける能動文の場合の翻訳についても着目する必要がある。角田は、無情物名詞であっても、例えば目的語が無情物である文など、能動文の働きかけが階層に逆らわない場合や、あるいは、名詞句階層上での距離が近いものである場合には、無情物主語の他動詞文であっても比較的自然的な文になることが多いとしている。これにあてはまる例としては、「台風が〇〇地方を襲った」や、「緑が一面を埋め尽くす」のような文が挙げられるだろう。そこで、本研究の調査対象においてはどのように訳されているのか、以下に、原文で「目的語も無情物である無情物主語の文」の作品別の対応／非対応の件数と共に、データベースから引用した代表的な用例を挙げる。

『繁思談』 21 件中 対応 15 件／非対応 6 件

文例：

17) That name has been a dead weight on my intellectual energies.

17) 斯名こそ實に我智力を壓抑するものなれ (第 1 回)

18) A public school ripens talent,

18) 故に公学良く人才を養成するも、 (第 7 回)

19) His learning embraces all literature, ancient and modern.

19) 其学は百科の文藝に通じ古今の文章において知らざる所なく (第 7 回)

『いさ子』 8 件中 対応 2 件／非対応 6 件

文例：

20) and his once attractive face bore the pale, unmistakable look of dissipation.

20) 其昔し人の目を奪ひし顔は蒼白くして何處となく心を痛むる状を表はし (第 1 回)

21) but the extraordinary loveliness of the young girl before him nearly took away his senses and his self-possession.

21) されども今や目の当たりいさ子姫の類まれなる愛嬌はほとんど河原の魂とものに動かぬ素振りとを奪いぬ。 (第 1 回)

22) He had disease of the heart, and the excitement brought on the crisis.

22') 元来中將は心臓病で悩んでいたところへ一時に激怒したものだから不幸な結果をきたしたのだが (第 1 回)

『小公子』 4 件中 対応 1 件／非対応 3 件

文例：

23) She says hers has gone into her bones and the rain makes it worse."

23') 其おばあさんのもんばつなんかは骨の中に這入つちまつたんだそうで、雨が降れば尚わるくなるんです。 (第 3 回)

24) It touched his worldly, hard old heart to see the tender, timid look in her brown eyes.

24') 流石、ハ氏の冷淡、世才的の心も夫人の茶勝な眼に溢れた優愛と氣遣はしげの眼付とに動かされた軀で、 (第 3 回)

『繫思談』では、17')～19')に見られるように、目的語が有情物である場合と同様に、無情物から無情物に働きかける場合も直訳されている場合が多い。3. 2でも述べる内容ではあるが、17')の例においては特に、原文の動詞句に当たる部分は **has been a dead weight** と、**be** 動詞＋名詞の形であるが、訳文においては、「我智力を壓抑する」と、「智力」という目的語に対して、かなり他動性の高い動詞を使用して訳している点に注目できる。その他、18')や 19')でも、主語は無情物で対応したままで、「養成する」や「奪う」など、目的語に対して強く働きかける動詞を用いて直訳している。

『いさ子』と『小公子』の 2 作品は、目的語が有情物の場合と同様、ほぼ同じような割合で対応／非対応となっていたが、20')や 21')は、主語と目的語だけでなく、その修飾語や動詞の内容まで完全に対応させるような形で訳している。20')は、動詞部分の他動性が低い (3. 2を参照) ことから容易に訳出来たのではないだろうかと考える。21')は、件数が少ないため更なるデータが必要ではあるが、主語がヒトの特性を表す語「愛嬌」であるということが関係しているのではないかと仮定する。特に、“**loveliness of the young girl**”と、主人公である少女の存在によって修飾していることから、有情物が背景にあるということが意識されたのではないかと仮定する。

24')は、原文の主語である指示語が省略され、代わりに目的語の位置にある“**heart**”が受け身文の主語として訳されている点が興味深い。「心」が有情か無情かという点は区別するの

が難しいが、ここではヒトに属するものとして、便宜上「身体の一部」として扱う。やはり、『抽象的關係』に当てはまる「それ」が主語として、ヒトの一部である「心」に働きかけるのを嫌い、代わりに主語に「心」を置いた受け身文として訳したのだろう。

本節での分析から、かなり高い割合で直訳していた『繫思談』は例外として、他動詞文の主語として翻訳することができる無情物はやはり限られていたということが分かった。特に、指示語の翻訳の際に、指す内容それ自身が形を持ち、「目に見えるもの」である場合と、抽象的な「目に見えない」ものである場合で違いが見られる。また、目的語を伴う文においては、その主語との関係性が大きく関わっており、名詞句階層で最も高い位置におかれるヒトが目的語に置かれる場合はかなり高い割合で主語をヒトに置き換えた訳法を取っている。また、無情物でも、修飾などでその背景にヒトが見られる場合は、主語として働きかけることが行われていたのではないか。以上の要素が様々に絡み合い、無情物を主語として直訳するか別の訳法を取るかが決まっていたようである。

2. 動詞の他動性の高低

次に論じる点は、動詞の他動性の高さについてである。前項で、主語と目的語の性質による分析を行い、どのような文の主語が対応し、どのような文が非対応なのかを検証したが、その主語と目的語の関係性を決めるのは動詞であることから、動詞のどのような要素が対応／非対応の決定に関わっているのかを分析する必要がある。本項では、**Hopper & Thompson** の指標（II-5を参照）に沿って、各無情物主語文の動詞の他動性を測ったところ、当時の翻訳でも、動詞の他動性が高い文であればあるほど、直訳が避けられる傾向にあることが分かった。例として、実際に主語が非対応である 1)～5)の例を見ると、動詞の要素としていずれも「高」に当てはまる項目が多く、他動性の高い動詞を用いた文であることが主語の対応を妨げていたことが分かる。どの要素が「高」なのかについては、**Hopper and Thompson (1980)**を参考に、その動詞がある項目において、明らかに「高」の性質を持っていると判断できる場合のみ、その項目に当てはめた。例として、1)～5)までの文の他動性の判断を以下に示す。

1) “My mother brought a fortune on her marriage, and it enabled my father to speculate successfully. (East Lynne, Chapter1)

A. 参与者：2人

C. アスペクト：完了

I. 対象への影響：変化あり

J. 対象の個性：個別化（高）

2) “This everlasting gout kept me indoors all day.” (East Lynne, Chapter1)

- A. 参与者：2 人
- B. 動作性：高い
- C. アスペクト：完了
- E. 意図性：意図的
- I. 対象への影響：変化あり
- J. 対象の個別性：個別化（高）

3) “When her elopement was made known to the general, it killed him.” (East Lynne, Chapter1)

- A. 参与者：2 人
- B. 動作性：高い
- C. アスペクト：完了
- I. 対象の影響：変化（完全）
- J. 対象の個別化：個別化（高）

4) “It makes me half afraid.” (Little Lord Fauntleroy, Chapter3)

- A. 参与者：2 人
- I. 対象への影響：変化（完全）
- J. 対象の個別性：個別化（高）

5) “It would make you mad, you know.” (Little Lord Fauntleroy, Chapter3)

- A. 参与者：2 人
- I. 対象への影響：変化（完全）
- J. 対象の個別性：個別化（高）

上記に挙げた例はいずれも、「高」に当てはまる項目が3つ以上と、他動性の高い動詞の例として挙げることができるだろう。どれも、訳文では無情物の代わりに有情物が主語として置かれる訳法が取られている。特に、これら全てに共通している要素として、**A**（参与者）、**I**（対象への影響）、**J**（対象の個別性）が挙げられる。他動性ということばを考える上では当然、なにか動作の影響を受ける他者、つまり目的語の存在が必要となる。**Hopper & Thompson** は、**A** の参与者が 2 人という条件がまず揃わないことには、どんなに他の要素が「高」に当てはまっても、他動性を見ることは難しくなると述べている。つまり、これを日本語への翻訳に当てはめて考えると、ある文の参与者が 1 人である場合には、自動詞的な文となり、無情物が主語に置かれる文でも直訳される可能性が高くなるというこ

とである。特に、述語部分が **be** 動詞などで状態を表し、動性(**Kinesis**)を一切持たないような文はほとんどの割合で主語を無情物のまま訳している。

また、**J** (対象の個別性) の高低を判断する基準に関して、Hopper & Thompson(1980) は、以下のようにまとめている。

Individuated : proper, human (animate), concrete, singular, count, referential (definite)

Non-Individuated : common, inanimate, abstract, plural, mass, non-referential

この基準に従うと、上記の用例の目的語は、固有名詞や有情物、単数形など、個別化が高いと判断される要素を多く持っており、これが他動性の高さに関係し、主語の直訳を回避させる要因の一つとなっているようである。

また、訳文のある動詞の主語に無情物を置くか否かを決定する要因として大きく影響していたものとして、**I** (対象への影響) の大きさが挙げられる。例えば、参加者が2人以上であったとしても、目的語が影響を受けていない (なにも動作による変化が生じていない) 場合には、その動詞の他動性は低いと判断でき、原文中の主語の無情物をそのまま主語として訳しやすくなる。例えば、目的語がある文でも、動詞が **have** や **consist of** などのような、状態を表すものであれば、その目的語は主語から影響を受けている、あるいは何らかの変化をもたらされているとは言えない。そしてそのような場合は、他動的な文章とはいづらくなり、必然的に、無情物が主語として訳される可能性も高くなる。直訳された例について、以上で述べた **B** (動作性)、**I** (対象への影響) がそれぞれ低い (あるいは当てはまらない) と判断されるものに着目し、当てはまる代表的な文例を以下に示す。

25) “a private school has its drawbacks.”

25’) 「私学とても亦幣あり」 (『繫思談』第7回)

A. 参加者 : 2人

B. 動作性 : 低い (状態)

I. 対象への影響 : なし

J. 対象の個別性 : 個別化 (低)

26) But for the most reckless among the reckless, [...] and for a gay man outstripping the gay—by these characteristics did the world know Lord Mount Severn.

26’) 然れども世の怠け者の中の最も瀟灑 (中略) 放蕩者の中にて最も放蕩家といへるを以て世の中は伯爵山の井少将を知れり。 (『いさ子』第1回)

- A. 参与者：2人
- B. 動作性：低い（状態）
- L. 対象への影響：なし
- J. 対象の個別性：個別化（高）

加えて 20)も参照

上記 25)や26)のような文の動詞に着目してみると、確かに参与者は2人存在しているが、主語から目的語に対して動作が向かっているとは言えず、“**know**”も“**have**”も、あくまでその主語の状態を表す動詞ということで、**B**（動性）はかなり低いと考えられる。さらに、**L**（対象への影響）に注目すると、どちらの動詞も、対象に何かしらの変化を起こしてはならず、あくまでその動詞の目的語としてそこに置かれているだけである。これは、**B**（動性）でも見たように、対象である目的語に動作が向かっていないこととも関係し、即ち、目的語に与える影響が少ない、あるいは無いと言うことができる。すると、26)のような、対象が高度に個別化されているものでも、それに動作が及ばず、変化をもたらさないのであれば、主語を対応している訳する例も見られる。また、これは（Ⅱ-4）で分析した、目的語の有情性／無情性と名詞句階層上での関係性とも関わっており、『いさ子』や『小公子』では直訳が避けられているが、さらに後年の翻訳小説においては、無情物名詞が目的語にある場合の対応の比率が上がっている。しかし、『繫思談』はやはり、他の 2 作品とは異なり、本項で挙げたような要素が「高」に当てはまる場合でも直訳の姿勢をなるべく崩さないようにしている。

上記をまとめると、**Hopper** 達による他動性を測る指標の中でも、この時期の翻訳においては特に、**A**（参与者）を前提として、さらに **B**（動性）、**L**（対象への影響）、**J**（対象の個別性）が大きく関係しており、これら三つの要素が「高い」と判断される動詞の場合は、原文の無情物主語と対応しない形での訳法が取られる傾向にある。その場合、原文の目的語に有情物がある場合はそれが主語となり、目的語も無情物である場合は前文の内容を受けて対訳部分の主語を省略（Ⅲ-1を参照）している。

3. 受け身文

本項では、ほぼ全用例が非対応であったことから、Ⅲ-1 では分析の対象に含まなかった、無情物主語の受け身文について分析を行う。まず、この時代の無情物主語の受け身文の翻訳について、明らかな傾向として挙げられるのが、直訳を避けているという点である。つまり、原文では主語が無情物の受け身文であっても、日本語に訳す際には、無情物を主

語に置くことを回避していることが明白な結果として表れている。表 2 にその作品ごとの内訳を示した。

表 2. 無情物主語の受け身文の対応／非対応の件数

	繫思談	いさ子	小公子	合計
対応	1	0	0	1
非対応	19	21	4	44
合計	20	21	4	45

文例：

27) The books were mainly divided into two classes— novels, and what they called “good books.”

27') 而して其書は首として二種に區別し一は小説にして一は其呼て善書となす所のものなり （『繫思談』第 1 回）

28) only at times was it to be noticed, when the features were at repose,

28') ややしばらく見慣るるに従いどことなく憂いを含みし様あるを見出したりき。
（『いさ子』第 1 回）

29) The conduct of the knight was reported to the sainted king, with a request that it should be properly reprimanded;

29') さて此士人の暴行に就き相當の譴罰を乞はん爲め其顛末を具して尊者の許に申稟せしに （『繫思談』第 1 回）

27)～29)は、それぞれ無情物である“The books”と“it”、“The conduct of the knight”が主語に置かれた受け身文であるが、訳文はいずれも、前文中の有情物の主語を受けて、主語を省略している。今回の調査範囲の無情物主語の受け身文では、この訳法が取られる場合がほとんどであり、基本的には無情物が「～される」のように訳されることはない。

このように訳されていた原因として考えられるのが、話し手の視点である。高見(2011)によると、話し手や書き手は、自分にとってより親しみを感じられる人やものに自身の視点を置き、それを文の主語や主題とするという。また、高見はこの視点規則が、日本語の受け身文における主語の決定に大きく影響しており、英語と比べて無情物を主語に置くの

を好まない日本語においては、無情物を主語に格上げすることになる受け身文が避けられる傾向にあると説明している。つまり、無情物主語構文が多くみられる英語では、視点を無情物に置くことが何ら不自然でなくても、無情物に視点を置くのに慣れていない日本語では同じように視点を置いて受け身文を作ると座りが悪くなってしまうということである。英語と出会って長い現代日本語でもこの規則が依然として働いているということは、明治時代においてはさらに無情物主語の受け身文を作るとはより一層不自然なことであったのだろう。また、それが原因となって、日本語に訳する際には頑なに前文の有情物をそのまま主語として受け継いでいたと考えられる。

では、本研究で1例のみ見られる、無情物主語の受け身文で主語が対応した例はどのようなものであったのだろうか。以下に例を示す。

30) All minds are thrown into one great mould, and come out of it more or less in the same form. (『繫思談』第7回)

30') 萬種の心は皆一大模型の中に鎔鑄され多少同形のものとなりて出づるなるべし

ここで注目したいのが、主語に置かれている「心」が、原文が受け身文ではないにも関わらず受け身文として訳された24')でも同じように主語に置かれているという点である。つまり、無情物に視点を置いた受け身文を回避する当時の感覚でも、「心」は親しみを感じやすく、視点を置くに相応しいものであると捉えられていたということだろう。

また、もう1例だけ、24')と同様に、原文は受け身文でないにも関わらず、無情物主語の受け身文として訳していた例がある。

31) his bright hair streamed out behind.

31') きら／＼した髪は浪々と後ろへ吹流されて居升た。(『小公子』第2回)

恐らくこの31')においても、「心」と同様に、「身体の一部」である「髪」ならば、他の無情物とは異なり、視点を置くことができたため、能動文を受け身文として訳することができたのだろう。

高見は、現代日本語においても無情物主語の受け身文は避けられる傾向にあるとしているが、動作主が特定人物でない場合¹は適格となるとしている。これは、西洋語を翻訳し始めたばかりの、ほぼ全ての場合で有情物主語に置き換えていた明治期と比較すると、無情物主語がかなり受け入れられ、浸透しているということではないだろうか。つまり、長い時間をかけてではあるが、日本語も、徐々に無情物が主語に置かれることに慣れ、視点を

¹ 「窓が太郎に開けられた」のように、動作主がある人物だと容易に特定できる場合は、無情物主語の受け身文は不適格になるとしている。

置くことができるようになり、中右・西村(1998)が説明したような、「使役構文の動作主としての資格の拡張」を通して無情物主語に対する感覚が変化してきているということに繋がるのではないだろうか。

IV 研究のまとめ

本研究では、英語小説の逐語訳が行われ始めた時期である明治20年前後の翻訳作品を調査対象とし、それまでの日本語になかった無情物主語の文の翻訳に着目し、無情物を主語に置いて直訳するのか、あるいは別の方法での意識するのかに、どのような要素が関わっていたのかを明らかにすること、また、無情物主語の翻訳を通して、当時の書きことばにどのような変化が見られるのかを明らかにすることを目的とし、パラレルコーパスを用いて分析を行った。

主語に着目したⅢ-1では、無情物の中でも名詞の性質が直訳されるかどうかに関わっていることが分かった。特に指示語の指す内容が、形を持ち「目に見えるもの」である場合と比較して、抽象的なできごとや行為など、それ自体が形を持っていない名詞である場合には、主語として働きかけるの名詞としてではなく、副詞として説明的に訳されることが多くなる。また、目的語がヒトである場合には、日本語の能動文の規則に従い、直訳を避け、代わりにヒトを主語に置くことが多い。そして、無情物でも、何らかの形で有情物が背景に見られるものである場合には、能動文の主語としてはたらしかけることができたようである。

述語に着目したⅢ-2では、他動性の高低が無情物を主語として訳かどうかに関わっており、その中でも特に、「動性」「対象への影響」「対象の個性」が強く影響していたということが分かった。原文の動詞が、これらの要素が高い場合、直訳は避けられる傾向にあり、目的語が有情物であればそれを主語に、目的語が無情物であれば前文の主語をそのまま使い省略する形で訳されている。

Ⅲ-3での受け身文の分析では、当時の無情物主語の受け身文は基本的に、訳文の主語が対応せずに、頑なにヒトを主語として扱い、前文を受けるなどして省略されることが分かった。また、無情物の中でも「心」や「髪」など、ヒトの「身体の一部」に当たる名詞はそのまま受け身文の主語として訳されており、ヒトであるかどうかに関わっているようである。

当時の無情物主語の翻訳は、上記で挙げたような要素が様々な組み合わせで直訳されるかどうかが決まっていたことが分かったが、能動文の分析で、『繁思談』のみは例外的にこれらの要素を無視し、頑なにまでに原文の構文そのままに直訳していることが多い。しかし後の2作品では徐々にその直訳が減っていく。このことから、この明治20年前後にあって、初期は新文体を創り出すという意識のもと、無情物主語を書きことばに取り入れよ

うという意識から直訳していたが、言文一致の流れで徐々に口語文を目指した翻訳が行われはじめると、話し言葉に馴染まないような要素を持った無情物主語の文は、代わりにヒトなどを主語に置き換え、直訳されなくなっていくのではないかという結論に至った。

今回の研究は、調査対象を英語の逐語訳が行われ始めた明治 20 年前後の 3 作品に絞って行ったが、日本語の新文体創造の動きはその後何年にも渡って続くことから、近代の翻訳を扱うには、今後、より幅広い期間を対象とした研究が必要となる。さらに、同じ年の別の作品も対象に加えるなど、データベースをより充実させ、より実証性の高い研究へと発展させていきたい。

参考文献

【日本語による文献】

- 池上嘉彦 (2006) 「英語の感覚・日本語の感覚 〈ことばの意味〉のしくみ」 NHK 出版
- 川戸道昭 (2014) 「欧米文学の翻訳と近代文章語の形成—漢文対応の日本語から欧文対応の日本語へ—」 近代日本語〈形成と翻訳〉別巻 大空社
- 国立国語研究所 (2004) 「分類語彙表—増補改訂版—」 大日本図書刊
- 斎藤伸治 (2003) 「視点と日本語の無生物主語」アルテス リベラレス (岩手大学人文社会科学部紀要) 第 72 号 pp. 43-54.
- 嶋村誠 (2014) 「日英語に見るものの捉え方」 関西学院大学出版会
- 須賀一好・早津恵美子 (1995) 「動詞の自他」 ひつじ書房
- 杉本つとむ (1998) 「杉本つとむ著作選集 2 近代日本語の成立と発展」 八坂書房
- 杉本つとむ (1998) 「杉本つとむ著作選集 4 日本翻訳語史の研究」 八坂書房
- 高見健一 (2011) 「受け身と使役—その意味規則を探る—」 開拓社
- 對馬康博 (2011) 「日英語の無生物主語構文の認知メカニズム—認知文法と認知モードによる解法—」 札幌大学外国語学部紀要 第 74 号 pp. 31-86.
- 角田太作 (1991) 「世界の言語と日本語 言語類型論から見た日本語」 くろしお出版
- 中右実・西村義樹 (1998) 「構文と事象構造」 研究社出版
- 益岡隆志・野田尚史・沼田善子 (1995) 「日本語の主題と取り立て」 くろしお出版
- 三上章 (1963) 「日本語の論理」 くろしお出版
- 森岡健二 (1999) 「欧文訓読の研究—欧文脈の形成—」 明治書院
- 八木下孝雄 (2016) 「近代日本語における欧文直訳的表現」 日本語学, 35(1), pp.32-40. 明治書房
- 山本正秀 (1965) 「近代文体発生の史的研究」 岩波書店

【英語による文献】

- Chamberlain, Basil Hall. (1971[1905]). *Japanese Things: Being Notes on Various Subjects Connected with Japan*. Tokyo: Charles E. Tuttle Company. (高梨健吉(訳)『日本事物誌 2』東京：平凡社)
- Hopper, Paul J. and S. A. Thompson. (1980). “Transitivity in Grammar and Discourse” *Language*, vol.56, No. 2. pp. 251-299. Linguistic Society of America.
- Silverstein, Michael. (1976). “Hierarchy of Features and Ergativity.” in R. M. Dixon (ed.) *Grammatical Categories in Australian Languages*, pp. 112-171. Canberra: Australian National University.

第二言語学習への動機づけが高い
留学経験者の特徴

Features of the Students Who Studied Abroad and Have High Motivation
Against Second Language Learning

明治大学 国際日本学部
和田 梓

Meiji University School of Global Japanese Studies
WADA Azusa

目 次

I. はじめに

II. 先行研究

1. 海外留学に関する研究
2. 動機づけに関する研究

III. 研究方法

1. 研究課題
2. 調査協力者
3. 調査方法

IV. 結果と考察

1. 帰国後 1 年間にわたる英語学習動機づけの推移
2. 動機づけが変化した原因・理由の分類
3. 動機づけ変化の原因・理由と留学経験の照合

V. 結論と課題

参考文献

付録

1. アンケート内容
2. 動機づけが変化した原因・理由に関する自由記述の具体例

謝辞

I. はじめに

日本人の海外留学者数は 2004 年から減少傾向にある。しかし、政治・経済・社会など様々な面において国際化が進む現代において、すべての学生にとって異なる文化や人々と共存していくことが必要となっている（小林，2011）。そのため、「トビタテ！留学 JAPAN プログラム」（2013 年～）の設置等，社会的に留学を後押しする風潮が高まってきている。留学を経験すること，すなわち，自国の慣習や常識にとらわれず異なった価値観や概念に触れる環境に身を置くことは，異文化への対応力が向上し自己の確立にも大いに役立つと言われている（太田，2011）。しかし，留学によって得られる効果は異文化理解力の向上や外国語スキルアップ等の学習面の向上だけではない。学習者の意欲や態度といった情意面にも向上が見られるのである。特に動機づけに関した研究では，留学後は第二言語不安が減少し，自己効力感や第二言語学習への態度等，第二言語学習動機を支える各要因の影響力が強まり，留学前と比べてより高い第二言語学習動機が保持されることが明らかとなっている（植木，2012）。実際に筆者自身の経験を顧みても，半年間の海外留学兼インターンシップを経験することで，第二言語学習に対する動機づけが向上したと感じた。これまでの留学と英語学習への動機づけに関する研究では，このように留学の渡航前後に着目し，その変化について分析されている研究が多くあったが，帰国後に主軸を置いた研究はあまり見られなかった。留学によって向上した情意面の変化は，果たして帰国後も持続されているのか。本研究を通じて，留学経験を活かして長期的に学習動機づけを高く維持する学習者の特徴を分析することで，留学経験が学習者にもたらす影響は異文化理解といったその期間内のみに得られるものに限らず，長期的に動機づけを促進させる一つのきっかけともなりうることを明らかにしたい。

II. 先行研究

本研究では，「海外留学（学習面・情意面）」と「第二言語学習への動機づけ」という 2 つの側面から，先行研究の検討を行った。以下，それぞれの先行研究について説明する。

1. 海外留学に関する先行研究

海外留学が第二言語学習に与える影響に関する先行研究では，これまで国内外でさまざまな研究が行われてきた。それらの研究によると，海外留学をすることによって学習者の学習面・情意面の両面が向上する傾向にあることが明らかとなっている。

学習面においては，留学することにより外国語の発話の流暢さが改善され，コミュニケーションに関する言語運用能力が向上することが明らかとなっている（Yashima & Viswat, 1997）。

また，本研究でフォーカスする情意面の研究については，留学期間 4 か月～9 か月の日本人留学者において留学未経験者と比較するとライティングへの動機が向上したことや

(Sasaki, 2007) , 2～3 週間の国際ボランティアに参加した日本人学習者対象の研究において、短期的な異文化接触でも L2 動機づけ、L2 不安、コミュニケーションに対する態度に変化があったことが明らかとなっている(八島, 2009)。つまり、短期でも長期でも、期間に関係なく留学・ボランティア活動のように異文化接触をすることで情意面に変化をもたらされる。また、廣森ゼミナール 4 期生(2017)が行った、留学中の動機づけに関する研究において「留学中に各動機づけをもった理由」に関するアンケートをインタビュー調査によって分析した結果、留学中のポジティブな経験は自己決定の高い動機づけ(同一視的調整)、ネガティブな経験は自己決定の低い動機づけ(取り入乐的調整/外的調整)を促進する可能性が高いことも明らかとなっている。

しかし、これらの研究はその活動期間前後のみに焦点を当てており、その後学習者がその効果を維持できているのか、どのように維持しているのかについては記されていない。留学によって変化のあった情意面への効果は、帰国後も持続されているのだろうか、またそのような学習者はどのような特徴を持っているのか、本研究で明らかにしたい。

2. 動機づけに関する先行研究

次に、II-1 で述べた情意面の変化の中で、今回研究を進める動機づけについての先行研究を検討した。第二言語学習への動機づけに関する先行研究では、どのようにモチベーションを維持、または向上させるかについての方法が述べられている。

例えば、Deci & Ryan (1985) は、自分がやりたいことを一番やっているときに最も能力を発揮できるという自己決定理論から、動機づけを、知的好奇心や向上心などの内側からの欲求である内発的動機づけと、報酬や成績、他者からの影響など外側からの圧力によって生まれる外発的動機づけに分類されることを述べている。帰国後も動機づけが高い留学経験は、どのような動機づけを持っているのか、またその動機づけに留学経験は影響しているのだろうか。

また、廣森(2015)は、動機づけを高めるためには、前述した内発的動機づけと外発的動機づけをバランスよく併せ持つことや、学習者自身が自己効力感を高めるような機会を継続的に持つことが必要であると述べている。ちなみに、自己効力感とは、特定の行動に対してではなく一般化や抽象化された事象に対する自信や有能感(competence)とは異なり、具体的な行為の遂行可能性の予測に関する概念で、与えられた課題や行動をうまく遂行できるかという自信を意味する(松沼, 2004)。

帰国後も動機づけが高い留学経験者は、複数の動機づけを持ち合わせているのか、また留学を経験することによって自己効力感が高まるという先行研究から(植木, 2012)、帰国後 EFL の環境下で、英語学習への自己効力感を維持または高めるために自主的に学習機会を設けることによって、動機づけを高めているのだろうか。

III. 研究方法

1. 研究課題

IIの先行研究を踏まえ、本研究における課題を「第二言語学習への動機づけが高い留学経験者の特徴について」とする。海外留学を経験したことによって、帰国後に同一学習者が持つ第二言語学習への動機づけはどのように助長されるのか。どのような経験をした学習者が動機づけを高い状態で維持できているのか、また帰国後、英語学習に対してどのような動機づけを持っているのか。これらについて、英語圏に留学経験のある明治大学国際日本学部の学生を対象に研究を進める。以下、本研究課題におけるそれぞれの用語の定義について説明する。

(1) 第二言語学習

本研究課題における「第二言語学習」とは、留学経験者が帰国後に行う英語学習全般を指す。

(2) 留学

「留学」の定義やその基準については調査機関によって異なっており、たとえば OECD 及び UNESCO は「勉学を目的として前居住国・出身国から移り住んだ学生」を留学生とし、1 年未満の短期留学は留学生としてカウントしていない。しかし、本研究では、渡航期間の長さという量的な面ではなく、どのような経験が動機づけの維持を後押ししているのかという質的な面に焦点を当てるため、本研究における「留学」の定義は「大学在学中に行う、英語圏における語学・交換・協定・インターンシップ留学など」（廣森ゼミ 4 期生，2017）とした。また、留学期間は問わないが、それらの留学経験者の中でも 2016 年 12 月に帰国した学生のみを対象とすることとした。これは、帰国時期を統一することで、留学経験者の帰国後の動機づけの変動を、帰国時（2016 年 12 月）から現在（2017 年 11 月）までという期間に統一することができるからである。「1 年間」という期間については、より多くの調査対象者を確保でき、そうすることによって結果に妥当性が見られると考えたからである。また、国際日本学部において、最も多くの留学経験者の学生が利用している留学制度が、国際日本学部が海外の大学と直接提携しているアカデミック留学プログラムである。

表 1: 2016 年秋出発（8,9 月）の選考開始から出発までのスケジュール例

2015 年 10 月	留学募集説明会，応募開始
2015 年 11 月末	TOEFL iBT 受験締切
2015 年 12 月頭	応募締切，学内選考
2016 年 1 月	選考結果発表
2016 年 2 月～	インターンシップ 2 次選考，入学手続き
2016 年 6 月～	VISA 手続き
2016 年 8-9 月	出発

表 1 に示しているように、その選考試験は毎年 10 月～11 月に開始され翌年の留学候補者の選出が行われている。そのため、アカデミック留学プログラムを利用する本学部の学生は、早くても 2 年次以降に留学へ行く。4 年次は就職活動を控えていることもあり、多くの留学経験者は 2 年次または 3 年次に渡航しているため、調査時（2017 年 11 月）の学部内には「帰国後 1 年経過」の学生が最も多いと考え、帰国後 1 年間の動機づけの変化を調査し、動機づけを高く維持している学生の特徴を見つけ出すこととした。

(3) 特徴

本研究における研究課題の「特徴」とは、「①留学中のどのような経験が帰国後の動機づけに関連しているか。②帰国後 L2 学習に対してどのような動機づけを持って動機づけを高く維持しているのか。」という点を軸として捉えることとする。

2. 調査協力者

前述の通り、本調査では、明治大学国際日本学部の留学経験者の中で、2016 年 12 月に帰国した学生を対象にアンケート調査を行うこととした。

3. 調査方法

本調査は、上記で述べた留学経験のある国際日本学部の学生に対して、帰国後どのように留学経験を活かしながら動機づけを維持しているのか、をアンケートによって調査する。アンケートは、『中高大における英語学習動機づけの発達プロセスとその背景要因』（廣森・泉澤，2014）の調査方法を参考に、モチベーショングラフとそれに関連する質問項目からなるアンケートを作成した。これらのアンケート内容は巻末に記載する。具体的には、対象となった国際日本学部の学生に 2016 年 12 月から 2017 年 11 月までの 1 年間の自身の英語学習の動機づけの強さについて、帰国時を 0 として、それぞれ 1 ヶ月ごとに 11 件法（-5～+5）で回答してもらうとともに、動機づけが変化した理由や原因について、動機づけが上がった時、下がった時それぞれを具体的に記述してもらった。そして、その動機づけの変化に自身の留学経験が影響しているのであれば、どんな留学経験が動機づけの変化を後押しさせたのかについても記述するよう指示を行った。さらに、調査の結果からモチベーションの変化をグループ分けし、グループごとに動機づけが変化した要因の分析や詳細な検討を行う。なお、(2a)の留学プログラムに関しては、予め 12 月終了のプログラムのみに絞って項目を作成した。

IV. 結果と考察

本研究では、関連する先行研究（廣森・泉澤，2014）を参考にし、調査結果の分析を行った。

1. 帰国後 1 年間にわたる英語学習動機づけの推移

まず初めに、本研究の対象者全体（N=26）の帰国後 1 年間ににおける動機づけの平均値を図 1 に示す。関連する先行研究（植木，2012）でも述べられているように、帰国直後は動機づけの上昇が見られる。しかし、その後は緩やかに下降する傾向があることが分かる。留学先での生活、つまり“英語を使う必要のある”環境から帰国した直後は、培った英語力を維持または向上させるためにモチベーションを高く保っていたが、“英語を使わなくても良い”環境での生活に戻ることで、英語を使う頻度の減少や、自発的に学ぼうとする意識が薄れてしまったのではないかと考える。具体的な変化の原因・理由については、次章で詳しく述べる。

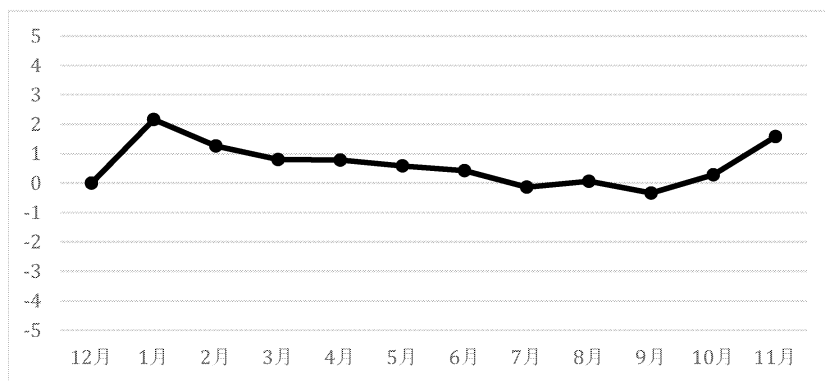


図 1: 2016 年 12 月から 2017 年 11 月における留学経験者の動機づけの推移（全体）

なお、ここでの対象者全体での結果を見ると、留学経験者は皆似たような変化を辿ったように思われるかもしれないが、決してそうではない。対象となった留学経験者 26 名一人ひとりの動機づけの変化を表すと、図 2 のようになる。図 2 中央、太い実線で示しているのが平均値である。ご覧の通り、誰一人として全体の平均値と全く同じ変化を辿った学生はいなかった。学習者一人ひとりに多様性があることを再認識したと同時に、対象者全体の平均を分析しただけでは「留学経験者の動機づけの変化」を事細かに捉えることは困難であると分かった。

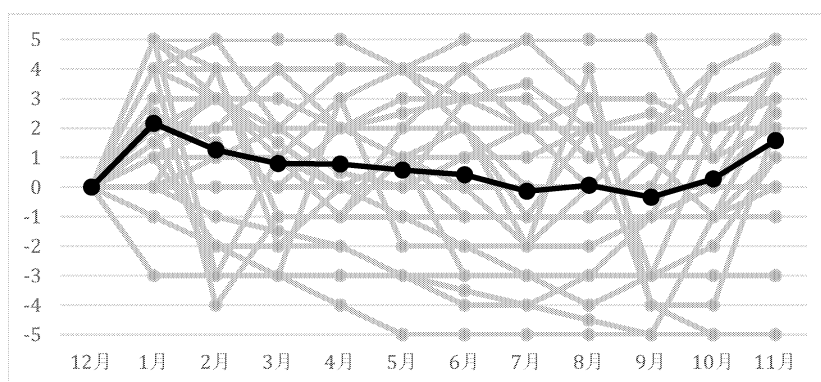


図 2: 2016 年 12 月から 2017 年 11 月における留学経験者の動機づけの推移（個人）

そこで、対象となった留学経験者における帰国後の動機づけの変化を更に詳しく調べるため、クラスター分析を行い、類似した動機づけ特性を示した学習者ごとにグループ分けを行った。分析の結果、本研究の対象となった学生 26 名は、動機づけの変化傾向の異なる 3 つのグループに分けるのが適当であると判断した。その後、グループ分けの妥当性を検討するために、調査対象者の帰国月である 2016 年 12 月を除いた上で各月における一元配置の分散分析を行った。その結果、2017 年 2 月以降におけるすべてのクラスター間に統計的に有意な差があることを確認した（2 月: $F(2,23) = 4.55, p < 0.05$; 3 月: $F(2,23) = 6.23, p < 0.05$; 4 月: $F(2,23) = 12.32, p < 0.05$; 5 月: $F(2,23) = 17.84, p < 0.05$; 6 月: $F(2,23) = 24.96, p < 0.05$; 7 月: $F(2,23) = 32.41, p < 0.05$; 8 月: $F(2,23) = 10.94, p < 0.05$; 9 月: $F(2,23) = 8.09, p < 0.05$; 10 月: $F(2,23) = 8.53, p < 0.05$; 11 月: $F(2,23) = 9.599, p < 0.05$ ）。以下、各グループの動機づけの平均値（図 3）を示しながら、それぞれのグループの特徴について述べる。

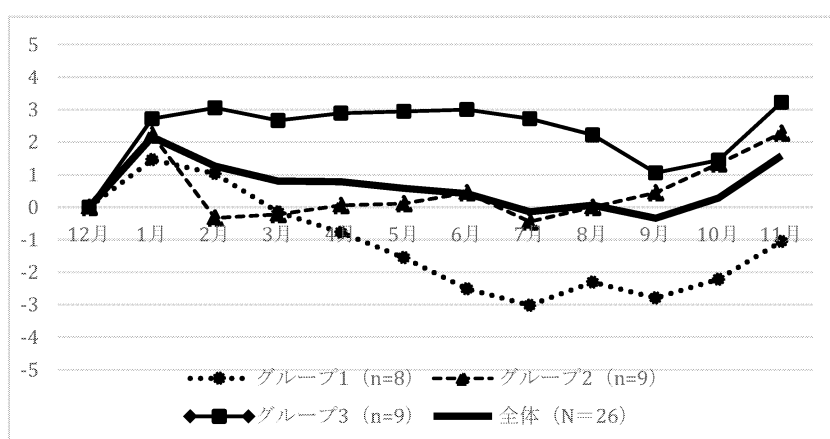


図 3: 対象者全体，ならびに各グループにおける動機づけの推移

グループ 1 (n=8) は、帰国直後は動機づけが高まったものの、3 月以降は帰国時の動機づけ (±0) よりも動機づけが低下したグループであった。グループ 2 (n=9) は、グループ 1 と同様に帰国直後は高まった後、2 月に大幅に下降したが、その後はゆるやかに再度上昇していた。グループ 3 (n=9) は、帰国後に動機づけが上昇した以降も、一貫して動機づけが高く保たれていたグループであった。

以上のことから、全体で見た場合、その動機づけの変化はアルファベットの「N」のように、帰国後に上昇し、以後は少しずつ低下したが再度上昇する傾向がみられた。また、類似した動機づけ変化の傾向を示したグループごとで見た場合、帰国直後の動機づけの値 (±0) と比較すると一貫して高い動機づけを維持し続けた「高ー高群」(グループ 3)、上昇と低下を繰り返しその変化に波があった「ジグザグ群」(グループ 2)、はじめは上昇したがその後低下した「高ー低群」(グループ 1) といった留学経験者グループの存在が明らかとなった。

2. 動機づけが変化した場合・理由の分類

次に、動機づけが変化した場合・理由を、関連する先行研究(廣森・泉澤, 2014)に倣い、カテゴリー化を行った。具体的には、動機づけが上がった理由を「外的目標設定」、「言語・文化に対する興味・関心」、「他者からの影響」、「学習環境」の4項目に分類した。いずれにも該当しない回答は「その他」として分類することとした。また、アンケートにおいて、回答者には動機づけが上がった理由、下がった理由のそれぞれについて記述してもらったが、本研究では、留学経験者の帰国後における動機づけの上昇や維持について焦点を当てているため、動機づけが下がった理由に関しては、巻末に回答例を記載するのみとした。

はじめに、以下の図 4 は、対象者全体 (N=26) における動機づけ変化の原因・理由である。動機づけが上がった理由として、外的目標設定の占める割合が最も大きいことが分かる。図 1 と照合すると、2 月以降に動機づけが下がっていた理由は、目標欠如が影響しているのではないかと考えられる。また、「興味・関心」や「他者からの影響」に関する項目において、全体でみるとこれらの割合はさほど高くないものの、その内訳は留学経験が影響している原因・理由が多い。

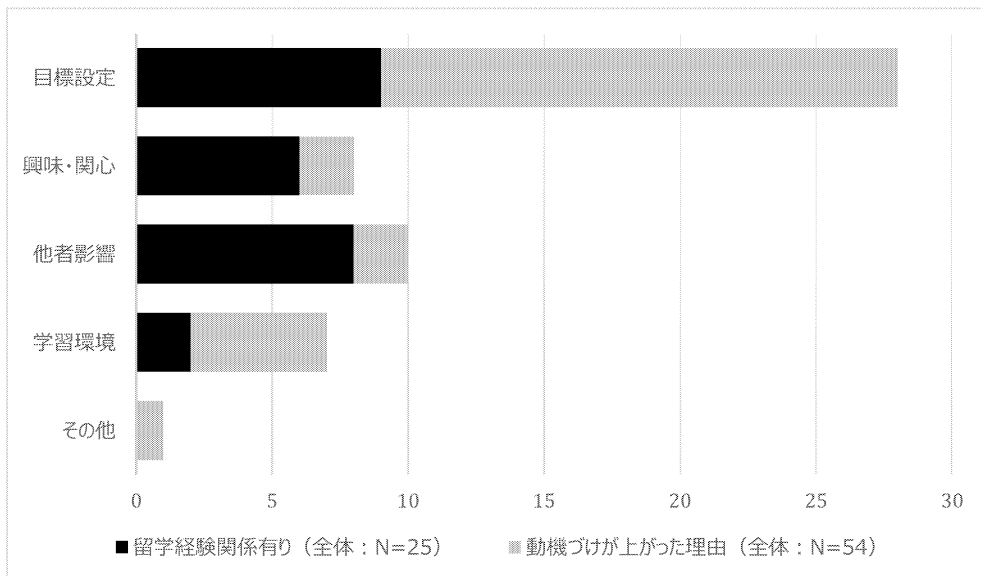


図 4: 対象者全体における動機づけ変化の原因・理由

※注: 各グラフ内の左半分では、動機づけが上がった理由の中で留学経験が影響した理由について表している。また、動機づけが上がった理由の「目標設定」は「外的目標設定」, 「興味・関心」は「英語や英語圏の文化に対する興味・関心」を指す。以下の表においても同様。

3. 動機づけ変化の原因・理由と留学経験の照合

つぎに、IV-2 で分類された、類似した動機づけ特性を示した留学経験者のグループごとに、動機づけ変化の原因・理由について、中でもその変化に留学経験が関連しているかに着目しながら、照合を行う。

まず、グループ 1 である。グループ 1 は、図 3 において、帰国直後は動機づけが高まったが、その後は徐々に低下が見られた「高一低群」であった。図 5 は、グループ 1 の動機づけ変化の原因・理由である。このグループにおける動機づけが高まった理由としては、全体の結果と同じく「外的目標設定」の割合が最も大きな割合を占めているが、グループ 1 では特にその傾向が顕著であることが分かる。しかし、全体的に留学経験を活かして動機づけを高く維持していた学生はあまり見られなかった。巻末に記載した「動機づけが下がった理由」にも挙げられている“TOEIC 受験や就職活動のために目標を設定し動機づけを高めたが、その目標が達成される”ことによる目標欠如や、目標達成によって英語学習そのものに対する必要性を感じなくなってしまったことが原因なのではないかと考える。以下、グループ 1 における動機づけが上がった理由について、関連する回答例を示す。

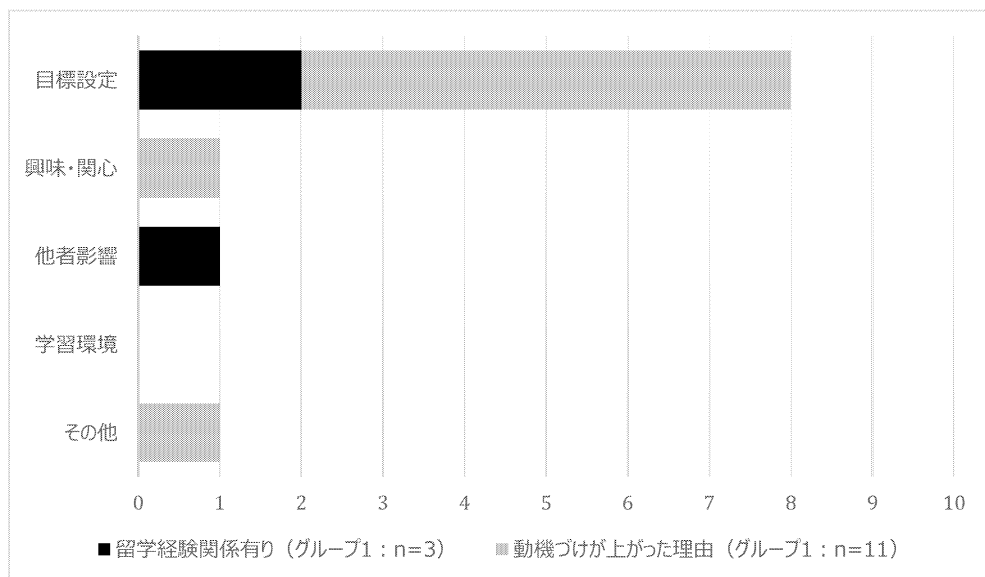


図 5: グループ 1 における動機づけ変化の原因・理由

<外的目標設定>

- ・就活もひかえ、英語の勉強を再開。留学経験影響なし。(No.6, 大学 3 年, ニューヨーク州立大学ニューパルツ校)
- ・バイトで英会話スクールの受付をはじめた。留学経験とは関係がない。(No.5, 大学 3 年, ハワイ大学カピオラニ・コミュニティカレッジ)

次に、グループ 2 である。グループ 2 は、帰国後上昇し、その後は大幅に低下が見られたものの、再び動機づけが高まっていた「ジグザグ群」であった。以下、図 6 はグループ 2 における動機づけ変化の原因・理由である。こちらも「外的目標設定」の割合が高いが、グループ 1 と比較すると、留学経験を活かしながら動機づけを高めていた学生が多いことが分かる。単に“TOEIC を受験する”のではなく、“留学で培った英語力を維持するために TOEIC を受験した”といったような、留学によって得た英語スキル、また留学経験によって高まった「英語に対する自己効力感」の維持・向上のために新たな目標設定をし、学習に取り組んでいたと考える。以下、グループ 2 における動機づけ上昇の理由について、関連する回答例を示す。

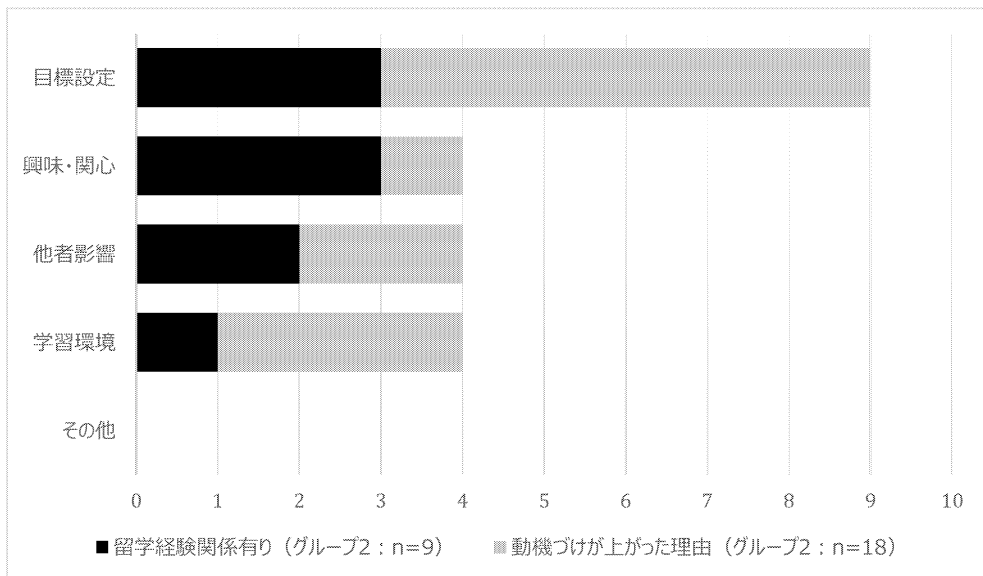


図 6：グループ 2 における動機づけ変化の原因・理由

<外的目標設定>

・留学後、英語力をキープしよう自分なりに計画を立て、*TOEIC* を受験した。また、11 月には就活が始まり、グローバルな企業ではたらかいたいと思うようになった (←留学の影響)。(No.4, 大学 3 年, ウォルトディズニーワールド提携アカデミックインターンシップ)

<興味・関心>

・アメリカ国内を旅行した。留学を通して英語でコミュニケーションをとることに楽しさを覚えたことが影響していると思う。(No.9, 大学 3 年, ニューヨーク州立大学ニューパルツ校)

最後に、グループ 3 である。このグループは、図 3 において、帰国後も常に動機づけが高く保たれていた「高一高群」であった。図 7 は、グループ 3 の動機づけ変化の原因・理由である。このグループにおいても、「外的目標設定」の割合が高いが、次いで「他者からの影響」、「興味・関心」の割合が高く、内訳をみると、そのどちらもが留学経験の影響によるものであった。“留学後、Netflix で英語に触れる機会が増えた”といったような、留学経験によって英語そのものや英語圏の文化への関心が更に高まったことや、“留学先の友達と再び連絡を取り始めた”といったような、留学先での友人とコミュニケーション

ョンを取り合ったこと等が起因していると考える。以下、グループ3における動機づけ上昇に関する理由を示す。

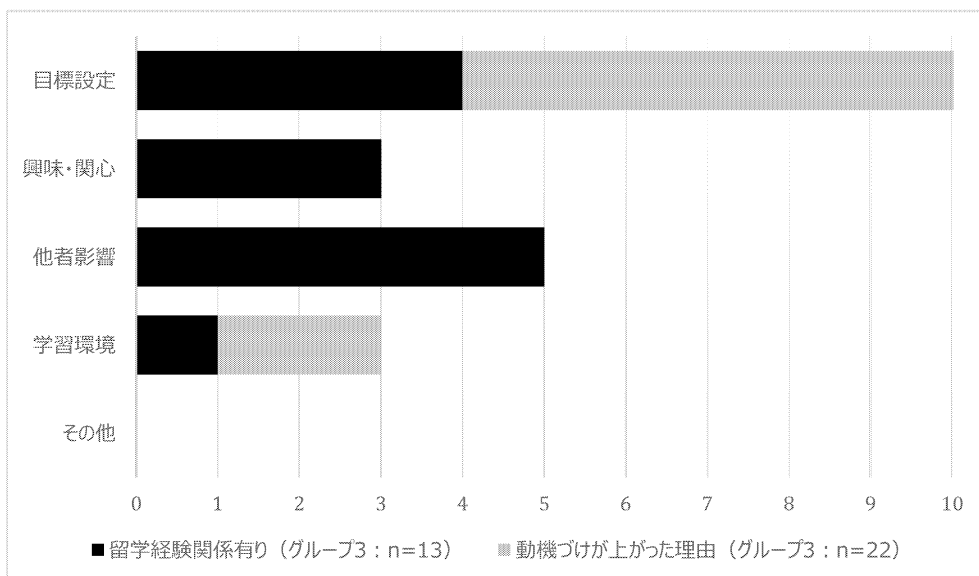


図7: グループ3における動機づけ変化の原因・理由

<興味・関心>

・アルバイト中に、ディズニーインターンでしていたような接客を海外の方にしたら喜ばれた。ディズニーで得た知識をもっと使ってみたいと思った。(No.22, 大学3年, ウォルトディズニーワールド提携アカデミックインターンシップ)

<他者影響>

・夏休みに留学中の友達(フランス人)と会うことになったので、スムーズに会話したいと思ったから。留学中の友達なので、留学をしたおかげではあると思う。(No.12, 大学3年, ウォルトディズニーワールド提携アカデミックインターンシップ)

以上のことから、対象となった留学経験のある学生の動機づけ変化の要因は、外的目標設定、英語や英語圏の文化に対する興味・関心、他者からの影響、学習環境、その他に分けることができ、それぞれの要因が与えていた影響は、クラスター分析によって分類されたグループごとに異なっていることが分かった。また、留学経験を活かしながら動機づけを高く維持していた学生は、“留学で培った英語力を更に伸ばしたい”といったように、留学経験によって得られた「英語に対する自己効力感」から、新たな目標の設定や、英語そのものに対する興味・関心を深めたことによって動機づけを高めていたことが示唆された。

V. 結論と課題

本研究では、これまでの留学と英語学習への動機づけに関する研究において、帰国後に主軸を置いた研究はあまり見られなかったことから、留学によって向上した動機づけは帰国後も持続されているのか、英語学習への動機づけが高い留学経験者はどのような特徴を持っているのかについて調査・分析を行った。研究目的としては、彼らの特徴を分析することで、留学経験が学習者にもたらす影響は「異文化理解」といったその期間内のみで得られるものに限らず、「長期的に動機づけを促進させる一つのきっかけ」ともなりうることを明らかにすることであった。具体的な調査内容は、明治大学国際日本学部に通う留学経験者の中で、2016年12月に帰国した学生を対象とし、帰国から2017年11月までの1年間における英語学習への動機づけの変化についてのアンケートの実施であった。

分析方法としては、クラスター分析によって、調査対象者を類似した動機づけ変化の傾向を示したグループに分けた。具体的には、帰国後に動機づけは高まったがその後は下降していたグループ1（高一低群）、帰国後に動機づけの上昇と下降を繰り返しながらも再び高まっていたグループ2（ジグザグ群）、帰国後1年間、常に動機づけを高く維持していたグループ3（高一高群）の3つのグループに分類された。また、各グループにおいてそれぞれ動機づけが上がった原因・理由の照合を行った。グループ1における動機づけ上昇の原因・理由では、「外的目標設定」の割合が圧倒的に高く、留学経験を活かしながら動機づけを高めていた学生は少なかった。グループ2においても、同様に「外的目標設定」の割合は高かったが、グループ1と比べて、留学経験を活かしながら動機づけを高めていた学生が多かった。また、グループ3においては、「外的目標設定」に加えて、「興味・関心」、「他者影響」の項目の割合が高く、その多くが留学経験を活かした原因・理由であった。

これらの調査結果から、以下のようなことが言える。まず、グループ1のように、「外的目標設定」によって動機づけが高く保たれている場合、廣森・泉澤（2014）でも指摘されているように、その動機づけは目標達成によって影響を受けやすいために、動機づけが長期的に高く維持されなかったと考えられる。しかし、グループ1では「TOEICで目標点を取るため」だけであった「外的目標設定」も、グループ2・グループ3ではこれらを留学経験と関連付けて、英語に対する「自己効力感」を維持または向上させるために「目標」を設定する、といったような、複数の動機づけを持ち学習に励んでいた学生が多くみられた。これらの要因に支えられていたことで、長期間にわたり英語学習への動機づけが高く維持されていたと考える。つまり、第二言語学習への動機づけが高い留学経験者の特徴とは、III-1で述べた本研究における「特徴」の定義に適応させると、「①留学先での友人や先生との交流や自身の英語力のブラッシュアップ等、自己効力感の高まった留学経験が起因して、②英語圏の文化や英語そのものへの興味を深化させたり、また新たな達成目標を設定したりすることで、帰国後もL2学習に対して動機づけを高く維持している。」であると言える。II-2で概観した先行研究（廣森，2015）において、複数の動機づけ（内

発的、外発的)をバランスよく併せ持つことや、自己効力感の増す機会を継続的に設けることは動機づけ維持に効果的であるとあったが、まさに本研究結果をみても、留学経験者に対しても同様のことが言えるだろう。

本研究において、「留学経験を活かしながら動機づけを高める学生の特徴」を調査・分析を行ったことにより、本研究は、留学から帰国した学生に対し、英語学習への動機づけを高める方法の提案が可能であることはもちろん、現在留学中の学生に対しても、留学中の自己効力感を高める経験は、留学中の自分の動機づけを高めるだけでなく、帰国後も動機づけを高く維持することにも繋がるという、有益な示唆を与えることができる。更に、これから留学へ行く学生に対しても、留学を経験することによって、留学中に自身の英語力向上や異文化理解、第二言語不安軽減や動機づけ上昇することに加え、帰国後も動機づけを高めることにも繋がり、長期的に動機づけを高めるきっかけともなりうることを提示できる。

本研究の課題としては、以下のような点が挙げられる。第一に、留学の渡航期間である。本研究の調査協力してくれた学生は、明治大学国際日本学部に通う留学経験者の中で、帰国から1年経過の学生26名であった。国際日本学部が提携しているプログラムで12月に帰国するプログラムは、その大体の渡航期間が約4か月であり、今回協力をしてくれた学生もそのほとんどが4か月の留学プログラム経験者であった。結果をより一般化するためには、明治大学の他学部や、または他大学に通う学生も対象として調査を行い、短期留学(1か月程度の語学留学)や長期留学(1年程度)の留学経験者も調査対象とするということも考えられるだろう。

第二に、前述の通り、本研究の対象となった留学経験者は、帰国から1年経過の学生のみとした。これは、III-1でも記した通り、調査時(2017年11月)の国際日本学部内の留学経験者は、帰国してから1年経過した学生が最も多いと判断したからである。しかし、帰国後1年半、2年、またそれ以上の月日が経過していても、留学経験を活かしながら動機づけを高めている学生はいる可能性は大いにある。更なる研究の余地があると言えるだろう。

参考文献

- 植木美千子 (2012).「海外留学は学習者の何を変えるのかー英語圏長期留学が学習者の情意面に与える影響を探る」『STEP Bulletin』第24号, 198-209.
- 太田浩 (2011).「なぜ海外留学離れは起こっているのか」『教育と医学』第59巻第1号, 68-76.
- 小林明 (2011).「日本人学生の海外留学阻害要因と今後の対策」独立行政法人日本学生支援機構ウェブマガジン『留学交流』5月号, Vol.2.
- <http://www.jasso.go.jp/about/documents/akirakobayashi.pdf>

- 195 –

- 2 描いた折れ線グラフを見て、なぜ動機づけが変化したか、その理由をそれぞれ記述しましょう。また、その変化にどんな留学経験が影響していると思うか（or 影響していないか），併せて書いてみましょう。

【動機づけが上がったとき】

（例） 就活で英語面接の対策を始めた（6月）。これは、インターン先で、ゲストに英語で接客をすることが楽しかったので、英語を使う職業に就きたいと強く思うようになったことが影響していると思う。

- ・
- ・
- ・
- ・

【動機づけが下がったとき】

（例） 就職活動が始まり、英語学習の優先順位が低くなったから（2月）。留学経験とは関係がない。

- ・
- ・
- ・
- ・

ご協力ありがとうございました。

2. 動機づけが変化した原因・理由に関する自由記述の具体例

〔動機づけが上がった理由〕（以下、★は留学経験が影響している理由）

1. 外的目標設定

例）「TOEIC で目標点数を取得するため」

「留学経験をしたことによって、就活が始まったとき、グローバルな企業で働きたいと思うようになった」★

2. 言語・文化に対する興味・関心

例）「ハワイ旅行に行った」

「留学をきっかけに、帰国後 Netflix で英語に触れる機会が増えた」★

3. 他者からの影響

例）「アメリカ旅行でディズニーインターン先の友達に再会することになり、以前よりも少しでも話せるようになりたいと思った」★

「留学先の友達と再び連絡を取り始めた」★

4.学習環境

例) 「英語のクラスでプレゼンがあったから」

「培った英語力を保つために、英語で開講される授業やゼミを履修した」★

[動機づけが下がった理由]

1.外的目標の欠如

例) 「英語学習をすることが「就活に活かす手段の一つ」としていたことに気付いた」

「TOEIC で目標点を取れたことで、気が緩んだ」

2.英語以外のことに対する興味・関心

例) 「勉強をせずに遊びたい気持ちが大きかったから」

「国内インターンシップなどをはじめて、英語学習の優先順位が下がった」

3.他者からの影響

例) 「自分より半年後に日本に帰国した友達の英語力に劣等感を感じた」

4.学習環境

例) 「日常生活で英語を使う頻度が減った」

「英語が必要になったときにまた勉強すればよいと思ったから」

謝辞

本研究の実施にあたり、ご指導いただいた明治大学国際日本学部廣森友人教授、また、調査協力して下さった廣森ゼミナールの学生をはじめとする皆様に、心より感謝致します。

日本人英語学習者は日本人英語教師に
何を求めているのか

What do Japanese English Learners Expect from Japanese English Teachers?

明治大学 国際日本学部

根岸 友紀

Meiji University School of Global Japanese Studies

NEGISHI Yuki

目 次

I. はじめに

II. 先行研究

1. 日本人英語教師に関する研究
2. 第二言語学習者に関する研究

III. 研究方法

1. 研究課題
2. 調査協力者
3. 調査方法
 - (1) 回答者自身の英語学習に関するアンケート
 - (2) 学習者が日本人英語教師に求めていることに関するアンケート
 - (3) 回答者の英語教師に対する見方、考え方に関するアンケート

IV. 結果と考察

1. 回答者全体の結果
2. 回答者の英語学習レベルによるグループごとの結果
3. 回答者の英語学習目的ごとの結果

V. おわりに

参考文献

資料

I. はじめに

国際化が叫ばれている現在の日本では、国民の、特に若い世代の英語力向上が必須と考えられている。若い世代の教育の指針と言える文部科学省学習指導要領では、高等学校の英語の授業にディスカッションやディベートの授業を導入し、英語で自身の考えを発信したり、他者の考えを受信したりする機会を増加させていく試みが発表されている(文部科学省, 2009, p.290)。成人の英語学習は、個人で英会話学校に通うなど任意である点から、若い世代の英語力向上が成人より重要視されていると考えられる。しかし、現在の高校3年生の英語力は、CEFR(Common European Framework of Reference for Languages, ヨーロッパ共通参照枠)のA1の上位～A2の下位(6段階のうち最下位と下から2番目のレベル、英検では高校在学レベル以下に相当)が最多である。また、4技能全般、特にスピーキング、ライティング(以下、SW)の能力に課題があるとの調査結果が提示されている(文部科学省, 2016, p.38)。さらに、2016年12月に文部科学省が実施した他の統計から、高校3年生のうち英検準2級(高校在学レベル)相当の英語力を有すると思われる生徒の割合は、36.4%との調査結果も提示されている(文部科学省, 2017a, p.2)。つまり、日本人の英語力向上が喫緊の課題とされ、そのためにカリキュラムの改編などが行われてはいるが、学校教育関連のデータ見る限りでは生徒たちの学力が目標に到達していないという現状がある。

また、筆者自身、現在の英語力があるのは小学校3年生から高校2年生までネイティブスピーカー(以下、NS)から学ぶ英会話学校に通っていた経験のおかげであり、その経験を踏まえ、特にSW能力を向上させるためには日本人よりもNSから英語を学ぶ方が良いのではないかと考えている。そこで、学校教育におけるALT(Assistant Language Teacher, 外国語指導助手)活用率を調査したところ、平成27年度の高等学校で9.7%と、非常に低い数値を記録している(文部科学省, 2017b)。つまり、残りの90%以上の授業は日本人英語教師によって実施されているのである。

以上2つの状況から、NSよりも生徒と授業で関わる割合が高いノンネイティブスピーカー(以下、NNS。本研究では日本人)の英語教師は日本の英語教育環境においてどのような役割を果たすのだろうか、と疑問に思ったことが、本研究のテーマ設定に至る背景である。

そこで本研究では、日本人の大学生約100名に日本人英語教師に求めることに関するアンケートを依頼し、回答者の英語レベルや学習目的によって分類した。そのグループごとに、設問の回答傾向に違いがあるか検討し、その傾向に応じて日本人英語教師の今後の指導方針に関する提言を行いたい。

II. 先行研究

先行研究としては、日本人英語教師に関する研究2つと第二言語学習者に関する研究1つの、合わせて3つを提示したい。

1. 日本人英語教師に関する研究

行森(2015)は、高校の日本人英語教師 288 人に対して、彼らが持つ英語に対する見方や価値観についてのアンケート調査を行った。その結果、教師自身の理想の英語や興味関心が欧米(NS)に近いことが判明した。また、この価値観の傾向があるからこそ、彼らは生徒に指導を行う際、NNS よりも NS とのやり取りを想定して指導を行っていることが判明した。しかし筆者は、この研究結果から、そもそも日本人英語学習者は NS とやり取りすることを目的として学習しているのか、つまり、この時点で教師の理想と学習者の理想との間にギャップが生じているのではないかと疑問に思った。また、日本人英語学習者が NS とやり取りすることを目的としていないのであれば、学習者は何を目的として英語を学習しているのかを調査したいと感じた。

水野(2014)は、動機づけ方略の観点から、日本人英語教師が日本の英語教育環境において果たす役割を調査した。ハンガリーと台湾で教鞭を執る現地人英語教師(ハンガリーはハンガリー人、台湾は台湾人)が実際に行っている動機づけ方略をアンケートで調査し、その方略を日本で日本人英語教師に実験的に使用してもらった。その結果、日本人英語学習者に対しても効果があると推定された 4 つの方略を提示した。その動機づけ方略は、①ペーパーテストを使わずにできる評価方法を継続的に導入する、②定期的に、生徒のスキルを周囲に公開できるタスクを含める、③生徒の失敗の原因が彼らの努力の欠如にあることを認めさせる、④生徒の進歩を、他者と比較せずに彼ら自身の努力のおかげであると評価する、であった。さらに、動機づけ方略を指導に積極的に取り入れることにより、学習者の英語学習に対する不安感などが取り除けるとの見解を示した。この研究結果から筆者は、提示された動機づけ方略は日本人英語学習者に通用する方略だけでなく、NS、NNS 関係なく教師であれば誰でも実行できてしまうものではないかと感じた。また、この研究は動機づけ方略に焦点を当てて実験が行われているため、動機づけ方略以外の指導方略も調査することによって、学習者が躓きそうな文法や語彙の解説をするなど、第二言語学習を経験した日本人英語教師だからこそ果たせる役割が判明するのではないかと感じた。

2. 第二言語学習者に関する研究

ライ・ピンとフローレンス・マ(LAI PING & FLORENCE MA, 2012)は、香港の中学生 30 人(3 人×10 グループ)に対し Native English Teachers(以下、NETs)と Local English Teachers(以下、LETs)から教わる利点と欠点に関する半構造化インタビュー(事前に準備した質問をし、その回答から話を展開していくインタビュー形式)を実施し、その結果を考察した。結果は、以下の通りである。

表 1. Lai & Florence (2012)の研究結果 (カッコ内はその項目について言及したグループの数)

	NETs	LETs
利点	常に英語を話せるため、生徒の英語学習を促進できる (6)	生徒の母語が通じるため、生徒の理解が強化される(9)

	NS の正確な発音に触れられる (7) ゲームをするなど、リラックスした雰囲気 で学習できる (6)	SLA 経験者だからこそ、生徒の弱点に 特化した授業ができる (5) 文法、語彙を母語で解説するため、教師 への理解が促進される (4)
欠点	英語力の差や文化の違いから、NETs の 英語が理解しづらい (5) 学習者の英語が伝わらないなどの理由 から、会話が続きづらい (3) 間違いが怖い、気兼ねしてしまうなど、 NETs に対して不安を抱く (4)	不正確な発音、文法が間違えてインプ ットされてしまう (5) つい母語で話してしまうなど、英語の 使用機会が減る (4) 教科書通りの授業の進め方で、つまら ない (3)

この結果から筆者は、LETs の欠点として示された内容は正確な発音や文法などアカデミックな面が多いと感じ、これ以外の部分で LETs が学習者を支える面、つまり LETs ならではの強みを生かせる指導方略はないだろうかと感じた。さらに、LETs の欠点の欄にある「教科書通りの授業の進め方で、つまらない」などの項目は先生個人の差によるものが多いと感じたため、先生の個人差に関わらない結果を出せる研究をしたいと考えた。また、場所を日本に、調査対象を筆者に身近な大学生に置き換えた場合、この研究と比較してどのような共通点や相違点が出てくるのだろうかと思った。

以上をまとめると、先行研究では日本人英語教師が教鞭を執る際に心掛けていることや目指していること、日本人英語学習者に使うとよい動機づけ方略、香港の中学生が NETs と LETs に感じる点、がわかっている。反対に、日本人英語学習者の学習目的や、動機づけ方略以外に日本人英語教師として学習者にできること、日本人の大学生が日本人英語教師に求めていること、がわかっていないと言える。

III. 研究方法

1. 研究課題

前項から、本研究の課題を『日本人英語学習者(大学生)は日本人英語教師に何を求めているのか』という疑問を明らかにすることとする。日本人英語教師や日本人以外の第二言語学習者の観点から考察された研究は存在したが、日本人英語学習者の観点から考察された先行研究は現時点では見つからない。日本人の大学生はどのような目的で、どのレベルの英語力をもって英語を学習しているのか。また、NS 教師と比較して圧倒的に授業時間の多い日本人英語教師に、学習者は何を求めているのか。この 2 点を調査し、日本人

英語教師が本当に求められているものを学習者の学習目的・目標英語レベル別に分析、提示したい。

2. 調査協力者

本研究に参加したのは、日本の大学または大学院に在籍する学生 101 名であった。学部や学年に制限は設けなかった。ただし、特定の学部ばかりだと偏った結果が出る恐れがあるため、偏りが大きくなりすぎないように注意した。

男女の割合は男性 41 名、女性 60 名で、学年の割合は学部 1 年生が 4 名、学部 2 年生が 9 名、学部 3 年生が 23 名、学部 4 年生が 62 名、大学院修士課程 2 年生が 2 名、大学休学中が 1 名であった。学部の割合は、国際関係や外国語(英語に限る)関係の学部在籍の学生が 45 名、その他の文系学部(美術学部、造形学部を含む)在籍の学生が 34 名、理系学部(大学院の研究科を含む)在籍の学生が 22 名であった。

3. 調査方法

本研究では日本人英語学習者に対して大きく分けて 3 種類、計 28 問のアンケート調査を行った。また、この 28 問とは別に、基礎情報として回答者の性別、大学、学部(学科、専攻は任意)、学年を回答してもらった。媒体は、100 名以上から回答を募ることを考慮し、google フォームを使用した。以下、それぞれの内容について説明し、詳細な設問項目や選択肢は巻末に資料として掲載する。

(1) 回答者自身の英語学習に関するアンケート(全 5 問)

Web アンケートのうち、大問 1、大問 2 は回答してもらった日本人英語学習者(以下、回答者)自身に関する質問項目を設けた。

大問 1 は回答者の現在の英語レベルについて選択式で回答してもらった。選択肢の各文は、投野(2013)が作成した CEFR-J Can do Descriptor リストの中で、CEFR の各レベル(A1～C2)、各技能(リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング)から簡潔に、回答者が回答時に想像しやすい文章を抜粋、または筆者が一部補足して作成した。また、1(A1)～6(C2)の 6 件法を使用し、CEFR のレベル名は伏せておいた。

大問 2 は回答者が英語を学習する目的を選択式で回答してもらった。林(2006)が作成した「英語学習自己決定尺度(大学生用)」から抜粋、または筆者が一部補足して作成した。なお、選択肢は 1～7 の 7 件法で、内訳は内発的動機づけ 3 つ(完遂、知識、刺激)、外発的動機づけ 3 つ(同一視的調整、取り入れ的調整、外的調整)、無動機づけ 1 つとした(なお、各動機づけ概念の詳細については、林(2006)などを参照)。

(2) 学習者が日本人英語教師に求めていることに関するアンケート(全 15 問)

大問 3 として、回答者が日本人英語教師に求めることを選択式で回答してもらった。各設問は Lai & Florence(2012)の研究結果から得られた NETs と LETs の利点、欠点から筆者

が翻訳、一部改変したものを使用した。より普遍的な調査結果を生み出すために、「授業にゲームを取り入れる」、「教科書に則った授業を展開する」、などの NETs, LETs の特性に関係しないと思われる設問も加えた。設問数は全 15 問で、LETs の利点、NETs の利点、両者に関係のない点、の 3 点から各 5 問ずつとした。選択肢は 1(絶対にしてほしくない), 2(あまりしてほしくない), 3(少しならしてほしい), 4(ぜひ, してほしい)の 4 件法を使用した。

(3) 回答者の英語教師に対する見方、考え方に関するアンケート(全 8 問)

大問 4 は、回答者が日本人英語教師や NS 英語教師に抱くイメージや、彼らに対する見方など、指導方略とは異なる観点の質問を選択式で回答してもらった。こちらも大問 3 と同様に Lai & Florence(2012)の研究結果で得られた NETs と LETs の利点、欠点から筆者が翻訳、一部改変したものを使用した。設問数は全 8 問で、選択肢は 1(全く当てはまらない)～4(とても当てはまる)の 4 件法を使用した。

アンケートを実施した後、学習者の学習目的や現在の英語レベルに応じて回答を分類、分析した。その結果により、「このレベルの学習者へはこのような指導を心掛けるとよい」、「このような学習目的を持つ学習者へはこのような指導を心掛けるとよい」などといった提言を日本人英語教師にすることが、本研究の目的である。

IV. 結果と考察

101 名から回収したアンケートを、Excel を用いて分析した。結果は以下の通りである。

1. 回答者全体の結果

まずは、回答者 101 名の結果を分析した。設問ごとに全員の回答の平均値を算出し、その後、平均値同士を比較し、回答に傾向があるのかを分析した。結果は以下の通りである。

表 2. 回答者全員の結果

大問3	設問文	各設問	
		平均	標準偏差
1	授業内では、生徒の目標言語(英語)よりも、母語(日本語)を主につかって指導する。	2.52	0.79
2	生徒が理解できない単語や表現が出てきた場合、日本語に訳して解説する。	3.17	0.86
3	生徒の母語(日本語)を使い、生徒が理解しやすいように解説しながら指導する。	3.19	0.82
4	生徒の母語(日本語)を使い、生徒とのコミュニケーション(質疑応答など)を促しながら指導する。	2.91	0.85
5	生徒の母語(日本語)を使い、生徒との親密度を高めながら指導する。	2.83	0.89
6	授業内では、生徒の母語(日本語)よりも目標言語(英語)を主につかって指導する。	3.36	0.77
7	生徒の学習言語(英語)を使い、生徒が英語を話しやすい環境を作りながら指導する。	3.70	0.54
8	生徒が理解できない単語や表現が出てきた場合、すでに習っている英語を使って解説する。	3.51	0.65

9	新出単語の発音や文法を練習する時は、ネイティブスピーカーの音声録音されたものを使用する。	3.48	0.68
10	生徒の学習言語(英語)を使い、教師自身がネイティブスピーカーに近い発音や文法を意識しながら指導する。	3.55	0.60
11	教科書の流れに忠実に従って授業を進める。	2.57	0.79
12	教科書のテーマに関連させつつ、ディスカッションやエッセイなど派生的なアクティビティを行う。	3.50	0.64
13	授業にゲームを取り入れる。	3.30	0.73
14	リラックスした雰囲気を作りながら指導する。	3.70	0.54
15	定期試験や入学試験等の対策授業をする。	2.96	0.78
大問4			
1	生徒と教師が同じ国籍の方が親近感がわく。	2.49	0.84
2	ネイティブスピーカーの教師と関わったり、親しくなったりするには抵抗や不安がある。	1.93	0.85
3	ネイティブスピーカーの教師とコミュニケーションをとることは難しい。	2.54	0.90
4	ネイティブスピーカーの教師は文法をあまり詳しく教えてくれない。	2.61	0.83
5	日本人の英語教師は、発音が正確ではない。	3.10	0.70
6	日本人の教師の授業を受けていると、つい日本語を話してしまい、英語を使う機会が少なくなってしまう。	3.31	0.71
7	日本人の教師は、生徒が何を学びたいか、ニーズを理解したうえで指導してくれる。	2.58	0.76
8	日本人の教師は、生徒が難しいと感じる点や、つまずきそうな点を把握し、その点を噛み砕いて指導してくれる。	3.01	0.72

大問 3、大問 4 とともに特別高い、または低い平均値の設問はなく、指導方略や授業形式についての顕著な傾向は見られなかった。したがって、ここでは各大問から平均値が高かった設問項目 3 つずつを提示し、傾向を示唆することとする。なお、該当する設問は上記の表では色付きで示してある。

大問 3 では、問 7 と問 14 の平均値が 3.70 で最も高かった。次いで問 10 が 3 番目で、3.55 という結果であった。また、問 1～問 5 では平均値が 3 点を切るものがあつたが、問 6～問 10 ではすべて 3 点以上であったことから、日本語主導の授業形式より英語主導の授業形式を好む傾向があるのではないかと考えられる。

大問 4 では、問 6 が 3.31 で最も高かった。次いで問 5 が 2 番目で 3.10、問 8 が 3 番目で 3.01 となり、どの設問も日本人英語教師に対して言及しているものであつた。特に問 5、問 6 に関しては、LAI の研究では LETs の欠点として挙げられた内容であつた。反対に、NETs の欠点として挙げられた問 2～4 の平均値はいずれも 2 点台以下であつた。このことから、ネイティブスピーカーの教師の欠点よりも日本人英語教師の欠点を懸念している傾向にあると考えられる。

2. 回答者の英語学習レベルによるグループごとの結果

次に、回答データのうち、大問 1 で問うた現在の英語学習レベルが高いか低いかによつて、回答者を 2 つのグループに分類した。なお、学習レベルが高いか低いかは、回答者の 4 技能平均が回答者全体の 4 技能平均 3.08(小数点第 3 位を四捨五入)を上回ったか下回っ

たかによって判断した。その結果、学習レベルが高いグループ(以下、高グループ)に 47 名が、学習レベルが低いグループ(以下、低グループ)に 54 名が、それぞれ分類された。

その後、有意水準 5%で両側検定の t 検定を用いて高グループと低グループを比較、分析した。結果は以下の通りである。

表 3. 英語学習レベルごとの回答平均値の差の検定結果

大問3	設問文	高グループ($n=47$)		低グループ($n=54$)		t (99)
		平均	標準偏差	平均	標準偏差	
1	授業内では、生徒の目標言語(英語)よりも、母語(日本語)を主につかって指導する。	2.15	0.77	2.85	0.65	-4.92*
2	生徒が理解できない単語や表現が出てきた場合、日本語に訳して解説する。	2.98	0.93	3.33	0.75	-2.10*
3	生徒の母語(日本語)を使い、生徒が理解しやすいように解説しながら指導する。	2.98	0.81	3.37	0.78	-2.45*
4	生徒の母語(日本語)を使い、生徒とのコミュニケーション(質疑応答など)を促しながら指導する。	2.96	0.90	2.87	0.79	0.51
5	生徒の母語(日本語)を使い、生徒との親密度を高めながら指導する。	2.60	0.87	3.04	0.86	-2.54*
6	授業内では、生徒の母語(日本語)よりも目標言語(英語)を主につかって指導する。	3.72	0.53	3.04	0.79	4.98*
7	生徒の学習言語(英語)を使い、生徒が英語を話しやすい環境を作りながら指導する。	3.89	0.31	3.54	0.63	3.50*
8	生徒が理解できない単語や表現が出てきた場合、すでに習っている英語を使って解説する。	3.62	0.60	3.43	0.68	1.47
9	新出単語の発音や文法を練習する時は、ネイティブスピーカーの音声で録音されたものを使用する。	3.68	0.55	3.30	0.74	2.91*
10	生徒の学習言語(英語)を使い、教師自身がネイティブスピーカーに近い発音や文法を意識しながら指導する。	3.62	0.49	3.50	0.69	0.96
11	教科書の流れに忠実に従って授業を進める。	2.45	0.74	2.69	0.81	-1.52
12	教科書のテーマに関連させつつ、ディスカッションやエッセイなど派生的なアクティビティを行う。	3.77	0.42	3.28	0.70	4.10*
13	授業にゲームを取り入れる。	3.51	0.61	3.11	0.76	2.84*
14	リラックスした雰囲気を作りながら指導する。	3.87	0.33	3.56	0.63	3.07*
15	定期試験や入学試験等の対策授業をする。	3.06	0.63	2.87	0.88	1.24
大問4						
1	生徒と教師が同じ国籍の方が親近感がわく。	2.30	0.90	2.65	0.75	-2.12*
2	ネイティブスピーカーの教師と関わったり、親しくなったりするのは抵抗や不安がある。	1.79	0.85	2.06	0.83	-1.59
3	ネイティブスピーカーの教師とコミュニケーションをとることは難しい。	2.21	0.90	2.83	0.79	-3.66*
4	ネイティブスピーカーの教師は文法をあまり詳しく教えてくれない。	2.47	0.87	2.74	0.77	-1.65
5	日本人の英語教師は、発音が正確ではない。	3.23	0.72	2.98	0.65	1.83
6	日本人の教師の授業を受けていると、つい日本語を話してしまい、英語を使う機会が少なくなってしまう。	3.36	0.70	3.26	0.72	0.71
7	日本人の教師は、生徒が何を学びたいか、ニーズを理解したうえで指導してくれる。	2.70	0.82	2.48	0.69	1.45
8	日本人の教師は、生徒が難しいと感じる点や、つまずきそうな点を把握し、その点を噛み砕いて指導してくれる。	3.15	0.68	2.89	0.74	1.81

注：有意水準 5%とした両側検定

注 2：* $p < .05$

大問3の中で有意差が見られた設問は、問1～5から4問、問6～問10と問11～問16からそれぞれ3問の、計10問であった。有意であった各設問を比較すると、問1～5の4問では低グループ、問6～問10では高グループの平均値が高い傾向にあることが判明した。このことから、学習レベルが比較的高いグループは英語主導の授業形式を、比較的低いグループは日本語主導の授業形態を日本人英語教師に求めていると言える。しかしながら、低グループの問1～5と問6～問10を比較すると、後者の方が高い傾向にあったため、一概に日本語主導の授業形態にすべきとは言い切れない結果となった。したがって、低グループに関しては、日本語と英語を併用した授業形態がより適切であるのではないかと考えられる。問11～16については、有意差の見られた設問はどれも高グループの平均値が高かった。また、それらはディスカッションやエッセイ、ゲームを授業に取り入れるなどの項目であったことから、学習レベルが比較的高いグループはより多様な授業内容を求めていると推測できる。したがって、大問3全体としては、日本人英語教師は学習者のレベルが高ければ英語を主に使用し、派生的なアクティビティも取り入れた授業を行うとよいと考えられる。反対に、学習者のレベルが低ければ日本語と英語を併用した授業を行うとよいと考えられる。

大問4については問1と問3で有意差が見られ、どちらも低グループの平均値が高かった。このことから、学習レベルが比較的低いグループの方が日本人英語教師にポジティブな、ネイティブスピーカーの英語教師にネガティブな印象をより強く抱いている可能性があると考えられる。したがって、学習レベルの低い学習者へは日本人英語教師が中心となって教えるというのではないだろうか。

3. 回答者の英語学習目的ごとの結果

続いて、大問2で問うた回答者の英語学習目的が、内発的動機づけに因るものか(選択肢1～3)、外発的動機づけに因るものか(選択肢4～6)によって2つのグループに分類した。なお、無動機づけ(選択肢7)を選択した回答者は全体で1名と十分な数を得られなかったため、本研究では結果に反映させないこととした。その結果、内発的動機づけ(以下、内発グループ)に34名が、外発的動機づけのグループ(以下、外発グループ)に66名が、それぞれ分類された。

その後、有意水準5%で両側検定の t 検定を用いて内発グループと外発グループを比較、分析した。結果は以下の通りである。

表4. 英語学習目的ごとの回答平均値の差の検定結果

大問3	設問文	内発グループ($n=34$)		外発グループ($n=66$)		$t(98)$
		平均	標準偏差	平均	標準偏差	
1	授業内では、生徒の目標言語(英語)よりも、母語(日本語)を主につかって指導する。	2.59	0.84	2.48	0.76	0.61
2	生徒が理解できない単語や表現が出てきた場合、日本語に訳して解説する。	3.26	0.78	3.12	0.90	0.78

3	生徒の母語(日本語)を使い、生徒が理解しやすいように解説しながら指導する。	3.26	0.74	3.15	0.86	0.65
4	生徒の母語(日本語)を使い、生徒とのコミュニケーション(質疑応答など)を促しながら指導する。	3.03	0.86	2.85	0.84	1.00
5	生徒の母語(日本語)を使い、生徒との親密度を高めながら指導する。	2.88	0.87	2.80	0.91	0.42
6	授業内では、生徒の母語(日本語)よりも目標言語(英語)を主につかって指導する。	3.44	0.74	3.32	0.78	0.75
7	生徒の学習言語(英語)を使い、生徒が英語を話しやすい環境を作りながら指導する。	3.79	0.47	3.65	0.56	1.25
8	生徒が理解できない単語や表現が出てきた場合、すでに習っている英語を使って解説する。	3.53	0.70	3.50	0.63	0.21
9	新出単語の発音や文法を練習する時は、ネイティブスピーカーの音声か録音されたものを使用する。	3.62	0.64	3.39	0.69	1.55
10	生徒の学習言語(英語)を使い、教師自身がネイティブスピーカーに近い発音や文法を意識しながら指導する。	3.76	0.49	3.44	0.63	2.60*
11	教科書の流れに忠実に従って授業を進める。	2.56	0.77	2.58	0.80	-0.10
12	教科書のテーマに関連させつつ、ディスカッションやエッセイなど派生的なアクティビティを行う。	3.56	0.65	3.48	0.63	0.54
13	授業にゲームを取り入れる。	3.35	0.72	3.27	0.73	0.52
14	リラックスした雰囲気を作りながら指導する。	3.82	0.38	3.64	0.59	1.65
15	定期試験や入学試験等の対策授業をする。	2.91	0.82	2.98	0.77	-0.44
大問4						
1	生徒と教師が同じ国籍の方が親近感がわく。	2.35	0.94	2.45	0.78	-0.57
2	ネイティブスピーカーの教師と関わったり、親しくなったりするのは抵抗や不安がある。	1.85	0.94	3.02	0.79	-6.46
3	ネイティブスピーカーの教師とコミュニケーションをとることは難しい。	2.41	0.94	2.64	0.85	-1.20
4	ネイティブスピーカーの教師は文法をあまり詳しく教えてくれない。	2.53	0.88	2.65	0.81	-0.69
5	日本人の英語教師は、発音が正確ではない。	3.09	0.74	3.09	0.67	-0.02
6	日本人の教師の授業を受けていると、つい日本語を話してしまい、英語を使う機会が少なくなってしまう。	3.41	0.69	3.24	0.72	1.12
7	日本人の教師は、生徒が何を学びたいか、ニーズを理解したうえで指導してくれる。	2.62	0.80	2.56	0.74	0.35
8	日本人の教師は、生徒が難しいと感じる点や、つまずきそうな点を把握し、その点を噛み砕いて指導してくれる。	3.09	0.66	2.95	0.75	0.87

注：有意水準 5%とした両側検定 注 2：* $p<.05$

全問を通して、グループ間で有意差が見られたのは 1 問のみであった。このことから、学習目的が異なったとしても、日本人英語学習者が求めていることについては大差がないことが判明した。しかしながら、外発グループの回答者 66 名のうち、48 名が外発的動機づけの中で最も内発的動機づけに最も近い同一視的調整(選択肢 4)を選択したため、2 グループの間に差が出なかったとも考えられる。したがって、日本人英語教師は学習者の学習目的によって使用する指導方略を変える必要はないのではないかと推測できるが、断言するまでには至らなかった。

唯一、有意差が見られた大問 3 の問 10 は、ネイティブスピーカーに近い発音や文法表現についての項目で、内発グループの平均値が高かった。このことから、英語学習そのものについて興味がある内発グループの方が、ネイティブスピーカーに近い表現を学びたいと思っていることが分かった。

V. おわりに

本研究では、日本人大学生 101 名のアンケートをもとに、日本人英語学習者が日本人英語教師に求めていることを調査した。その結果、学習者の学習レベルに応じて指導方略や授業での使用言語の割合を考慮すべきであるとの結論に達した。

しかしながら、数値による研究結果以外にも、回答者の自由記述欄には、「(母語を大事にしながら外国語習得を行うという観点から)日本人らしい発音も大事にすべき」との本研究の結果とは異なる意見や、「英語を話そうと思う気持ちや会話力が大切である」といった第二言語習得以前の段階に関する意見も寄せられており、日本の英語教育に関する議論は尽きない。

本研究の結果が日本人英語教師たちや英語教育現場の一助となれば幸いに思う。

参考文献

- 林日出男(2006).「自己決定理論に基づく大学生用英語学習動機づけ尺度の作成-既存尺度との比較考察-」『日本言語テスト学会研究紀要』第 9 巻, 117-128.
- Lai, P., & Florence, M. (2012). Advantages and disadvantages of native- and nonnative-English-speaking teachers student perceptions in Hong Kong. *TESOL Quarterly*, 46(2), 280-305.
- 水野知津子(2014). 「英語教師に求められるもの-外国語学習法略の動機付け観点からの考察-」『香川高等専門学校研究紀要』第 5 巻, 89-98.
- 文部科学省(2009)「第 13 節 英語」『高等学校学習指導要領』p.289-291 <http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2011/03/30/1304427_002.pdf>(2017 年 6 月 29 日)
- 文部科学省(2016)「4. 学習指導要領の理念を実現するために必要な方策(英語関係)」『全国学力・学習状況調査における中学校の英語の実施に関する中間まとめ 基礎資料』37-47<http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2017/03/30/1383783_2.pdf>(2017 年 11 月 29 日)
- 文部科学省(2017a)「高等学校」『平成 28 年度「英語教育実施状況調査」の結果について』<http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfile/2017/04/07/1384236_02_1.pdf>(2017 年 6 月 14 日)
- 文部科学省(2017b)「外国語指導助手(ALT)等の任用・契約形態別人数等の状況(平成 28 年度)」『平成 28 年度「英語教育実施状況調査」の結果について』<http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfile/2017/04/07/1384236_05.pdf>(2017 年 6 月 14 日)
- 東京外国語大学 投野由紀夫研究室(2013). 「CEFR-J を活用するための‘Can Do Descriptor リスト」<www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/092/.../09/.../1325972>

_2_3.pdf>(2017 年 7 月 13 日)

行森まさみ(2015).「日本人英語教師の英語観-「国際語としての英語」を中心として-」
『STEP bulletin』第 27 巻, 175-183.

資料 アンケート内容

日本人の英語教師に関する調査

こんにちは。明治大学国際日本学部 4 年、廣森ゼミナール所属の根岸友紀(ねぎし ゆき)と申します。現在、卒業論文執筆に向け、アンケートを実施しております。お忙しいとは思いますが、以下のアンケートに回答していただければ幸いです。ご協力よろしくお願いします。

注意

ご回答いただくにあたり、画像の読み込みが必要になるページがあります。通信環境に注意してください。

★あなた自身について

性別、大学名、学部・学科・専攻(学科・専攻は任意)、学年

★あなたの英語レベルについて(大問 1)

以下の 4 技能の英語レベル(1～6)について、「現在のあなたのレベル」に最も近いものを 1 つずつ選んでください。

I. リスニング能力

選択肢	できる能力
1	基本的な挨拶や決まり文句を聞いて、理解することができる。 (例 : please, thank you)
2	自分自身や自分の家族に関するごく簡単な文を理解することができる。
3	短い物語を聞いて、次に何が起こるかを推測できる程度にその内容を理解することができる。
4	騒がしい場所でも、日常生活になじみのないトピックであっても標準的な話し言葉を理解することができる。
5	抽象的でなじみのないトピックであっても、集団討論での第三者同士の複雑なやりとりを容易に理解することができる。
6	生であれ、放送されたものであれ、母語話者の速いスピードで話されるどんな種類の話し言葉も難無く理解することができる。

II. リーディング能力

選択肢	できる能力
1	公共の場所 ("no smoking" など) や教室 ("very good" など) でよく目にする語や非常に短い句を理解することができる
2	簡単な言葉で書かれた文章なら、よく知っているトピックを扱った

	日常的な事柄についての短い物語を理解することができる。
3	構成がはっきりとした物語や現代の文学作品の筋を理解することができる。
4	自分の関心のある分野や学問や職業の専門分野の文章を詳細に理解することができる。
5	なじみのない分野であってもマニュアル、法令、契約書の内容を理解することができる。
6	言葉遊びを認識することができ、本来の意味が明示的でない文章（アイロニーや風刺など）を理解することができる。

Ⅲ. スピーキング能力

選択肢	できる能力
1	自分が誰であるか言うことができ、相手の名前を尋ねたり、相手のことを紹介することができる。
2	普段の状況で興味がある話題であれば短い会話に参加することができる。
3	驚き、幸せ、悲しみ、関心、無関心といった感情を適切に表現したり、そういった感情に適切に反応することができる。
4	騒がしい状況でも標準的な言葉で話されれば詳細に理解することができる。
5	アクセントやイントネーションを用いて正確に意味の細かいニュアンスを伝えながら、ほぼ自然に、流暢に話ができる。
6	聞き手が重要な点に気づき、内容を覚えられるよう論理的にしっかりとした構成で、はっきりと流暢にスピーチすることができる。

Ⅳ. ライティング能力

選択肢	できる能力
1	自分についての簡単な句や文を書くことができる。 (例：住んでいる所、何人兄弟か)
2	"and", "but", "because"のような語でつなげながら、簡単な文を書くことができる。
3	電子メールや案内状で、友人や同僚に短い簡単な事実情報を伝えることができる。
4	幅広いトピック（個人的問題、文化的、異文化間の問題、社会的問題）について、明瞭で詳細な文章を書くことができる。
5	文法的に正確性の高い文章を書くことができ、読み手や文章・トピックの種類に応じて語彙や文体を変化させることができる。

6	手紙の中で、意識的に風刺的であいまいでユーモアのある言い方を使って、自己表現することができる。
---	---

★あなたの学習目的について(大問 2)

あなたは現在、なぜ英語を勉強しているのですか？最も近いものを 1~7 の中から 1 つ選んでください。

選択肢	できる能力
1	解らなかった英語(出来なかったこと)が解る(出来る)ようになると嬉しいので。英語力を向上できると嬉しいので。
2	英語について知らないことを知るのは楽しいので。英語の表現などを覚えるのは楽しいので。
3	英語を聞く(話す)とわくわくするので。英語に接すること自体が好きなので。
4	英語を使える人になりたいので。自分の将来にとって英語は重要なので。
5	英語を勉強しないと何となく申し訳ないから。周りの人に英語ができると思わせたいから。
6	大学で英語という科目があるから。英語を勉強しないと卒業できないので。
7	なぜ英語を学ぶ必要があるのか、理解できない。英語を学ぶのは時間の浪費であり、学ぶ理由はない。

★日本人英語教師の行動について(大問 3)

大問 3	以下の教師が英語の授業中にとる行動について、日本人の英語教師にしてほしいと思いますか？ 1～4 から選んでください。	全くしてほしくない	あまりしてほしくない	少しならしてほしい	ぜひしてほしい
1	授業内では、生徒の目標言語(英語)よりも、母語(日本語)を主につかって指導する。	1	2	3	4
2	生徒が理解できない単語や表現が出てきた場合、日本語に訳して解説する。	1	2	3	4
3	生徒の母語(日本語)を使い、生徒が理解しやすいように解説しながら指導する。	1	2	3	4
4	生徒の母語(日本語)を使い、生徒とのコミュニケーション(質疑応答など)を促しながら指導する。	1	2	3	4
5	生徒の母語(日本語)を使い、生徒との親密度を高めながら指導する。	1	2	3	4
6	授業内では、生徒の母語(日本語)よりも目標言語(英語)を主につかって指導する。	1	2	3	4

7	生徒の学習言語(英語)を使い、生徒が英語を話しやすい環境を作りながら指導する。	1	2	3	4
8	生徒が理解できない単語や表現が出てきた場合、すでに習っている英語を使って解説する。	1	2	3	4
9	新出単語の発音や文法を練習する時は、ネイティブスピーカーの音声録音されたものを使用する。	1	2	3	4
10	生徒の学習言語(英語)を使い、教師自身がネイティブスピーカーに近い発音や文法を意識しながら指導する。	1	2	3	4
11	教科書の流れに忠実に従って授業を進める。	1	2	3	4
12	教科書のテーマに関連させつつ、ディスカッションやエッセイなど派生的なアクティビティを行う。	1	2	3	4
13	授業にゲームを取り入れる。	1	2	3	4
14	リラックスした雰囲気を作りながら指導する。	1	2	3	4
15	定期試験や入学試験等の対策授業をする。	1	2	3	4

★日本人の英語教師、ネイティブスピーカーの英語教師に対する考えについて(大問 4)

大問 4	以下のネイティブスピーカー、または日本人の教師に対するあなたの考えを次の1～4の中から選んでください。	全く当てはまらない	あまり当てはまらない	少し当てはまる	とても当てはまる
1	生徒と教師が同じ国籍の方が親近感がわく。	1	2	3	4
2	ネイティブスピーカーの教師と関わったり、親しくなったりするのは抵抗や不安がある。	1	2	3	4
3	ネイティブスピーカーの教師とコミュニケーションをとることは難しい。	1	2	3	4
4	ネイティブスピーカーの教師は文法をあまり詳しく教えてくれない。	1	2	3	4
5	日本人の英語教師は、発音が正確ではない。	1	2	3	4
6	日本人の教師の授業を受けていると、つい日本語を話してしまい、英語を使う機会が少なくなってしまう。	1	2	3	4
7	日本人の教師は、生徒が何を学びたいか、ニーズを理解したうえで指導してくれる。	1	2	3	4
8	日本人の教師は、生徒が難しいと感じる点や、つまずきそうな点を把握し、その点を噛み砕いて指導してくれる。	1	2	3	4

英語力の差がピア・レスポンスに及ぼす影響

What Affects the Peer Response Activity
When the Language Learner's English Skills Are Different?

明治大学 国際日本学部
南波 里帆

Meiji University School of Global Japanese Studies
NAMBA Riho

目 次

I. はじめに	
1. ピア・レスポンスとは	
2. 研究背景	
II. 先行研究	
1. ピア・レスポンスによる作文の質の変化	
2. 言語能力に差のあるペアによるピア・レスポンス	
III. 研究課題	
IV. 予備実験	
V. 研究概要	
1. 被験者	
2. 実験手順	
3. 分析方法	
(1) 作文の質について	
(2) 満足度について	
(3) ペアの関係性について	
VI. 分析結果	
1. 作文の質について	
2. 満足度について	
3. ペアの関係性について	
VII. 考察	
VIII. 今後の課題	
参考文献	
＜付録 1＞ピア・レスポンスシート	
＜付録 2＞実際の作文	
＜付録 3＞ESL Composition Profile	
＜付録 4＞事後アンケート	
＜付録 5＞各ペアの発話	

I. はじめに

日本国内の英作文指導において最も一般的に用いられるのが、学習者に英作文を書かせ、それを指導者が添削するという指導法だろう。しかしこの方法は添削する指導者の負担が大きだけでなく、学習者は極めて受身的に指導を受けることになる。そこで筆者は、学習者がペアを作り互いの作文を添削する、ピア・レスポンスという活動に興味を持った。

1. ピア・レスポンスとは

先行研究において、ピア・レスポンス (peer response; 以下 PR) は次のように定義されている。

“Students work together to provide feedback on one another’s writing in both written and oral formats through active engagement with each other’s progress over multiple drafts.” (Liu & Hansen, 2002, p. 1)

『学習者たちが自分たちの作文をより良いものにしていくために仲間同士(peer)で読み合い、意見交換や情報提供を行いながら作文を完成させていく活動方法』(池田, 2004, p. 37-38)

すなわち、PR とは学習者がペアを作り、互いの作文にフィードバックを与える活動である。また、PR 活動において学習者は読み手・書き手の役割を交代しながら互いの作文を推敲してゆくが、フィードバックは必ずしも「読み手→書き手」の一方的なものではなく、読み手の提案に書き手が同意・反論・質問などをしながら相互的なやりとりが行われる。

2. 研究背景

これまでに英語教育・日本語教育の分野で PR に関する研究が様々な観点からなされ、PR には様々な利点がある事が分かっているにもかかわらず、まだ実際の教育現場で PR が盛んに取り入れられているとは言えない。その理由として、筆者はペア間の言語能力の差に注目した。PR を有効な指導法として成功させるためには、活動への導入方法・活動プロセス・活動期間などいくつかの要因があり、その一つが学習者の組み合わせであると考えられる。例えば、国内の英語教育現場で PR 活動を取り入れる事を想定すると、ペア間に英語能力の差がある事が予想される。一般的に考えて、英語能力が高い学習者が低い学習者にフィードバックを与える事は容易であるが、双方向的なフィードバックがなされるかは疑問である。そこで本研究では、英語能力に差のあるペア・差のないペアによる PR 活動を観察し、ペア間の英語力の差が PR にどのような影響を与えるかを調査する。

II. 先行研究

1. ピア・レスポンスによる作文の質の変化

Hedgcock & Lefkowitz(1992)はフランスの FSL(French as a Second Language)学習者を対象に、学習者が PR と教師フィードバック(TF)の前後に書いた作文を採点・比較した。その結果、

作文の総合得点では PR と TF に有意差は見られなかったが、PR 後の作文は内容・構成・語彙に、TF 後の作文は文法に改善が見られた。

また Maryam, Sima & Karim(2015)はイランの EFL(English as a Foreign Language)学習者を対象に、PR を行った学習者と自己推敲を行った学習者の作文を流暢さ・複雑さ・正確さの観点から評価した。このうち、流暢さ・正確さについては PR を行ったグループの方が向上した。

Wakabayashi(2008)は日本人大学生 25 人を対象に PR を 1 回実施し、その効果として学習者の推敲方法・作文の質・心理面の反応を調査した。作文の質について、PR の前後に書いた作文を ESL Composition Profile(Jacobs et al.,1981)を基準に採点し、その平均点の変化を考察した。その結果、PR 後の作文は PR 前の作文よりも平均点が高く、有意差が認められた。

2. 言語能力に差のあるペアによるピア・レスポンス

原田(2006)は、中級日本語学習者を対象として言語能力に差がある学習者による PR の観察を行った。週 1 回、4 時間×12 回の中級日本語作文コースで計 4 回の PR を行い、そのうち 5 人の学習者の活動を録音・分析した。分析方法は、学習者の発話を 18 の発話機能のカテゴリーに分類し全体的な発話の傾向を掴むと同時に、特定のペアの会話を質的に分析し、ペアの関係性を明らかにするというものである。その結果、日本語能力に差があるペアでも、活動回数を重ねることで相互的で対等な活動になりうる事が分かった。

一方で、久山(2007)は日本人の高校 2 年生を対象に PR を用いた英作文指導を行った。生徒の人間関係に配慮してペアを編成したところ、英語力に差のあるペアにおいて能力の高い生徒がフィードバックを十分に受けられず、PR 活動に対して否定的な反応を示した。

III. 研究課題

原田(2006)の研究から、日本語能力に差があるペアによる PR において学習者同士が対等で互恵的な関係を築くことが可能であると分かった。しかし、この研究では言語能力に差のあるペアのみに注目しており、差のないペアとの比較はなされていない。また PR によって作文の質が変化したかどうかは検証されていない。

また、PR における作文プロダクトについて調査した研究は多数存在するが、Wakabayashi(2008)のように日本人英語学習者を対象としたものはまだ少ないと言える。そのうえ、日本人英語学習者を対象とした PR において、英語能力に差のあるペア・差のないペアを比較して効果を検証した研究はなされていない。

さらに、PR によって作文の質が向上するという効果が認められても、学習者自身が PR 活動に対して肯定的でなければ、活動に対するモチベーションは低く、積極的な活動は望めない。そのため学習者の PR に対する満足度も、PR の効果の 1 つとして注目するべきであると考え。池田・原田(2008)も、協働学習の評価として自己評価や仲間からの評価を重く扱うべきであると主張している。

そこで本研究では、英語能力に差のあるペアによる PR を差のないペアと比較し、①PR の前後に書いた作文の質の変化から PR の効果を測り、②学習者の自己評価から PR 活動への満足度を調査し、③PR において学習者はどのような関係性で活動しているかを明らかにする事を研究課題とする。これらの研究課題を達成することにより、ペアの英語能力の差が、PR 活動における PR の効果・学習者の PR 活動に対する評価・学習者の関係性にどのような影響を与えるかが明らかになると考える。

IV. 予備実験

これまでになされてきた PR 研究のほとんどは、英語教師・日本語教師が実際の教育現場で指導の一環として調査をしたものである。しかし、筆者は大学生であり英語の指導経験は無く、英語学習における PR 活動の経験も無い。そのため本実験の前に予備実験を行い、PR 活動の手順や分析方法の確認をした。予備実験では 4 人の被験者が 2 回ずつ PR を経験したが、1 回目と 2 回目では活動中の発話数や書き直し後の作文の点数が大きく異なった。その原因として、PR 活動に対する慣れが考えられた。1 回目はまだ被験者が PR 活動に不慣れであったため効果が表れにくかったが、2 回目は活動に慣れ、その効果が点数などに大きく表れたという事である。そのため本実験では、実験前に被験者が PR 活動の練習をし、PR 活動に慣れる必要があると考えた。

V. 研究概要

1. 被験者

本実験に参加したのは、明治大学国際日本学部の 2 年生 8 名であった。当学部の 2 年生は TOEFL iBT のスコアで 3 段階にクラス分けされており、スコアの高い順に G クラス、J クラス、S クラスとなっている。G クラスの学生 4 人を英語能力の高い者(A, B, C, D)、S クラスの学生 4 人を英語能力の低い者(E, F, G, H)とした。

2. 実験手順

被験者は、全員が英語能力に差のあるペア・差のないペアを 1 回ずつ経験するよう、表 1 の組み合わせで一人 2 回ずつ PR を経験した。PR をより効果的なものにするため、PR の目的や意義を被験者に十分説明し、PR の方法を細かく指導した。具体的には、PR の目的は互いの作文を文法面・内容面の両方においてより良くすることで、先行研究によりその効果が実証されている事を口頭で説明した。PR の手順や作文を書く際の留意点、その他の細かいルールは紙面にまとめた。また予備調査の結果を踏まえ、被験者は 1 回目の PR の前に、グループで PR 活動の練習を行った。練習では、単語レベルの訂正だけではなく、段落構成や作文の内容についてもフィードバックをするよう指導した。

表 1: ペアの組み合わせ

回数	ペアの組み合わせ			
1	A>E*	B>F	C=D	G=H
2	A=B	E=F	C>G	D>H
(*A>E は A が E よりも英語力が高いことを示す。)				

1 回の PR の流れは次の通りであり、1 回の PR に 4 日～5 日ほど要した。

英作文課題として TOEFL のライティング問題を使用し、被験者は 30 分程度で英作文を書いた。作文を書く際、辞書などで単語のスペルなどを調べる事は許可したが、フレーズや文法事項を調べる事は禁止した。また作文を書き終えた後の自己推敲も禁止した。作文を提出した後、PR 活動までに互いの作文を読み、PR シートを参考に相手の作文に書き入れをした。PR シートはフィードバックを促進させることを目的とし、筆者が作成した(付録 1 参照)。大関(2015)を参考に、最初の項目は書き手に対して肯定的なコメントを促すものにした。項目 2・3 は内容面、項目 4～6 は言語面に関するフィードバックを促すものである。PR 活動では、1 つの作文に対して 15 分ずつのフィードバックが行われ、読み手と書き手の役割を交替して 2 回行われた。読み手は、相手の作文に書き入れてきたものをもとに、口頭でフィードバックをした。活動中は辞書やインターネットを使用し文法事項などを調べる事を許可した。PR 活動後、PR 活動で得たフィードバックを参考に作文を書き直し、事後アンケート(詳細は後述)に回答した。

巻末の付録 2 に、被験者が実際に書いた作文を掲載した。尚、PR を受けて書き換えた部分に下線を引いて強調した。

3. 分析方法

(1) 作文の質の変化について

研究課題①について、PR の前後に書いた作文を採点し、PR によって作文の質が向上しているかを検証した。作文の評価基準として ESL Composition Profile(Jacobs et al.,1981)(付録 3 参照)を用い、国際日本学部で英語の授業を受け持つ英語母語話者の教師 2 名に採点を依頼した。この評価法は、英作文を内容(content)、構成(organization)、語彙(vocabulary)、言語使用(language use)、句読点・文法などのメカニクス(mechanics)の 5 つの項目から採点するものであり、それぞれの項目の配点は 30 点、20 点、20 点、25 点、5 点である。

(2) 満足度について

研究課題②について、被験者は毎回の活動後に事後アンケート(付録 4 参照)に回答した。これは池田・原田(2008)、Wakabayashi(2008)を参考に筆者が作成したもので、被験者の PR 活動に対する評価を調査するものである。被験者は 7 つの質問に「強くそう思う(5 点)」～「全くそう思わない(1 点)」の 5 段階で回答した。35 点満点で、合計点が高いほど満足度が高いという事が分かる。

(3) ペアの関係性について

研究課題③については、原田(2006)の分析方法を参考にした。PR 活動の音声を録音し、宇佐美(2003)の基本的な文字化の法則(BTSJ)に基づいて活動中の発話数を数え、発話文ごとに17の発話機能(表4)に分類した。これは原田(2006)が使用した18の発話機能のカテゴリーを参考に筆者が修正したものである。

表 4: 発話機能のカテゴリー

	発話機能	例
1	話題提示・進行	ここなんだけど…/じゃあ次行くね,
2	関係作り	私もよく間違えるんだけど, (緩和)/感謝/冗談など
3	間違い・不明点を指摘	ここ the がはいるよね/ここちょっと意味が分かりづらいかも
4	訂正案を示す	(訂正案)〜とか良いと思うんだけど。
5	内容を提案	〇〇の話をもっと書いてみたら?
6	意見を言う	〇〇の方がしっくりくると思う。
7	説明する	主語が〇〇だから動詞は〇〇になるじゃん,
8	アドバイスする	一文をもうちょっと短くした方がいいよ。
9	他者評価	すごい説得力あるね。/全体的に分かりやすいね。
10	自己評価	語彙力ないんだよねー。
11	自分の立場を述べる	時間無くて焦っちゃった。/〇〇って言いたかったんだよね。
12	質問する・確認する	〇〇ってこういう使い方するよね?/こって〜って事だよね?
13	質問に答える	(質問に対する答え)
14	アドバイスを求める	ここおかしくない?/教えて。
15	反論する	でも〜じゃないの?
16	同意する・相槌をうつ	確かに。/そうだね。/うん。(相槌)
17	その他	(文章の読み上げ)/ (調べた内容を発言)

VI. 分析結果

1. 作文の質の変化について

作文の採点結果は、表2に示すとおりである。前述したように、評価基準である ESL Composition Profile は英作文を5項目から評価するものであるが、本研究では項目ごとの得点の傾向などは特に見られなかった。

表 2: 作文の採点結果

	差ありペア			差なしペア		
	Draft	Revise	変化量	Draft	Revise	変化量
A	81	80	-1	85	85	0
B	72	67	-5	78	84	-4
C	83	84	1	78	83	5
D	57	56	-1	77	77	0
E	85	79	-6	73	69	-4
F	68	73	5	67	70	3
G	62	64	2	69	70	1
H	64	63	-1	66	66	0

まとめると、本研究では、英語力に差のあるペアと差のないペアで、PR による作文の質の変化に顕著な違いは確認されなかった。

2. 満足度について

被験者の PR 活動に対する満足度は表 3 のようになった。

表 3: 満足度に関する事後アンケートの結果

	差なしペア	差ありペア
A	35	25
B	33	28
C	31	27
D	32	30
E	29	29
F	28	27
G	34	35
H	34	28

被験者は概ね、PR に対して肯定的な評価をしており、設問ごとの特徴は見られなかった。本研究では、英語力に差のあるペアと差のないペアで、PR 活動に対する満足度に大きな差は確認されなかった。しかし、今回被験者にはペアの英語力のレベルを伝えていなかったにも関わらず、8 人中 6 人の被験者は英語力に差のないペアによる PR の方を高く評価していた。

3. ペアの関係性について

全ペアの分析結果は付録 5 に示した。他のペアに比べて特徴的であったのが、A>E, C>G のペアである。以下、それぞれの特徴を説明する。

(1) A>E のペア

図 1 は、被験者 A と被験者 E の PR 活動中の発話をグラフにしたものである。読み手としての発話数・書き手としての発話数を総発話数としてまとめている。今回、1 回の PR における被験者 1 人の総発話数の平均は 85.6 回であったが、このペアは二人とも発話数が少なく、とくに被験者 E の発話数が極端に少なかった。発話機能に注目すると、被験者 A は「訂正案を示す」「意見を言う」「説明する」などの発話が多いが、被験者 E の発話の殆どは相槌であった。

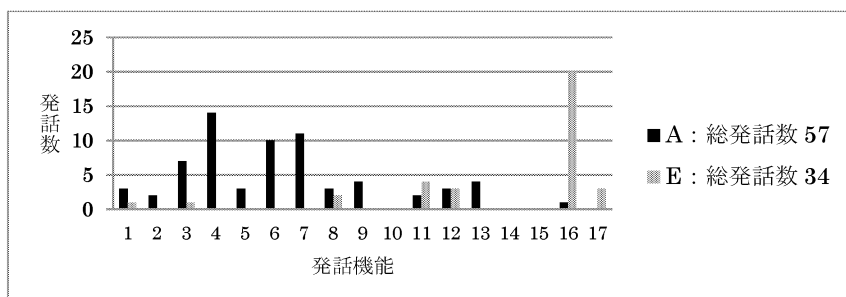


図 1: A>E ペアの発話

以下、A>E ペアの会話の一部を会話例 1, 2 として示す。

【会話例 1】(被験者 A : 読み手, 被験者 E : 書き手)

A 多分、ここ現在完了だからこっちも同じ時制かなって。

E なるほど。

A あと、この have ってガスですね。

E そうですね…

A だから多分、has だと思います。

E はい。

A あと automobile use ってあるんだけど、automobile が名詞で、ちょっとおかしいと思って、私が変わるとしたら、the frequency of using automobile ってすると思います。

E うん…

(中略)

A ここの they give big damage on Japanese economy という風に影響するのかをもうちょっと言及してほしかったなって。なんか考えてました？ここ。

E いや…ちょっとここ適するワードが無いなと思って…

被験者 A が読み手・被験者 E が書き手の際は、会話例 1 のように被験者 A が次々と文法事項を指摘し、被験者 E はメモを取りながら相槌をうつ、という場面が続き、原田(2006)でも観察された極めて読み手主導的なやり取りが行われた。また、被験者 E が読み手の際、十分なフィードバックを与えることが出来ずに沈黙が続く場面があり、相互的で積極的な PR 活動になることは無かった。

(2) C>G のペア

図 2 は、被験者 C と被験者 G の PR 活動中の発話をグラフにしたものである。このペアは二人とも発話数が比較的多く、発話数の差も少なかった。発話機能にも注目すると、「訂正案を示す」のみ被験者 C の発言が多かったが、その他の発話機能においては両者の発話数が拮抗しており、対等で相互的なやり取りが行われた事が分かる。

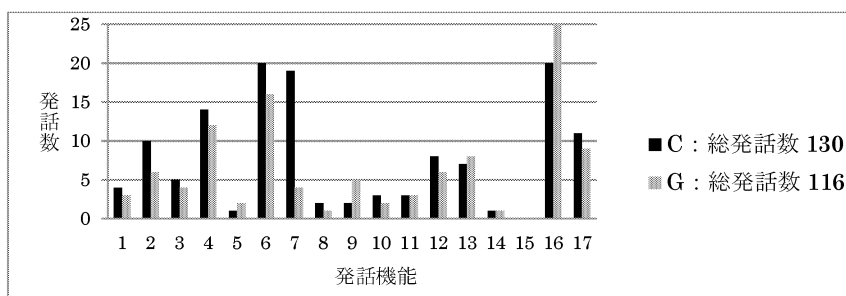


図 2: C>G ペアの発話

以下、C>G ペアの特徴が表れている会話例である。

【会話例 2】(被験者 G : 読み手, 被験者 C : 書き手)

G 気になったのは…ask の次は、人がこないといけないから…

C ああそっか…

G 調べたら、Ask, 人, for, なんとか…。人にものを尋ねるときは。

C うん。あーそっかそっか。

G それと似たようなのあって、tell もさっき調べたら、tell their plan to someone だけど、Tell は、“A に B を話す” だったら、“tell A B”か “tell A about B”で…tell のあとには人がくる…から、tell someone their plan でいいと思う。

(中略)

G こっちの ask は合ってた。

C asking someone information…そっか、A に B を聞くんだよね。

G うん。それは合ってたから…

何か他に…自分で気になったとことか… (ある?)

C うーん… (中略) そっか、ここは should ask…should ask…

- G should ask someone…
 C should ask someone information か。
 G うん。
 C Should ask 人 to do になるのか。そっか…

【会話例 3】(被験者 C：読み手，被験者 G：書き手)

- C 助ける人がいないよっていう事を言いたいのか？
 G そう。うん。
 C そっか，だったら…in case of…とか？
 (中略)
 C 人のサポートを得るために，人の意見を聞くことが大事，when…あー違う，…in case of failing とか？…失敗した時だよな？
 G そうそう。
 C 失敗した時に，一人だとやばいよって事だよな？
 G そういうこと。In case of failing…
 C …とか使えちゃうまいきそう。
 G うん。…このあと in addition？…in で大丈夫だよな？
 C in addition…あ，in case of failing が最後かな…

英語力が低い被験者 G は，事前に文法事項を事前に調べてフィードバックをすることで，読み手の役割を果たしている。これに対し，書き手である被験者 C も積極的に確認・質問をすることで文法の理解を深めている。このペアの特徴は，フィードバックを受ける側である書き手も積極的に発言している事である。また会話例 3 では，互いに質問をし合って相手の意図を確認し，2 人で協力して文章を作るという意識がみられる。

VII. 考察

今回，ペア間の英語力の差が PR にどのような影響を与えるかを明らかにするため，ペアの関係性・作文の質・学習者の満足度という 3 つの観点から分析した。しかしこの 3 点について，英語力の差の有無による違いはあまり見られず，予想した通りの結果は得られなかった。その理由として，主に実験期間・被験者の親密度の調整・対象人数の少なさの 3 つが挙げられる。

実験期間について，原田(2006)では双方向的な PR 活動が観察されるまでに 4 週間で計 4 回の PR を要した。そのため，原田は「PR が有効に機能するためにはある程度の習熟期間が必要である」(p.70)と主張している。本研究ではスケジュールの都合と被験者の負担軽減のため，被験者は練習を含め計 3 回のみ PR を経験した。仮にこの研究を長期間行い，被験者が 4 回以上の PR を経験すれば，今回とは違った結果が得られる可能性がある。

2 点目として、親密度の調整が出来なかった事が挙げられる。予備実験では被験者 4 人全員の作文の質が大きく向上していたにもかかわらず、本実験では PR による作文の質の向上が見られなかったケースが多数確認された。その理由として、親密度が PR に与える影響が大きいという可能性が考えられる。予備実験の被験者は全員が同じゼミに 1 年以上所属しており、親密度は高いと言える。本実験では 8 ペアのうち 6 ペアが初対面であったため、予備実験と同じような結果にならなかったと考えられる。また、本来は 8 人の被験者が全員初対面で親密度に差が無い状態が望ましかったが、条件に合った被験者を揃える事が出来ず、A と B、C と D は初対面ではなかった。親密度の調整が出来なかった事も、実験結果に影響している可能性がある。

また、本研究は被験者が少なく、データの量的な分析が出来なかった。PR を成功させる要因として、学習者の英語力・親密度の他にも、学習者個人のモチベーションやこれまでの学習経験、学習スタイルの好みなども関係すると考えられ、被験者が少ないとそのような個人差が大きく影響してしまう。Hedgcock & Lefkowlz(1992)は 30 名、Maryam, Sima & Karim (2015)は 108 名の被験者を対象に作文の質の向上を検証している。量的な研究を行うには、数十名の被験者を対象にする必要があると考える。

VIII. 今後の課題

今回、ペア間の英語力の差が PR にどのような影響を与えるかを明らかにするという研究課題は達成出来なかったが、示唆に富んだ結果を確認する事が出来た。それは、A>E ペア・C>G ペアは、英語力に差があり初対面同士であるという全く同じ条件にも関わらず、作文の質の変化量とペアの関係性が大きく異なったという事である。この結果から、「ペアの関係性と作文の質の変化には関連があるのではないか」、「ペア間の英語力の差や親密度の他に、PR に影響を与える要素があるのではないか」といった新たな問いを得る事が出来た。今後の研究活動では、これらの問いを明らかにする中で、PR を成功させる要因を探り、効果を最大化させるためにどのようなアプローチが可能かを明らかにしたい。

参考文献

- 池田玲子(2004)「日本語学習における学習者同士の相互助言」『日本語学』第 23 巻, 第 1 号, 36-50.
- 池田玲子・原田三千代(2008)「ピア・レスポンスの現状と今後の課題」『言語文化と日本語教育』特集号, 46-83.
- 宇佐美まゆみ(1997)「基本的な文字化の原則(Basic Transcription System for Japanese: BTSJ)の開発について」『日本人の談話行動のスク립ト・ストラテジーの研究とマルチメディア教材の試作』平成 7 年度～平成 8 年度文部省科学研究費-基盤研究(C)(2)―研究成果報告書, 12-26.

- 原田三千代(2006)「中級日本語作文における学習者の相互支援活動: 言語能力の差はピア・レスポンスにとって負の要因か」『世界の日本語教育』第 16 号, 53-73.
- 松尾美耶・佐藤公代(2002)「大学生の対人関係認知およびストレス反応と学校享受感の関連」『愛媛大学教育学部紀要 教育科学』第 49 巻, 第 2 号, 49-55.
- 久山慎也(2008)「高校生の自由英作文指導におけるピア・フィードバックの活用」『「英検」第 20 回研究助成』実践部門・報告 IV, 166-178.
- Hedgcock, J., & Lefkowlz, N. (1992). Collaborative oral/aural revision in foreign language learning instruction. *Journal of Second Language Writing*, 1, 255-276.
- Jacobs, H. L., Zingraf, S., Wormuth, D., Hartfield, V., & Hughey, J. (1981). *Testing ESL composition: A practical approach*. Rowley, MA: Newbury House.
- Liu, J., & Hansen, J. G. (2002). *Peer response in second language writing classrooms*. Chicago: Michigan University Press.
- Soleimani, M., Modirghamene, S., & Sadeghi, K. (2017). Peer-mediated vs. individual writing: Measuring fluency, complexity, and accuracy in writing. *Innovation in Language Learning and Teaching*, 11, 86-100.
- Wakabayashi, R. (2008). The effect of peer feedback in EFL writing: Focusing on Japanese university students. *OnCUE Journal*, 2, 92-110.

<付録1>ピア・レスポンスシート

ピア・レスポンスシート

下の項目を参考に，作文に書き入れをしましょう。このシートに記入しても構いません。

1. 作文の中で，良いと思ったところはどこですか。
(共感できるところ，真似したいと思ったところなど)

2. 作文を通して，課題に対する書き手の主張は伝わりましたか。

3. もっと説明があった方が良いと思うところはどこですか。

4. 表現が文法的に分かりづらい・変えた方が良いと思うところはどこですか。
(例：単語の選択，時制，前置詞，冠詞など)

5. 句読点，大文字・小文字などは適切に使われていますか。

6. 段落構成は適切ですか。

7. 作文に対する全体的な感想・アドバイスがあれば書きましょう。

<付録 2> 実際の作文

被験者 A 作文②Draft

Do you agree or disagree with the following statement?

A person should never make an important decision alone.

I agree this opinion because 2 main reasons.

First of all, other's experiences are really helpful to collect information. For example, in my case, I often consult with my friends to collect useful information. My friends have many experience than me, so, it is really good to talk with them. Moreover, it would be better to talk with not only friends but also the person who is older than you, such as senior or parents, because they encountered many difficult problems in their long life. Furthermore, you should have talk with as many people as possible. Many opinions from many kinds of points of views or various experiences would help you to decide something.

Secondly, it is helpful to see myself objectively to talk with someone. I think it is dangerous to consider something without talking with others, because it leads to one-sided decision. However, people can see situation they are in clearly thanks to talk and explain the situation to others. Considering for long time alone would make decision only from a too focused point of view. Like this decision would make tragedy in the end.

That's why I claim that people should not make important decision alone.

被験者 A 作文②Revise

Do you agree or disagree with the following statement?

A person should never make an important decision alone.

I agree this opinion for 2 main reasons.

First of all, other's experiences are really helpful to collect information. For example, in my case, I often consult with my friends to collect useful information. My friends have many experiences than me, so, it is really good to talk with them. Moreover, it would be better to talk with not only friends but also people who are older than you, such as seniors or parents, because they have encountered many difficult problems in their whole life. Furthermore, you should have talk with as many people as possible. A lot of opinions from many kinds of points of views or various experiences would help you to decide something.

Secondly, it is helpful to understand myself objectively to talk with someone. I think it is dangerous to consider something without talking with others, because it leads to one-sided decision. However, people can understand the situation where they are clearly thanks by talking and explaining it to others. Considering for a long time alone would make people focus too much one aspect. Those decisions would lead bad result. Those decision would lead bad result in the end.

That's why I claim that people should not make an important decision alone.

<付録 3> ESL Composition Profile (Jacobs et al.,1981)

Content	
30-27	EXCELLENT TO VERY GOOD: knowledgeable • substantive • thorough development of thesis • relevant to assigned topic
26-22	GOOD TO AVERAGE: some knowledge of the subject • adequate range • limited development of thesis • mostly relevant to topic, but lacks detail
21-17	FAIR TO POOR: limited knowledge of the subject • little substance • inadequate development of topic
16-13	VERY POOR: does not show knowledge of the subject • non-substantive • not pertinent •OR not enough to evaluate
Organization	
20-18	EXCELLENT TO VERY GOOD: fluent expression • ideas clearly stated/supported •succinct • well-organized • logical sequencing • cohesive
17-14	GOOD TO AVERAGE: somewhat choppy • loosely organized, but main ideas stand out • limited support • logical, but incomplete sequencing
13-10	FAIR TO POOR: non-fluent • ideas confused or disconnected • lacks logical sequencing and developing
9-7	VERY POOR: does not communicate • no organization • OR not enough to evaluate
Vocabulary	
20-18	EXCELLENT TO VERY GOOD: sophisticated range • effective word/idiom choice and usage • word form mastery • appropriate register
17-14	GOOD TO AVERAGE: adequate range • occasional errors of word/idiom form, choice, usage but meaning not obscured
13-10	FAIR TO POOR: limited range • frequent errors of word/idiom form, choice, usage • meaning confused or obscured
9-7	VERY POOR: essentially translation • little knowledge of English vocabulary, idioms, word form • OR not enough to evaluate
Language Use	
20-18	EXCELLENT TO VERY GOOD: effective complex constructions • few errors of agreement, tense, number, word order/function, articles, pronouns, prepositions
17-14	GOOD TO AVERAGE: effective but simple constructions • minor problems in complex constructions • several errors of agreement, tense, number, word order/function, articles, pronouns, prepositions but meaning seldom obscured
13-10	FAIR TO POOR: major problems in simple constructions • frequent errors of negation, agreement, tense, number, word order/function, articles, pronouns, prepositions and/or fragments, run-ons, deletions meaning confused or obscured

9-7	VERY POOR: does not communicate • no organization • OR not enough to evaluate
Mechanics	
5	EXCELLENT TO VERY GOOD: demonstrates mastery of conventions • few errors of spelling, punctuation, capitalization, paragraphing
4	GOOD TO AVERAGE: occasional errors of spelling, punctuation, capitalization, paragraphing but meaning not obscured
3	FAIR TO POOR: frequent errors of spelling, punctuation, capitalization, paragraphing • poor handwriting • meaning confused or obscured
2	VERY POOR: no mastery of conventions • dominated by errors of spelling, punctuation, capitalization, paragraphing • handwriting illegible • OR not enough to evaluate

<付録4>事後アンケート

事後アンケート

以下の質問に関して、5段階で回答してください。

- | | | |
|---|---|------------|
| 1 | ↑ | まったくそう思わない |
| 2 | | |
| 3 | | どちらともいえない |
| 4 | | |
| 5 | ↓ | 強くそう思う |

①あなたはPR活動に積極的に参加できましたか？

1 2 3 4 5

②あなたのペアはPR活動に積極的に参加していましたか？

1 2 3 4 5

③ペアからもらった文法に関するコメントは、参考になりましたか？

1 2 3 4 5

④ペアからもらった内容に関するコメントは、参考になりましたか？

1 2 3 4 5

⑤今回のPR活動によってあなたの作文は改善されましたか？

1 2 3 4 5

→どのような点が改善されましたか？

→なぜ改善されなかったと思いますか？

⑥今回のPR活動によってあなたのペアの作文は改善されましたか？

1 2 3 4 5

→どのような点が改善されましたか？

→なぜ改善されなかったと思いますか？

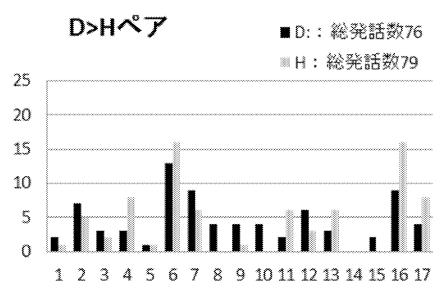
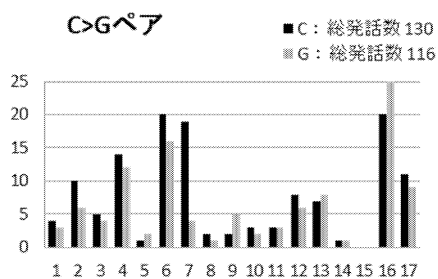
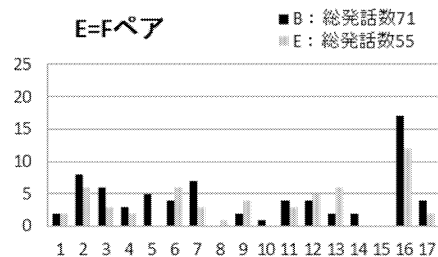
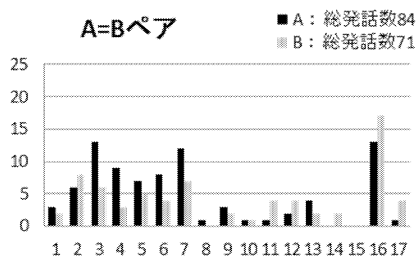
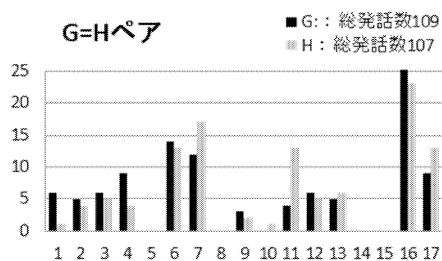
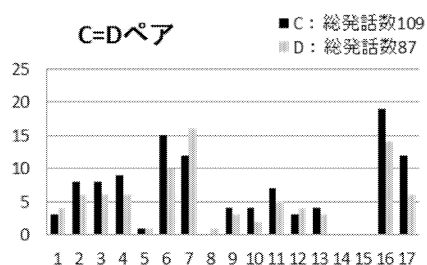
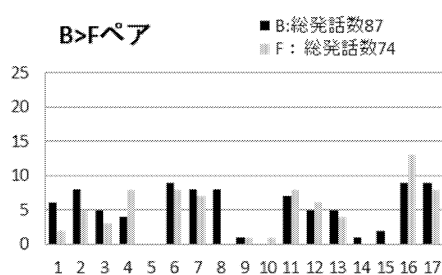
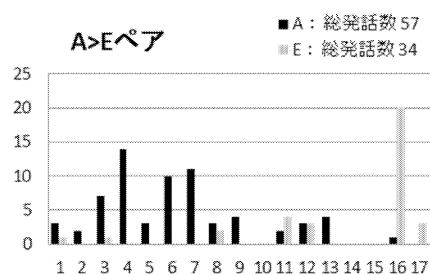
⑦今後、英作文の授業を受けるとき、PR活動をしてみたいですか？

1 2 3 4 5

⑧PR活動の感想を自由に述べてください。

⑨PR活動を改良するための提案・要望があれば自由に述べてください。

<付録 5> 各ペアの発話



仏が悪魔の業をなすとき
—オウム真理教にみる
マインド・コントロールの定義の
不完全性とカルト問題—

The Buddha's misguided karma; The imperfection of the concept of
"mind control" focusing on the case of Aum Shinrikyo

明治大学 国際日本学部
畑山 綾

Meiji University School of Global Japanese Studies
HATAYAMA Aya

目 次

はじめに

I マインド・コントロールとは

II マインド・コントロールの概念の不完全性

1. マインド・コントロールという曖昧な定義

2. マインド・コントロールと自己意思

3. マインド・コントロールが認められることによる社会秩序の崩壊

III カルト問題とその犯罪対策

1. マインド・コントロールを否定した上での犯罪対策

2. コミュニティの宗教と個人的な宗教

3. 総合的なカルト対策

おわりに

参考文献

はじめに

私が初めて宗教に触れたのは、物心のつく前のことだ。気付けば、学校で先生とクラスメイトと毎朝お祈りをし、毎晩寝る前にも父とお祈りをした。私は1歳半の保育園から小学校5年生まで、カソリック教の **Opus Dei** (オプス・デイ)¹ というスペイン発祥の保守派組織の学校に通っていた。母は日本人で、どの宗教も信仰しておらず、父もキリスト教徒ではあったが、熱心な信者ではなかった。私が **Opus Dei** (オプス・デイ) の学校に通い始めたキッカケは、私の出生地であるバスク自治州のサン・セバスティアンという町で唯一スペイン語、英語、バスク語のトリリンガル教育を実践していた保育園であったことからである。幼い頃は父の仕事の都合で頻繁に転居をしていたため、学校が行く先々の同じ系列校を紹介してくれていたため、小学校卒業までは **Opus Dei** (オプス・デイ) の学校に通い続けた。スペインや多くのキリスト教のヨーロッパの国では、子供が生まれて間もなく洗礼を受ける。しかし、宗教を信仰していない私の母は、それに納得がいかず、私自身が宗教を信仰するかしないかを決めさせることにした。通っていた学校の影響もあり、5歳の時にキリスト教徒になることを決めた私は周りより少し遅い洗礼を受けることになった。洗礼を受けた日のことは今でも鮮明に覚えている。自分でキリスト教徒になりたいと言ったからか、その頃から私は「神様」を信じていた記憶がはっきりある。小学校2年生からは毎週近所の教会で聖書を読むなどの宗教教育を受けてきた。小学校4年生からは、2週間に一度は学校の懺悔室²へも通い、5年生で聖体拝領³の儀式も行った。小学校6年生で小学校の間暮らしていたイタリアを離れ、再びスペインに戻ったが、大学で日本に行きたいと思っていたことから、**Opus Dei** (オプス・デイ) の学校に転校せず、アメリカンスクールに入学した。アメリカンスクールは、宗教とは無関係な学校であったため、私は神学を学びに教会へ通い続けたが、その教会の先生はあまりやる気がない様子で、授業を何の連絡もなく休んだりしたので、私も教会の神学授業に通うのをやめてしまった。そして、思春期になると、今まで自分が信じてきた宗教に疑問を持つようになり、遂には「神様」も信じなくなった。しかし、大学に入学し、1年生の春学期で宗教に関する授業を受講したことがきっかけで、再び宗教に

¹ **Opus Dei** とはキリスト教のカソリック組織の一つ。1928年スペインにてホセマリア・エスクリバー(1902・1975)によって創立され、カソリック教会の中でも最も保守的な組織の一つとして知られている。

² 懺悔室とは、カソリック教会において悪い行いを告白するために、教会内に設置されている個室のことを指す。個室は二つに別れており、片方には神父が入りもう片方で告白する信者が入る構造となっている。

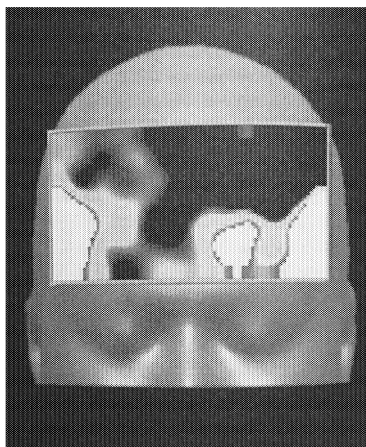
³ 聖体拝領とは、ミサで行われるパンとぶどう酒を食す儀式のことである。カソリック教会では、洗礼、懺悔、聖体拝領という順番で教義を教わる中で儀式を行っていく。

ついて考えるようになった。なぜ宗教が存在するのだろうか、なぜ大人になっても人は宗教を信じるのだろうか。子供の時に信じてしまうのは分かるのだが、大人になって、色々な経験をしてきたにも関わらず、証明仕様のない超越した存在を信じてしまうのは何故なのだろうかと思いになり始め、3年生からワルド・ライアン先生のゼミナールに参加した。

この1年の間、私は「カルト問題」に興味を持ち、なぜ人は「カルト」に入信してしまうのか、そしてその中でなぜ人は普通では考えられないような行動をとってしまうのかについて調べてみた。宗教をカルトと判断する基準として、カリスマ教祖による新しく作られた宗教、キリスト教や仏教など、主流宗教から逸脱した宗教、一般宗教とみなされている団体とは区別される特徴があることなどのものがあるが、基本的には曖昧な概念である。本稿では「カルト」をカリスマ教祖による新しく作られた宗教として捉える。集団の全権力を一人だけが持つという構造は、独裁政権に似て、コントロールが効かなくなる可能性が大いにあると考えられ、危険が伴うことがあるからである。カルト問題の根本の原因としてマインド・コントロールという理由付けがされていた。カルト問題において、マインド・コントロールという概念は重視されている。マインド・コントロールにかかると、絶対的な影響力に思考を支配されてしまうという状況に陥るため、自分の思考力を主体的に使って、客観的に宗教に対する判断ができなくなる。しかし、公的機関からすると、自発的に行動をし、その教えや考えを承諾し受け入れていると捉えられるので、結果的に自己責任として処理される。要するに、マインド・コントロールとは、他者からの働きかけがあつてこそかかるものなのに、物理的な証拠がないため、教団内で行った全ての行動が自分の意思の元に行つたことになる。心理学的にマインド・コントロールの仕組みはある程度わかっているものの、他者からの働きかけとその影響をマインド・コントロールであるかどうかとどう証明するのかという点が課題である。なぜなら、この仕組みはカルト宗教に入信した人だけでなく、日常的に生活している一般人全てにも当てはまるであろうと考えられるからだ。例えば、コマーシャルなどが良い事例である。企業が、商品を売るという目的の元、商品の良いところをアピールして、視聴者に「買わなくては」という想いを抱かせる。洗剤のコマーシャルであれば、使用後の洋服には菌が繁殖していて汚い、という不快なイメージを植え付け、宣伝対象の商品を使用すれば菌がなくなる。あるいは他の商品と比べて、より綺麗に除菌できるというアピールをする。ということは、このマインド・コントロールという心理学的な技術を社会や法律が「悪いものだ」というふうに一律に解釈してしまえば、個人が他者から全く影響を受けないなどということは現実的に不可能であるため、悪い行いをした個人が何らかの影響を受けてやったと言言すれば、マインド・コントロールが認められることになり、責任転嫁が容易になる、または責任の所在がなくなる、ということになってしまう。これでは、社会的に極めて危険な状態に陥ってしまうのではないだろうか。宗教犯罪以外の罪でも、無罪になるということもあり得るか

もしれない。そして、時として、コマーシャリズムなどのように、今の社会で罪ではないものでさえ罪となってしまう可能性も否めない。こう考えるようになったきっかけは、伊東乾の『さよなら、サイレント・ネイビー』という著書である。この著書は、1995年のオウム真理教⁴による「地下鉄サリン事件」の実行犯、豊田亨死刑囚の東京大学理学部時代の同級生である伊東乾（現在作曲家として活動）が、なぜ自分の友人がオウム真理教に入信したのか、そしてサリンを散布したのか、という疑問の答えを探していく話だ。その中で、サリン事件の実行犯の当時の精神状態を探るべく、ある実験を行う。その実験では、人が恐怖を感じている時の脳内の酸素濃度を測るものであった。被験者に残酷な映像などを見せた時の脳の酸素濃度はとても低く、窒息状態が起こっており、恐怖や危険が迫っている時は運動に関する命令だけで危機を回避しようとするため、脳の運動機能以外の部分に酸素が行き渡らなくなり、運動機能以外が働かなくなってしまう。

図1 伊東乾著『さよなら、サイレントネイビー』での脳酸素濃度図（Pg. 257）



この本で伊東は、マインド・コントロールをされた人々があり得ないような行動をとってしまうのは、危機を感じることによって何も考えられなくなるからだという結論に至っている。確かに、危機的状況に立たされた場合、冷静な判断ができなくなることは、誰にでも心当たりのあることであろう。また、殺人事件の報道などを見ていると、「犯行時のことを覚えていない」と証言する者もある。実際、本当に覚えていないのか確かめようは

⁴ オウム真理教は1984年に創設された「オウムの会」というヨーガサークルから創立された宗教団体である。1989年から1996年代の半ばまで日本で興宗教団体として存在した。地下鉄サリン事件や坂本弁護士一家殺害事件などの凶悪事件で知られている。現在は、同教団の元信者らが立ち上げた「アレフ」という宗教団体として活動を続けており、そこから更に「ひかりの輪」が分派して設立されている。

ないとしても、このような現象も大いにあり得ることだろう。だがしかし、このデータ（脳内酸素濃度図）があったからといって、それでマインド・コントロールを訴える根拠になるのか。事件を起こした時に思考停止状態にあったからといって、責任を問えないと訴えるのは説得力に欠ける話である。例えばオウム真理教の地下鉄サリン事件でも、やりたくないけれど、逆らうのが怖いからやる人と、本当にやるべきだ、救済のためだ、と思う人がやるのとは違うと考えられる。前者の場合はマインド・コントロールされていると言えるのだろうか。これは恐喝の末に取った行動だと考える方が妥当ではないか。西田公昭『マインド・コントロールとは何か』⁵の中で書かれているマインド・コントロールの定義は次のようなものである。

『他者が自らの組織の目的成就のために、本人が他者から影響を受けていることを知覚しない間に一時的・あるいは永続的に個人の精神過程（認知・感情）や行動に影響を及ぼし操作すること』

と後にマインド・コントロールの心理学的仕組みを詳細に述べるが、マインド・コントロールの定義は、ある目的を達成するために、人に多大な影響を与えることによって、その影響を元に人の考えや行動を目的達成の利になるように変えることをいう。つまり、知らず知らずに影響を受けていることにより、行動、思想、感情を支配されるということである。しかし、前述の「逆らうのが怖くてやった」という場合は、行動は支配されたとしても、感情や思想は支配されたとは言えないだろう。

基本的に今までのカルト絡みの裁判では、自分の意思で入信し、自分の意思で「靈感商法」（靈感があるかのように振る舞い、悪霊などから守ってくれるとして商品を高額な値段で売りつけるといった悪徳商法的一种）等さまざまな団体活動に従事してきたのだから、その間、法外な献金をしたとしても自分の意思であり、無償労働を何年もしてきたとしても、それは自発的な行動とみなされ、被害者とは考えられなかった。しかしながら、今まで読んできた本というのは（参考文献参照）、先ほど述べた「怖いからやった」と、「救済のためにやった」という人たちは同じ立場であるということを言っている。「救済のためにやった」という人たちも実はマインド・コントロールされているから、自分の意思だというふうに思っているが本当は違う。そういうふうには考えていないと。しかし、裁判において、この二つの証言は違った評価を受けることになるであろう。そして、マインド・コントロールという概念が裁判で認められるとした場合、悪いことをやったと理解している人としていない人が同じ罰や刑期を受けるべきではないと思う。

いろいろ考えた結果、極論ではあるが、逆に、マインド・コントロールという概念を抜きにしてカルト問題を考えることは可能なのだろうか。マインド・コントロールの仕組みを知ることなくしては、カルト問題やその解決法を考えることは難しいのかもしれない。

⁵ 西田公昭『マインド・コントロールとは何か』Pg. 57

しかし、裁判のみならず、病院や役所、警察署などの公的機関でマインド・コントロールの概念が具象としてなかなか認められない以上、現実的な解決策を模索するにあたり、この概念を抜いた上で考えてみたいと思った。本論文では、マインド・コントロールの仕組みをはじめ、その概念の不完全性とマインド・コントロールと宗教犯罪の～議論を主張していきたい。その上で防止策を考えていく。

I マインド・コントロールとは

マインド・コントロールに先んじて、「洗脳」という概念が存在する。この言葉は、朝鮮戦争において、共産党側（現在の北朝鮮）が米軍捕虜に対して行った影響の方法としてつけられたものである。「洗脳」というものは、拘束力の元で行われることによって、個人の意思に反して根本的に人の考え方を変える心理学的技術である。その方法としては、パブロフの古典的条件付の原理を逆にした、「脱条件付」が利用される。「脱条件付」というのは、今まで習慣づけられていたある反応パターン（「条件付」）を消去してしまうというものである。脱条件付をするには、例えば犬に餌を与える度、痛み（「嫌悪刺激」）を与え続けると、ストレスの許容範囲を超え、条件反応の消去が起きてしまう。したがって、犬に痛みを与えても、脳の防御反応として、痛みに反応しなくなってしまう（「超極限的静止」）。さらに条件刺激を与え続けると、否定的条件反応と肯定的条件反応が正反対になってしまう。今まで好物だった食べ物を嫌うようになり、痛みを与えた飼育係に対して尻尾を振って近づくようになる。これを人間に置き換えると、全人格変化が起きる。これが「洗脳」である。朝鮮戦争を機に、アメリカでは「洗脳」の実験研究が多数行われた。その背景には、効果的な戦争時の捕虜の尋問を行うためや、その捕虜たちをスパイにかえるという目的があった。結論としては、洗脳は価値観や信念を変化させるのには有効ではないことが分かった。そもそも、拘束力によって、人間の信念を変えることが難しかった上、数少ない洗脳の成功例は、右寄りの人をより右に、左寄りの人をより左にと導くことができたが、右から左へと永続的に思考を変えられた例はない⁶。そして、洗脳されたように見えた人も、自由になれば徐々に元通りに戻る。その後、**1970**年代になると、アメリカで「マインド・コントロール」という概念が誕生する。この概念は **1990** 年代にオリンピックの体操選手であり、「統一教会」（現・「世界平和統一家庭連合」）⁷の元信者の山崎浩子さんがインタビューでこの言葉を使用したことにより、日本でも広く認知

⁶ 西田公昭『マインド・コントロールとは何か』Pg. 44

⁷ 統一教会とは文鮮明（1920 - 2012）によって創立された、韓国発祥のキリスト教系の宗教法人である。**2015**年に日本での法人名が「世界基督教統一神霊協会」から「世界平和統一家庭連合」と改名された。本稿では「統一教会」と表記する。

されるようになる。その後 1995 年のオウム真理教による事件で、よりメジャーな言葉になった⁸。先程述べたように、マインド・コントロールという概念は以下のように定義されている。

『他者が自らの組織の目的成就のために、本人が他者から影響を受けていることを知覚しない間に一時的・あるいは永続的に個人の精神過程（認知・感情）や行動に影響を及ぼし操作すること』（西田）

心理学的な概要を説明すれば、人間の意思決定には、外界からの情報を受け取り、それを処理し、意思決定をするという過程がある。その意思決定のために使用する情報は二つあり、一つか五感（目、耳、鼻、クチ、皮膚）によるボトム・アップ情報というもの。二つ目は「記憶構造」(belief)とって、今までに獲得した知識や信念によるトップ・ダウン情報というものである。この二つの情報を処理し、人は物事に対して意思決定をしていくわけだ。そして、ボトム・アップ情報をコントロールされれば、一時的なマインド・コントロール、また、トップ・ダウン情報、あるいは両方の情報をコントロールされれば永続的なマインド・コントロールが成り立つ。一時的なマインド・コントロールをされた場合には拘束力のある状況下でのみ人の意思決定を操作することが可能だが、永続的なマインド・コントロールの場合は拘束されていない状況下においても人の意思決定を操作することが可能になる。また、マインド・コントロールをされている本人は、思考を操作されていることに気づかないため、拘束を用いることでしかコントロールができない洗脳と違って、より巧みかつ洗礼された心理的技術であるとされる。

II マインド・コントロールの定義の不完全性について

1. マインド・コントロールという曖昧な定義

日常的に、意思決定を行うにあたって、ボトム・アップ情報及びトップ・ダウン情報に他者及び外界からの影響を受けずにいることは考え難い。例えば、何を食べるかという選択も、学食で食べるなら、学食で手に入るものを選ぶなど、環境によって変わってくるであろうし、学食で食べられるものの中から何を選ぶのかも、一人で食べるか、友達と食べるかで変わってくるであろう。このように日常的なことでも、周りの環境の影響によって人の意思決定は簡単に変わるものである。しかし、そのような些細な影響までも、マインド・コントロールだと認めるわけにはいかないであろう。では、意思決定に影響を及ぼし、マインド・コントロールと呼ばれる境目というのはどこなのかということを見直す必要がある。どこまでが自己意思でどこからがマインド・コントロールなのだろうか。私たち人間は言語を話している時点で、他人の言葉を学び、他人の言葉の中で思考を発達させてい

⁸ 西田公昭『マインド・コントロールとは何か』Pg. 22

る。国だけでなく、年齢や職業によって言語のニュアンスは違い、考え方も違ってくる。その中で、意思決定をするために大切な言葉と感情というものは最初から自由ではない。したがって、そもそも環境や誰かに影響されていない意思決定が存在するのだろうか？五感やビリーフ（記憶構造）がコントロールされていない状況というのはいかなるものだろうか。ここがハッキリしない限り、マインド・コントロールという概念は成り立たず、ただの空論の状態であると考ええる。もちろん、マインド・コントロールといわれる心理学的条件の揃った現象がないとは言わない。しかし、そのグレーゾーンの幅はとても広く、マインド・コントロールとそうでない境目というものが立証されることは不可能に近い。

2. マインド・コントロールと自己意

カルトに入信してしまい、組織内での活動を経て脱会した元信者たちはそもそも、マインド・コントロールをされていたのだろうか。カルトに入信する前段階として、人はまずどのようにカルトに近づくのか。それは、家族や友人からの勧誘など、町中での声掛けもあるが、カルトの正体を隠して近づいてくる者もいる。最近では、インターネットや SNS を利用した勧誘も存在する。オウム真理教の場合も、オカルト雑誌の『ムー』⁹に取り上げられるなど、80 年代後半から 90 年代にかけて画期的な布教活動が行われていた。そのようなカルトとの出会いから、さらにその教えに魅力を感じ、心を掴まれて入信に至るという経緯がある。

カルトに入るつもりはなかったが、あまりにも「勉強会」に誘われるので行ってみたら、そこで「聞いた話がとてもよかった」など、個人的に抱えていた問題に向き合ってくれる教えや人々に出会ったなどの様々な入信理由がある。オウム真理教の場合でも、当時流行していた「オカルト」に則った教団の宣伝や、「超能力の開発」を受験勉強の能率化や学習能力の増進などの実利的な利益があると強調し、受験生や大学生むけの「一度みたら忘れない超記憶術」や「何時間でも途切れない集中力」などのセミナーなどを開催し、多くの若者を惹きつけた。¹⁰何か魅力的に感じる、心掴まれるものがきっかけで入信を決意する者が多いといえるであろう。もちろん、入信したくないのに無理矢理させられた人たちもいるが、その人たちは自己の意思に反することを自覚的にやっていることになる。さて、魅力を感じて入信した者、あるいは入信後魅力を感じた者は自己意思ではなく、マインド・コントロールなのだろうか。今まで読んできた本の中では、マインド・コントロールされ

⁹ 『ムー』とは 1979 年に創刊された日本のオカルト雑誌である。オウム真理教を持ち上げた代表的なメディアの一つとして知られている。1985 年に麻原彰晃の空中浮遊写真を連載したことで、読者が教壇に入信する事態を招いた。

¹⁰ 武野俊弥『嘘を生きる人 妄想を生きる人』Pg. 28

ている者はみなカルト教団での活動を快く受け入れている人たちのことを指しており、教団に疑問をもって脱会した者をマインド・コントロールから解放されたと言われている。信仰している者はマインド・コントロールされていて、そうでない者は自己意思だというものの見方である。しかも、これはカルト問題に対してそう言われるだけであって、キリスト教や仏教を信じている者はマインド・コントロールだと言われない。その理由として、宗教の年数が大きく関わっていると考えられる。キリスト教などの主流宗教は、長い歴史を経て、今のように安定した立場が確立している。新興宗教も、天理教などの例のように、**100**年以上の歴史を経れば、そのように言われなくなるであろうし、宗教団体としても安定してくると思われる。冒頭で述べたように、救済のためと信じて罪を犯した者と、逆らうことの恐怖からやった者だと、前者はマインド・コントロールから解放されておらず、後者はマインド・コントロールされていなかったというふうに捉えられる。しかし、なぜ、救済のためだと思っている者の犯罪はマインド・コントロールによると思われるのだろうか。間違った行動を取れば全てマインド・コントロールなのだろうか。そうではないはずである。私たちも人生において、何かが正しいと思ってやったが、その正しいと思ってやったことが間違っていたということに後から気づき後悔することは誰も経験したことがあるだろう。それだけでなく、ほんの数年前の自分の考え方と今の考え方が違うなどといったことも、経験や失敗を繰り返すことによって、よくあることだ。地下鉄サリン事件の実行犯である豊田亨死刑囚も、サリンを撒いた後の悲惨な様子を聞いて、自分のやったことに耐えられなくなったとの心境の変化について語っている。¹¹ということは、その時はそれが正しいと思っていた。その行動が正しいと思った理由としては、教団の教えと自分の考えとの一致、また、より良い世の中を実現するための手段だと確信していたからなど、色んな考え方ができるであろう。したがって、マインド・コントロールされていたと言い切ることはできないと思う。いくら狂気の沙汰だと大多数の人たちが考えたとしても、人はそれぞれ違った思考があり、時には法に反する行動が正しいと思う者も現れるのは自然なことではなかろうか。共存のための秩序を乱す者がいなければ、そもそも法律は必要ないのだから。社会の秩序を乱そうとする者がいるからこそ、それを防止するために法律が存在する。先ほど述べたように、マインド・コントロールの概念に則ると、すべての意思決定においてマインド・コントロールの影響を受けないものはほとんどないと見た上で、一般的な影響力による判断を自己意思とするならば、カルトの信者も自己意思の元で信者であるというふうに捉えることができる。しかし、オウム真理教の事例などを見ると、正常の精神状態を保てない状況下に人が置かれているというのも事実である。死人が出るほどの過酷な修行や、食事、睡眠時間の制限、家族や友人などの教団外の人たちとの絶縁。他にも、長時間にわたる麻原の説法などのテープの強制的視聴等が精神に大きな影響を与

¹¹ 『さよなら、サイレントネイビー』 Pg. 100

えないはずがないであろう。オウム真理教のケースのように、薬物投与や暴力などが用いられる¹²とそれはもう、マインド・コントロールのレベルを超えて、洗脳に近い物理的拘束力を用いた上での思考改造になる。

3. マインド・コントロールが認められることによる社会的秩序の崩壊

今までのカルトにおける信者側が被告の裁判では、マインド・コントロールをされていたことによって減刑を求める例などがあるが、その中でマインド・コントロールが認められた事例というのは、日本には未だにない。日本におけるマインド・コントロールに纏わる代表的な事件としては、オウム真理教などの宗教団体によるもののみならず、**2002**年の「北九州監禁事件」¹³や、**2017**年**1**月に判決が言い渡された、占い師による東京での詐欺事件などが存在する。オウム真理教の裁判においては、心理学者の西田公昭氏が裁判でマインド・コントロールの弁護側鑑定人として出廷しているが、マインド・コントロールは認められず、結果的に麻原彰晃を含む、オウムによる様々な事件に関与した**12**人の死刑判決が言い渡された。占い師による詐欺事件では、悩みを抱えた主婦が占い師の電話相談をきっかけに占い師に心酔し、さらに占い師の元で暮らし始めた結果、占い師が所有していたマンションの支払いを始め、被害女性の摂食障害による嘔吐などでマンションの排水管が詰まったなどという嘘の理由で、大金を請求するなどの詐欺や恐喝をした。裁判では、被害女性側が勝利したものの、マインド・コントロールをされていたという主張に対して、判決では、明確なマインド・コントロールに対する指摘はなく、詐欺事件として扱われた。北九州監禁事件においても、首謀者である松永太は裁判の一審二審共に死刑判決が言い渡されたが、多くの事件の実行犯であった内縁の妻である緒方純子は、二審では、松永による長期の虐待や監禁が酌量され、死刑判決から無期懲役へと減刑された。しかし、この事件は、先述の洗脳とマインド・コントロールの違いに照らし合わせると、洗脳に当てはまるものである。マインド・コントロールは、知覚しないうちに影響を受け、また、身体的な拘束がないものであるため、暴力や監禁、恐喝などの証明しうる証拠も残らず、中々認められることはない。

仮にマインド・コントロールが法的に認められれば、どのような社会的影響が考えられるのか。そもそも、マインド・コントロールを認めるということの意味は、立証しようのないものを認めてしまうということである。マインド・コントロールされている証拠がな

¹² 林久義『オウム信者脱会カウンセリング』Pg. 110

¹³ 「北九州監禁事件」とは**2002**年に北九州で発覚した監禁及び殺人事件である。事件の首謀者は自ら手を下すことなく、知人や内縁の妻の家族などを脅し、監禁した。そして、監禁されている者同士を仲悪くさせることで、その中での虐待や殺人などを促し、合計**7**人もの死者を出した凶悪事件として知られている。

ければ、誰か影響者がいたとしても、その影響力は計れないし、人によって受ける影響の度合いというのは全然違ってくる。そんな曖昧な概念を法的に認めてしまえば、ありとあらゆる事件の裁判においてマインド・コントロールの影響下にあったという弁明がなされる事態にもなりかねない。そして、憲法で守られているはずの表現の自由までもが、他者に影響を与えてしまう可能性が生じることはマインド・コントロールだと言われて、脅かされるかもしれない。マインド・コントロールを認めるべきだという主張は多く存在する。オウム元信者の中にも、自らもマインド・コントロールの被害者だという声もあり、オウム真理教による事件の裁判では、マインド・コントロールを立証するための鑑定人までが証人として出廷しているが、あまりにも未完成で不完全な概念を裁判で認めさせようとする弁護は無責任ではないか。確かに元信者の実行犯は非常に後悔していて、一生苦しみ続けるかもしれない。しかし彼らの犯罪が引き起こした被害の甚大さと社会への衝撃はそれに値するものであって、彼らもまた被害者だというのは、説得力に欠けると言わざるを得ない。

III カルト問題とその犯罪対策

1. マインド・コントロールを否定した上でのカルト犯罪対策

これまで行われてきたカルト対策には、大学等、特にカルト布教の場になりやすい教育機関での注意喚起がある。そして、カルトに入信してしまった場合は、カウンセリングが主な支援である。カウンセリングは、カウンセラーと家族が協力をし合い、信者を説得し、脱会へと導くというプロセスである。カウンセラーと共に、教団の教えと伝統宗教による本来の教えを照らし合わせ、問題点や矛盾点を話し合うなど、家族や外部の人と話し合うことで教団からの脱会を促し、最終的には脱会届けを提出させるという流れになっている。このカウンセリングを受けることで、マインド・コントロールから覚めるということになる。しかし、カウンセリングや家族との対話で説得をするという面では、必ずしもマインド・コントロール下にあるからという理由づけが必要だというわけではないのだろうか。カウンセリングでは、今まで信者側が持ち合わせていなかった宗教の知識や情報を提供するという判断材料を与えるという役割を果たしており、それらの情報に納得をして脱会に至るとも考えられる。また、家族関係が原因でカルト教団に入信してしまった場合は、家族と対話し関係修復を目標に進めていくことで脱会への道が切り開ける可能性が高い。合わせて、オウム真理教のような過激化した教団による宗教犯罪を今後どのように対策していくのかという点を考える必要性もある。賛否両論はあるが、**2017**年に「テロ等準備罪」が可決されたことにより、集団で行われる犯罪計画を阻止できる可能性が高まったと言える。「テロ等準備罪」の要件は**3**つあり（法務局出典）

- (1) 「組織的犯罪集団」の関与
- (2) 重大な犯罪の「計画」
- (3) 計画した犯罪の「実行準備行為」（犯罪を実行するための資金の準備等）

という 3 つの要件全てを満たせば、テロ等準備罪としての取り締まりが行われる。

カウンセリングなどによる信者個人への対策ももちろん必要だが、甚大な被害を出す前に、大元の組織による宗教犯罪の防止策というものも重要である。

以上は、カルト問題に対しての、信者や教団への「対処療法」であるが、危険なカルト教団に入信しない、また近づかせないための「原因療法」を以下で考えていきたい。

2. コミュニティの宗教と個人的な宗教

カルトの多くは、キリスト教や仏教など、以前から存在する主流宗教を元にした教えを布教していることが多い。しかし、主流宗教とカルトの決定的な違いは大きく 2 つ存在すると考える。まず、一つ目は、カルトには、絶対的存在である教祖がこの世に存命しているということ。そして、二つめは、主流宗教は、長い年月を経て地域のコミュニティなど身近で自然発祥的な集団の中の宗教であるが、一方カルトを含む新興宗教はコミュニティ外で個人の中の宗教であるということである。

宗教というものは、科学では答えきれない問いに対して向き合う役目というのが大きい。「私たちはなぜ生きているのだろうか?」「死んだらどうなるのだろうか?」「良い行いとはどういうものなのだろうか?」など。キリスト教の場合、聖書というものが存在し、その中に色々な言葉や教えが記されている。しかし、現実には自分の身に起こることが、全て聖書の中の話と一致するわけではないので、違う状況の中で、聖書の教えと照らし合わせて、どの選択肢が一番いいのかという明確な答えは存在しない。また、同じキリスト教の中でも、分派しているのには、聖書の解釈が違うなどの理由がある。それは、実際の教祖がこの世に存在しないからである。だからこそ、地域ごとに教会があり、その教会の神父や牧師がミサや拝礼において、聖書の教えを現代の問題にどう当てはめるかを解釈していたりするわけだ。教祖が存在しないため、宗派や地域や個人により、同じ宗教の中でも、教祖が存在しないため、解釈が違ってくるし、全てにおける明確な答えは存在し得ない。しかし、カルトの場合、カリスマ教祖によって作られた新しい宗教なので、教祖が存命している。したがって、その教祖は全てに対する明確な答えを持ち合わせているはずである。カルト教団内では、解釈に基づくことなく、教祖本人の言葉があることにより、答えが全員一致するわけである。信者は、解釈や主体的に考える必要がなく「真理」を授けられ、それをひたすら実践すればいいということになる。

もう一つの違いは、主流宗教は集団、家族や地域といった伝統的なコミュニティの中に存在するものであり、新興宗教は一般的に、家族や地域ぐるみではなく、個人的な

のであるということ。現代では希薄になりつつあるが、元々、日本でいえば、寺との付き合いというものが存在した。寺の住職と檀家の家族ぐるみの付き合いがある。また、神道では氏子制度があり、氏神の神社へ初詣に行ったり、夏や秋の祭りに参加する。このような主流宗教というものは、コミュニティと共存してきたものであり、コミュニティの中に宗教が存在するということに意義がある。ヨーロッパにおけるカソリックの地区教会も、毎週日曜日にはミサが行われるので、近所の人たちの集まる場となり、時には地域の子供達の遊び場としての役割も果たしている。一方、カルトは地域やコミュニティに密着しているものではなく、個人と密接している。また、統一教会やオウム真理教などの多くのカルト視されている団体は家族や友人がいる環境から個人を引き離し、外の世界から孤立させることまでしているくらい、カルトは個人と宗教の繋がりというものに重視する。伝統宗教からの宗教離れが進んできつつある現代社会、特に都会では、地域コミュニティの付き合いが薄れてきている。実際、東京に引っ越して、マンションの上下向こう三軒両隣りに挨拶に行った、または挨拶されたことは少ないであろう。そんな地域との関わりがなく、孤立している中、居場所がなかったり、満たされていないかったり、悩みがあった場合、手を差し伸べてくれるのがカルトである。道を歩いていて声をかけられたり、大学で声をかけられたり、家のポストにチラシが入っていたり、家に直接やってきたり。様々な形で、カルト自ら歩み寄ってくれる。それに対して、主流宗教というのは、家にわざわざ布教活動にも来てくれなければ、ポストに「悩みに向き合います」といったようなチラシを投函してもらえない。寺などの場合、檀家との付き合いがあっても、お便りといえば、法事のお知らせなど、寺側の必要な時だけのものがほとんどである。

孤立し、心地よく安心できる居場所もなく、社会への違和感を感じている者に手を差し伸べ、帰属欲求を満たし希望を与える役割を担っているカルト教団。本来は主流宗教こそ、そのような役割を果たしていかないとはいけませんが、現在、お寺の住職などの高齢化や余裕のなさなどによって、現代社会の若者の感覚との間のギャップというものがどんどん大きくなっていつている状態だと見受けられる。恐山菩提寺院代である、南直哉（1958-）も自身のブログにて、オウム真理教が注目を集めていた時のことを以下のように振り返っている。

「しかし、当時の「伝統仏教」者の言説は、まったく私たち（不安を抱えた同世代の人間）のような人間に響くことがありませんでした。出家以後の私の核心的問題意識のひとつは、まさにそこにあったのです。私は「伝統仏教」の言説を質的に大きく転換する必要を痛感していました。（中略）私は次第に妙な焦燥感にとらわれるようになりました。我々が社会に仏教を訴えかける新たなスタイルを早く開発しないと、何かに間に合わない感じ、さらに言えば、何かよくないこと

が起こりそうな気がしてきたのです。」¹⁴

3. カルト対策

カルト対策として、一番大切なことは、カルトを知ることである。その手段として、大学など教育機関での、宗教に関する知識の教育を積極的に実施していく必要がある。¹⁵しかし、宗教を学ぶことはカルトを学ぶことにはならないが、カルトを学ぶことは宗教を学ぶことになる。そのために、現代の宗教についての教育を実施していくべきである。その際、カルト対策に必要な知識として、現実を学ぶこと、理屈で思考するプロセスを身につけること、問題に遭遇した時の相談先を知ることが大切だと考えられる。¹⁶日本において、宗教という概念がどんどん希薄になる中で、そもそも宗教を全く知らない、「イメージが悪い」、「怖い」などという理由でこのようなテーマに関してあまり話す機会がなくなっている。しかし、知らないということがカルトの布教方法にはまってしまいう確率を上げていく。正体を隠した勧誘があるということや、勧誘される可能性が全ての人にあるということなど、先に知っておけば、そのような状況に遭遇した場合に気づくことができるわけである。かといって、カルトは全部ダメで、カルトでないものは大丈夫という画一的な考え方をするのではなく、それぞれの教義や行動の特徴を見て、違いを明らかにしていく知識教育が必要なのではないだろうか。「この宗教は白」「この宗教は黒」と分けられる宗教はほとんどないであろう。グレーゾーンを認めた上で、限りなく白に近いグレーや、黒に近いグレーなどを見分けるようにして、対策を思考していく力をつけていくのが大事である。¹⁷その結果として、人権を侵害するものとししないものを基準とし、判断できるようになることが最も重要であろう。

もう一つカルト対策として、教育の他に主流宗教にも大事な役割が存在すると考える。先ほど書いたように、新興宗教の大半は、主流宗教を元にした教義を説いている。例えば、オウム真理教でいえば仏教、統一教会はキリスト教など。しかし、主流宗教はこのことに関しては他人事のような反応しか示していないように見える。オウム真理教の事件の際も、お寺は組織としての反省や問題意識の表明をしていない。もちろん個人的にこのような問題に積極的に取り組んでいる宗教者もいるが、個人でできる範囲は限られている。組織としてカルト問題の検討や対策活動を行うことは、伝統宗教の解釈を守るという伝統宗教の組織に課せられた使命の一つではないのか。カルト視されている教団の教えのどこがおかしいのか、伝統的な解釈はどういったものなのかということを、広く詳らかに教示するこ

¹⁴ 南直哉のブログ『恐山あれこれ日記』2012年6月10日投稿記事『17年目の氷解』

¹⁵ 櫻井義秀『大学のカルト対策』Pg.30

¹⁶ 櫻井義秀『大学のカルト対策』Pg.30

¹⁷ 櫻井義秀『大学のカルト対策』Pg. 32

とは、一般の人々の大事な判断材料となる。カルト対策のためには、宗教に対する正しい知識が必須である。教育機関のみならず、伝統宗教もカルト対策のための重大な鍵を握っていると考ええる。

おわりに

論文を書くにあたり、マインド・コントロールという心理学的現象の捉え方を深く考えさせられた。曖昧であり、物的証拠も提示できず、科学的に認めることができない現象ではあるが、被害者の手記や著書、ドキュメンタリーを見ていくうちに、きっと「マインド・コントロール」という概念に相当する何かは存在するのであると思った。カルト教団の信者は、本人の著書や彼らについて書かれた著書を読み、ドキュメンタリーを見た限りでは、皆一様に生真面目で、社会を良くしようと真剣に考えていた人たちがかりであった。「本当にこの人たちが考えてこんな事件を起こしたのだろうか？」と目を疑ってしまうほどである。世界を良くするための行動の方向性がこれほど常識から外れて行ってしまったことに驚きを隠せない。マインド・コントロールがあるとすれば、一般常識の感覚からは理解し難いものを、誰かが先頭を切ることによって多数の人たちが共有してしまうことであろう。例えば、先述した、「北九州の監禁事件」だと、1対9にも関わらず、その1が支配しているという状態。明らかに常軌を逸した状況から脱するために、9人がその1にかかれれば負けることなどないはずだが、そうしようしない状態。1の考えがおかしいのに、皆がその1の言っていることに盲目的にすがり、客観的に見れば簡単にその状況から簡単に抜け出せるのに、抜け出そうとしないということ。DV（ドメスティック・ヴァイオレンス）の場合でも、逃げれば済むのに、逃げられないという精神的拘束がマインド・コントロールと呼べるのかもしれない。

しかも、犯罪の場合、強盗殺人だと、お金が欲しいという目的で殺人している。金銭という目的は一般社会が共有している価値観であり、殺人という手段は本人も悪いことだと認識しているであろう。しかし、オウム真理教事件の場合は殺人を「救済」という「正義」の目的とし、殺人自体を良いことだというふうに捉えている。この「殺人＝救済」という、手段であり目的は一般社会が共有する価値観とはかけ離れている。この目的達成のために、誤った価値観を教団内で共有させ、行動を操作するのがマインド・コントロールなのかもしれない。かかる状況に陥った信者たちは、確かに被害なのかもしれないが、他者からの影響で行動を支配されることなど、小さな規模ではあるが、日常茶飯事だということはすでに述べた通りである。そのような私たちも経験したことのある影響力による行動で、人生を大きく狂わされた人たちが実行犯となってしまったオウムの信者たち、オウム真理教の幹部の多くはその好例だ。実際オウム真理教の信者の9割以

上は何が起こっていたのかを知らなかったという。他の信者より目立って修行に励んでいた人、頭脳明晰であった人、情報収集ができる職場で働いていた人、医者であった人など、都合の良い能力の持ち主がたまたま選ばれて、後には引き返せない行動を命令され、「正義」だと信じて実行にうつした結果、死刑判決を受けた。

私は死刑制度には反対であり、オウム真理教の死刑が確定した者の死刑執行に反対である。一つ目の理由としては、国が国民に「殺人」を違法とみなす一方で、「国」という名の元では死刑という殺人を許容されているという矛盾にある。凶悪な殺人事件を犯した者を殺人で対処するということになるわけだ。国は「生きる権利」を害する者の「生きる権利」を奪うことができる。国民が法で禁じられていることを国家はできる、国は法を破っても罰を受けないことになるのだ。二つ目の理由は、オウムの事件で死刑判決を受けた者は、今後のこういった問題の予防対策を研究していくために、とても大事な資料となりうるからである。今後、破壊的カルトによるこのような凄惨な事件を未然に防ぐための予防策を考えることは、とても重要である。事件の被害者が納得しなかったとしても、今後、二度とそのような被害者が出ないように、そして何より、どうすれば彼らのような加害者を生み出さずに済むのか、その予防対策を研究するために、彼らが生きて、自らの経験を語り続ける意味は大きい。一般的な犯罪と同様に裁くのではなく、宗教犯罪であるということ深く意識した意義のある判決にならなかったのは残念である。（あまりにも多数の死傷者を出した事件の加害者ということを考えると無期懲役は軽すぎるのかもしれない。現在の日本の刑法には導入されていない終身刑制度を提案したい）

世の中を良くしようと、皆が誇りに思うような目的を信じていたはずなのに、結果として凄惨極まり無い犯罪を犯してしまった、あまりにも切ない運命を背負った加害者たちのような人々が決して再び現れないように、私たちは考え続けなければならない。彼らも、私たちと同じように日常を過ごしていたうちに、いつの間にかオウム真理教のマインド・コントロールという証明のしようがない影響力に導かれていたのだろう。そして、この状況に陥る可能性は私たちにも同様にあることを忘れてはならない。

参考文献

1. 西田公昭. 1995. 『マインド・コントロールとは何か』. 東京：株式会社紀伊國屋書店.
2. 伊東乾. 2010. 『さよなら、サイレント・ネイビー 地下鉄に乗った同級生』. 東京：株式会社集英社.
3. 櫻井義秀. 2015. 『カルトからの回復―心のレジリエンス』. 札幌：北海道大学出版

会.

4. 櫻井義秀・大畑昇. 2012. 『大学のカルト対策』. 札幌：北海道大学出版会.
5. 武野俊弥. 2005. 『嘘を生きる人 妄想を生きる人—個人神話の創造と病』. 東京：株式会社新曜社.
6. 林久義. 2015. 『オウム信者脱会カウンセリナー虚妄の霊を暴く仏教心理学の実践事例—』. 岐阜：有限会社ダルマワークス.
7. 法務省. 2017. 『テロ等準備罪について』 東京：法務省. 2017 年 6 月.
http://www.moj.go.jp/keiji1/keiji12_00143.html (検索日：2018 年 1 月 12 日)
8. <http://www.sankei.com/affairs/news/170118/afr1701180031-n1.html>
(『sankei.com』産経新聞社, 2017 年 12 月 21 日閲覧)
9. 森達也. 2001. 『A2』DVD.

本号執筆者

鹿島茂ゼミナール

前田智成

小森和子ゼミナール

米持こあき 徐麗娜 金テリン 高岡咲希 井上佳奈枝

鈴木賢志ゼミナール

林 楓

田中牧郎ゼミナール

仲村怜

廣森友人ゼミナール

和田梓 根岸友紀 南波里帆

ワルド, ライアン M. ゼミナール

畑山綾

編集委員

○尾関直子

長谷川文雄

藤本由香里

ワルド, ライアン M.

(○編集委員長)

明治大学国際日本学部学生論集 第4集 (2017)

2018年3月16日

編集責任者 明治大学国際日本学部
発行所 東京都中野区中野 4-21-1
明治大学国際日本学部
電話 (03) 5343-5044
印刷所 株式会社ワコー